平成３０年度障害者スポーツ振興事業

「地域における障がい者スポーツの振興事業」

報　　告　　書

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

目　次

はじめに

Ⅰ　振興事業の概要 …… 1
1．助成の目的
2．委託先対象
3．対象事業
4．活動の範囲
5．委託費と対象経費
6．地域振興事業検討委員会の設置
7．事業報告会の開催

Ⅱ　実施事業の概要 …… 6

Ⅲ　まとめと今後の課題 …… 8
1．事業内容の特徴
2．組織連携の取り組み
3．障がい者スポーツ指導者の活動内容
4．地域振興事業の成果
5．今後の課題
6．おわりに

Ⅳ　事業実施団体の報告 …… 23
1．公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会
2．一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会
3．宮城県障害者スポーツ協会
4．茨城県障害者スポーツ・文化協会
5．一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会
6．公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会
7．三重県障がい者スポーツ協会
8．滋賀県障害者スポーツ協会
9．公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会
10．和歌山県障害者スポーツ協会
11．一般社団法人広島県障害者スポーツ協会
12．公益社団法人山口県障害者スポーツ協会
13．愛媛県障がい者スポーツ協会
14．社会福祉法人高知県社会福祉協議会 高知県立障害者スポーツセンター
15．一般社団法人佐賀県障がい者スポーツ協会
16．大分県障がい者体育協会
17．特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会

はじめに

近年、わが国のスポーツ施策は、2011 年 8 月に施行されたスポーツ基本法を契機に、スポーツ基本計画の策定、東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会の開催決定、障がい者スポーツの所管が厚生労働省から文部科学省に移り、2015 年 10 月にはスポーツ庁が新設されるなど、大きく変革を遂げております。その中で、2017 年 3 月に策定された第 2 期スポーツ基本計画の中には、「する・みる・ささえる スポーツ人口の拡大」や、「スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現」をめざすことが掲げられました。

一方、地方自治体においても、新たなスポーツ推進計画が策定され、地域で開催される多くのスポーツ事業において、障がいのある方がスポーツに参加する環境、体制の整備が進められるようになり、その取り組みが期待されるところであります。また、最近では一部の地方自治体においてスポーツを担当する部局をひとつに統合し、障がいの有無に関わらず、スポーツを一体的に進めていくところも増え始めてきております。

そのような中、日本障がい者スポーツ協会では、2011 年度より国庫補助事業として、都道府県・政令指定都市の障がい者スポーツ協会を対象とした「地域における障がい者スポーツの振興事業」を実施してまいりました。

この事業は、障がい者が身近な地域において、自主的・積極的・継続的にスポーツに取り組むことができる環境づくりをめざし、都道府県・政令指定都市の障がい者スポーツ協会が各地域の障がい者スポーツの統括組織として、それぞれの地域特性や課題に応じて、各種事業を計画し、さまざまな関係団体と連携、協働して、地域における障がい者スポーツの振興体制を拡充していくことを目的としています。

今年度は、17 団体が特色ある事業を実施いたしました。それぞれの地域の実情・課題に応じて実施された様々な事業では、多くの障がい者がスポーツの楽しさを体験するとともに、多様な人や組織との連携が本事業の取り組みを通じて生まれ、拡がる状況もみえてきました。

本報告書が、障がいのある人が身近な地域で生涯にわたりスポーツに参加し、楽しむことができる環境整備のための取り組み事例として、幅広く全国各地において、障がい者スポーツの振興に役立てられますことを望んでおります。

最後に本事業にご協力いただきました各団体の皆さまに感謝いたしますとともに、今後とも、関係の皆様の一層のご理解とご支援、ご協力をお願いいたします。

2019 年 3 月

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

Ⅰ　振興事業の概要

１．助成の目的

障がい者が身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりをめざし、障がい者スポーツ指導者の活用を促し、障がい者向けのスポーツ教室や障がい特性を踏まえたスポーツイベント等の開催を通じて、参加した障がい者が、自主的・積極的・継続的にスポーツに取り組むことができるクラブやネットワーク等の組織・体制づくりの構築を目的とする。また、都道府県・指定都市の障がい者スポーツ協会が各地域における障がい者スポーツの統括組織として、体制および組織強化に寄与できることを目的とする。

２．委託先対象

平成 30 年度公益財団法人日本障がい者スポーツ協会障がい者スポーツ協会協議会登録団体を対象に、助成事業の実施体制が整っていることを条件とする。

今年度は、申請のあった 17 団体を対象に助成した。

３．対象事業

本事業は助成の目的に合致し、地域の障がい者スポーツ協会と障がい者スポーツ指導者協議会が協力・連携した体制で実施するものであること。下記の例を参考とした地域における障がい者スポーツ振興にかかわる事業とする。

【事業内容例】

（１）障がい者のスポーツ教室事業
（２）障がい者スポーツ指導者等の育成事業
（３）障がい者のスポーツ活動推進事業（地域大会の活性化に向けた事業）
（４）障がい者スポーツ理解啓発事業（体験会やイベント等の事業）
（５）組織連携推進強化事業（組織連携を主たる目的とした事業）

※注１：厚生労働省が実施している「地域生活支援事業」の「スポーツ・レクリエーション教室開催等事業」や日本スポーツ振興センターの「スポーツ振興事業助成」等の他団体からの助成を受けている事業は重複して申請はできない。
※注２：スポーツ庁が都道府県・指定都市に委託事業として実施する「地域における障害者スポーツ普及促進事業」および「特別支援学校等を活用した障害児・者のスポーツ活動実践事業」を実施する団体は、申請時に必ず申し出ること。

４．活動の範囲

事業は原則として一つの都道府県内（指定都市を含む）を対象とすること。なお、実施場所は、競技特性等の理由により当該の都道府県内で実施が困難な場合はこの限りではない。

５．委託費と対象経費

委託費は、各団体に 50 万円～200 万円とする。また、委託費の支出科目は国庫補助金の規程に準じて、以下のとおりとする。諸謝金、旅費交通費、消耗品費、会議費、賃借料、印刷製本費、通信運搬費、雑役務費、賃金、保険料とし、支出については、すべて委託先団体の規程によるものとする。

※今年度より、委託費（総事業費）の 35%を上限として事業目的に必要なスポーツ用具の購入が認められる。（ただし、本事業では事務用品等の備品の購入はできない）

6．地域振興事業検討委員会の設置

委託先団体の選定は、「地域振興事業検討委員会」を設置し、申請事業について本事業の目的に沿った内容であるかどうか審査し決定した。

また、検討委員会により、本事業の総括を行い、今後の日本における障がい者スポーツ推進の参考にするための総括をおこなった。

地域振興事業 検討委員会委員（技術委員会 推進部会）

	氏　　名	役　　職
1	三上　真二	大阪市長居障がい者スポーツセンター　館長
2	高山　浩久	東京都障害者総合スポーツセンター　スポーツ支援課　課長
3	藤田　紀昭	日本福祉大学　スポーツ科学部　教授
4	森　　慶一	東京都障害者スポーツ協会　経営企画部総務課庶務・人事係長
5	増子　恵美	福島県障がい者スポーツ協会　書記
6	太田　澄人	長野県障がい者福祉センター　サンアップル スポーツ課　統括官 兼 主任
7	角正　真之	大阪市障害者福祉・スポーツ協会 障がい者スポーツ振興部スポーツ振興室 主任

事務局（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会）

	氏　　名	役　　職
1	関口　一道	スポーツ推進部　部長
2	滝澤　幸孝	スポーツ推進部　スポーツ推進課長
3	高柳　浩樹	スポーツ推進部　企画運営担当課長
4	小島　大樹	スポーツ推進部　推進係

◆会議の開催

第 1 回会議

日　時：平成 30 年 4 月 25 日（水）　11 時 00 分～16 時 00 分
場　所：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会　会議室
内　容：1. 平成 30 年度申請団体の実施内容について
・申請団体の事業実施体制の適性について
・申請内容の確認について
2. 平成 30 年度委託先の審査・選定について（選定委員会）

第 2 回会議

日　時：平成 30 年 9 月 12 日（水）　13 時 00 分～17 時 30 分
場　所：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会　会議室
内　容：1. 平成 30 年度 「地域における障がい者スポーツの振興事業」について
・地域振興事業受託団体（各県協会）の進捗について
・「地域における障がい者スポーツ振興事業」における評価シートについて
2. 平成 30 年度 「地域における障がい者スポーツの振興事業」の事業視察について
3. 「地域における障がい者スポーツの振興事業」事業報告会について
4. 事業報告書の作成について（スケジュール確認、目次、骨組み等）

第 3 回会議

日　時：平成 30 年 12 月 20 日（木）　10 時 00 分～16 時 00 分
場　所：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会　会議室
内　容：1. 地域振興事業受託団体（各県協会）の進捗について（報告書類・自己評価シート）
2. 受託団体の事業視察の進捗について（事業視察概要）
・委員による報告（佐賀県、三重県、滋賀県、和歌山県）
3. 「地域における障がい者スポーツの振興事業」事業報告会について
4. 事業報告書の作成について（スケジュール確認、目次、骨組み等）
5. 平成 31 年度 障がい者スポーツ振興事業　受託意向調査について
・意向調査の結果報告・分析

第4回会議

日　時：平成31年2月25日（月）　15時00分～18時00分

場　所：東京都障害者総合スポーツセンター　会議室

内　容：1.平成30年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」事業報告会について

・受託団体からの報告についての確認

・全体ディスカッションの進行について

2.平成30年度　「地域における障がい者スポーツの振興事業」について

3.事業報告書の作成について（スケジュール確認、目次、骨組み等）

4.2019年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」について

第5回会議

日　時：平成31年3月13日（水）　13時00分～17時30分

場　所：東京都障害者総合スポーツセンター　会議室

内　容：1. 事業報告書の作成について（スケジュール確認、目次、骨組み等）

2.2019年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」の内容調整について

◆事業の視察

（1）佐賀県

日　時：平成30年11月9日（金）

場　所：佐賀県立中原特別支援学校

内　容：鳥栖地域における障害者スポーツ教室

・事業運営についての情報収集

・参加者の障がい状況および支援者の参加状況等についての調査

（2）三重県

日　時：平成30年12月1日（土）

場　所：AGF鈴鹿 陸上競技場

内　容：陸上競技チームづくり事業

・事業運営についての情報収集

・参加者の障がい状況および支援者の参加状況等についての調査

（3）滋賀県

日　時：平成30年12月9日（日）

場　所：滋賀県障害者福祉センター

内　容：競技別チャレンジスポーツ教室

・事業運営についての情報収集

・参加者の障がい状況および支援者の参加状況等についての調査

（4）和歌山県

日　時：平成31年1月12日（土）

場　所：和歌山県立はまゆう支援学校

内　容：障がい者スポーツ開催事業

・事業運営についての情報収集

・参加者の障がい状況および支援者の参加状況等についての調査

７．事業報告会の開催

目　　的：本報告会では、標記事業を実施した都道府県・市の障がい者スポーツ協会が、地域振興に関する取り組みの現状、その事業のねらいや実施の背景、課題等を報告・検討することで、それぞれの地域の実態に即した新たな事業展開のヒントや地域が抱える課題解決のための一助となることを目的とする。

日　　時：平成 31 年 2 月 26 日（火）

場　　所：東京都障害者総合スポーツセンター　研修室 1･2

参 加 者：事業実施 17 団体　計 27 名、オブザーバー 計 2 名、スポーツ庁　計 1 名

日本障がい者スポーツ協会技術委員会（推進部会）　計 6 名

日本障がい者スポーツ協会スポーツ推進部（事務局）計 5 名

内　容：1. 各団体からの事業報告

・事業実施の背景、目的（ねらい）、内容、連携団体、成果・効果、課題など

2. 全体ディスカッション

・各地域における現状や課題の共有

日程表：下記参照

時 間			内 容		所 属	氏 名
11:30	～	11:45	参加団体受付			
11:45	～	12:00	開会･オリエンテーション		日本障がい者スポーツ協会　スポーツ推進部　部長	関口　一道
					スポーツ庁　健康スポーツ課　障害者スポーツ振興室長補佐	吉見　友弘
12:00	～	13:15	報告1	茨城県障害者スポーツ振興事業	茨城県障害者スポーツ･文化協会	松浦　直彦
			報告2	滋賀県障害者スポーツ振興事業	滋賀県障害者スポーツ協会	池内　友紀 小林　一憲
			報告3	佐賀県障がい者スポーツ普及推進事業	一般社団法人佐賀県障がい者スポーツ協会	藤井　洋恵
			報告4	三重県障がい者スポーツ振興事業	三重県障がい者スポーツ協会	柳内　唯
			報告5	和歌山県における障害者スポーツの振興事業	和歌山県障害者スポーツ協会	秋月　清秀
13:15	～	13:25	休憩			
13:25	～	14:30	報告6	共生型障がい者スポーツ連携推進事業	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会	三浦　拓朗
			報告7	障がい者スポーツ交流事業	大分県障がい者体育協会	轟　英樹
			報告8	宮城県障害者スポーツ振興事業	宮城県障害者スポーツ協会	坂口　信一
			報告9	長野県障がい者スポーツ活動環境推進事業	公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会	半田　直道
14:30	～	14:40	休憩			
14:40	～	15:45	報告10	広島県における障害者スポーツ振興･地域推進事業	一般社団法人広島県障害者スポーツ協会	池内　敬恵
			報告11	障がい者スポーツ連携推進プロジェクト2018	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会	増田　和茂
			報告12	障害者スポーツ普及啓発事業	社会福祉法人高知県社会福祉協議会	北村　大河
			報告13	北海道における障がい児者スポーツ拠点づくりプロジェクト事業	公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会	正木　英之
15:45	～	15:55	休憩			
15:55	～	17:00	報告14	愛媛県障がい者スポーツ普及啓発事業	愛媛県障がい者スポーツ協会	清水　謙二
			報告15	埼玉県障がい者スポーツ地域連携づくり事業	一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会	優　尚世
			報告16	山口県における障害者スポーツ推進事業	公益社団法人山口県障害者スポーツ協会	村田　ひとみ
			報告17	おきなわスポーツドリームプロジェクト2018	特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会	平安　泰知
17:00	～	17:10	休憩			
17:10	～	18:10	全体ディスカッション（グループワーク）		日本障がい者スポーツ協会　技術委員会　推進部会	
18:10	～	18:30	まとめ（グループ報告）		日本障がい者スポーツ協会　技術委員会　推進部会	
18:30	～	18:45	閉会		日本障がい者スポーツ協会　技術委員会　委員長	三上　真二

事業報告会の様子

「開式の挨拶」
文部科学省 スポーツ庁 健康スポーツ課
障害者スポーツ振興室長補佐　吉見　友弘　氏

「事業実施団体における報告」

全体ディスカッション
グループワーク

全体ディスカッション
グループワーク

「まとめと質疑応答（4 グループにおける発表)」
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
技術委員会

「閉式の挨拶」
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
技術委員会　委員長　三上　真二　氏

Ⅱ　実施事業の概要

17 団体からの報告を基に、今年度の地域振興事業の全体像を把握するために、実施事業の概要をまとめた。また、それぞれの「地域のスポーツ環境の特色」「地域の実情・課題点」、「事業の目的・ねらい」、実施された「各事業における事業報告」、「事業全体の評価」についてまとめた。

「各事業における事業報告」については、事業内容、開催日時、会場、参加者、人員体制、連携団体（事業における役割）、事業における障がい者スポーツ指導者の役割・活用について、スポーツ用具の整備・活用についての 9 項目から実施概要を整理した。

「事業全体の評価」については、事業の目的・ねらいの達成・未達の原因、事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）、費用に関する所見、今後の課題や事業展開などについて、各団体において自己評価を行った。

それぞれの団体の活動の詳細については、Ⅳ．事業実施団体の報告を参照いただきたい。

【実施内容区分　一覧】

No.	団　体　名	障がい者のｽﾎﾟｰﾂ教室事業	障がい者ｽﾎﾟｰﾂ指導者の育成事業	障がい者のｽﾎﾟｰﾂ活動推進事業（地域大会の活性化に向けた事業）	障がい者ｽﾎﾟｰﾂ理解啓発事業（大会等ｲﾍﾞﾝﾄも含む）	組織連携推進強化事業（組織連携を主たる目的とした事業）
1	公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会	●				
2	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会	●				●
3	宮城県障害者スポーツ協会	●			●	
4	茨城県障害者スポーツ・文化協会	●				
5	一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会				●	
6	公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会	●			●	
7	三重県障がい者スポーツ協会	●	●		●	
8	滋賀県障害者スポーツ協会	●				●
9	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会	●			●	●
10	和歌山県障害者スポーツ協会	●		●		
11	一般社団法人広島県障害者スポーツ協会				●	●
12	公益社団法人山口県障害者スポーツ協会	●			●	
13	社会福祉法人高知県社会福祉協議会			●	●	
14	愛媛県障がい者スポーツ協会				●	
15	一般社団法人佐賀県障がい者スポーツ協会	●			●	
16	大分県障がい者体育協会				●	
17	特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会	●	●			
		12	2	2	11	4

平成30年度　障害者スポーツ振興事業
「地域における障がい者スポーツの振興事業」 実施団体一覧

No.	団体名	委託費	受託回数	事業名／内容
1	公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会	50	5年目	**北海道における障がい児者スポーツ拠点づくりプロジェクト事業**
				① 全道障がい児者スポーツ拠点づくりプロジェクト事業
2	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会	100	2年目	**共生型障がい者スポーツ連携推進事業**
				① スポーツ教室開催事業（障害者スポーツセンター連携事業）
				② 各市町村連携及び地域人材活用事業
3	宮城県障害者スポーツ協会	150	3年目	**宮城県障害者スポーツ振興事業**
				① 障害児運動・あそびの広場開催事業
				② 宮城県障がい者スポーツフォーラム開催事業
4	茨城県障害者スポーツ・文化協会	50	初	**茨城県障害者スポーツ振興事業**
				① 障害者スポーツ地域振興事業
5	一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会	100	6回目	**埼玉県障がい者スポーツ地域連携づくり事業**
				① 障がい者スポーツ地域連携づくり事業（秩父地域）
6	公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会	100	3年目	**長野県障がい者スポーツ活動環境推進事業**
				① 障がい者スポーツ体験教室開催事業
				② キッズ支援事業（指導員派遣、サマーキャンプ、チアダンス、野球教室）
7	三重県障がい者スポーツ協会	180	2年目	**三重県障がい者スポーツ振興事業**
				① 三重県障がい者スポーツフェスティバル2018
				② 地域障がい者スポーツ教室
				③ 陸上競技チームづくり支援事業
				④ 水泳指導者、支援者育成事業
8	滋賀県障害者スポーツ協会	100	初	**滋賀県障害者スポーツ振興事業**
				① 障害者スポーツ広場事業
				② 競技別チャレンジスポーツ教室事業
9	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会	150	4回目	**障がい者スポーツ連携推進プロジェクト2018**
				① 障害者スポーツ教室事業「カヌー普及体験プログラム」
				② 障害者スポーツ理解啓発事業「地域・継続・大学」
				③ 組織連携推進強化事業「地域・組織をつなげる第一歩」
10	和歌山県障害者スポーツ協会	130	2年目	**和歌山県における障害者スポーツの振興事業**
				① 障がい者スポーツ開催事業
				② 障がい者スポーツ活性化事業（団体競技重点的強化事業）
11	一般社団法人広島県障害者スポーツ協会	130	3年目	**広島県における障害者スポーツ振興・地域推進事業**
				① 地域推進事業（スポーツ推進委員等を対象にしたスポーツ体験事業）
				② 障がい者スポーツ体験会（各市町開催）
				③ 障がい者スポーツ体験会（特別支援学校）
				④ 障がい者スポーツ体験会（特別支援学校教員対象）
12	公益社団法人山口県障害者スポーツ協会	100	6年目	**山口県における障害者スポーツ推進事業**
				① 地域障害者スポーツ教室の開催事業
				② 障害者交流スポーツ大会開催事業
13	社会福祉法人高知県社会福祉協議会	50	4回目	**障害者スポーツ普及啓発事業**
				① 東部地区ボッチャ競技大会
				② 種まく大人たちの勉強会事業
14	愛媛県障がい者スポーツ協会	50	5年目	**愛媛県障がい者スポーツ普及啓発事業**
				① 障がい者スポーツ紹介事業（体験会）
15	一般社団法人佐賀県障がい者スポーツ協会	150	初	**佐賀県障がい者スポーツ普及推進事業**
				① 障がい者スポーツフェスタ in とす
				② 鳥栖地域における障害者スポーツ教室（地域連携事業）
16	大分県障がい者体育協会	180	2回目	**障がい者スポーツ交流事業**
				① 障がい者スポーツ体験会
				② 子どもふれあい交流事業
17	特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会	50	6年目	**おきなわスポーツドリームプロジェクト2018**
				② 障がい者スポーツ指導員ドリームフェスタ
				③ 障がい者バスケットボール教室
		1,820		

Ⅲ　まとめと今後の課題

本事業は、障がい者が身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりをめざすために、障がい者スポーツ指導者の活用を促し、スポーツ教室やスポーツイベント等の開催を通じて、参加した障がい者が、自主的・積極的・継続的にスポーツに取り組むことができること、そして、都道府県・政令指定都市の障がい者スポーツ協会が各地域における障がい者スポーツの統括組織として、体制および組織強化に寄与することを目的に 17 団体が事業を実施した。

まず、17 団体の事業内容を整理し、以下のようにまとめた。

※1. 文中で、事業を実施した 17 団体を総称する場合「県障がい者スポーツ協会」とし、都道府県と政令指定都市を含む地域全体をさす場合も「県」と表現した。

※2. 文中で、「障がい者スポーツ」は、「障がい者のスポーツ活動」を総称して表記した。

※3. 本協会公認指導者制度では、「障がい者スポーツ指導員」、「障がい者スポーツコーチ」、「障がい者スポーツトレーナー」、「障がい者スポーツ医」を総称して「障がい者スポーツ指導者」と表記するが、本報告書では全て「障がい者スポーツ指導者」で統一し表記した。

1　事業実施の背景

1）県のスポーツ推進計画に基づいて、地域の特性や課題に即した事業が企画されている

平成 23 年に制定された「スポーツ基本法」や「スポーツ基本計画」の規定に基づき、平成 29 年 3 月に「第 2 期スポーツ基本計画」が策定された。

各県においても、第 2 期スポーツ基本計画の策定に基づいて、自県のスポーツ推進計画の見直しや改定が行われており、より具体的な目標や取り組みについて掲げられている。

また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、東京オリ・パラ）の開催を契機に、障がい者スポーツの機運も高まっており、障がい者スポーツの理解促進や地域格差をなくすためのスポーツ活動を活性化する事業、さまざまなスポーツ関係団体の連携構築といった障がいの有無に関わらず、身近な地域におけるスポーツ環境の整備を目的とした取り組みが行われた。

各県における課題については、障がい者のスポーツ振興に地域格差があり、その解決のために身近な地域におけるスポーツ活動の整備や、専門性を有する人材の養成・育成、支援者を増やすための理解啓発の推進について企画されており、地域に応じた課題解決に向けた取り組みがなされている。

以下に、今回事業を実施した県の背景と事業の企画についてまとめた。

※①：事業を実施した背景について（各県のスポーツ推進計画や状況を含む）

※②：地域の特性や課題に基づいた事業の企画について

北海道	①	平成 25 年度から道スポーツ推進計画に基づき、スポーツ振興に取り組んできたが、第 2 期スポーツ基本計画の策定を踏まえ、今後の 5 年間を計画期間とする「第 2 期北海道スポーツ推進計画」を平成 30 年 3 月に策定した。東京オリ・パラを活かしたレガシーの創出をめざしており、計画ではスポーツでつくる優しい共生社会を推進するため、障がい者スポーツの環境の向上についても言及している。
	②	広大な面積を有する地域特性から事業実施に多くの時間と労力を要する。平成 26 年度から道内の 14 ある全ての区域において、支援学級と通常学級の混合教室や複数の学校に対し、スポーツ教室を開催してきた。 今年度は、次のステップとして、道内に拠点となる場を整備するプロジェクトを実施した。
岩手県	①	平成 29 年度よりスポーツ行政の一元化が図られ、福祉領域の連携に加え、市町村スポーツ（体育）協会やスポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ等、新たなネットワーク構築を進めやすい環境となっている。 県のスポーツ推進計画は策定されておらず、スポーツ推進審議会を開催し、策定に向けて取り組んでいく。
	②	市町村におけるスポーツ振興の鍵となる団体との連携事業を進めてきた。地域での自発的な取り組みを促し、支援を続けていくため、核となる市町村をターゲットに環境整備を行い、中心となる自治体を育て、その自治体が圏域の市町村をサポートしていくような体制づくりを図った。

宮城県	①	平成 25 年度に策定された県スポーツ推進計画において、3 つの施策の各柱に障がい者スポーツ関連事業が位置づけられ、生涯にわたるスポーツ活動の推進、競技力向上に向けたスポーツ活動の推進、スポーツ活動を支えるための環境づくりの充実に向けて取り組んでいる。また、県協会の事業計画には、「障がい者スポーツの支援」がうたわれ、県協会・競技団体と連携した大会の開催を目標としている。
	②	未就学児および児童のあそび場がない中、県内各地で環境づくり事業を開催してきた。しかし、仙台市内の活動が中心となっていたため、各地域で活動できるよう地域の指導者を中心とし、総合型地域スポーツクラブによる会場確保や地元の大学生等の協力の元、継続した事業展開ができる体制づくりをめざした。
茨城県	①	平成 27 年 3 月に策定された県スポーツ推進計画では、学校における子供の体育・スポーツの充実、ライフステージに応じた県民の運動やスポーツ活動の推進、国内外で活躍する本県選手の育成と強化、スポーツ環境の整備と充実の 4 つの柱を掲げている。その中で、障がい者スポーツの理解・普及促進を目標に県市町村、関係団体と連携・協働し指導者の育成と活用、環境整備に取り組むこととしている。
	②	平成 31 年に全国障害者スポーツ大会の開催を控える中、県内を 5 地域に分けて各地域で年 1 回のスポーツ教室を実施しているが、指導者が固定化してきている。指導者の育成及びスポーツ教室を複数回開催することで、各地域への障がい者スポーツの更なる普及を図った。
埼玉県	①	平成 30 年度から 5 年を計画期間とした新しい県スポーツ推進計画が作成段階にあり、スポーツ参画人口拡大の施策に「障害者スポーツの推進」の項目が加わった。障がい者が地域でスポーツに親しむ環境整備を図ることが明記され、平成 30 年度県事業として「障害者スポーツが身近になる環境づくり事業」を実施した。
	②	平成 28 年度から交通アクセスや障がい者スポーツ指導者が少ないなどの課題が挙がっている県北部地域におけるスポーツ活動の基盤整備に取り組んでいる。地域で「核」となる指導者を育成し、自立したスポーツ活動を進めるための課題を見出し、その解決に向けた取り組みにつなげる事業を実施した。
長野県	①	平成 30 年 3 月に「第 2 次長野県スポーツ推進計画」を策定した。計画の中では、子どもの運動・スポーツ機会の充実、生涯を通じたスポーツ機会の充実を基本目標とし、地域スポーツ団体と連携した障がい者スポーツ振興など、障がい者スポーツに関する政策展開や目標を定めている。
	②	障がい者に向けたスポーツの普及や、一般スポーツ関係者の理解と連携強化、身近な地域の支援者の関係づくり、競技力の低迷が課題となっている。裾野拡大、競技力向上、指導者の資質向上、障がい児・者の運動機会の充実をめざし、県民の理解と応援の輪の拡大を図った。
三重県	①	平成 27 年 4 月に三重県スポーツ推進条例が施行され、平成 33 年の全国障害者スポーツ大会後までの 8 年間を見据え、平成 30 年度までを計画期間としている。大会に向け、個人競技選手の発掘・育成、競技団体の育成・強化をする等、障がい者がスポーツに取り組む機会の充実と参加意欲の向上を図り、国内外の大会で活躍する選手を育成できる環境づくりをし、スポーツを通じた障がい者の自立と社会参加を推進している。
	②	全国障害者スポーツ大会の開催を控え、スポーツへのニーズが高まる中、地域で気軽にスポーツができる環境が十分ではない。そのような中、スポーツに取り組むきっかけや選手発掘・育成に繋がるよう、指導者の地域活動を支援し、日常的にスポーツに取り組める拠点づくりの活動支援を行った。
滋賀県	①	第 2 期滋賀県スポーツ推進計画において、すべての県民がスポーツを楽しめるよう、スポーツ活動や学校体育の充実をめざしており、地域における参加機会づくり、指導者養成、県民への理解啓発に取り組んでいる。平成 36 年の全国障害者スポーツ大会に向け、平成 34 年までに県大会参加者の目標指標を 1000 人とし、スポーツ人口の増加に向け環境整備が必要。障がい者の週 1 回以上のスポーツ実施率 65%以上を掲げている。
	②	琵琶湖が県の中心に位置することや、拠点施設がある湖南エリアにスポーツ活動の場が集中することで、障がい者スポーツの普及・振興に地域格差がある。さらに、全国障害者スポーツ大会の滋賀県開催に対する県民の認知度は低いため、障がい者スポーツの普及・啓発を進めた。
兵庫県	①	平成 24 年度に県スポーツ推進計画を策定し、重点目標に「障害のある人のスポーツ参加者の増加」を掲げ、平成 27 年度より特別支援学校のスポーツ拠点整備と利用促進に障がい者スポーツ指導員を活用している。平成 28 年度から障害者スポーツ応援協定に 65 団体が締結し、スポーツ施設の提供や指導、助言や交流に取り組んでいる。また、スポーツの推進の基盤となる関係団体と連携し、多種多様な事業を展開している。
	②	地域特性から、高齢化、就労環境、交通網、スポーツ環境を含め障がい者スポーツの地域格差がみられている。また、障がい者スポーツ活動は室内競技が多く、屋外スポーツへの普及振興も課題であるため、各種事業を発展させるために学校、企業、地域、関係団体などとの連携の充実を図った。

和歌山県	①	平成 27 年に自県で全国障害者スポーツ大会が開催され、県民のスポーツへの関心が高まっており、平成 29 年に策定した「和歌山県長期総合計画」や、現在作成中の県スポーツ推進計画において身近な地域で気軽に活動できる場づくりや障がいに配慮した指導・支援ができる指導者の育成、障がい者が多様なスポーツを楽しめる総合型地域スポーツクラブを支援する等、誰もがスポーツに参画できる環境の充実が明記されている。
	②	南北に長い地理状況であるが、交通網が十分整備されておらず、会場の確保や事業の参加状況等も紀北地域、特に和歌山市周辺での開催が中心となっているため、和歌山市以外の地域においても、継続的にスポーツができる体制整備を図った。
広島県	①	県において、「東京オリンピック・パラリンピック関連事業推進本部」が設置され 2 年目となり、国際大会開催等の取り組みを進めている。また、平成 26 年に策定された障害者プラン・スポーツ推進計画を障がい者スポーツの課題を踏まえて進めている。また、選手が国際大会等で活躍できるよう、県民への普及啓発や競技力強化につながる取り組みを推進し、障がい者スポーツ競技団体の組織化などの体制整備に取り組んでいる。
	②	県民への障がい者スポーツの普及・啓発、専門的知識を有する支援者・指導者の不足、身近な地域でスポーツに親しめる環境の整備が課題となっている。専門的や知識や技術を有する指導者の養成や一般スポーツ団体と連携したスポーツ推進体制の整備を図った。
山口県	①	平成 25 年に県スポーツ推進計画を策定し、「生涯スポーツの推進」、「競技水準の向上」、「『人財』の育成」、「地域の活性化」を基本方針にスポーツ推進施策を展開している。すべての県民が生涯にわたり身近な地域でスポーツ活動ができるよう、地方公共団体、一般競技団体、レクリエーション団体、学校等と連携・協働し、障がい者スポーツ環境整備を推進するなど、共生社会の実現に努めている。
	②	障がい者が身近な地域でスポーツに取り組むには、環境整備が十分でない中、多様な障がいや年齢・性別に関わらず活動できるレクスポーツを地域の組織（拠点）に普及することや地域の指導者、施設、学校等に働きかけ、スポーツ教室や大会の開催の支援をすることで環境整備を図った。
愛媛県	①	平成 29 年度に全国障害者スポーツ大会が開催され、県民の障がい者スポーツへの関心や理解も高まってきている。また、「スポーツ立国えひめ」を実現させるため、県では平成 30 年度から実施の『愛媛県スポーツ推進計画』の中で「障がい者スポーツの推進」を掲げ、多くの障がい者が身近な地域でスポーツを楽しめる環境づくりや裾野拡大のための普及啓発に取り組むとされている。
	②	全国障害者スポーツ大会までに取り組んだ選手の育成・強化を通じて、各競技団体や障がい者団体等との連携は進んでいるが、県内に障がい者スポーツの拠点施設が数箇所しかなく、混み合っている状況である。 そこで、人材を活用して身近な地域のスポーツ拠点整備を進めることとした。
高知県	①	平成 27 年 3 月にスポーツ推進プロジェクト実施計画を策定し、選手強化やスポーツ・教育関係団体と連携したスポーツ参加機会を提供してきた。平成 29 年度より、県の所管部局が文化生活スポーツ部スポーツ課に移管され、平成 30 年度 4 月より「第 2 期高知県スポーツ推進計画」が施行されたが、その中には「スポーツツーリズム」など、6 項目の抜き出しの中に障がい者スポーツも含まれている。
	②	障がい者のスポーツ活動は、障がい者スポーツセンター、市町村、社会福祉協議会、特別支援学校などが単独で行っていることが多く、地域での広がりにつながっていない。また、拠点施設は県中央部に位置しているため、県下広域に支援が行き届くように事業に取り組んだ。
佐賀県	①	平成 26 年に佐賀県スポーツ推進計画が策定され、「日常的にスポーツに親しむ障害者を増やす事」、「障害者がスポーツに親しむ機会の拡充・継続」、「ボランティア活動に参加する県民を増やす事」等が目標とされている。また、平成 35 年の全国障害者スポーツ大会佐賀県開催へ向けての機運も高まってきており、県協会と県スポーツ課が主体となり、選手育成にも重点が置かれている。
	②	全国障害者スポーツ大会の開催を控える中、佐賀市内に障がい者スポーツ協会や拠点施設があることから、スポーツ振興の状況に地域格差が生じている。唐津市や鳥栖市などの新たな地域で、障がい者スポーツ事業を展開することで、県内の障がい者スポーツ振興を推進する取り組みを行った。
大分県	①	平成 28 年 3 月に県スポーツ推進計画を改定し、年齢や性別、障がい等を問わず、広く県民が関心、適正に応じてスポーツに参画できる環境整備を中心政策課題としてきた。障がい者スポーツ振興を福祉保健部障害者社会参加推進室が担当し、平成 30 年度の組織改正において、新たに「障害者社会参加推進室」を設置し、「地域生活支援・芸術文化スポーツ推進班」、「就労促進班」を設け、障がい者の社会参加を推進している。
	②	県内における障がい者スポーツ人口は決して多いとは言えない状況である。また、各地域で主体となり活動する団体が少なく、特に障がい者スポーツの普及については地域差がみられることから、障がい者が身近な地域で日常的にスポーツを楽しめる環境の整備の推進をめざした。
沖縄県	①	平成 25 年度に県スポーツ推進計画を策定し、9 年間の計画として障がい者のスポーツ参加率の向上、特別支援教育における運動能力の向上、障がいのある児童へのスポーツ教育支援や指導者の育成と活用、スポーツ環境の整備充実を基本的施策とし、県全体が障がい者スポーツへの更なる理解・発展をめざしている。
	②	スポーツ指導員の数とその活躍の場が少なく、指導者の活動のモチベーションを上げる事が課題となっている。また、選手にとっても離島県であるため、選手間の交流や試合等も少なく、選手の発掘・育成も含め競技団体や各地域との連携強化を目的とした継続的な事業実施をめざした。

２　事業内容の特徴

本事業の特徴は、地域におけるスポーツ振興を図るため、開催地域の実情、特色、障がいや個性の多様化に合わせて、日常的に継続してスポーツを楽しめる環境整備を目的として実施されている。その取り組みでは、さまざまなアイディアと工夫を凝らし、既存の関係団体のほか、新たな団体との連携づくりを意識した事業が行われた。

また、東京オリ・パラ開催前の機運醸成を意識した体験教室も数多く実施されており、障がいの有無に関わらずスポーツを通じた交流に取り組むことで共生社会の実現が図られた。

１）全国障害者スポーツ大会の開催をきっかけとした地域スポーツ振興の取り組み

全国障害者スポーツ大会の開催を控える中、障がい者スポーツの基本である「障がい種別や目的に合わせたスポーツ教室の開催」を実施し、県民への理解啓発や障がい者のスポーツ参加に向けた取り組みなど、本大会の充実につなげる事業を行った。

＜本事業での主な取り組み＞

茨城県（2019 年開催予定）では、本大会開催前の盛り上がりを契機に、障がい者スポーツ指導者の継続的な活動の充実を図るための講習会を実施し、障がい者スポーツ指導者の各種事業への参加につなげた。

三重県（2021 年開催予定）では、スポーツのニーズが高まる中、身近な地域で楽しく体を動かせる環境をつくり、スポーツに取り組むきっかけづくりや選手発掘・育成につなげるためのスポーツ教室を実施した。また、指導者の地域活動を支援し、障がい者が日常的にスポーツ活動に取り組める拠点づくりを支援した。

佐賀県（2023 年開催予定）では、障がい者スポーツが活発ではない地域で大規模イベントを開催することで、障がい当事者や一般市民にも広く普及啓発を図った。また、イベントで関係構築された地域団体と連携し、スポーツ教室を実施することで障がいの有無に関わらず、障がい者の活動の場やスポーツに親しむ機会を増やした。

滋賀県（2024 年開催予定）では、4 年後の本大会開催に向けて、競技ごとの入門教室を開催し、各競技の競技人口の増加のための取り組みを行った。

２）障がい者スポーツ指導者の活用と身近な地域でスポーツに親しむ環境づくりへの取り組み

全国障害者スポーツ大会の開催以降、障がい者が地域においてスポーツ活動を継続して実施できる環境整備につなげる事業を行った。

＜本事業での主な取り組み＞

岩手県では、地域人材を活用しながら障がい者へのスポーツ参加支援を行い、障がい者スポーツセンターや公共体育施設、福祉施設などを中心とした拠点施設と連携し、地域における自立した普遍的な障がい者のスポーツ活動拠点づくりを継続的に行うことで活動の定着化を図った。

埼玉県では、障がい者がスポーツに取り組める環境の整備が求められている県北部地域において、平成 28 年度から拠点となる基盤づくりを継続して取り組み、地域の自治体や住民の障がい者スポーツに対する理解や関心が高まった。

和歌山県では、障がい者がライフワークの中にスポーツを取り入れられるようにスポーツ教室を開催した。また、和歌山市以外の地域においても、継続的にスポーツができる体制を整備し、各地域において障がい者スポーツの関心を高め、指導者育成を行うことで地域におけるスポーツの活性化を図った。

山口県では、県内各地域でスポーツ教室や大会を開催することで、障がい者のスポーツ参加を働きかけるとともに、指導者もスポーツ活動の機会を得ることができ、地域で自主的・主体的にスポーツに参

加できる環境づくりとなった。

高知県では、県域が東西に長く公共交通機関を利用した移動が困難なため、東部地域で教室・大会を開催し、継続的な活動への足がかりとした。また、小中高等学校での体験学習のニーズが高まる中、体験学習に出向く講師の資質向上を目的とした勉強会を継続実施することで資質向上を図った。

愛媛県では、障がい者が身近な地域でスポーツを体験できる環境の整備と全国障害者スポーツ大会の開催で盛り上がった機運や構築された体制等のレガシーを継承し、県内 3 地域に配置した地域コーディネーターを活用した継続的な体制整備を行った。

3）幼少期より身近な地域で楽しみながらスポーツに親しむ環境づくりの取り組み

障がい児が幼少期から、成長と障がい程度に応じたスポーツ（遊び）を経験することで身体を動かし、楽しみながら心身の成長・発達を促進するように取り組んだ。

＜本事業での主な取り組み＞

北海道では、広い地域をカバーするために拠点づくりを行い、子どもたちに対してスポーツの楽しさに加え、継続してスポーツ活動ができる環境の整備に取り組んだ。

宮城県では、子どもたちが、遊びを通じて楽しみながら身体を動かし、同世代との交流を深めながら、幼少期からの運動習慣の定着化を図った。

長野県では、子どもたちを対象にサマーキャンプ、チアダンス、野球教室など、多くの参加者で実施する事業を通じて、集団行動を学ぶとともにスポーツにおける交流を図った。

4）東京 2020 パラリンピックの機運醸成による障がいのある人とない人のスポーツ交流

東京オリ・パラ開催の機運醸成を活かし、地域で開催されている理解啓発事業と連携し、障がい者スポーツの体験型事業を開催することで、理解を深めるとともに共生社会の実現を図った。

＜本事業での主な取り組み＞

兵庫県では、障がい者スポーツを通じた地域活性化に向け、市町スポーツ振興課、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員などに対し、地域における障がい者へのスポーツ振興のガイダンスを講じ、連携の取り組みへの「第一歩」とした。また、特定地域や大学との連携を推進することで、事業後の連携体制の構築を図った。

広島県では、指導者の育成のため、スポーツ推進委員や地域のスポーツ指導者、特別支援学校の教員、理学療法士と連携し、障がい者が学校や身近な地域でスポーツ活動に参加できるように、地域の拠点・キーパーソンの確保を継続して行った。

大分県では、大分国際車いすマラソンやパラリンピック等国際大会に出場した地元選手を学校や福祉施設などに派遣し、講演会や体験会などの交流を通じて、障がい者のスポーツに対する理解を深めた。

3　組織連携の取り組み

今年度も県障がい者スポーツ協会がそれぞれの地域の実情や各事業の特徴に応じて、様々な分野の団体と連携し、障がい者のスポーツ振興につながる事業を実施した。

別表の「●」は各県における連携先の種類について表したものである。

【連携団体　一覧】

◆各都道府県 障がい者スポーツ指導者協議会は除く

区分		No.	連携先			北海道	岩手県	宮城県	茨城県	埼玉県	長野県	三重県	滋賀県	兵庫県	和歌山県	広島県	山口県	愛媛県	高知県	佐賀県	大分県	沖縄県
						5年目	2年目	3年目	初	6回目	3年目	2年目	初	4回目	2年目	3年目	6年目	5年目	4回目	初	2回目	6年目
						2	9	10	5	11	19	13	7	8	6	9	21	4	3	9	6	5
1	行政関係	1	県・市担当主管課（町・村含む）	10	16			●	●	●	●		●	●		●	●			●	●	
		2	県・市教育委員会（特別支援教育課を含む）	6				●		●	●			●		●	●					
2	教育関係	3	学校長会（特別支援学級設置校含む）	1	24												●					
		4	特別支援学校長会	1								●										
		5	小・中学校・高校	6		●		●				●			●		●			●		
		6	専門学校・大学	7				●	●			●		●		●	●			●		
		7	特別支援学校（学級含む）	7						●	●	●			●		●			●		●
		8	特別支援学校連絡協議会	1									●									
		9	特別支援学校体育連盟	1						●												
3	スポーツ関係	10	県・市・町体育協会	4	36		●	●			●					●						
		11	県レクリエーション協会	3									●				●		●			
		12	スポーツ推進委員協議会	6			●	●			●	●	●	●								
		13	一般競技スポーツ団体	6						●	●	●			●		●	●				
		14	スポーツ関連団体（スポーツ施設管理団体等含）	4		●					●						●				●	
		15	総合型地域スポーツクラブ	8			●	●			●	●					●		●	●	●	
		16	企業スポーツ団体	2							●										●	
		17	プロスポーツ団体	3						●								●				●
4	医療関係	18	県理学療法士会	5	8		●				●	●		●			●					
		19	県作業療法士会	3			●				●	●										
5	福祉関係	20	県・市・町社会福祉協議会	4	27		●				●						●	●				
		21	障がい児・者施設	2													●	●				
		22	身体障害者福祉協会	4			●			●	●	●										
		23	身体障害者団体連合会	1													●					
		24	聴覚障害者協会	1																●		
		25	知的障害者福祉協会	2													●					●
		26	手をつなぐ育成会	3						●	●						●					
		27	精神障害者福祉会連合会 精神保健福祉連合会	1													●					
		28	社会参加推進センター	1				●														
		29	障害者施設協議会	1													●					
		30	その他　障がい者団体	7			●		●	●			●	●	●							●
6	障がい者スポーツ関係	31	障がい者競技スポーツ団体	10	31			●			●	●		●	●	●	●		●	●	●	
		32	障がい者スポーツ関連団体	13			●	●	●		●	●	●	●	●	●	●			●	●	●
		33	障がい者スポーツセンター 身体障害者福祉センター	3						●	●					●						
		34	勤労身体障害者体育施設・教養文化体育施設	1							●											
		35	障がい者スポーツのクラブ・サークル	4					●			●	●							●		
7	その他	36	人権擁護委員連合会・協議会	1	5											●						
		37	メディア（新聞社、放送局等）	1							●											
		38	一般企業	2						●							●					
		39	法務局	1												●						

今年度の本事業の連携先は 7 区分 39 種の団体があげられ、多くの県が、「県・市担当主管課」、「教育関係（教育委員会、特別支援学校、小中学校）」、「総合型地域スポーツクラブ」、「障がい者スポーツ関連団体」等による連携を基盤として事業を展開した。

実施事業の傾向をみると、多くの県が障がい者のスポーツ環境の整備を目的として事業を実施しており、その取り組みとしては事業の目的に応じて連携団体を絞り、小さな活動単位で継続的な関係構築を

意識した事業を展開している傾向が読み取れた。特に、障がい者スポーツのクラブ・サークルとの連携も増えてきており、多くの地域で障がい者がスポーツ活動を継続的に行う受け皿となるコミュニティづくりをめざした事業を展開していた。

また、東京オリ・パラの開催を控え、多くの県において、障がい者スポーツの理解啓発に向けた取り組みがなされており、障がいの有無に関わらず、スポーツ関係団体と連携した事業を展開していることもうかがえた。特にスポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブ、理学療法士との連携を進める県が多くあり、事業を通じて支援者・指導者としての役割を担う人材の育成・活用を行っていた。

事業の実施についても、日常的なスポーツ活動を提供することを目的とした「障がい者スポーツ教室の開催事業」を多くの県が行っており、会場や対象となる施設や団体との連携を強めていく方策がなされていた。

各県がその地域において、障がい者スポーツ振興を推進していくために本事業を活用し、さまざまな活動分野から障がい者スポーツの裾野拡大に向けた取り組みを展開していることがうかがえた。

４　障がい者スポーツ指導者の活動

それぞれの地域における指導者が具体的な役割を担い、主体的な活動を推進していくことで、人材育成や資質向上につながる取り組みがみられた。

１）具体的な役割を担い、主体的な活動へとつながった

指導者が企画から運営まで一貫して関わるような働きかけを行い、主体的な活動が多くみられた。また、専門性を活かした役割を担うなど、幅広い活動も見受けられた。単発の活動にとどまらず、事業実施後の振り返りにも関わり、次の活動へ備える意欲・行動がみられ、主体的な活動につながっている。

＜本事業での主な取り組み＞

北海道では、上級指導員がすべてのプログラムに関わることで一貫した指導を行うことができた。また、その他の指導者は、補助的な役割で運営を支えた。

宮城県では、スタッフをグループ分けして事業を運営しており、指導者がグループのリーダーとして学生ボランティア等をまとめる役割を担った。

埼玉県では、指導者が事業企画会議と実行委員会に「企画委員」として参画した。また、指導者の経験に応じ、説明役等を担当することで人と人とをつなぐ役割を担った。

長野県では、指導者が体験教室の運営・指導を主体的に行うことで、今後の継続化に向けた仕組みづくりにもつながった。

三重県では、指導者が体験コーナーの運営を担った。サポートではなく、運営を一任したことで、ゴールボールのゴールを手作りするなど、工夫を凝らした運営ができた。また、展示コーナーには、より詳しい指導者を配置するなど適材適所の配置も行った。教室事業では、打ち合わせや事業後の意見交換会等を実施することで、その地域の指導者の主体的な運営につながった。陸上競技のチームづくりでは、競技の専門性を活かした指導ができた。

滋賀県では、スポーツ広場事業の運営を担当し、実施後の意見交換会で工夫や課題点を共有することで、次回の実施に活かすことができた。また教室事業では、各競技の専門性を活かした指導者が活躍できた。（専門部も設置している）

兵庫県では、「地域委員会体制」を設置し、各種事業に取り組んでいる。指導者は、開催運営に関する（受付、設営）業務などの役割を担当し、さらに専門性を有した指導者はリーダーとしての役割を担

った。また計画・行動・反省を行い、次回に取り組む要領を残すなど主体性を重視した活動を促した。

広島県では、指導者がスポーツ推進委員や病院・施設・学校関係者に対し、体験会での技術指導・アドバイスを行った。地域によっては，指導者が広報力も発揮し、多くのスポーツ推進委員の参加もあった。また、体験会では、一般の参加者に対してだけではなく、企業、報道関係者、施設職員等にも働きかけを行い、障がい者スポーツの楽しさを提供できる機会となった。

山口県では、教室事業において、打合せ会議の開催、周知、参加者募集、他団体との連携等をするなど指導者が中心となって主体的に運営した。ふうせんバレー等の大会には、審判資格を取得し、審判員として参加する指導者も増えた。

高知県では、ボッチャ大会で経験の少ない指導者も審判員を担当し、知識を要する役割を果たすことで、今後も継続協力したいとの声があがるなど、やりがいにつながった。

佐賀県では、スポーツフェスタ開催に向けての実行委員会に指導者が参画し、役割を果たした。また、競技団体と指導者協議会を兼ねている指導者が多く、連携も充分にできていた。指導のみならず、参加者の誘導・介助、学生ボランティアへの指導伝達など、多くの役割を果たした。

大分県では、体験会において、指導面で役割を果たした。また大会時には、審判としても活躍した。

２）新たな指導者の確保や指導者間の交流が生まれた

一般スポーツ組織等への働きかけや活動地の新規開拓により、人材の確保につながっている事例もみられた。また、新たな指導者が増えることで、指導者間の交流も促されるなどの好循環がみられた。

＜本事業での主な取り組み＞

岩手県では、本事業を通じて、指導者資格を持たないスポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブ関係者等に資格取得を促すことで指導者養成につながった。一般のスポーツ振興に携わる人の指導者資格の取得率が上がっている。

埼玉県では、JPSA 委託事業「初級障がい者スポーツ指導員養成講習会等開催事業」を障がい者スポーツの実施環境が整っていない地域で開催したことで、その地域の指導者が 10 人増え、本事業と連動することで活動のきっかけの場となった。さらに、障がい者のスポーツ活動が活発ではない地域での指導者組織化の検討、キーマンとなる人材の発掘、関係団体との組織連携にも取り組むことができた。

愛媛県では、指導者が各種事業に企画・立案から参加者の確保等まで関わっている。近年、事業に関わる指導者の顔ぶれが変わらず固定化している課題があったが、今回、障がい者のスポーツ活動が活発ではない地域で体験会を実施したことで、新たな指導者の参加もあり、連携が深まった。

大分県では、開催地付近に居住する指導者に新たな参加を促し、人材確保につなげることができた。

３）指導者の資質・意欲向上につながった

資質向上の研修会の併催や活動機会の拡充等により、指導者の資質や指導力の向上が図られた。特に、経験のある指導者が新しい指導者へ経験を継承する事例もみられ、指導者同士の良い刺激にもなっていることがうかがえた。

＜本事業での主な取り組み＞

茨城県では、事業運営と同時に指導者の資質向上の講習会を実施し、障がい者への接し方等を学ぶ機会となり、資質・意欲の向上につながった。また、指導者の発掘や横のつながり（交流）も生まれた。

和歌山県では、活動の機会が増加傾向にあり、同じ内容の教室を繰り返し担当することにより、指導力の向上につながった。また、経験のある指導者の継続参加により安定した運営にもつながっていた。

沖縄県では、経験のある指導者が新しい指導者に対して積極的に指導を行い、人材の育成につなげた。また、指導者間の交流も図れた。

４）さらなる指導者の活動促進に向けた課題が明確となった

本事業を契機に、今後の指導者の活用・連携・育成等に向けた課題が浮き彫りとなった。特に、指導者の活動人数が少なく、各県において全登録者の 1 割前後しかいない状況であった。また、全国的に指導者の固定化や高齢化も進んでおり、この活動人数の底上げに向けた方策が必要であることが示唆された。

＜主な課題＞

・広く指導者を募集したが、活動地が都市部以外であったため、充分な人数を確保できず、一部の指導者のみの参画となった。
・従来から活動している指導者の活躍の機会となっている反面、高齢化や活動機会の少ない指導者の活用については目標数に達していない。加えて、平日の開催事業では指導者の確保が難しく、早期に改善に向けて取り組む必要がある。
・県内の全指導者へ周知しても、人数を確保できない現状（指導者登録数の 1 割未満）があるため、事業開催地域の指導者の発掘が必要である。
・指導者の確保は安定してきているが、固定化が進んでいる。また地区ごとの偏りもあり、意識向上・経験の蓄積が必要である。
・指導者派遣では、一部の経験豊富な指導者に活動が集中することで、経験の偏りが顕著になっている。活動機会の創出や研修会等を通じて、活動ができていない指導者をサポートしていく必要がある。
・競技によって、専門的な指導者の確保が難しく、競技経験者の活用に向けて工夫が必要である。

５　地域振興事業の成果

地域のスポーツ環境は異なっており、各県がさまざまなアプローチでスポーツ推進に取り組んでいることがわかった。本事業を継続することでみえてきた成果を含めて、本事業の「5 事業区分」ごとに各地域での取り組みの成果をあげる。

１）障がい者のスポーツ教室事業

本事業では、障がい者が身近な地域でスポーツの楽しさや技術習得を目的としたスポーツ教室や、環境づくりを整備することを視点とした 13 事業が実施された。

＜障がい者に対しての成果＞

・障がい者のスポーツ振興が遅れていた地域で体験会を実施することにより、今まで参加機会が少なかった障がい者がスポーツを体験することができた。
・活動が活性化されていない地域でスポーツ教室を実施することで、教室の参加者がスポーツの楽しさを知り、その後の大会への参加につながった。
・障がい者がスポーツ本来の楽しさを実感することで、活動を継続する意向がみられた。
・率先して教室を開催する競技団体・当事者団体が出てきており、継続的な活動の仕組みづくりに期待が持てるようになった。

＜関わる方に対しての成果＞

・事業実施前の講習会への参加を通じて、指導者同士のつながりを作れたことで、今まであまり参加できていなかった指導者が事業に参加しやすくなった。
・地域のスポーツ教室では、障がい者スポーツ指導者が主となって取り組み、自分たちで考え実施することで指導者同士のつながりが深まり、指導者の活動の促進につながった。

・事業に参加した大学から、同事業に対する大学施設の場の提供の申し出や、障がい者スポーツに関係したサークルを設立する動きがみられた。
・市町のスポーツ（体育）協会、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブに加えて、地域の老人クラブ等の団体と連携が広がった。
・事業協力のあった総合型地域スポーツクラブや各競技クラブが、障がいのある児童・生徒のスポーツ活動の場所としての活用を検討することにつながった。

＜環境・体制づくりに対しての成果＞
・本事業の実施による障がい者のスポーツ振興の効果やその必要性が県行政に理解されたことで、事業継続のための協会職員の増員につながった（もしくは、増員につながる動きが出始めた)。
・開催 5 回目で初めて行政職員が視察に訪れ、今後は県事業として予算化し事業の継続がなされることとなった。
・新たな拠点づくりにつなげることを目的に教室を開催したことで、同地域の指導者との連携を新たに築くことができた。

２） 障がい者スポーツ指導者の育成事業

本事業では、障がい者のスポーツ活動を支える障がい者スポーツ指導者の資質向上を図ることを視点とし、2 事業が実施された。
・水泳の指導者、支援者を増やすため、専門講師を招いて指導法および支援法を学ぶことで、指導者のスキルアップにつながった。また、講習で学んだことをその後の教室で確認することができた。
・ベテランの障がい者スポーツ指導者と競技団体（障がい）に加え、プロスポーツ団体の協力が得られたことにより、障がい者への接し方から種目の技術指導まで幅広く学ぶことができた。実際に障がい当事者も参加したことで、指導法を直接見て経験できたことは大きな資質向上となった。

３） 障がい者のスポーツ活動推進事業

本事業では、スポーツ活動の日常化をめざした仕組みづくりや活動を推進することを視点とし、2 事業が実施された。
・スポーツ振興のための会議や出前教室を開催することで、活動が活性化していない地域においても少しずつ連携が生まれ、具体的な方法が見つかるなど地域の状況に変化がみられてきた。
・事業を通じて、県バレーボール協会と知的障がい者バレーボールチームに連携が生まれ、中学生・高校生との練習試合をはじめとして、活動への理解・協力へと広がった。

４） 障がい者スポーツ理解啓発事業（大会等イベントも含む）

本事業では、地域の人々を対象に、障がいや障がい者のスポーツの理解促進を行うことを視点とし、15 事業が実施された。

＜大会・教室の運営・開催を通じた理解啓発＞
・参加者の事業所（障がい者関連）で、スポーツ活動が取り入れられ、継続していくようになった。
・参加者と支援者が、体験会や研修会を通じて、スポーツの楽しさを実感したことで大会の開催の契機となった。また、継続した活動への意欲が芽生えるなどの変化があった。
・障がい者のスポーツ活動が少ない地域で事業を実施することで支援する障がい者スポーツ指導者が増え、さらに継続して活動を希望する声もあがり、活動の組織化に向けて動いた。
・行政主催のイベントにおける障がい者スポーツ体験会の実施検討や、スポーツ推進委員によるボッチ

ャ教室の計画が進められることへとつながった。
・意見交換会には、案内チラシを見て、これまで関わりのなかったさまざまな立場の地域の人たちが集まり、活動に関して前向きな話し合いをもつことができた。支える人材の拡大・強化につながるだけでなく、今後の地域での取り組みを考えていく上での大きな一歩となった。
・事業を継続してきたことで、今年は新たに理学療法士会との連携が生まれた。事業を支える人材（指導者、トレーナー、競技団体、ボランティア等）の輪が拡がってきた。

＜障がいの有無に関わらず参加できる体験イベントを通じた理解啓発（フェスティバル・体験会等）＞
・障がい者のスポーツリーフレットを作成し、全国障害者スポーツ大会や県内活動団体等についての情報を広く発信することで、総合型地域スポーツクラブ等とのつながりをつくるきっかけとなった。
・地域の総合型地域スポーツクラブが開催するイベント内で事業を行うことができ、多くの地域住民に対して障がい者スポーツを周知することができた。
・本事業を通じて、市町の障がい者スポーツ指導者協議会が自主事業として実施することとなり、今後の継続性や将来性に期待が持てた。

＜フォーラム、勉強会＞
・地域における障がい者のスポーツ振興について、競技団体や地域の現状と課題、指導者の果たす役割などを多くの方へ発信し、ディスカッションすることができた。また、実施後に障がい者スポーツの体験会や講演などの相談が寄せられ、理解を深めるきっかけをつくることができた。
・各地域で教室等を支える人材を増やすため、勉強会を誰でも参加できる柔軟なスタイルで開催した。中学生や教育関係者、障がい当事者とその家族など、テーマに応じてさまざまな方の参加があり、参加者層が拡がり、参加者と講師、当事者、チームなどがつながりはじめた。

＜その他＞
・障がい者スポーツ指導者が、事業の中心的な役割を担い運営したことで、連携した関係団体にその存在や役割が認知され、今後の障がい者スポーツの普及と発展に大きな一歩となった。
・県内 3 地域に配置した地域コーディネーターを活用するとともに連携も図られ、継続的な体制が整備されつつある。

5）組織連携推進強化事業（組織連携を主たる目的とした事業）

本事業では、障がい者スポーツの推進体制を整備するために組織・団体間との連携・関係構築を図ることを視点とし、4 事業が実施された。
・スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ、理学療法士、作業療法士、県スポーツ（体育）協会認定の指導者などの一般のスポーツ振興に携わる方の障がい者スポーツへの関心が高まり、障がい者スポーツ指導者資格取得率が上がっている。
・スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ関係者が地域を越えて障がい者のスポーツ活動を支援しようとする意識が高まってきた。
・障がい者スポーツの裾野を広げるための「スポーツ広場（地域でのスポーツ連携事業）」が運営出来たことで、課題や必要な連携がみえてきた。今後の県内複数拠点の整備にも広がるノウハウとなった。
・障がい者スポーツは福祉分野に支えられており、つながりが強かったが、本事業を通じて、今まで連携が少なかった地域や市町村スポーツ担当部局、学校との連携ができはじめた。

本事業における各県の成果として、大きく４つのキーワードが挙げられる。

①「活動が活性化されていない地域での事業開催」

本事業の目的である「障がい者が身近な地域においてスポーツに参加できる環境をつくる」ことへ向け、多くの事業がアウトリーチ型の事業形態で実施されていた。その中で障がい者の身近な活動機会が拡充され、さらには地域の団体や人を巻き込んだ活動、地域拠点づくりへの発展がみられた。

②「地域における連携」

障がい者に関わる団体が主体となり始められた活動から、スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブ、競技団体等、地域のスポーツ団体が活動の主体となる活動へと連携の内容にも発展がみられた。これらの連携が、活動の継続や課題解決へ向けて組織化される動きもあり期待される。

③「人材の育成」

障がい者スポーツ指導者が、事業を通じて経験を積み、主体性をもって活動する場面が増えている。また、本事業で障がい者スポーツに関わったスポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブ指導者、医療関係者等が障がい者スポーツ指導者資格を取得し、それぞれの専門・得意とする部分を活かして事業に関わる場面もみられ、活動が活性化されていない地域での人材不足の解決へ向けた動きも多くみられた。

④「事業継続への動き」

事業の参加者・関係者が、スポーツの楽しさを身近に実感することにより、事業への参加・関わりの継続を求める声が集まり、地域での意見交換や組織化に向けた動きが増えている。これに同調するように、行政による事業費の予算化や新たな担当人員の配置など、県単位での継続へ向けた動きは本事業での大きな成果の一つといえる。

ただ、「身近にスポーツができる環境」となるには、まだまだ課題をもつ地域が多く、本事業における成果や経験が多くの地域で活かされるよう期待したい。

６　今後の課題

各県において、地域の実情や課題の解決に向けて、障がい者のスポーツ振興を推進していく中、多様なスポーツ事業を展開することで、各々の取り組みに応じた課題がみえてきた。そのような中、各県の共通する課題も挙げられており、大きく５つに分類された。

今後の地域振興事業における課題について、各県からの課題を以下にまとめた。

①「拠点整備の充実と地域格差の解消」

＜各県からの課題＞

・広域な地域に対して、学校を中心とした拠点づくりを行ったが、障がい者スポーツの理解不足の問題があり、活動を定着させていくための障壁となっている。
・事業を通じて、関係団体とのネットワークは構築できたが、活動の拠点となるまでには至っていない。
・事業実施の際に、活動拠点を意識した連携先を再考し、明確なビジョンを持って取り組む必要がある。
・地域におけるスポーツ活動に対し、定期的な現状把握や日常的な連携が行われていない。
・障がい者のスポーツ活動が活発な地域は、アクセス面や人口の問題から、県中心部に集中してしまうことが多く、それ以外の地域でのスポーツ事業の開催が十分にできていない。
・地域特性から障がい者のスポーツ活動に地域格差が生じており、複数拠点をつくる方策が必要である。
・特別支援学校卒業後の活動継続のための環境整備まで至っていない。
・地域格差の改善に向けて事業に取り組んだが、地域ごとのモチベーションに温度差がある。

障がい者のスポーツ活動を推進していく上で、身近な地域における拠点づくりや、県域の広い地域におけるスポーツ環境の格差の解消が大きな課題となっている。

課題を解決していくためには、各地域における実情や課題を把握した上で、スポーツ活動の拠点となり得る組織や施設等との連携を強化し、拠点整備の充実と地域格差の解消をめざした取り組みを継続して進めていく必要がある。

そのためには、地域のバランスを考慮し、複数の拠点施設を設置していくことや、クラブ・サークル化を促進することで、特別支援学校の卒業生もスポーツ活動を継続することができる受け皿を作っていくことが重要である。また、波及効果を考え、市区町村レベルでの障がい者スポーツの地域ごとの実態やニーズを把握するとともに、地域に適した競技種目の選択や地域で行われている既存のスポーツ活動との融合を図る視点を持つことも重要となってくる。

②「自立した活動ができる仕組みづくり」

＜各県からの課題＞
・関係団体との協力的で良好な関係づくりまでには至らず、事務的な連携のみとなってしまった。
・協力者のモチベーションや興味関心を高めるためのアプローチを行う必要がある。
・各地域で事業を実施する中、地元（近隣地域）の指導者を活用できていない。
・支援者が固定化しており、さまざまな属性（業種）の支援者を活用できていない。
・若い人材が継続して活動できるような仕組みやアプローチが必要である。
・遠方の人材に依存することで、事業実施に対してのランニングコストがかかってしまっている。
・一般スポーツ団体への理解が得られていない中、一般スポーツ関係者に対する理解啓発の事業を行ったが、障がい者スポーツの体験のみに留まり、事業後に活動を継続していく仕組みづくりを意識した取り組みには至らなかった。
・地域ごとに指導者の成熟度に差があることで、スポーツ教室の内容にも差が生じている。
・各県で活動している指導者（キーパーソン）の資質を向上するアプローチができていない。

地域で障がい者のスポーツ活動が定着していくためには、日常的にスポーツ活動を運営・支援していく指導者・支援者に対するアプローチが重要となってくる。しかし、実際に活動を行っている指導者が限られていることや指導力不足、モチベーションの問題など、人材に関する課題が浮き彫りとなっている。特に、まず事業を実施することに主眼を置いて企画している傾向が強く、スポーツ教室の内容や指導力の部分に対して着手できていない現状がみられた。

課題を解決していくためには、一般スポーツ指導者やスポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ、学校教員など、専門的な知識を有する人たちと連携することで、地域で活躍する新たな人材の確保に努めることが必要である。すでに積極的に活動している指導者に対しては、資質向上に向けた新たなステップアップをねらいとした企画を練っていくことが重要である。

また、連携を目的とした事業展開の際は、企画段階から目的やねらいと事業実施後の活動展開について、連携先とのイメージの共有をするとともに、実施することのメリットや意義をしっかりと伝える必要がある。特に、一般スポーツ団体が取り組んでいる既存のスポーツ事業に参画していくことで、障がい者スポーツに日頃関わりのない方々への理解促進と障がい者がさまざまなスポーツ活動に参画できる機会を広げていくことが期待できる。

③「効果的な情報発信を行うための広報戦略」

＜各県からの課題＞
・情報の発信先や連携先が固定化している。
・新たな団体や参加者が障がい者スポーツ事業に参入（参加）しやすいような方策が必要である。
・障がい者スポーツに日頃関わりのない人に対して、興味を引くような工夫や協力が得られるような工夫ができていない。
・情報発信が届けたい人の元へ届いていない。
・広報の伝達方法（媒体）の工夫や専門家との連携が必要である。

事業の周知を行うが、参加者の固定化がみられている。要因の一つとして、情報の発信先や連携団体等の固定化がうかがえる。また、情報発信の手段も、紙媒体の郵送のみである場合が多く、さまざまな人の目に触れるような効果が期待できない状況である。

このような状況の解決に向けては、事業運営の際に、誰を対象に何をどう伝えるのかを明確にした上で、興味関心をひくようなチラシやポスターのデザイン、内容や情報伝達方法の工夫をしていくことが望ましい。

広報の伝達媒体についても、一般企業やメディア（新聞、ラジオ、テレビ、WEB、SNS）を活用するなど様々な媒体を活用し、上手く使い分けていくことで幅広い対象者へ情報を発信していくことも有用である。

④「全国障害者スポーツ大会の開催機運に乗じたスポーツ活動の日常化」

＜各県からの課題＞
・障がい者がスポーツ活動をするクラブやサークルの基盤が整備できていない。
・クラブやサークルを運営していく指導者（支援者）が集まらない。
・支援者の協力体制が整っても、当事者（参加者）を集められない。
・新たな人材（選手）の発掘ができていない。
・大会の開催に対する県民の理解が進んでいない。

全国障害者スポーツ大会の開催を控える県からの本事業の申請が増えてきている中、大会の開催を控え、障がい当事者のスポーツ環境の整備や指導者の養成などに着手し始める取り組みが増えてきている。しかし、スポーツ活動に参加する障がい者が少なく、クラブ・サークルなどの活動拠点に人が集まらないという課題がある。

課題を解決していくためには、全国障害者スポーツ大会開催を契機として地域のスポーツ活動の日常化をさらに進め、障がい者が全国障害者スポーツ大会の実施競技を中心にさまざまなスポーツに触れる機会を創出することで、社会参加機会の拡大を図っていくことが重要である。

そのために、盛り上がった機運の維持を目的に本事業を活用している団体においては、大会を契機に生まれた連携を基盤に、活動をクラブ化し継続させることや、指導者のスポーツ活動の定着化と発展性を見据えて事業展開していくことが重要となってくる。

⑤「限られた人材や財源でスポーツ推進に取り組む」

＜課題＞
・事務局の運営体制が事業を実施することで手一杯となっており、仕組みづくりなどへの発展的な取り組みに着手できていない。
・事業の効果や反響は好循環であるが、事務局体制の問題から、活動継続に向けた発展的な展開が困難である。
・本事業の委託費が無くなった後の事業継続を見据えた予算確保ができていない。
・事業の目的達成に主眼を置いているため、今後の自主開催を視野に入れた予算の効率的な執行ができていない。

本事業をきっかけに、地域におけるさまざまな課題の解決に向けたスポーツ事業を実施することができているが、地域での定着化や自立したスポーツ活動に移行していくためには長期の時間を要する。しかし、事務局の運営体制から事業実施の際の負担が大きく、定着化に向けた仕組みづくりまで行き届いていないことが課題である。

課題の解決に向けては、事務局の運営体制に応じて、焦点を絞った取り組みを行う視点を持ってスポーツ活動を継続していくことや、限られた予算を活動継続のために効率的に活用していくことが大切である。

また、地域での継続的な活動に向けて、県並びに市区町村の予算確保をしていくことも必要であり、本事業を通じて市区町村行政の理解を得るような働きかけと課題の共有、連携の強化を進め、活動予算の確保へつなげていくことが重要となってくる。

以上、5つに分類した課題と解決に向けた対応方法についてまとめた。

地域ごとに課題はそれぞれ異なっており、また一朝一夕に解決していくことが困難な課題もあるが、それぞれの地域にある貴重な資源（人・物・場所・組織等）と連携を深めることで、課題解決の糸口を見出し、地域の実情に応じたスポーツ振興の形を作っていけることを期待したい。

7　おわりに

当協会のビジョンでは、「障がいのある人たちが、障がいの種類や程度、さらにはライフステージに応じて、身近な地域でみんなと一緒に日常的にスポーツを楽しめる生涯スポーツの環境を整備する」と記されている。

本事業では、県障がい者スポーツ協会が障がい者スポーツ指導者、地域の関連団体と連携・協働し、地域における様々な状況、課題を共有しながら、障がい者のスポーツ環境の整備を進めるものである。

今年度は、自然災害の影響による事業の変更などがあったが、計 17 団体が事業を実施する中で、それぞれの地域に応じた成果を実感されたと考えている。事業報告会では、「来年度は自主事業として実施する」、「地元企業との連携が始まった」などの声もあがり、本事業を通じて、将来は地域の力でこのような事業が実施できる素地が生まれはじめていると感じている。

しかしながら、今年度の取り組みでは、障がいのない人への理解促進を含めた普及啓発事業がまだまだ多いのが実態である。これらの取り組みも非常に大切ではあるが、障がいのある人が日常的にスポーツや運動に関わることができる事業をより多く取り入れていただき、地域に根付いたスポーツ活動につなげていただけることを今後の期待としたい。

Ⅳ　事業実施団体の報告

北海道における障がい児者スポーツの振興事業

◆全道障がい児者スポーツ拠点づくりプロジェクト事業

公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会

事業概要

◆実施（申請）協会名	公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会		
◆計画書作成者	細田 雅美		
◆企画・実施担当者	正木 英之	◆経理担当者	細田 雅美

全体事業名称	北海道における障がい児者スポーツ拠点づくりプロジェクト事業
委託費	¥500,000
地域の実情・課題点	他県に類を見ない広大な面積を有する本道では、いかなる事業を実施するにしても、多くの時間と労力を必要とする。平成26年度から継続実施した「全道巡回障がい児者スポーツ教室」では、4年間で、延べ112の教室を開催し、2,662人の児童生徒が教室に参加した。特別支援学級の児童生徒を対象とした新しい取り組みであったが、道内の14ある全ての区域において教室を開催し、支援学級と通常学級の混合教室や複数の学校による合同教室なども取り入れ、参加した児童生徒たちは、からだを動かすことの楽しさや喜びを体感した。 4年間の成果を踏まえ、今後は、次のステップとしてスポーツ活動の拠点づくりに挑む。スポーツを地域に根付かせるためには、継続して活動する場が必要であり、これまでの巡回教室の事業で得た知見をもとに、道内に拠点となる場を整備するプロジェクトを計画する。
総合的な事業の目的	4年間の巡回教室で培ったノウハウを土台に、スポーツ活動の拠点となる学校を募集し、学校を核とした拠点づくりを推進する事業を実施する。特別支援学級を有する学校は、障がい児者を支える地域の社会資源であり、その有益な資源を活用し、地域の実情に応じたスポーツ拠点づくりを推し進める。 道内全域で障がい者スポーツを普及促進するためには、これまでの巡回教室で「点」として活動していた学校を「線」として繋げることが重要であり、地域の拠点となる学校を定め、継続した活動ができる基盤を整備する。
総合的な事業のねらい	これまでの4年間の巡回教室を発展的に昇華させた事業として計画する。巡回教室のメイン講師として携わった日本障がい者スポーツ協会公認の上級スポーツ指導員を拠点となる学校にコーディネーターとして複数回派遣し、拠点づくりに向けたプログラムを実施する。拠点地域で活動する公認障がい者スポーツ指導者とも連携を図り、地域の資源を活用した拠点づくりを段階的に構築する。地域で抱える課題も共有し、解決の方策を探る。 本事業の初年度となる今年度は、拠点づくりを道内の2地域において実施し、今後の全道展開に繋げる。

事業名	
事業①	全道障がい児者スポーツ拠点づくりプロジェクト事業
事業②	
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告

実施協会名	公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会		
事 業 名	全道障がい児者スポーツ拠点づくりプロジェクト事業		
事業内容	拠点づくりの協力校の募集に応じた増毛町立増毛小学校において、７月から１２月にかけて計９回のプログラムを実施した。上級障がい者スポーツ指導員を専属コーディネーターとして現地に派遣し、学校関係者と連携を図りながら事業を遂行した。同小学校の５年生が中心となり、ボッチャ競技を通じた障がい者スポーツの自主的な取組みを実践し、最終的にはボッチャ大会を企画立案から運営するまでのスキルとノウハウを習得するに至った。		
開催日時	①平成30年 7月27日(金)打合せ会議 ②平成30年 8月29日(水)オリエンテーション・いろいろなスポーツ体験 ③平成30年 9月14日(金)ボッチャをさらに体験 ④平成30年10月12日(金)5年生ボッチャ大会 ⑤平成30年10月18日(木)親子でボッチャ大会 ⑥平成30年11月　ボッチャ地域大会の準備 ⑦平成30年12月 3日(月)ボッチャ地域大会 ⑧平成30年12月 6日(木)2年生対象のボッチャ大会 ⑨平成30年12月 7日(金)認定書授与・振り返り・最後のボッチャ体験		
会　　場	留萌管内　増毛町立増毛小学校　体育館		
参 加 者	①3名(打合せ会議) ②28名(オリエンテーション・いろいろなスポーツ体験) ③30名(ボッチャをさらに体験) ④30名(5年生ボッチャ大会) ⑤56名(親子でボッチャ大会) ⑥28名(ボッチャ地域大会の準備) ⑦85名(ボッチャ地域大会) ⑧65名(2年生対象のボッチャ大会) ⑨30名(認定書授与・振り返り・最後のボッチャ体験)		
人員体制	①打合せ会議(担当教諭2名・障がい者スポーツ指導員1名) ②オリエンテーション・いろいろなスポーツ体験(担当教諭2名・障がい者スポーツ指導員2名) ③ボッチャをさらに体験(担当教諭2名・障がい者スポーツ指導員2名) ④5年生ボッチャ大会(担当教諭2名・障がい者スポーツ指導員2名) ⑤親子でボッチャ大会(担当教諭2名・障がい者スポーツ指導員2名) ⑥ボッチャ地域大会の準備(担当教諭2名) ⑦ボッチャ地域大会(担当教諭2名・障がい者スポーツ指導員3名・協会職員1名) ⑧2年生対象のボッチャ大会(担当教諭2名・障がい者スポーツ指導員1名) ⑨認定書授与・振り返り・最後のボッチャ体験(担当教諭2名・障がい者スポーツ指導員1名)		
連携団体名 (箇条書き)	・コーディネーター派遣～特定非営利活動法人あ・りーさだ ・補助スタッフ～障がい者スポーツ指導員 ・参加協力～増毛町老人ホーム2団体　増毛町立増毛小学校父母会		
実際の事業での 連携団体の役割	学校関係者や小学校の父母会の理解協力によって、参観日を利用したボッチャ地域大会が実現したと言える。具体的な取り組みとしては、地域の老人ホーム２カ所に連絡を取り、ボッチャ地域大会への参加を呼び掛け、増毛町役場、増毛町文化センター、増毛郵便局に大会ポスターを掲示し、開催周知を図った。 学校から学校評議員への開催案内文書には、児童が作成したボッチャ大会のリーフレットを同封し、事業参加を求めた。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	コーディネーターとなった上級障がい者スポーツ指導員は、全てのプログラムにおいて一貫した指導サポートを担った。 補助スタッフとして加わった障がい者スポーツ指導員は、コーディネーターの業務を補佐し、事業の運営を支えた。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	3
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	14
スポーツ用具の 整備・活用について	ボッチャ用具を２セット購入し、活動拠点である小学校に配置した上で、本事業に活用した。事業終了後は、同小学校に当分の間は貸与し、活用を促す予定である。		

事業全体の評価

実施（申請）協会名	公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会		
全体事業名称	北海道における障がい児者スポーツ拠点づくりプロジェクト事業		
委託費	¥500,000	決算額	¥540,097
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	地域に障がい者スポーツの拠点をつくるという目的でスタートした本年度の事業は、初年度としては、一定の成果が得られた。今回のプログラムを体験し、ボッチャ大会を企画立案、運営をやり遂げた児童たちが、今後、障がい者スポーツを地域住民に対してどのようにアプローチしていくのか、しっかりと注視していきたい。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	ボッチャ大会を自主開催するにあたって、学年の大会、親子大会、地域大会と、大会規模をスケールアップしていったプロセスを体験することにより、児童たちは多くのことを学び、今後の活動についても、様々なアイデアが校内で議論されるようになった。		
費用に関する所見	当初の計画では、拠点校を２箇所設置する予定だったが、委託費の大幅な減額により、１箇所の事業となった。 本道特有の事情として、遠距離の移動を伴う事業は、旅費の支出が多額となる。他の経費を節減するにも限界があり、苦慮しているところである。		
今後の課題や今後の事業展開（具体的方策・展望）	学校は、地域の有用な社会資源であり、未来を担う児童生徒がおり、体育館が併設され、サポートする教員も充実しているので、スポーツの拠点に適した施設であるが、人材の流動性が高いのが難点であり、長期的な視点に立った事業の見直しが必要である。 今後の展望としては、拠点となる対象資源を「学校」から「総合型地域スポーツクラブ」に変更し、道内の複数クラブが核となって、障がい者スポーツの普及活動ができるよう本事業に取り組んで参りたい。		
参加者や関係団体からの声	・他のスポーツの指導もして障がい者スポーツを広めたい。 ・この経験を活かして、ボッチャを町全体に広めたい。 ・ここを拠点として、障がい者スポーツを体験させたい。 ・隣の町と一緒にボッチャ大会を開催したい。 ・ボッチャ大会を継続開催し、次の世代に引き継ぎたい。 ・他の障がい者スポーツを増やして楽しめる環境を作りたい。 ・ボッチャのプレイヤー全員が笑顔で楽しんでいるのが印象的。		
その他所見	４年間の巡回教室で培ったノウハウを基に、地域の小学校において、ボッチャをプログラムのメインテーマに据え、事業を展開したところ、主体的に地域大会を開催するまでの成果をあげた。 今後は、より効率的、効果的な事業となるよう、道内で１５８ある総合型地域スポーツクラブ（H30.7.1現在）の中でも活動実績が高い評価を受けているクラブを選定の上、本事業を継続して参りたい。		

北海道における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

全道障がい児者スポーツ拠点づくりプロジェクト

事業の様子

オリエンテーション

いろいろなスポーツ体験

ボッチャをさらに体験

５年生ボッチャ大会

５年生ボッチャ大会

親子でボッチャ大会

ボッチャ地域大会（学習参観日）受付

ボッチャ地域大会（学習参観日）

２年生対象のボッチャ大会

認定書授与

②資料

プロジェクト募集要項、アンケート

「平成30年度地域における障がい者スポーツの振興事業」

北海道における障がい児者スポーツ拠点づくりプロジェクト要項

1　目　的

本道の障がい児者が、身近な地域において継続的にスポーツに参加できる環境づくりを目指し、スポーツ教室を中心としたプログラムを通じてスポーツの楽しさを体験するとともに、自主的、積極的、継続的にスポーツに取り組む意欲を涵養し、障がい児者の健康の維持と社会参加の促進を図ることを目的とする。

2　ねらい

障がい児者スポーツを地域に根付かせるため、学校関係者やボランティア団体と連携し、地域の実情に応じた障がい者スポーツの普及を図るとともに、事業終了後も、その地域で活動が持続する基盤を整備する。

3　主　催

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会

4　共　催

ＮＰＯ法人あ・りーさだ、北海道障害者スポーツ指導者協議会

5　実施期間

平成３０年７月から平成３０年１２月末まで

6　実施場所

拠点学校の体育館等

7　事業内容

拠点づくりの協力校を募り、拠点校となる学校において、学校関係者の協力を得ながら、拠点づくりに必要なプログラムを複数回実施する。拠点学校がある地域の日障協公認スポーツ指導者を対象に、協力ボランティアを募る。また、拠点づくりの協力者を広く得るために、行政や地域のボランティア団体にプロジェクトの参加を呼び掛ける。

8　コーディネーター

正木 英之 氏（ＮＰＯ法人あ・りーさだ代表理事　日本障がい者スポーツ協会公認上級指導員）

9　参加対象者

地域の児童・生徒、小中学校の教職員・PTAなど　その他地域関係者

10　参加費

無料

11　申込先

公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会
〒060-0002　札幌市中央区北2条西7丁目　かでる2・7　4階　担当：細田
TEL 011-261-6970　FAX 011-261-6201　Email：tanto-3@do-syospo.or.jp

12　その他

(1) 参加者は、スポーツに適した服装・上靴を着用すること。
(2) 主催者は、参加者を対象とした傷害保険に一括加入する。

北海道における障がい児者スポーツ拠点づくりプロジェクト事業プログラム

第 1 回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
準備期間	***期間（7月中旬～12月中旬）***						
6月上旬～下旬	7月中旬	7月下旬	8月上旬	9月下旬	10月下旬	11月下旬	12月上旬	12月中旬
参加校募集	***現状の把握***	***いろいろなスポーツの体験***	***選択スポーツ体験***	***選択スポーツ大会***	***テスト***	***テスト***	***教室の構築***	***地域スタッフでの運営***

現場打合せ	拠点でのスポーツの選択	用具の確保	地域の参加	地域スタッフでの運営	地域スタッフで大会運営	反省会	確認
参加者募集	指導者の養成	指導者の養成	指導者の養成	意見交換	意見交換	運営の継続に向けて	目的の確認
スタッフ募集				修正	修正	今後の課題の想定	目標の設定
会場の確保							連携の確認
スケジュール作成							スケジュールの確認

※基本スケジュールなので、連絡や打合せにより変更可

増毛町立増毛小学校５年

障がい児者スポーツ拠点づくりプロジェクト

担任団の今年度の活動を通しての感想・反省

〇A 組担任　佐藤秀斗

総合的な学習の教育課程の中の「障がいについて理解を深める学習」として、今回の事業を受けました。従来、障がい疑似体験などを通して、障がいについて理解し、そこから障がいがある人もない人も一緒に協力し合って生きていかなければいけないという考え方を育てる教育課程でした。今回の学習は「誰でも楽しめる」という観点からパラリンピックの種目になっているボッチャの大会を運営することでした。子どもたちは「どうやったら楽しんでもらえるのだろうか」と考えました。そこで初めて対象となる人のことを知ろうとする（学習）意欲が子どもたちに生まれました。この必要性が学ぶ上でとても大切だということを再認識しました。

反省としては、実際に大会に参加していただいた人が、地域のお年寄りや小さな子供、そして保護者でした。お年寄りの身体的な障がいがある方以外に障がいのある方がいませんでした。視覚障がいや聴覚障がいなどがある方などに参加してもらうことで、より障がいについて理解しようという学習ができると思います。

●Ｂ組担任　會田あかね

子どもたちはみんなで協力し話し合い、最後まで集中して活動していました。大変主体的で、それぞれが一生懸命取り組む姿が見られたことが一番良かった点です。ボッチャというスポーツ自体が非常に親しみやすく、運動が得意な子も苦手な子も一緒に楽しめるものであったことが大きかったと思います。

反省点としては、参観日の地域大会に関して、留萌地域の新聞社に取材してもらわなかったことがあげられます。次年度さらに拠点として活動するならば、このような取組をしていることを周知しておくことが大事な一歩だったと思うので、悔やまれるところです。

「もし、体が不自由だったら？」というテーマでスタートした総合学習でしたが、従来の障がい者理解の教育から一歩進んだ学習をすることができ、非常に意義のあるものになったと感じています。ちょっとの配慮で、みんなが同じように楽しく生活できることを体感した子どもたちが、よりみんなに優しい社会を作る一員になってくれることを期待しています。

５年生児童のアンケートまとめ

ボッチャを通して、学んだことはなんですか？

- 障がい者でも、障がい者じゃなくてもボッチャというスポーツは、誰でも楽しめるという事が分かった。
- 最初は、ボッチャって何だろうと思ったが、おもしろいということを知った。
- ボッチャのルールを知らない人に教えるのは簡単だと思っていたけど、実際にやってみるととても難しいことが分かりました。
- ボッチャは、障がい者でもお年寄りでも子どもでも楽しめるスポーツなんだと思いました。
- 最初は、速くボールを転がせば勝ちだと思ったけど、ジャックボールに近づけたら勝ちだったという事が分かりました。協力が大事。
- 障がい者でも、たくさん楽しめるスポーツがある。
- ボッチャ大会を通して、みんなが楽しめるスポーツをやって、準備を素早くできたので力がついた。
- 障がい者は、そんなに(できる)スポーツが無いと思っていたけど、考え方が変わった。障がい者でも、たくさん遊べて楽しむことができる。
- 正木さんと最初に会ったときに、車いすの対決で、「障がい者ってとても大変だなー」と思いました。
- 準備をしっかり協力してやらなきゃ大変だという事が分かった。
- 人に対する態度(あいさつ、年上の方に対する態度)
- 障がい者専用のスポーツだと思っていたけど、誰もが楽しめるスポーツ。声かけも大切。
- ボッチャをしてみて、人に教えながらやっていくところが良いです。あと、ボッチャは簡単にできるから、ルールを知っている人はやってほしいです。動かなくてもいいスポーツなのでお年寄りでもできるという事を教えていきたいと考え方が変わった。みんなと協力をしていかないと勝てないことが分かった。
- 色んな大会を運営することが力になりつつ、皆を楽しめるのも力になりました。
- ボッチャー つの競技でこんなにも大変だったとは思わなかった。互いに協力し合うことが大事だと思った。
- 全体を通して、非常に良い経験になった。
- 今後、障がい者にも「ボッチャ」というスポーツを知って楽しんでもらいたい。
- 何事もみんなと協力し合わなければいけないという事に気付いた。
- 最初は、ボッチャというスポーツが分かりませんでした。それでもボッチャをやってみて運営してだいぶボッチャというスポーツが好きになってきました。

- もしも、ぼくが怪我をしてもスポーツ選手の夢は、無くなることはありません。身体の部分が無くても走れる。目が見えなくてもけがをしても夢を捨てなくても良い。
- 大会の準備とかが難しかったから、違う大会でもこれを活かして運営する。
- 障がい者用のスポーツがあるとは思いませんでした。
- ボッチャの基本動作を学べたので増毛町に広めたくなった。
- ボッチャは、限られた人しかできないと思っていたけど、どんな人でもできるという事が分かった。
- 最初は楽しくなさそうと思っていたけれど何回もやっていくうちに楽しくなっていった。
- みんなと協力して活動していかないと、招待とかできないという事に気付いた。
- ボッチャという競技で戦うにはルールがたくさんあったり、子どもから大人まで楽しめるスポーツだと分かった。
- 桜園(老人ホーム)の人たちも、みんな楽しんでいたから、スポーツは誰でも楽しめると分かった。
- スポーツやパラリンピックにはあまり興味は無かったけど、ボッチャをして初めてスポーツは楽しいんだなと思った。
- 大会を開いて、障がい者じゃない人でも楽しいスポーツがあるという事を学べたと思う。
- ボッチャは誰でも楽しめるスポーツだという事が分かりました。
- 自分では教える事が苦手だったけど、積極的に教える事ができた。
- 自分は、対決など争い事が嫌いで、運動も得意ではないので嫌だったんですけど、ボッチャなら投げるだけで簡単にできるので誰でも楽しめると思います。だから興味も持てたし、調べたり考えたり色々なことができました。これをやったことで、人のまとめ方、想定外のときの対応などを学べました。
- みんなで協力して準備しないと大変だという事が分かった。大人から子どもまで楽しめるスポーツだと思っていなかったのでビックリしました。
- 大人でもお年寄りでも楽しんでいたので良かった。ボッチャをしている人が全員笑顔になれていたこと。
- ２年生とボッチャをやった時､笑った人もいるし泣いていた人もいたけど２年生全員おもしろかったと言っていたので良かった。
- はじめは速くに １ 番転がしたチームが勝ちだと思っていたけどジャックボールに近い方が勝ちだということを学んだ。すごく練習してボッチャがすごく上手くなって力になった。
- 障がい者でも一緒にスポーツができる。障がい者でも色んなことができる。

ボッチャ認定指導員になって

- ２年生で負けて泣いていた子もいたから、なぐさめてあげるのも指導員の役目。
- 受け継いでもらったり、大会を開いて指導者やお年寄りなどに楽しんでもらうためにする。
- 障がい者スポーツを広めたい。
- 他のスポーツの指導もしてみたいです。
- ボッチャを広めたい。これからも、たくさん教えたい。
- 他のスポーツもやりたい。
- 校内だけでなく、増毛町全体に広めたい。
- まず嬉しいです。だけど指導員だからこそプレッシャーがかかっているかもしれないと思います。だけど、プレッシャーに負けず楽しんで指導者をやっていきたいと思います。
- ここを拠点とし、みんなに障がい者スポーツを体験させ続けたいです。
- いつかは、本当の障がい者にボッチャを教えたい。ボッチャを引き継いだり、他の人に教えて広めたい。
- この経験を活かして増毛町に広めたい。
- 他の人にも教えたい。ボッチャというスポーツを広げていきたい。
- みんなにボッチャを指導したい。全学年に教えたい。
- ボッチャを楽しませる方法を考えようと思った。
- みんなに知ってもらえるように町に広めたい。
- 最初は難しいと思ったけど、ずっとボッチャをやっていたから、どれがどうなるか分かってきて、他の人たちにも教えたいと思った。協力が大事。
- 指導者として、いろんなところにボッチャというスポーツを広めたい。他の指導者にもなってみたい。
- ボッチャは高齢者でも楽しくできるスポーツだと思った。おじいちゃんにも教えてあげたい。
- これからも色々な人にボッチャというスポーツを知ってもらえるように頑張りたいです。
- しっかりと指導する。
- ケガをしてしまった人などに、まだ希望はあると教えたい。
- 指導員の認定書をもらう前は、指導員になれるかどうか不安だったけど指導員になれたから良かったです。
- 指導者として審判やルール説明など色々な事をしてボッチャのルールをすべて覚えることができた。２年生がやるボッチャで言う事を聞かなかったけど面倒をみれたこともうまくいった。

来年(今後)は？

- ４年生に受け継いでもらう。
- 自分達で４年生に認定書を渡す。
- ゲーム集会、イベントや行事を開く。ボッチャ教室、お楽しみ会。
- 来年は、町の人たちをたくさん呼んで、増毛町で大きな大会を開きたいです。
- ボッチャを受け継ぎたい。
- ボッチャ教室、PTA 競技、町の大会、違う種目、お楽しみ会、体験会、体育、外ボッチャ、行事に入れる、ゲーム集会、道具作り、ボッチャのテーマ曲を。
- 小さい子や大きい子にボッチャ大会をやり、次の世代に受け継ぐ。
- 他の地域でも、私たちが教えてあげて、みんなに広めるという事をみんなに伝えたい。
- 学校内で、何学年かを招待して障がい者スポーツを教えて、誰でも指導できるようにしてあげる。
- 町内でボッチャ大会。
- 紙などでボールを作ってボッチャをやる。
- 他の障がい者スポーツをやる。(フロアカーリングなど)
- 親子レク、お楽しみ会
- 日本の人に教えていきたいです。あとは、このボッチャを引き継いでほしいです。
- 他の障がい者スポーツをもっともっと増やして障がい者が楽しめるようなスポーツを作りたいです。
- 勇気をもって、人がいっぱい居る所で、ボッチャをやってみて、人に体験をしてもらいたいです。
- 町全体に広めたい。
- ボッチャ以外のスポーツもみんなに体験させてみたり、みんなと計画し体験会を開く。
- 学んだことを利用して、学校地域、いつかは隣の町と一緒に、ボッチャ大会に招待したい。
- ゲーム集会、ボッチャ教室、体育の授業
- 増毛町でボッチャ大会をしたい。
- 運動会でボッチャをする。
- 全学年でボッチャをやりたい。中学校に広めたい。
- 運動会に使ってみてもいいと思った。少年団にボッチャを入れてみたいと思った。
- 下の学年に受け継がせようと思った。
- ボッチャ教室、PTA、お楽しみ会、体育の授業

・　来年も、ボッチャを学校以外に他のところでもやってみたい。
・　また大会を体育館でやりたい。先生 VS6 年生みたいな・・・
・　中学校で大会。
・　増毛町で新しい形のボッチャを作りたい。大人も子どもも入れるスポーツ。
・　もっと指導を上手くできるように、しっかりルールなどを覚えたいです。
・　町にボッチャを広めたい。次の人に引き継いたりする。他の障がい者スポーツもする。これからも指導する。
・　軍手をボールに。ボールデーならぬボッチャデー
・　小学校でまだボッチャをしたことが無い学年を招待してやる。
・　指導者になって増毛の人々に教えてあげたい。
・　増毛小学校で、誰でもできるスポーツをする。
・　中学生と一緒に障がい者スポーツをやる。
・　また、町内でボッチャ大会を開いて誰でも来れるボッチャ大会をする。
・　中学生になる前に次の５年生に教えてやってもらう。

共生型障がい者スポーツ連携推進事業

◆スポーツ教室開催事業（障害者スポーツセンター連携事業）

◆各市町村連携及び地域人材活用事業

一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会

事業概要

◆実施（申請）協会名	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会		
◆計画書作成者	三浦　拓朗		
◆企画・実施担当者	三浦　拓朗	◆経理担当者	小林　新

全体事業名称	共生型障がい者スポーツ連携推進事業
委託費	¥1,000,000
地域の実情・課題点	昨年は、市町村体育協会をはじめ、市町村におけるスポーツ振興の鍵となる団体との連携事業を進めてきた。その結果、一関市においては市町村単位では本県初となる「一関市障がい者スポーツ協会」が設立された。これは昨年度の本事業の成果ともいえる。今後はこのような地域での自発的な取組みを促すとともに、フォローアップを続けていく必要がある。ただし、コーディネート活動には当協会単独では限界があるために、核となる市町をターゲットに環境整備を行い、中心となる自治体を育て、その自治体が圏域の市町村をサポートしていくような体制を作っていきたいと考える。このような、行政の枠を越えた連携を図るために本事業を活用していきたい。 　本県のスポーツ実施率は第2期スポーツ基本計画で示されて数値よりも低いと想定しているが、目標値である週1回のスポーツ実施率40%という数値を前向きに捉え、地域における行政の枠を超えたスポーツ推進の連携体制構築に取組みたい。
総合的な事業の目的	上記から、引き続き障がい者スポーツ振興に対する3つの視点（目的）を持ちながら進めたい。1つ目は競技スポーツの取組みによる競技力向上である。2つ目は生涯スポーツの推進で、地域におけるスポーツ参加の拠点作りとともに進めたい。3つ目はリハビリテーションスポーツで何らかの理由により、未だにスポーツに取り組めていない、あるいは、引きこもっている等の問題を抱える方々を生涯スポーツのステージに引き上げる取り組みである。また、今後、われわれに求められる役割は、自らが障がい者に対してスポーツ参加の場を提供する「直接的な支援」に加えて、障がい者へのスポーツイベント企画から運営までをサポートする側に回る「間接的な支援」が重要となる。
総合的な事業のねらい	「直接的な支援」はある意味、閉鎖的であり、「間接的な支援」を積極的に行うこと、つまり、個の力だけではなく、地域における人材、施設、ネットワーク等に加え、本県にある障害者スポーツセンター「ふれあいランド岩手」にもサポートをいただきながら、地域における自立した普遍的な障がい者のスポーツ活動拠点作りを継続的に行うことで定着を図る。

事業名	
事業①	スポーツ教室開催事業（障害者スポーツセンター連携事業）
事業②	各市町村連携及び地域人材活用事業
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告

実施協会名	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会			
事 業 名	①スポーツ教室開催事業（障害者スポーツセンター連携事業）			
事業内容	＊ユニバーサルスポーツ体験（ボッチャ、卓球バレー）を開催した。共生型スポーツとしての特性を活用し、地域のスポーツ振興のキーパーソン等との連携推進やコミュニティ作りにも活用。被災地支援も兼ねて実施。 ①～⑥／卓球バレー教室、⑦～⑧／ボッチャ教室	①マリンスポーツ教室（海の散歩、シーカヤックと小型ボートでのクルージングを満喫）、②パークゴルフ会場調査（起伏の少ない三陸沿岸のパークゴルフ場を身障者とともにプレー体験）、③～④ふれあいランド岩手地域連携推進事業（地域のプールを活用し、安全な水中運動指導を紹介）		
開催日時	①平成30年11月21日（水）9時～12時 ②平成30年12月10日（月）13時半～15時半 ③平成30年12月11日（火）10時～12時 ④平成30年12月12日（水）9時～12時、13時～15時、18時～20時 ⑤平成31年1月25日（金）10時～12時 ⑥平成31年1月26日（土）10時～12時 ⑦平成30年12月17日（月）17時～19時 ⑧平成31年1月21日（月）13時～16時	①平成30年7月29日（日）10時～15時 ②平成30年10月29日（月）13時～16時 ③平成30年10月4日（木）13時半～15時 ④平成30年10月14日（日）13時半～15時		
会　　場	①サンビレッジ紫波（紫波町） ②陸前高田グローバルキャンパス（陸前高田市） ③障がい者支援施設・四季の郷（大槌町） ④久慈市民体育館（久慈市） ⑤矢巾2区公民館（矢巾町） ⑥下鵜飼集会所（滝沢市） ⑦～⑧ふれあいランド岩手（盛岡市）	①リアスハーバー宮古（宮古市） ②十府ヶ浦公園パークゴルフ場（野田村） ③姉ヶ崎サンスポーツランド（宮古市） ④湯本屋内温泉プール（西和賀町）		
参 加 者	①18名（身体12名、健常6名） ②40名（身体20名、知的6名、精神2名、健常12名） ③20名（身体14名、健常6名） ④75名（身体30名、知的12名、精神8名、健常25名） ⑤24名（身体2名、健常22名）、⑥32名（身体4名、知的2名、健常26名） ⑦6名（身体2名、健常4名）、⑧24名（身体8名、知的4名、精神2名、健常10名）	①30名（身体18名、健常12名） ②10名（身体6名、健常4名） ③6名（身体2名、健常4名） ④3名（身体1名、健常2名）		
人員体制	①4名（スポ協1名、スポ指1名、行政他4名） ②8名（スポ協1名、競技団体1名、スポ指導2名、スポ推進2名、総合型2名） ③6名（スポ協1名、競技団体1名、施設4名） ④13名（スポ協1名、競技団体1名、スポ指4名、スポ推進4名、行政他3名） ⑤4名（スポ協1名、スポ指1名、競技団体2名） ⑥7名（スポ協1名、スポ指1名、スポ推進2名、競技団体3名） ⑦5名（スポ協1名、スポ指2名、OT2名） ⑧6名（スポ協1名、スポ指2名、OT2名）	①9名（スポ協1名、スポ指1名、PT1名、競技団体6名） ②4名（スポ協1名、競技団体1名、スポ推進2名） ③3名（スポ指3名） ④2名（スポ指2名）		
連携団体名 （箇条書き）	久慈市体育協会、久慈市スポーツ推進委員協議会、久慈市身体障害者協議会、大船渡市スポーツ推進委員協議会、滝沢市スポーツ推進委員協議会、矢巾２区地区コミュニティ、紫波町社会福祉協議会、紫波町身体障がい者福祉協会、総合型りくぜんたかた、住田町スポーツ推進委員協議会、（一社）まるごと陸前高田、岩手県作業療法士会、岩手県障がい者スポーツ指導者協議会、日本卓球バレー連盟、岩手県卓球バレー協会	ふれあいランド岩手 宮古市シーカヤック協会 NPOいわてマリンフィールド 野田村パークゴルフ協会 野田村社会福祉協議会 岩手県障がい者スポーツ指導者協議会		
実際の事業での 連携団体の役割	市町村体協は、施設の指定管理者であり、会場予約調整等及び当日の用具使用時のサポート。スポーツ推進委員協議会は会員への周知と当日の運営サポート。総合型地域SCはクラブ会員への周知と当日の運営サポート。その他、地元障がい者団体、社協、非営利団体等は周辺住民への周知と当日の運営サポートを依頼。競技団体及び県障がい者スポーツ指導者協議会、ふれあいランド岩手、岩手県作業療法士会は、講師や補助講師等の指導が中心的な役割としている。	今年度より、ふれあいランド岩手と連携した地域におけるスポーツ参加環境整備に取り組んでいる。プログラムや指導ノウハウ等をに提供、実践を通して地域で自立した教室等が展開できるようサポートしていくものである。 マリンスポーツ等のアウトドア体験を安全に楽しむためには、当日の天候状況の判断や体験時のリスクマネジメントまでを専門的なノウハウのある団体に依頼している。また、競技団体には会場の優先予約や減免などの対応、会場使用時のアドバイスもいただいている。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者の役割・活用について	障がい者スポーツ指導者は障がい当事者への指導や体験時の個別サポートをお願いしている。また、本事業の特徴であるが、資格を持たないスポーツ推進委員や総合型地域SC関係者、OT等に資格取得を促すようにしており、取得者の増加にもつながっている。		本事業における 障がい者スポーツ指導員の実人数	14
			本事業における 障がい者スポーツ指導員の延べ人数	21
スポーツ用具の 整備・活用について	昨年度購入したパークゴルフセット、今年度購入のボッチャ用具を本事業にて使用させていただいた。特にボッチャは、以前は、２０年以上前に購入したボールを使用していたが、かなり固くなってしまい難易度が増していた。新規購入により、ボッチャ本来の持つゲーム性を十分に味わうことができた。審判用具もセットとなっており、今後はサポーター養成とともに審判養成にも取り組み、大会開催までつなげていきたい。			

各事業における事業報告

実施協会名	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会	
事 業 名	②各市町村連携及び地域人材活用事業	
事業内容	＊ユニバーサルスポーツ活用事業 ①～②卓球バレー指導者養成講習会（岩手県作業療法士会との連携事業）、 ③一関市＆気仙沼市障がい者スポーツ協会交流事業、 ④～⑥総合型地域スポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ障がい者スポーツ推進事業をサポートするもの。）	＊地域人材活用事業 ①盛岡南公園サッカー交流大会（盛岡市体協との連携、知的障がい者サッカー交流大会とサッカー教室）、 ②卓球バレー宮古交流大会、 ③盛岡市スポーツ推進委員研修会、 ④中山地区卓球バレー交流会（卓球バレーを活用した地域人材とのネットワーク推進事業）、 ⑤障がい者スポーツ体験事業（一関市障がい者スポーツ協会との連携事業）、 ⑥胆江地区スポーツ推進委員研修会（胆江地区スポーツ推進委員への講演と実技・ボッチャ）
開催日時	①平成30年 6月30日（土）10：00～15：00 ②平成30年10月20日（土）10：00～15：00 ③平成30年 9月 2日（日）10：00～15：30 ④平成31年 1月24日（木）15：30～17：30 ⑤平成31年 1月29日（火）15：30～17：30 ⑥平成31年 1月31日（木）15：30～17：30	①平成30年 7月16日（月） 9：00～16：00 ②平成30年 8月25日（土）10：00～15：00 ③平成30年11月25日（日） 9：00～12：00 ④平成30年12月15日（土）10：00～13：00 ⑤平成31年 1月16日（水）10：00～12：00 ⑥平成31年 1月19日（土） 9：00～12：00
会　　場	①～②／ふれあいランド岩手（盛岡市） ③室根体育館（一関市） ④松園地区公民館（盛岡市） ⑤高松地区保健センター（盛岡市） ⑥松園地区公民館（盛岡市）	①盛岡南公園球戯場（いわぎんスタジアム／盛岡市） ②宮古市民総合体育館（宮古市） ③ふれあいランド岩手（盛岡市） ④奥中山地区公民館（一戸町） ⑤一関市総合体育館（一関市） ⑥奥州市江刺総合支所（奥州市）
参 加 者	①20名（身体2名、健常18名） ②22名（身体2名、知的2名、精神4名、健常14名） ③66名（身体45名、知的4名、精神2名、健常15名） ④20名（身体2名、健常18名） ⑤32名（身体10名、知的2名、精神2名、健常18名） ⑥45名（身体4名、知的22名、精神3名、健常16名）	①59名（知的46名、精神2名、健常11名） ②121名（身体56名、知的18名、精神12名、健常35名） ③20名（健常20名） ④76名（身体6名、知的40名、精神2名、健常28名） ⑤72名（身体38名、知的12名、精神2名、健常20名） ⑥65名（健常65名）
人員体制	①9名（スポ協1名、スポ指1名、スポ推進2名、総合型SC1名、OT4名） ②6名（スポ協1名、スポ指2名、スポ推進1名、OT2名 ③6名（スポ協1名、スポ指2名、体協1名、競技団体2名） ④6名（スポ協1名、スポ指2名、総合型SC3名） ⑤6名（スポ協1名、スポ指2名、総合型SC3名） ⑥6名（スポ協1名、スポ指2名、総合型SC3名）	①15名（スポ協1名、スポ指2名、体協4名、競技団体8名） ②14名（スポ協1名、スポ指5名、スポ推進5名、総合型SC2名、体協1名） ③4名（スポ協1名、スポ推2名、行政1名） ④13名（スポ協1名、スポ指2名、スポ推進4名、競技団体2名、施設4名） ⑤13名（スポ協1名、スポ指4名、スポ推進2名、体協2名、競技団体4名） ⑥8名（スポ協1名、スポ指1名、スポ推進4名、行政2名）
連携団体名（箇条書き）	岩手県作業療法士会、岩手県理学療法士会、一関市体育協会、一関市障がい者スポーツ協会、気仙沼市障害者スポーツ協会、一関市身体障害者協議会、まつぞのスポーツクラブ、のびっこ療育センター、岩手ワークショップ、岩手県卓球バレー協会、岩手県障がい者スポーツ指導者協議会	盛岡市体育協会、岩手県サッカー協会、岩手県IDサッカー連盟、盛岡市スポーツ推進委員協議会、一戸町スポーツ推進委員協議会、多機能事業所きらぼし、岩手県社会福祉事業団、岩手県スポーツ吹矢協会、岩手県障がい者フライングディスク協会、一関市体育協会、一関市障がい者スポーツ協会、胆江地区スポーツ推進委員協議会、奥州市江刺支所
実際の事業での連携団体の役割	本県では、スポーツ参加時の障壁を取り除くための有効な手立てとしてスポーツ導入時の楽しさや達成感を重要視している。特に身体障がい者のリスクマネジメントを緩和するために作業療法士と連携したプログラムを取り入れている。また、総合型地域スポーツクラブでは今年度より、障がいのある方と健常者が一緒に楽しむことができるプログラムを提供している。この活動を当協会としても支援したいと考える。	盛岡市体育協会では指定管理施設において当協会と連携してサッカーと水泳スポーツ教室を開催。今回の交流大会では当日の運営、サッカー協会等とのコーディネート業務等、全般的にサポートしていただいた。昨年度設立された一関市障がい者スポーツ協会と隣接する気仙沼市障害者スポーツ協会は、指定都市以外では例の少ない障がい者スポーツ団体である。活動のきっかけづくりとして当協会が窓口となり交流事業を開催した。
本事業における障がい者スポーツ指導者の役割・活用について	事業①と同様にスポーツ指導や参加時のサポートをお願いするとともに、体協、スポーツ推進委員、総合型地域SC関係者にも資格取得を進めている。盛岡市体協のサッカー、水泳の担当者は資格取得している。今年度は1名が中級資格取得中である。	本事業における障がい者スポーツ指導員の実人数：18 本事業における障がい者スポーツ指導員の延べ人数：25
スポーツ用具の整備・活用について	今年度購入のボッチャ用具を本事業にて使用させていただいた。上記事業のうち、障がい者スポーツ体験会、総合型地域スポーツクラブ連携事業、胆江地区スポーツ推進委員研修会で活用した。	

事業全体の評価

実施（申請）協会名	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会		
全体事業名称	共生型障がい者スポーツ連携推進事業		
委託費	¥1,000,000	決算額	¥1,059,232
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	本事業における最大の目的は「間接的な支援」であり、地域の人材を活かしながら地域において自らが障がいのある方々へのスポーツ参加支援を行うことである。当初こちらが想定する以上の地域連携が進んでいることから段階的な目標値はクリアしたと感じている。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	エビデンス的なデータはないが、今回実施した会場地（市町村）以外からの問い合わせも増えている。その内容は、地域でボッチャ教室や卓球バレー教室を地域住民と障がいのある方も一緒に企画したいがどのようにすればようかといったものである。これまで取り組んでいない市町村や地区がボッチャや卓球バレーの情報を持っているということは、本事業の効果は大きいと考えてよいと思う。		
費用に関する所見	今回の予算でも工夫次第では、十分なボリューム感を出すことができる。委託事業費のみでの運営ではなく、自助努力や参加費を組み合わせることも有用である。結果として、委託事業の費用効果も上がる。		
今後の課題や今後の事業展開（具体的方策・展望）	障がいのある方の参加の障壁は課題ではあるが、支援する側も同様に障がいのある方々を受け入れる際の障壁がある。これらを連携をキーワードにしながら取り除く取り組みが今後重要になってくると思う。		
参加者や関係団体からの声	参加した方々からは「楽しかった。またやりたい」という声を多く引き出すことができた。また、企画する側からも今後も継続して取り組みたい。自分たちでやってみたい。といった前向きな声を聞くことができた。具体的な実施までにはまだ時間は要すると思うが、前向きな声を後押ししていけば必ず地域で自立した取り組みにつなげられると思う。		
その他所見	１つ気になるのが、一般のスポーツ振興に携わる方々に比べると福祉関係者の前向きな声が少ないように感じる。特別支援学校においても希望郷いわて大会後の協力体制は、学校全体としてではなく、指導者個人によるものが主となっている。よって、事業所利用者や支援学校の生徒たちの余暇活動について一緒に考える機会を作る必要があるように思う。スポーツ庁でいう支援学校における拠点づくりに対しての反発的な声も聞こえる。スポーツ行政の一元化のメリットは競技スポーツ分野では大きいが、生涯スポーツ分野における福祉的な支援体制が今後の課題となると思う（新たな縦割り？）。		

岩手県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（１）スポーツ教室開催事業（障害者スポーツセンター連携事業）

①マリンスポーツ教室／平成 30 年 7 月 29 日（日）@リアスハーバー宮古（宮古市）

昨年度に引き続き、開催したマリンスポーツ教室。台風通過後で開催が危ぶまれましたが、小雨の中、何とか開催。岩手県障がい者スポーツ指導者協議会の研修部長（PT）も参加により、片麻痺等の参加者のシーカヤックやボートへの移乗の際の適確な支持と介助でとても助かった。

②ふれあいランド岩手地域連携事業１、２

＊「初めてのプール歩行導入教室」／平成 30 年 10 月 4 日@姉ヶ崎サン・スポーツランド（宮古市）

＊「間接の機能改善・向上のプール教室」／平成 30 年 10 月 14 日（日）@湯本屋内温泉プール（西和賀町）

ふれあいランド岩手は全国で 26 か所ある障害者スポーツセンターの 1 つであるが、どちらかというと地域の高齢者の憩いの場としてのイメージが強い。そこで、今回は当協会との共催事業により、障害者スポーツセンターとして培ってきたプログラムを地域に還元する目的で実施した。しかしながら、プログラムとして水中運動を選択したが、地域のニーズとは合致しておらず反省点が残る。また開催時期も当協会の全国障害者スポーツ大会派遣スケジュールと重なった部分もあり、全面的な協力には至らず、ふれあいランドさんにも申し訳なかった。次回は、ニーズ把握、プログラム精査、日程調整に努め、参加者の拡充と地域で活躍する指導者とのネットワーク作りにつなげたいと思う。

③パークゴルフ会場調査／平成 30 年 10 月 29 日（月）@十府ヶ浦公園パークゴルフ場（野田村）

昨年度実施した会場がプレー時の負担が大きいとの声があり、本調査を実施した。従来のパークゴルフ場の多くはは起伏が多く、車いす利用は困難であったが、本コースは平坦である。またレストハウスには身障者用トイレも完備されており、駐車場からのアクセスも良い。レストハウスからコースへの移動も緩やかな傾斜の舗装道路を利用できるので、今後は北三陸地域のレクリエーションの活動拠点として事業を企画していきたい。

④卓球バレー教室１～６

＊卓球バレー教室１／平成 30 年 11 月 21 日（水）@サンビレッジ紫波（紫波町）

＊卓球バレー教室２／平成 30 年 12 月 10 日（月）@陸前高田グローバルキャンパス（陸前高田市）

＊卓球バレー教室３／平成 30 年 12 月 11 日（火）@障がい者支援施設・四季の郷（大槌町）

＊卓球バレー教室４／平成 30 年 12 月 12 日（水）@ひばり療護園、久慈市民体育館（久慈市）

＊卓球バレー教室５／平成 31 年１月 25 日（金）@矢巾２区公民館（矢巾町）

＊卓球バレー教室６／平成 31 年１月 26 日（土）@下鵜飼集会所（滝沢市）

紫波町１

紫波町２

紫波町３

陸前高田市１

陸前高田市２

陸前高田市３

陸前高田市４

会場となった陸前高田グローバルキャンパスは旧陸前高田市立高田東中学校の校舎を利用したもの。現在は、地元、岩手大学と立教大学との提携により運営されている。体育館には希望郷いわて大会にて使用したサウンドテーブルテニス専用台もある。利用料も減免となるため、今後の活用も検討したい。

大槌町１

大槌町２

大槌町３

大槌町４

大槌町５

会場となった四季の郷には卓球台がなく、長机を使用した。その際の長机の配置の基本形として、右の画像を参照にしていただきたい。この組み合わせだと車いす利用者でもプレーしやすい。また、やや幅広となるが、その際はネットサポートの向きを逆にして取り付けると対応できる。逆に幅が狭い場合はネットの金具側にネットを巻きながら長さを調整できる。

久慈市１

久慈市２

久慈市３

久慈市４

久慈市７

久慈市会場では、午前中にひばり療護園、午後と夜の部は久慈市民体育館に会場を移し、教室の３本立てで行った。まず、ひばり療護園であるが、旧身体療護施設でありながら、毎日、練習に励み、今では県大会クラスでは予選リーグを突破するレベルとなっている。今年は久慈市で初めての大会「あまちゃんカップ」を開催。全国では初めてとなる卓球バレーの地域組織「久慈地域卓球バレー」を立ち上げ、市民が卓球バレーを楽しんでいる。その象徴的な画像が最後の画像。障がいのある方に加え、地元の老人クラブ、帰り際の高校生と小学生も一緒に真剣勝負である。

矢巾町１

矢巾町２

矢巾町３

滝沢市１

滝沢市２

滝沢市３

矢巾町の会場は矢巾２区公民館、滝沢市の会場は下鵜飼集会所と公民館や集会所の開催であった。共生型スポーツを推進する上での指標は地域にある公民館や集会所において障がいのある方が参加できるかが重要と考えている。このような環境作りのためには、行政や地区コミュニティと一緒に取り組んでいく必要がある。時間はかかるが地道に取り組んでいきたい。

⑤ボッチャ教室１、２

ボッチャは以前、岩手でも盛んにおこなわれていたが、久しぶりのブーム到来？しかし 20 年以上前に購入したボールは硬質化が進み、初心者には難易度が高かった。今回は新規購入したボールを使用したが、驚くほど扱いやすいボールであった。初めての方でもすぐにゲームを楽しむことができた。

⑥障がい者スキーサポート講習会／平成 31 年 1 月 20 日（日）@安比高原スキー場

県内の障がい者スキーの取組みは、当協会と岩手チェアスキークラブ等の地元愛好団体との連携協力により実施している。内容は主にスキーヤーのサポート方法についての講習会と体験会の２本立てである。今回は、スキーヤーとご家族、学校関係者、リハスタッフを対象としたサポート講習会を実施した。

（２）各市町村連携及び地域人材活用事業

①卓球バレー指導者養成講習会

／平成 30 年 6 月 30 日（土）、10 月 20 日（土）@ふれあいランド岩手（盛岡市）

岩手県作業療法士会との共催事業として 2 回実施。作業療法士会ではスポーツ導入の際の卓球バレーの有用性を評価していただいている。すでに 20 名ほどの OT が資格を取得し、自身のリハビリ関係施設でも卓球バレーを実践していただいている。さて、講習会であるが、午前はルールのレクチャーが中心。午後は審判実技を行う。また、卓球バレーチームをお招きして実際の試合を体験したいただいている。

②第 4 回盛岡南公園球戯場障がい者サッカー交流大会

／平成 30 年 7 月 16 日（月）@盛岡南公園球技場（いわぎんスタジアム・盛岡市）

盛岡市体育協会との共催事業として 4 回目の開催。盛岡市体協は、岩手県サッカー協会とのパイプもあるので審判派遣等をスムーズに行い、当日の円滑な運営につなげていただいている。また、今回は地元の盛岡誠桜高等学校にも協力いただいた。ボール拾いや最後には出場選手の中から東北選抜チームを結成し、盛岡誠桜高校サッカー部との交流試合を行った。ID の選手たちにもいい経験となった。この他、盛岡市体協ではサッカー教室、水泳教室も当協会との共催で行い、指導は障がい者スポーツ指導員資格を取得した職員が行っている。

③卓球バレー宮古交流大会／平成 30 年 8 月 25 日（土）@宮古市総合体育館（宮古市）

地域で行われる大会は、オールフリールール（障がいのあるなし問わず参加 OK）で実施することとしている。この趣旨はまさに共生型スポーツの推進にある。ここ最近は、老人クラブ等の高齢者にも普及を広げるとともに地域コミュニティ作りに有用であることが着目され、公民館レベルでの体験会も行われるようになった。さて、この交流大会はスポーツ推進委員や資格取得したばかりの作業療法士等の協力もあり、スムーズな運営につながった。

④一関市＆気仙沼市障がい者スポーツ協会交流事業／平成３０年９月２日（日）@室根体育館（一関市）

気仙沼市障害者スポーツ協会は７年ほど前に設立。一関市障がい者スポーツ協会は昨年、一関市体育協会のバックアップの下に設立。指定都市以外での障がい者スポーツ協会はあまり多くはないが、偶然にも県は跨ぐものの隣接する市である。今回の交流事業は、今後の両協会と地域におけるスポーツ振興に携わる方々との連携を促し、共生型スポーツの推進に寄与するものである。

さて、事業の内容であるが、午前は卓球バレー指導者養成講習会を行った。講師は宮城卓球バレー協会の泉会長と山内事務局長に依頼。午後は両市の障がい者団体を中心とした卓球バレーの交流試合を行った。

⑤盛岡市スポーツ推進委員研修会／平成 30 年 11 月 25 日（日）@ふれあいランド岩手（盛岡市）

今回の企画は盛岡市スポーツ推進委員女性委員会が中心となり、実施された。内容としては、卓球バレー体験と共に日本卓球バレー連盟公認の指導者資格を取得できる講習会として行った。参加者の中にはすでに指導者資格を有する方もいたが、今回の講習により新たに 15 名の卓球バレー指導者が誕生することとなった。今後は、それぞれの活動フィールドにおいて卓球バレーを活用していただき、地域における障がいのある方のスポーツ参加環境整備や共生型の地域コミュニティ構築につながることも期待したい。

⑥中山地区卓球バレー交流会／平成 30 年 12 月 15 日（土）@奥中山地区公民館（一戸町）

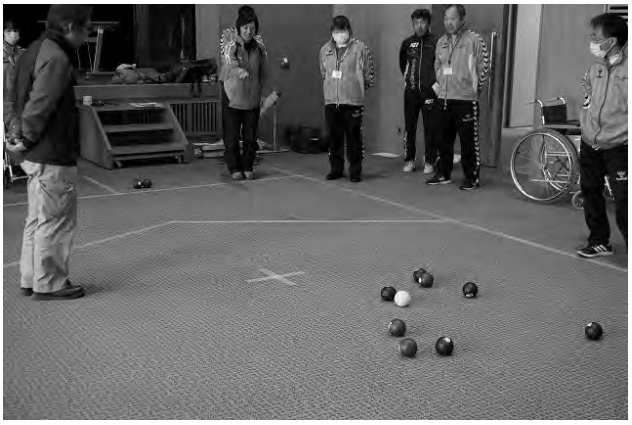
57

今回は、卓球バレーを通して地域との交流の輪を広げることを目的に開催された。参加したのは、地元の老人クラブや一戸町、岩手町、二戸市等の障がい者事業所から参加。初めての参加者もいたので最初にルール説明を行い、その後の少しだけ練習して本番という流れで行った。各コートでは 1 打ごとに歓声が上がり盛り上がっていた。各試合の審判は卓球バレー指導員資格を有するふたばや多機能事業所きらぼしの職員と一戸町のスポーツ推進委員の皆さんに担当していただいが、すでに各事業所において卓球バレーを導入しており、基本的な審判技術はマスターしていた。また、中山地区は以前より多くの障がい者事業所が点在し、福祉に理解のある地域であるが、今後も卓球バレーを活用し、交流の輪を広げ、共生型の街づくりに役立てていただきたいと思う。

⑦障がい者スポーツ体験会／平成 31 年 1 月 16 日（水）@一関市総合体育館（一関市）

当日は 60 名以上の参加があったように思います。これは一関市障がい者スポーツ協会の皆さんや障がい者スポーツに対して様々なバックアップを行う一関市体育協会をはじめとする関係団体の協力の賜物でしょう。今回の内容はフライングディスク、スポーツ吹矢、卓球バレーに加えて、パラリンピック種目のボッチャの 4 つのコーナーにて参加者がローテーションをしながら体験するスタイルで実施された。なお、ボッチャ体験は新規購入用具を活用させていただいた。

⑧胆江地区スポーツ推進委員研修会／平成 31 年 1 月 19 日（土）@奥州市江刺総合支所（奥州市）



前半の講義のテーマは、「これからの生涯スポーツ～障がい者スポーツからの視点」であり、スポーツ庁や笹川スポーツ財団の調査データに基づく障がいのある方々のスポーツ参加の実態や課題、その際の障壁等の紹介とそれを緩和するための方法を一例として自論を交えてお話させていただきました。

後半の実技ではボッチャの導入方法の一例を紹介。まずはコート作りから行いました。正式なコートは 6m×12.5m ですが今回はミニコートでの実施です。これは参加者の技術的なハードルを下げるとともに、すぐにボッチャの持つ点取りゲームの楽しさを実感できるので有効です。講義を実施するにあたり、一番救われたのが、参加者のスポーツ推進委員の皆さんの熱意と積極的な姿勢です。おかげさまでこちらまで一緒に楽しませていただく時間となりました。この勢いがあれば近いうちにボッチャ教室や卓球バレー教室をそれぞれの地域において企画し、実施することも可能であると大いに期待されます。

⑨総合型地域スポーツクラブ連携事業１～３

＊総合型地域スポーツクラブ連携事業１／平成 31 年 1 月 24 日（木）@松園地区公民館

＊総合型地域スポーツクラブ連携事業２／平成 31 年 1 月 29 日（火）@高松地区保健センター

＊総合型地域スポーツクラブ連携事業３／平成 31 年 1 月 31 日（木）@松園地区公民館

この総合型地域スポーツクラブとの連携事業は、障がいのある人もない人も一緒に交流できる場づくりを目的として実施している。地域住民にとって最寄りの公民館等の施設を利用し、その地域にある障がい者事業所等に参加を集い、スポーツを通して交流を図ろうとするものであった。

実施種目はボッチャと卓球バレーで双方とも今回の目的に沿うような競技特性があり、参加者の皆さんも十分に楽しんでいただけたように思う。今回は、盛岡市のまつぞのスポーツクラブのみであったが、他の総合型地域 SC からのリクエストもあるので同様の取組みを実施していきたい。

平成 30 年度ボッチャ体験教室開催要項

1　趣旨

ボッチャは、パラリンピックの正式種目であるが、東京オリパラ 2020 の開催が近づくに従い、近年は、障がいの有無に関わらずにゲームを楽しむことができるユニバーサルスポーツとしても注目を集めている。そこで、障がいのある方もない方も一緒にボッチャを楽しみながら、ユニバーサルスポーツとしてのボッチャの魅力を体験したい。

2　主催　　（一社）岩手県障がい者スポーツ協会

3　共催　　岩手県障がい者スポーツ指導者協議会

4　日時／会場

期日	時間	会場
平成 30 年 12 月 17 日（月）	17：00～19：00	ふれあいランド岩手・体育館
平成 31 年 1 月 21 日（月）	13：00～16：00	

5　定員及び参加対象者

（1）定員・・・20 名程度

（2）対象・・・年齢、性別、障がいの有無等を問わず、どなたでも参加 OK

6　申込方法及び締切

申込書に必要事項を記入の上、各開催期日の 3 日前までに以下の申込先まで郵送または FAX、E メール等によりお申し込みください。

7　その他

上履きをご持参ください。

8　申込先（問合せ先）

〒020―0831 盛岡市三本柳 8―1―3 ふれあいランド岩手内

一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会（担当：三浦）

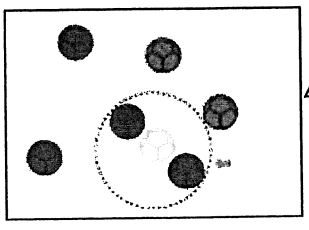
TEL　019-637-5055 ／ FAX 019-637-7626

E-mail：info@iwate-adaptive.or.jp

9　ボッチャとは？

パラリンピックの正式種目の 1 つです。

ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ 6 球ずつのボールをいかに近づけるかを競うスポーツです。カーリングとルールは似ていますが、的球も動きが加わるため、作戦はさらに複雑かつ面白くなります。



この場合の得点は？

ジャックボール（白）を基準に青の内側に赤が 2 つあるので赤に 2 点が入ります

7月16日

第4回盛岡南公園球技場障がい者サッカー交流大会　結果

参加チーム　7チーム

（秋田県特体連　2チーム）　（岩手ＦＩＤ　2チーム※1チームは混合）　（Sendai Forza　2チーム）　（石巻ＩＤ　1チーム）

20分ハーフ（ハーフタイム10分）

Bグランド（エンジョイリーグ）　※8人制

参加チーム：岩手・秋田・仙台・石巻

時間	チーム	得点		得点	チーム
9:30 ～ 10:20	Sendai Forza	1	vs	8	石巻ID
10:50 ～ 11:40	石巻ID	0	vs	6	秋田県特体連
11:50 ～ 12:40	秋田県特体連	9	vs	0	岩手FID（混合チーム）
12:50 ～ 13:40	岩手FID（混合チーム）	5	vs	0	Sendai Forza
13:50 ～ 14:40	岩手FID（混合チーム）	2	vs	4	石巻ID
14:50 ～ 15:40	秋田県特体連	15	vs	0	Sendai Forza

35分ハーフ（ハーフタイム10分）

Aグランド（オープンリーグ）　※11人制

参加チーム：岩手・秋田・仙台

チーム	得点		得点	チーム	時間
岩手FID	0	vs	1	秋田県特体連	9:30 ～ 10:50（ゲーム間30分）
岩手FID	1	vs	6	Sendai Forza	11:20 ～ 12:40（ゲーム間30分）
秋田県特体連	3	vs	0	Sendai Forza	13:10 ～ 14:30（ゲーム間30分）
東北FIDトレセン	0	vs	4	盛岡誠桜高校	15:00 ～ 15:50

エキシビジョンマッチは（20-10-20）で実施

閉会式　16:00～

※1　各チーム代表者の方は、いわぎんスタジアム1階北側にあります事務所にて、受付をお願いします。

※2　開会式＆監督会議は行わず、閉会式のみ行います。
（連絡事項がある場合はいわぎんスタジアム・高杉が直接お伝えします）

※3　Bグランド（オープンリーグ）の試合と試合の間のインターバルが、連続で試合が続くチームの為に配慮させていただいておりますので、ご確認をお願いいたします。

※4　審判（主審）は、岩手県サッカー協会から派遣していただく予定です。副審・補助員を盛岡誠桜高校サッカー部の選手にお手伝いいただきます。

※5　ウォーミングアップはアップ室とAグラウンド北側で行って下さい。但し、芝生の保全のため、一カ所で連続しての使用を禁止致しますので、ご配慮願います。アップ室でのスパイクは使用禁止です。

※6　試合結果を1階通路中央に掲示します。

平成30年度障害者スポーツ振興事業「地域における障がい者スポーツの振興事業」

平成30年度マリンスポーツ体験教室開催要項

1　目　的
障がいの有無に関わらず楽しめるマリンスポーツとして注目されているシーカヤックの体験を通して、日常生活ではなかなか味わえない自然とのふれあいや参加者との交流を図り、日常生活に潤いを与えることを目的とする。

2　主　催　（一社）岩手県障がい者スポーツ協会

3　協　力　NPO法人いわてマリンフィールド、宮古市シーカヤック協会

4　日　時　平成30年7月29日（日）10：00～15：00（9：30受付）

5　場　所　リアスハーバー宮古
〒027-0028 宮古市神林9-1／TEL 0193-71-1120

6　内　容
☆タンデム艇（二人乗りカヤック）または、ファンカヤック（初心者用・安定性抜群）等を使用
☆陸上にてパドル操作やライフジャケット着用方法等の安全指導をいただき、いざ海上へ！
☆午後の部はシーカヤック班、ボート班に分かれて簡易観光ツアーを予定！

7　対象／定員
スポーツをする上で健康上問題のない障がいのある方と健常者／合計20名程度

8　参加料　1,000円（昼食代・保険料等）

9　その他
☆視覚のある方や上肢機能に不安のある方でも2人乗りカヤック利用で参加OK！
☆安全対策は万全を期しおりますが、万一を考えて着替え等は、必ずご持参願います。
☆弁当をご希望の方は申込書に○をしてください（お茶付600円）。

10　申込方法
☆申込用紙に必要事項を記入し、以下まで郵送、FAX、Eメール等にて7月24日（火）までにお申し込みください。
〒020－0831 盛岡市三本柳8－1－3 ふれあいランド岩手内
一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会（担当：三浦、小林、藤原）
TEL 019-637-5055／FAX019-637-7626／E-mail：info@iwate-adaptive.or.jp

リアスハーバー宮古

卓球バレー地域探訪～身近な場所でスポーツ交流！

卓球バレーをやろう！

☆一言で表現すると『6人対6人のゴロでやる卓球』です。
☆使用する卓球台は一般の卓球台です。
☆選手は必ず座ってプレーをします。車椅子の方はそのまま車椅子でプレーをします。
☆相手に3打までに返すとか、タッチネット、ドリブルなどルールはバレーボールに似ています。

希望郷いわて大会オープン競技として実施！
県内には震災翌年の 2012 年に導入された卓球バレーですが、急速に普及が進み、2016 年の希望郷いわて大会ではオープン競技として実施。県内 24 チーム、県外から 16 チームの合計 40 チームが集い、大きな盛り上がりを見せました。**この急速な普及には理由があります！！**

1　開催日時・場所

期日	時間	会場
平成30年11月21日（水）	9：00～12：00	サンビレッジ紫波（紫波町）
平成30年12月10日（月）	13：30～15：30	陸前高田グローバルキャンパス（陸前高田市）
平成30年12月11日（火）	10：00～12：00	障がい者支援施設・四季の郷（大槌町）
平成30年12月12日（水）	①9：00～12：00 ②13：00～15：00 ③18：00～20：00	①障がい者支援施設・ひばり療護園（久慈市） ②久慈市民体育館（会議室） ③久慈市民体育館（会議室）
平成31年1月25日（金）	10：00～12：00	矢巾2区公民館（矢巾町）
平成31年1月26日（土）	10：00～12：00	下鵜飼集会所（滝沢市）

2　参加対象・・・年齢や性別、障がいの有無を問わず、どなたでも参加できます。

3　定員・・・各40名

4　その他・・・参加料は無料です。上履きをご持参ください。

お問合せ・申込先
〒020-0831 盛岡市三本柳8-1-3 ふれあいランド岩手内
（一社）岩手県障がい者スポーツ協会　担当　三浦
TEL 019-637-5055／FAX 019-637-7626／E—mail：t-miura@iwate-adaptive.or.jp

卓球バレー宮古交流大会2018

※本大会は、障がいの有無、年齢・性別を問わない『オールフリー』ルールを適用します！

～ 職員チーム・健常者チーム大歓迎！～
☆卓球バレーは一言で表現すると『6人対6人の「ゴロ」でやる卓球』です。
☆使用する卓球台は普通の卓球台です。
☆必ず椅子に座ってプレーをします。車いすの方はそのまま車いすでプレー！
☆ルールはバレーボールに似ていますが、そのスピード感はハイパーホッケー並み！

全国初！国際交流大会となった『あまちゃんカップ』（2018.7.22／久慈市）

全国から 40 チームが参加した希望郷いわて大会（2016.10.23／盛岡市）

昨年の卓球バレー宮古交流大会（2017.11.23／宮古市）

平成30年 8月25日（土）

受　付 9：30～
開会式 10：00～
競　技 10：15～
閉会式 15：00～

競技会場 宮古市民総合体育館（シーアリーナ）★★★ 40＋

主　催　（一社）岩手県障がい者スポーツ協会
共　催　岩手県卓球バレー協会、（NPO）宮古圏域障がい者福祉推進ネット（レインボーネット）
後　援　（社福）宮古市社会福祉協議会、宮古市身体障害者福祉会
（一財）宮古市体育協会・宮古市スポーツ推進委員協議会　以上、予定団体

お問合せ
一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会
〒020-0831
盛岡市三本柳8-1-3 ふれあいランド岩手
TEL 019-637-5055 ／FAX 019-637-7626

宮古市の観光 PR キャラクター
←「サーモンくん（右）」と「みやこちゃん（左）」→

総合型地域スポーツクラブ連携推進事業サポート計画

1　趣旨

現在、障がいのある方々の地域における活動拠点として総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型 SC）が注目されている。最近は、障がいのある方々が総合型 SC の活動に参加しているいう情報を聞こえるとうになった。しかしながら、県内の総合型SCでは今一歩、受け入れ体制やネットワーク作りの面で不安を抱えている。そこで、当協会として、障がい者スポーツに取り組もうとする総合型SCに対して、企画・運営のサポートを行い、障がい者スポーツの地域における参加環境整備に寄与することを目的とする。

2　主催　一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会

3　対象となる総合型 SC

（1）県内の総合型 SC で障がい者スポーツに取り組もうとする団体

（2）障がいのある人と地域住民との交流を目的とする総合型 SC を優先

4　サポート日程

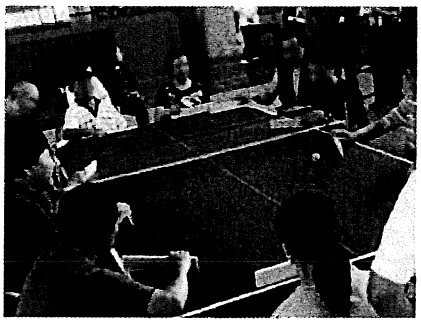
期日	時間	会場	対象事業所
平成 31 年 1 月 24 日（木）	15：00～17：00	松園地区公民館	さわら園
平成 31 年 1 月 29 日（火）	15：00～17：00	高松地区保健センター	岩手ワークショップ
平成 31 年 1 月 31 日（木）	15：00～17：00	松園地区公民館	のびっこ療育センター

5　サポート内容（役割分担）

（1）周辺住民や同地区の障がい者事業所等への周知は総合型 SC が行う。ただし、参加状況によっては、担当者への声掛けをサポートする。

（2）当日の実施種目は、ボッチャと卓球バレーであるが、講師の状況によっては、当協会において指導をサポートする。

（3）ボッチャ、卓球バレー等の用具の貸し出しを行う。



卓球バレー

卓球バレーは、卓球台を使い、ネットを挟んで、1チーム6人ずつがいすに座ってピン球を転がし、相手コートへ3打以内で返すというゲームです。ルールは、6人制バレーボールのルールを元に、考案されています。

子どもから高齢者、障がい者まで誰でも容易に始められ、慣れてくるとボールのスピードも速くなり、バランス能力、反射神経、筋力、動体視力、認知機能など様々な面での向上が期待でき、気軽にできる生涯スポーツです。

ボッチャ

ボッチャはイタリア語で『ボール』を意味する名前の通り、直径 10cm ほどの赤か青のボールを投げたり転がしたりして、目標となる白球（ジャックボール）にどれだけ近づけられるかを競います。

ルールはカーリングに似ていて、幅6m×長さ12.5mの長方形のコートを使い、ペア戦やチーム戦もあります。

わかりやすいルールや座ったままでもできることもあって、誰もがチャレンジしやすい生涯スポーツとしても人気上昇中です。

宮城県障害者スポーツ振興事業

◆障害児運動・あそびの広場開催事業

◆宮城県障がい者スポーツフォーラム開催事業

宮城県障害者スポーツ協会

事業概要

◆実施（申請）協会名	宮城県障害者スポーツ協会		
◆計画書作成者	坂口　信一		
◆企画・実施担当者	坂口　信一	◆経理担当者	坂口　信一

全体事業名称	宮城県障害者スポーツ地域振興事業
委託費	¥1,500,000
地域の実情・課題点	「未就学児および児童のあそび場がない」という保護者からの話をもとに、平成22年12月より県内各地にて開催してきた。当初は、仙台市内での活動ではあったが、市外からの参加者も徐々に増えはじめ、遠く石巻市や白石市、亘理町からの参加者も増え始め、県内各地での開催を求められている。どうしても仙台市内での活動が中心となってしまうため、保護者からの要望もあり、各地域での活動を地域のスポーツ指導者を中心とし、総合型クラブによる会場の確保、また、地元の大学生やボランティア等による協力のもと、事業展開できる体制づくりが急務となっている。 また、協会設立30周年を記念し、県内での障害者スポーツの普及と啓発を目的とした障害者スポーツフォーラムを開催する。
総合的な事業の目的	障害児がのびのびと身体を動かせる機会や場を提供し、障害児の健康増進、運動あそび実践のきっかけ作りをサポートすることを目的とする。 障害者スポーツフォーラムを開催することにより、県内に広く障害者スポーツの普及と振興を目的とする。
総合的な事業のねらい	県内各地で開催することにより、その地域の指導員をはじめとする関係者主導で継続開催できるよう、指導していく

事業名	
事業①	障がい児運動・あそびの広場開催事業
事業②	宮城県障がい者スポーツフォーラム開催事業
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告

実施協会名	宮城県障害者スポーツ協会		
事 業 名	障がい児運動・あそびの広場開催事業		
事業内容	障害児がのびのびと身体を動かせる機会や場を提供し、障害児の健康増進、運動あそび実践のきっかけ作りをサポートすることを目的として開催した。また、県内各地で開催することにより、その地域の指導員をはじめとする関係者主導で継続開催できるよう、指導していくことに重点を置いて行った。		
開催日時	（第1回）平成 30 年 09 月 15 日（土）14：00 ～ 15：30 （第2回）平成 30 年 10 月 06 日（土）14：00 ～ 15：30 （第3回）平成 30 年 11 月 04 日（日）13：30 ～ 15：00 （第4回）平成 30 年 12 月 08 日（土）14：00 ～ 15：30 （第5回）平成 30 年 12 月 22 日（土）14：00 ～ 15：30 （第6回）平成 31 年 01 月 26 日（土）14：00 ～ 15：30		
会　　場	（第1回）多賀城市総合体育館・大体育室 （第2回）石巻専修大学・体育館 （第3回）多賀城市総合体育館・小体育館 （第4回）東北文化学園大学・体育館 （第5回）東北工業大学長町キャンパス・体育館 （第6回）多賀城市総合体育館・大体育館		
参 加 者	延べ258名 【 内訳 】　肢体6名／知的129名／健常児20名／保護者・支援員103名		
人員体制	協会職員2名／看護師1名 運営スタッフ　学生176名（のべ）／社会人99名（のべ）		
連携団体名 （箇条書き）	石巻専修大学／東北福祉大学／東北文化学園大学／仙台大学 仙台白百合女子大学／東北工業大学／東北文化学園専門学校／大崎中央高等学校 NPO法人石巻市体育協会 NPO法人多賀城市民スポーツクラブ		
実際の事業での 連携団体の役割	各会場の会場借用と用具の準備、当日の運営などの協力をいただいた。また、各大学や地域総合型スポーツクラブでは周知の協力もいただいた。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	広場の運営をグループに分けて行い、そのグループのリーダーとして学生をまとめる役割を担っている。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	30
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	92
スポーツ用具の 整備・活用について	ボッチャセットを購入し、広場の一部にボッチャコートを設置、保護者や学生、施設支援員等に普及を行った。備品は当協会にて管理し、メンテナンスを行うこととした。また、今後の事業に引き続き使用していく。		

各事業における事業報告

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">宮城県障害者スポーツ協会</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">宮城県障がい者スポーツフォーラム開催事業</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td colspan="3">身近な地域において障がい者がスポーツに親しむことのできる環境・支援について議論し、障がい者スポーツの普及・振興の方向性を考えるとともに、スポーツを通じた共生社会の実現を図ることを目的として開催した。</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="3">平成30年10月27日（土）　14：30　～　16：30</td></tr>
<tr><td>会　　場</td><td colspan="3">ホテル法華クラブ仙台　　1F　ハーモニーホール</td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td colspan="3">130名</td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td colspan="3">協会職員2名／協会役員1名／スタッフ1名</td></tr>
<tr><td>連携団体名
（箇条書き）</td><td colspan="3">（公財）福島県障がい者スポーツ協会／（一社）日本ボッチャ協会／ 尾花沢市スポーツ推進委員会
リプラウド／東北ブロック障がい者スポーツ指導者協議会／宮城県教育委員会／（公財）宮城県スポーツ協会</td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td colspan="3">コーディネーター・パネリストの派遣。
フォーラム開催の周知。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割・活用について</td><td rowspan="2">なし</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数</td><td>18</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td>18</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3">購入なし</td></tr>
</table>

事業全体の評価

実施（申請）協会名	宮城県障害者スポーツ協会		
全体事業名称	宮城県障害者スポーツ地域振興事業		
委託費	¥1,500,000	決算額	¥1,830,191
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	事業の目的はおおむね達成できた。今後さらに県内各市町村へのアピールが必要かと思われる。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	指導者資格を所持するスポーツ推進委員の働きかけにより、教育委員会から視察に訪れた地区もあり、参加数や実施種目・運営方法に驚いていた。また、保育系の専門学校との合同開催も行い、健常児と障がい児が一つの会場内で遊んでいる姿も見られた。専門学校側のアンケートでは障がい児と一緒に遊ぶことに対する不安がなくなったとの記載もあった。		
費用に関する所見	運動・あそびの広場事業では、補助員の参加数が予想をはるかに上回ったこともあり、計画通りの支出とはならなかった。 また本事業では、来場者の事前申し込みの形をとっていないため、当日何名の来場があるか分からない状況での開催しているため、場合によっては人員が不足することもあった。また、思ったより来場者が少なく、退屈される場面も見られた。		
今後の課題や今後の事業展開（具体的方策・展望）	近年参加者は増加してはいるが、放課後デイなど支援員が連れてくる機会が増えている。在宅の障がい児を保護者が兄弟児を伴って参加するという形が減少している。それは地域へ行くほど顕著であった。大きなイベントとして開催するだけでなく、小規模でもより身近で活動できるような方法を見出していく必要があると思われる。		
参加者や関係団体からの声	健常者の保護者へのアンケートでは、障がい児と一緒に遊ぶことに対する不安がなくなったとの記載もあった。 また、仙台市内では有料でもいいから毎月やってほしいとの要望もある。		
その他所見	今後、当会としても仙台市を除く県内各市町村行政を巻き込み、協力をいただきながら事業展開を模索していく必要性を感じている。		

宮城県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（1） 障害児運動・あそびの広場開催事業

事業の様子

②資料

実施要綱、チラシ、新聞記事

宮城県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（２） 宮城県障がい者スポーツフォーラム開催事業

事業の様子

②資料

開催要綱、チラシ、新聞記事

キッズ・サポート・プログラム（障害児運動・あそびの広場）開催要綱

【目　的】

障害児がのびのびと身体を動かせる機会や場を提供し、障害児の健康増進、運動あそび実践のきっかけ作りをサポートすることを目的とする。

【主　催】

宮城県障害者スポーツ協会

【後　援】

石巻市教育委員会　　NPO法人多賀城市民スポーツクラブ

【協　力】

宮城県障害者スポーツ指導者協議会

東北福祉大学

仙台白百合女子大学

東北文化学園大学

石巻専修大学

東北工業大学

【対　象】

宮城県内在住で、身体障害者手帳・療育手帳を有する、4歳以上12歳以下の幼児・児童とその家族

【内　容】

マット、平均台、フライングディスク、パラシュット、バルバレー、ティボール等を使用しながら、遊びを通して体を動かすことの楽しさを身につける。

【開催日時／会場】（予定）

平成 30 年　9 月 15 日（土）14：00 ～ 15：30／多賀城市総合体育館・大体育室

平成 30 年 10 月　6 日（土）14：00 ～ 15：30／石巻専修大学・体育館

平成 30 年 11 月　4 日（日）13：30 ～ 15：00／多賀城市総合体育館・小体育館

平成 30 年 12 月　8 日（土）14：00 ～ 15：30／東北文化学園大学・体育館

平成 30 年 12 月 22 日（土）14：00 ～ 15：30／東北工業大学長町キャンパス・体育館

平成 31 年　1 月 26 日（土）14：00 ～ 15：30／多賀城市総合体育館・大体育館

※　石巻専修大学体育館　　石巻市南境新水戸 1

※　多賀城市総合体育館　　多賀城市下馬5-9-3

※　東北文化学園大学体育館　　仙台市青葉区国見6-45-1

※　東北工業大学・長町キャンパス体育館　　仙台市太白区二ツ沢6番

【参加費】

無　料

【申込方法】

当日申込受付

【問い合わせ先】

宮城県障害者スポーツ協会

〒983-0836　仙台市宮城野区幸町4-6-2

TEL：022-257-1005／FAX：022-257-1062

E-mail：kensupo1988@poplar.ocn.ne.jp

【 開催日時・会場 】（予定）

平成 30 年 9 月 15 日 (土)	多賀城市総合体育館・大体育室	14：00～15：30
10 月 6 日 (土)	石巻専修大学・体育館	14：00～15：30
11 月 4 日 (日)	多賀城市総合体育館・小体育室	14：00～15：30
12 月 8 日 (土)	東北文化学園大学・体育館	14：00～15：30
12 月 22 日 (土)	東北工業大学・長町キャンパス	14：00～15：30
平成 31 年 1 月 26 日 (土)	多賀城市総合体育館・大体育室	14：00～15：30

※ 変更となる場合があります。

【 対 象 】

身体障害者手帳または療育手帳を有する 4 歳から 12 歳までの幼児・児童及びその家族（兄弟・姉妹の参加も可能）

参 加 費 無 料 ！

※ 屋内での活動ですので、室内用シューズをご持参ください。

【 お問合せ 】 宮城県障害者スポーツ協会 TEL：022-257-1005 ／ FAX：022-257-1062
e-mail：kensupo1988@poplar.ocn.ne.jp ／ URL：http://mpsa.jp/

日新月報 【月ぎめ購読料1800円・1部売り100円(消費税込み)】

ニーズ高く定期開催模索

障害児の遊び場 キッズ・サポート・プログラム 石巻専修大と連携

県障害者スポーツ協会(小玉一彦会長)が障害児の遊び場作りとして開く「キッズ・サポート・プログラム」が6日に行われた。石巻市内では平成26年から開いており、今年は初めて石巻専修大学の体育館で実施。市内外から35人の子どもたちが訪れ、県内の大学生ボランティアと一緒に運動と遊びの楽しさをかみしめた。

同協会は22年から仙台市を中心に同プログラムを展開。その取り組みの中で石巻市内の親子から身近な場所での開催要望があり、26年に石巻市総合体育館で初開催し、その後はほぼ毎年開いている。

今回はこれまでボランティアとして学生が運営に協力してきた縁もあり、石巻専修大で初めて行った。トスバッティングやボッチャ、釣り遊びなど20近いブースを設け、子どもたちが学生たちに見守られながら伸び伸びと体を動かした。

最後は同プログラムの中でも一番人気の「パラシュート」を参加者と学生たちの全員で実施。色鮮やかな1枚の大きな布をテントのように膨らませ、普段はできない体験を共有し、笑顔を広げた。

学生が見守る中、遊びの楽しさを体感した

プログラムを継続開催する中、今回は地域の放課後デイサービス事業者などが団体で訪れるようになっており、同協会の岩井益美指導員は「ニーズはあり、年1回にとどまらない定期実施を模索したい」と話し、石巻専修大学人間学部の田中秀典特任教授も「学生たちにとっても貴重な機会。何とか連携していきたい」と語った。

草刈さん 5年ぶり個展 描かれた安らぎの風景 16日まで 千の杜

県芸術協会会員の草刈量市さん(71)＝石巻市門脇＝による「第13回淡彩ミニスケッチ展」が12日から、千の杜学びのホール＝同市大街道西＝で始まった。石巻地方の風景を優しく繊細に描いた作品が並ぶ。16日まで。入場無料。

草刈さんの個展は平成25年以来、5年ぶり。今回は石巻地方の風景画を中心に、スペイン

水まわりのトラブル解決します!
石巻地方広域水道企業団指定工事店
石巻市・女川町・東松島市排水設備指定工事店
㈱佐藤工業所
石巻市開成1番18 ☎22-0105㈹

女子サッカー

残留願い仙台L応援

石巻後援会 観戦ツアー 選手と記念撮影も

女子サッカーのなでしこリーグ1部で戦うマイナビベガルタ仙台レディース（仙台L）のホームゲーム観戦ツアーが13日にあった。仙台L石巻後援会が企画した。

石巻地方から会員9人が貸し切りバスで、仙台市泉区のユアテックスタジアム仙台を訪れ、リーグ第15節、日テレ・ベレーザとの試合を観戦した。

フラフープを楽しむ参加者たち

大学生らがサポート

石巻 障害児のびのび運動

障害児に伸び伸びとスポーツやゲームを楽しんでもらう「キッズ・サポート・プログラム～障害児運動・あそびの広場」が先日、石巻市南境の石巻専修大体育館で開かれた。支援学校や児童福祉施設に通う子どもたちが訪れ、大学生らのサポートを受けながらさまざまな遊びに挑戦した。

主催の県障害者スポーツ協会が、フラフープやボッチャ、積み木、フライングディスクなど20以上のプログラムを用意。子どもたちは自分好みの遊びを選び、大学生ボランティアらと一緒に楽しんだ。

同市中央2丁目にある児童福祉サービスみらいの児童指導員東海林亜弥子さん(32)は「たくさんプログラムがあり、子どもたちが自分に合った物を選ぶことができる。毎年楽しみにしている」と話した。

イベントは、毎年県内各地を巡回し行われている。今回は大学生約30人が、子どもたちの補助を行った。

石巻専修大3年の菅原怜央さん(21)は「縛られず自由に遊び、楽しい時間を過ごしてもらえたらうれしい」とほほ笑んだ。

だ。選手たちと記念撮影もした。

試合は仙台Lが0－3で敗れた。順位は10チーム中8位で変わらない。

毎回参加しているという石巻市あゆみ野の千葉孔三さん(70)は「首位チーム相手に善戦したと思う。相手は攻守で連携が取れていて、そこが仙台Lの課題ではないか。もう終盤なので

◇石巻地区高校ソフトテニス新人大会兼県高校ソフトテニス新人大会石巻地区予選会（5～7日、石巻市追波川河川運動公園）

【男子】

◇団体 ①石巻工A②石巻A③石巻北A、石巻西A

◇個人 ①千葉真人・及川李央（石巻）②吉田憲悟・石山瑞騎（石巻工）③吉田睦・佐藤司真（石巻工）松本由宇・本郷利光（石巻）⑤佐々木凱太・菊地隼人（石巻）⑥相沢真翔・小山諒多（石巻北）⑦渡辺大斗・佐々木勢奈（石巻北）⑧木村凌太・高橋匠（石巻北）⑨稲田和哉・阿部遥青（石巻）⑩成沢杜和・伊藤拓見（石巻）＝以上県大会へ

【女子】

◇団体 ①石巻西②石巻好文館③石巻、石巻商

◇個人 ①山下栞奈・木村妃南（石巻西）②酒井真実・今野未菜（石巻西）③鈴木さら・橋本知歩（石巻）木村綾香・小野寺遥（石巻西）⑤佐藤えりな・菅原梨子（石巻）⑥鈴木彩佳・鈴木佳乃（石巻）⑦我妻礼菜・阿部真凡（石巻市桜坂）＝以上県大会へ

◇石巻地区中学校選抜ソフトテニス新人大会（13日、石巻市追波川河川運動公園テニスコート）

【男子】

▽個人 ①三浦結人・佐々木遼（河北）②山内歩智・山内幹斗（河北）③小泉悠飛。

高度な地域医療のニーズにこたえる新拠点
救急指定 脳神経外科・泌尿器科・内科・皮膚科(木曜午前のみ診療)
医療法人 社団
SENSEKI HOSPITAL
仙石病院
診療受付
平日／AM.9:00～11:30
PM.1:00～ 4:00
各科にて休診日が異なりますので、ご確認ください。
診療日、担当医に変更がある場合がございますので、お電話にてご確認お願い致します。
※急患の方は24時間受付致します。
東松島市赤井字台 53-7
TEL(0225)83-2111
FAX(0225)83-4310

広告のご用命は
ADVERTISING PROFESSIONALS
河北アドセンター
石巻支社／石巻市千石町4-42(石巻河北ビル内)
Tel 96-2329 Fax 96-2316

多目的貸しホール かほくホール

料金表 （円：税抜）

使用時間	平日 非営業	平日 営業	土曜・日曜・祝日 非営業	土曜・日曜・祝日 営業

河北新報

2018年(平成30年)10月29日(月曜日) とうほく (22)

東北

東京パラ控え

障害者スポーツ取り組み考える

仙台でフォーラム

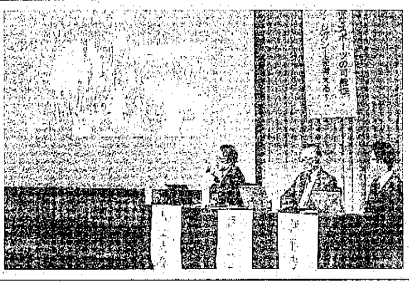
2020年の東京パラリンピックを前に、東北の障害者スポーツ環境について考える「障がい者スポーツフォーラム」が27日、仙台市青葉区で開かれた。

進行役で元車いすバスケットボール日本代表の増子恵美さん(福島県障がい者スポーツ協会書記)が「東京パラを一過性のイベントにしてはならない」とあいさつした。

日本ボッチャ協会強化指導部長の村上光輝さん(福島市出身)は、宮城野区の楽天生命パーク宮城などでボッチャ体験会を開いている活動を紹介。尾花沢市スポーツ推進委員会企画部長の伊藤一志さんは、障害の有無にかかわらず地域で取り組んでいる駅伝大会を発表した。

仙台市のリハビリテーション体育士の伊藤秀一さんは障害者のスポーツ指導に携わる経験から「どこに行けばスポーツができるかといった情報発信と、指導者育成が必要だ」と語った。

宮城県障害者スポーツ協会が設立30周年を記念して主催し、約150人が参加した。



東北各地の活動を紹介する障害者スポーツ関係者

茨城県障害者スポーツ振興事業

◆障害者スポーツ地域振興事業

茨城県障害者スポーツ・文化協会

事業概要

◆実施（申請）協会名	茨城県障害者スポーツ・文化協会		
◆計画書作成者	松浦　直彦		
◆企画・実施担当者	松浦　直彦	◆経理担当者	松浦　直彦

全体事業名称	茨城県障害者スポーツ振興事業
委託費	¥500,000
地域の実情・課題点	本県では，２０１９年に全国障害者スポーツ大会の開催を予定しており，それに向けて全国障害者スポーツ大会の正式競技に出場する候補選手の育成・強化練習会や障害者スポーツの普及・啓発を目的としたスポーツ教室などの事業を実施しているところである。 スポーツ教室に関しては，平成２８年度より県内を５地域に分けて各地域年１回ずつ実施しているが，指導者が固定化してきているのが課題である。当事業により指導者の育成及びスポーツ教室を開催することにより開催回数の増加と各地域への障害者スポーツの更なる普及を図る。
総合的な事業の目的	・各地域への障害者スポーツの普及 ・障がい者スポーツ指導員の知識及び意欲の啓発
総合的な事業のねらい	障害者スポーツの各地域への普及・振興のために体験会を実施する。また，継続的に教室を実施するために，体験会の実施と同時に指導者の講習会も実施し，障害者スポーツを各地域で継続的に実施できるような体制の構築を図る。

事業名	
事業①	障害者スポーツ地域振興事業
事業②	
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="4">茨城県障害者スポーツ・文化協会</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="4">茨城県障害者スポーツ振興事業</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>◯障害者スポーツ体験会
第１回は，卓球バレーとハンドアーチェリーを，第２回は，ふうせんバレーボールとソフトバレーボールを実施。
準備運動，競技方法の説明，体験を実施。
◯障害者スポーツ体験コーナー
ボッチャ，卓球バレー，ハンドアーチェリーをイベントの中で実施し，障害者だけでなく健常者にも体験してもらい障害者スポーツの普及を図った。</td><td colspan="3">指導者等レベルアップ講習会
障害者とスポーツについての講義受講後，第１回は，卓球バレーとハンドアーチェリーの，第２回は，ふうせんバレーボールとソフトバレーボールの競技説明，実技を受け左記の体験会に指導者として参加。</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td>◯障害者スポーツ体験会
第１回　平成３０年１１月１１日（日）１３時から１５時
第２回　平成３０年１２月２２日（土）１３時から１５時

◯障害者スポーツ体験コーナー
平成３０年１２月１５日（土）　１０時から１６時</td><td colspan="3">第１回平成３０年１１月１１日（日）９時３０分から１６時
第２回平成３０年１２月２２日（土）９時３０分から１６時</td></tr>
<tr><td>会　　場</td><td>◯障害者スポーツ体験会
第１回　北浦運動場体育館（行方市）
第２回　谷田部総合体育館（つくば市）

◯障害者スポーツ体験コーナー
堀原運動公園大道場（水戸市）</td><td colspan="3">第１回　北浦運動場体育館（行方市）
第２回　谷田部総合体育館（つくば市）</td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td>障害者スポーツ体験会
第１回　４１名（知１４　身８　精７　健１２）
第２回　　９名（知　３　健６）

障害者スポーツ体験コーナー
１２５名</td><td colspan="3">第１回　２０名
第２回　２６名</td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td>◯障害者スポーツ体験会
第１回　９名
茨城県障害者スポーツ・文化協会職員２名，筑波大学教授１名，各競技団体計６名
第２回
茨城県障害者スポーツ・文化協会職員２名，筑波大学教授１名，各競技団体計１０名

◯障害者スポーツ体験コーナー
茨城県障害者スポーツ・文化協会２名，各競技団体計９名</td><td colspan="3">第１回　９名
茨城県障害者スポーツ・文化協会職員２名，筑波大学教授１名，各競技団体計６名
第２回
茨城県障害者スポーツ・文化協会職員２名，筑波大学教授１名，各競技団体計１０名</td></tr>
<tr><td>連携団体名
（箇条書き）</td><td>筑波大学，茨城県卓球バレー協会，全国肢体不自由児者父母の会連合会，茨城県肢体不自由児者父母の会連合会，シッティングスポーツ協会，茨城県ソフトバレーボール連盟，茨城ぼっちゃ倶楽部，幸和義肢研究所，行方市，つくば市</td><td colspan="3">筑波大学，茨城県卓球バレー協会，全国肢体不自由児者父母の会連合会，茨城県肢体不自由児者父母の会連合会，シッティングスポーツ協会，茨城県ソフトバレーボール連盟，行方市，つくば市</td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td>競技団体等には，競技の説明や審判，各種目の運営に協力いただいた。
各市には，体育館の借用や各市内の障害者施設へのチラシの配布・広報に協力いただいた。
幸和義肢研究所には，会場の確保や運営面でのご協力をいただいた。</td><td colspan="3">競技団体等には，競技の説明や審判，各種目の運営に協力いただいた。
各市には，体育館の借用や各市内の障害者施設へのチラシの配布・広報に協力いただいた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">本事業における
障がい者スポーツ指導者の役割・活用について</td><td rowspan="2">指導等をしていただいた各競技団体等の指導者の中には，障害者スポーツ指導員の資格を保有している方もいる。
体験会と同時に指導者レベルアップ講習を実施したため，講習会受講と同時に障害のある方への接し方を学ぶ機会となり，次の活動につながると考えられる。</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員の実人数</td><td>52</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員の延べ人数</td><td>58</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3">卓球バレー用の球，ソフトバレーボール等を購入。
今後も協会で行事を開催する際に使用する。</td></tr>
</table>

事業全体の評価

実施（申請）協会名	茨城県障害者スポーツ・文化協会		
全体事業名称	茨城県障害者スポーツ振興事業		
委託費	¥500,000	決算額	¥468,859
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	障害者のスポーツ教室及び指導員等のレベルアップ講習会を開催した。講習会に関しては，指導者の発掘や普段活動している指導者の意欲の啓発ができたと考えられる。体験会に関しては，開催場所により参加者数に差があった。普及していない地域においては，定期的に教室を開催する等により普及を図っていきたい。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	実施前は，講習会に参加する指導員等がいるか不安であったが，予想以上の参加があった。受講した人には，今後当協会で実施している県スポーツ大会等に関わっていただきたい。 また，当協会と今回指導をお願いした団体に関係性ができたことは大きかった。		
費用に関する所見	各地域で障害者スポーツイベントを開催する際には，その地域の人達が指導する方が旅費を節約できるため指導者の発掘は重要と考えられる。また，継続的に実施できるような仕組み（参加者から参加料を徴収する等）が必要と考えられる。		
今後の課題や今後の事業展開（具体的方策・展望）	公共交通機関で行ける施設や障害者になじみのある特別支援学校の体育館を借用する等，障害者が参加しやすい場所での開催を検討していく必要がある。また，定期的に実施できるよう今後も指導員の発掘を行う必要がある。 種目に関しては，誰もができるスポーツで開催する場合とやサッカー等の運動強度が高いもので実施する場合とに分けて実施した方が参加や指導がしやすいと考えられる。今後は別で実施してみたい。		
参加者や関係団体からの声	◯体験会参加者 楽しかった，また来たい ◯講習会受講者 指導する機会があれば教えてほしい，このような講習会は次いつあるのか ◯競技団体等からの声 定期的に教室を開催していくためには，障がい者スポーツ指導員との連携が必要。		
その他所見			

茨城県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（１） 障害者スポーツ地域振興事業

事業の様子

受付の様子

講習会講義

ハンドアーチェリー講習会

卓球バレー講習会

準備運動の様子

卓球バレー体験会

ハンドアーチェリー体験会

卓球バレー体験コーナー

ボッチャ体験コーナー

ハンドアーチェリー体験コーナー

ソフトバレーボール体験会

ふうせんバレーボール体験会

②資料

・別添　開催要項，参加申込書，チラシ

卓球バレー・ハンドアーチェリー体験会実施要項

1．目　　的　2019 年に本県で開催される第 19 回全国障害者スポーツ大会に向けて，障害者スポーツに触れる機会を提供し，障害者の社会参加や自立を促進するとともに，障害や障害者スポーツへの県民の理解を深め，障害者スポーツの普及振興を推進する。

2．名　　称　卓球バレー・ハンドアーチェリー体験会

3．主　　催　茨城県障害者スポーツ・文化協会

4．協　　力　筑波大学，茨城県卓球バレー協会，全国肢体不自由者父母の会連合会

5．日時，会場，内容，募集人数

日　時	会　場	内　容	募　集
11 月 11 日（日） 13:00 － 15:00	北浦運動場　体育館 （行方市山田 2175）	卓球バレー ハンドアーチェリー	50 名程度

6．対　　象　県内に住居する障害のある方，介助者，障害者スポーツに関心のある方等

7．日　　程
12:40　受付開始
13:00　教室開会
15:00　教室閉会

8．申込方法　参加申込書に必要事項を記入し FAX または E-mail で申込むこと
【申込先】
茨城県障害者スポーツ・文化協会
〒310-8555　茨城県水戸市笠原町９７８番６　茨城県庁１３階
電話：029-301-3375　FAX：029-301-3378
E-mail：supokyo5@bz04.plala.or.jp
担当：松浦

9．申込締切
平成 30 年 11 月 2 日（金）

10．その他
（1）運動ができる服装で参加し，室内シューズを準備すること。
（2）飲み物等は各自持参のうえ，適度な水分補給ができるよう準備すること。
（3）主催者及び運営者が，当日の健康状態がおもわしくないと判断した場合は参加を中止させることがある。
（4）主催者及び運営者は，申込書等の個人情報について，本事業の目的以外には使用しない。
（5）主催者は，本事業で撮影した写真を，ホームページ等への掲載や本事業に関する広報活動に使用することがある。
（6）傷害保険は主催者が加入する。（それ以外の事故等は，参加者の自己責任とする。）

平成３０年度障害者スポーツ体験コーナー（水戸福祉機器展２０１８）実施要項

1．目　　的　２０１９年に本県で開催される第１９回全国障害者スポーツ大会に向けて，障害者スポーツに触れる機会を提供し，障害者の社会参加や自立を促進するとともに，障害や障害者スポーツへの県民の理解を深め，障害者スポーツの普及振興を推進する。

2．名　　称　障害者スポーツ体験コーナー（水戸福祉機器展２０１８）

3．主　　催　茨城県障害者スポーツ・文化協会

4．協　　力　（株）幸和義肢研究所，茨城県卓球バレー協会
全国肢体不自由児者父母の会連合会，茨城ぼっちゃ倶楽部

5．日　　時　平成３０年１２月１５日（土）
１０時００分～１５時００分

6．場　　所　堀原運動公園　武道館
（水戸市新原２－１１－１）

7．内　　容　・卓球バレー
・ボッチャ
・ハンドアーチェリー

8．対　　象　県内に住居する障害のある方，保護者，障害者スポーツに関心のある方等

9．参加費用　無料

10．日　　程　9:30　指導者集合・準備
10:00　体験コーナー開会
15:00　体験コーナー閉会，片付け
16:00　指導者解散

11．申込方法　事前の申し込み不要
【問い合わせ先】
茨城県障害者スポーツ・文化協会
〒310-8555　茨城県水戸市笠原町９７８番６　茨城県庁１３階
電話：029-301-3375　FAX：029-301-3378
E-mail：supokyo5@bz04.plala.or.jp
担当：松浦，酒井

12．その他
（1）飲み物等は各自持参のうえ，適度な水分補給ができるよう準備すること。
（2）主催者及び協力者が当日の健康状態がおもわしくないと判断した場合は参加を中止させることがある。
（3）主催者及び協力者は，本事業で撮影した写真を，ホームページ等への掲載や本事業に関する広報活動に使用することがある。
（4）傷害保険は，茨城県障害者スポーツ・文化協会が加入する。（それ以外の事故等は，参加者の自己責任とする。）

ふうせんバレーボール・ソフトバレーボール体験会実施要項

1．目　　的　2019 年に本県で開催される第 19 回全国障害者スポーツ大会に向けて，障害者スポーツに触れる機会を提供し，障害者の社会参加や自立を促進するとともに，障害や障害者スポーツへの県民の理解を深め，障害者スポーツの普及振興を推進する。

2．名　　称　ふうせんバレーボール・ソフトバレーボール体験会

3．主　　催　茨城県障害者スポーツ・文化協会

4．協　　力　筑波大学・一般社団法人シッティングスポーツ協会・茨城県ソフトバレーボール連盟

5．日時，会場，内容，募集人数

日　時	会　場	内　容	募　集
12 月 22 日（土） 13:00 － 15:00	谷田部総合体育館 （つくば市谷田部４７１１）	ふうせんバレーボール ソフトバレーボール	50 名程度

6．対　　象　県内に住居する障害のある方，介助者，障害者スポーツに関心のある方等

7．日　　程
12:40　受付開始
13:00　教室開会
15:00　教室閉会

8．申込方法　参加申込書に必要事項を記入し FAX または E-mail で申込むこと
【申込先】
茨城県障害者スポーツ・文化協会
〒310-8555　茨城県水戸市笠原町９７８番６　茨城県庁１３階
電話：029-301-3375　FAX：029-301-3378
E-mail：supokyo5@bz04.plala.or.jp
担当：松浦

9．申込締切
平成 30 年 12 月 7 日（金）

10．その他
（1）運動ができる服装で参加し，室内シューズを準備すること。
（2）飲み物等は各自持参のうえ，適度な水分補給ができるよう準備すること。
（3）主催者及び運営者が，当日の健康状態がおもわしくないと判断した場合は参加を中止させることがある。
（4）主催者及び運営者は，申込書等の個人情報について，本事業の目的以外には使用しない。
（5）主催者は，本事業で撮影した写真を，ホームページ等への掲載や本事業に関する広報活動に使用することがある。
（6）傷害保険は主催者が加入する。（それ以外の事故等は，参加者の自己責任とする。）

平成３０年度茨城県障がい者スポーツ指導員等レベルアップ講習会実施要項

1．目的　２０１９年に本県で開催される第１９回全国障害者スポーツ大会に向けて，障がい者スポーツ指導員資格保有者等を対象に，障害者スポーツに触れる機会及び交流の機会を提供し障害者スポーツの普及・振興を推進する。

2．名称　平成３０年度茨城県障がい者スポーツ指導員等レベルアップ講習会

3．主催　茨城県障害者スポーツ・文化協会

4．協力　筑波大学，茨城県卓球バレー協会，全国肢体不自由児者父母の会連合会，一般社団法人シッティングスポーツ協会，茨城県ソフトバレーボール連盟

5．日時・場所及び実施種目
（1）第１回講習会
平成３０年１１月１１日（日）　９時３０分～１６時００分
北浦運動場体育館　（行方市山田２１７５）
実施種目：卓球バレー，ハンドアーチェリー

（2）第２回講習会
平成３０年１２月２２日（土）　９時３０分～１６時００分
谷田部総合体育館　（つくば市谷田部４７１１）
実施種目：ふうせんバレーボール，ソフトバレーボール

6．対　　象　（1）障がい者スポーツ指導員資格保有者
（2）障がい者スポーツ指導員資格取得を希望する者
（3）その他主催者が参加を認めた者

7．日　　程　別紙１「平成３０年度茨城県障がい者スポーツ指導員等レベルアップ講習会日程」のとおり

8．申込方法　参加申込書に必要事項を記入し郵送，FAX または E-mail で申込むこと
【申込先】
茨城県障害者スポーツ・文化協会
〒310-8555　茨城県水戸市笠原町９７８番６　茨城県庁１３階障害福祉課分室内
電話：029-301-3375　FAX：029-301-3378
E-mail：supokyo5@bz04.plala.or.jp
担当：松浦

9．申込締切　第１回　平成３０年１１月２日（金）
第２回　平成３０年１２月７日（金）

10．その他
（1）当日は，運動ができる服装で参加し，室内シューズを準備すること。
（2）傷害保険等は，主催者で団体保険に加入するが，それ以上の補償が必要な場合は個人で加入すること。
（3）申込み内容に変更が生じた場合には，速やかに事務局へ連絡すること。
（4）主催者が当日の健康状態がおもわしくないと判断した場合は参加を中止させることがある。
（5）飲み物や昼食等は各自持参のうえ，適度な水分補給ができるよう準備すること。
（6）主催者及び協力者は，申込書等の個人情報について，本事業の目的以外には使用しない。
（7）主催者は，本事業で撮影した写真を，ホームページ等への掲載や本事業に関する広報活動に使用することがある。

来て、見て、触って、楽しみながら福祉の最先端を体験しよう!!

MITO 福祉機器展 2018

Mito Welfare Equipment Exhibition 2018

【主催】株式会社幸和義肢研究所　【後援】茨城県、水戸市　【協力】茨城県障害者スポーツ・文化協会

12/15(土) 10:00～15:00

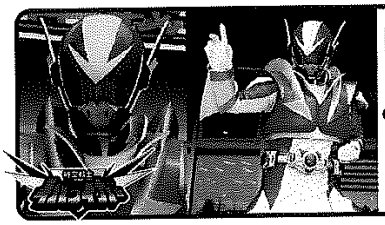
入場無料・予約不要

会場 堀原運動公園 武道館（水戸市）

特別講演 鈴木徹（すずきとおる）氏

パラリンピック陸上男子走り高跳び代表選手

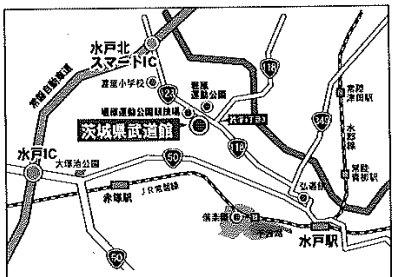
1980年6月4日生まれ。日本初の義足の走り高跳び代表選手としてシドニー、アテネ、北京、ロンドン、リオの各パラリンピックに出場し、5大会連続入賞を成し遂げる。クラスT44のアジア記録、日本記録を持ち、2m00を跳んだ選手としては世界で2人目。



時空戦士イバライガー ステージショー

茨城の大人気ヒーローが福祉機器展に登場！

茨城で絶大な人気を誇るご当地ヒーロー『時空戦士イバライガー』のライブショーを、午前と午後の2回上演。お子様から大人までお楽しみいただけます。



※駐車場は十分に用意しておりますが、満車の場合は、障害のある方を優先させていただきます（できるだけ公共交通機関をご利用頂けますよう、お願い申し上げます）

義手・義足、装具、車いす、補聴器など、様々な福祉機器がズラリ！

最新福祉機器メーカー大集合!!

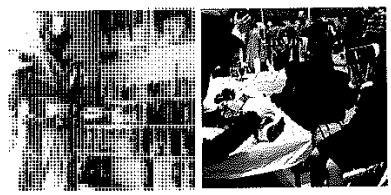
各メーカー福祉機器の展示・紹介

全国の主要福祉機器関連企業数十社が出展します。各ブースでは、様々なデモンストレーション、プレゼンテーションの他、一部製品では実際に体験・試乗も可能です。製品に関するご質問・相談もお気軽にどうぞ。

障害者スポーツ体験

福祉機器展では、障害のある方でも楽しめる様々なスポーツやゲームを体験できるコーナーを設けています。インストラクターが丁寧に指導しますので、是非お気軽にご参加ください。

その他、様々な小物・クリスマスアイテムなどの手作り体験ワークショップなど、お子さまでもお楽しみいただけるコーナーもございます。



※写真は過去の開催時のものです。
※開催内容は予告なく変更される場合があります。ご了承ください。

お問い合わせは「幸和義肢研究所／水戸福祉機器展2018実行委員会」までどうぞ

主催 株式会社 幸和義肢研究所

〒305-0845 茨城県つくば市大白硲341-1

TEL 029-875-7627　FAX：029-875-7628

http://www.kowagishi.com/　『FaceBook』でも情報を発信しています。アクセスは当社ホームページよりどうぞ。　幸和義肢研究所　検索

障害者スポーツ体験会

	日　時	会　場	実施種目
第1回	11月11日（日） 13:00 - 15:00	北浦運動場　体育館 （行方市山田２１７５）	卓球バレー ハンドアーチェリー
第2回	12月22日（土） 13:00 - 15:00	谷田部総合体育館 （つくば市谷田部４７１１）	風船バレー ソフトバレーボール（４人制）

募集　各５０名程度

主催　茨城県障害者スポーツ・文化協会

申込方法　裏面参照

協力　筑波大学，茨城県卓球バレー協会，全国肢体不自由児者父母の会連合会，
茨城県シッティングスポーツ協会，茨城県ソフトバレーボール連盟

・障害の有無に関わらずどなたでも参加できます。
・障害のある方のスポーツ教室とは違い，実施する種目は記載の種目のみとなります。

問合せ：茨城県障害者スポーツ・文化協会
〒310-8555　水戸市笠原町978-6
TEL 029-301-3375　FAX 029-301-3378　E-Mail supokyo5@bz04.plala.or.jp
Facebook https://www.facebook.com/ibaraki.supokyo

体験会申込書

対　象　県内に住居する障害のある方，介助者，障害者スポーツに関心のある方等

参加費　無料

申込方法　下記連絡先までＦＡＸまたはＥメールでお申込ください。

茨城県障害者スポーツ・文化協会　　担当：松浦

ＦＡＸ：０２９－３０１－３３７８　（TEL：０２９－３０１－３３７５）

E-Mail：supokyo5@bz04.plala.or.jp

注意事項

1．運動ができる服装と室内シューズでご参加ください。

2．飲み物や昼食等は各自で準備し，十分な水分補給を心がけてください。

3．健康状態がおもわしくない，または健康及び安全管理上問題があると主催者が判断した場合は参加を中止させることがありますので，ご了承ください。

その他

1．主催者は，申込書等の個人情報について本事業の目的以外に使用しません。

2．主催者は，撮影した写真をホームページ等への掲載や広報活動に使用することがあります。

3．傷害保険等は，主催者で団体保険に加入しますが，必要な方は個人でご加入ください。

参 加 申 込 書　〔体験会〕

申込期限　第１回　→　１１月２日（金）まで
第２回　→　１２月７日（金）まで

ＦＡＸ番号029-301-3378　松浦行き

参加希望に○	第１回 （１１月１１日）	第２回 （１２月２２日）	
（フリガナ） 氏　名		性　別	男　・　女
		生年月日	S・H 年　月　日（　歳）
住　所		所属先 または 学校名	
連絡先	電話番号		
障害の種類	肢体・視覚・聴覚・内部・知的・精神・ その他（　　）	障害名	※手帳記載事項
車椅子使用	有（手動・電動）・無		
その他	健康状態等，特に伝えておきたいことをご記入ください。		
当日の 引率者	氏名：　　続柄： 連絡先：		

平成３０年度茨城県障がい者スポーツ指導員等レベルアップ講習会

【日時・場所及び実施種目】

第１回講習会：平成３０年１１月１１日（日）９：３０～１６：００
北浦運動場体育館（行方市山田２１７５）
実施種目：卓球バレー，ハンドアーチェリー

第２回講習会：平成３０年１２月２２日（土）９：３０～１６：００
谷田部総合体育館（つくば市谷田部４７１１）
実施種目：ふうせんバレーボール，ソフトバレーボール

【日　程】別紙１平成３０年度障がい者スポーツ指導員等レベルアップ講習会日程のとおり
【対　象】①障がい者スポーツ指導員資格保有者（初級・中級・上級どなたでも）
②障がい者スポーツ指導員資格取得を希望する者
③その他主催者が参加を認めた人
【定　員】５０名（先着順）
【参加料】無料
【その他】１．当日は，運動に適した服装で参加し，体育館用シューズをご用意ください。
２．昼食及び飲み物等は各自準備し，適度な水分補給を心がけてください。
３．主催者は，申込書等の個人情報について本事業の目的以外に使用しません。
４．主催者は，撮影した写真をホームページ等への掲載や広報活動に使用することがあります。
５．傷害保険等は，主催者で団体保険に加入しますが，それ以上の補償が必要な方は個人でご加入ください。
【申込方法】下記，受講申込書に必要事項を記入の上，郵送，ＦＡＸまたはＥメールでお申込みください。
〒３１０－８５５５　水戸市笠原町９７８番６　茨城県庁障害福祉課分室内
茨城県障害者スポーツ・文化協会　（担当：松浦）
ＦＡＸ：０２９－３０１－３３７８　（TEL：０２９－３０１－３３７５）
E-Mail：supokyo5@bz04.plala.or.jp

ＦＡＸ番号：029-301-3378　松浦行き
（ＴＥＬ番号：029-301-3375）

受講申込書【障がい者スポーツ指導員等レベルアップ講習会】

参加希望に○	第１回 （１１月１１日）	第２回 （１２月２２日）	
（フリガナ） 氏　名		性　別	男　・　女
		生年月日	S・H 年　月　日（　歳）
住　所		所持資格 （いずれかに○）	初級　中級　上級　無
電話番号			
その他	車椅子の利用等，特に伝えておきたいことがあればご記入ください。		

埼玉県障がい者スポーツ地域連携づくり事業

◆障がい者スポーツ地域連携づくり事業（秩父地域）

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会

事業概要

◆実施（申請）協会名	一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会		
◆計画書作成者	青葉　辰美		
◆企画・実施担当者	優　尚世	◆経理担当者	石川　慶子

全体事業名称	埼玉県障がい者スポーツ地域連携づくり事業
委託費	¥1,000,000
地域の実情・課題点	平成28年度から本事業を活用し、当協会と県障害者交流センターが協働し、秩父地域で自立したスポーツ活動ができるよう基盤整備に取り組み始めた。地域の障がい者スポーツを取り巻く環境の実態把握や、スポーツをする人と支える人を繋ぐきっかけづくりを行うことで、地域の人や自治体等の障がい者スポーツへの理解や関心は高まりつつはある。しかし、まだ、主体的かつ持続的な活動には至っていないのが現状である。 このような状況を改善するために、地域で「核」となる指導者が育っていないことを考慮し、企画段階から県障がい者スポーツ指導者協議会にも参画いただき、指導者の育成・周辺地域との連携の構築に繋げていきたいと考えている。また、地域の人や団体と連携を図り大会開催を進めていく中で、地域の実情理解を深め、自立したスポーツ活動をすすめるための課題を見出し、その解決に向けた取組みに繋げていきたい。
総合的な事業の目的	・地域で自立したスポーツ活動ができるよう基盤を整備する ・地域の人と組織のつながりをより強固な連携協力体制構築へと導く ・スポーツ活動をすすめる地域の人材の掘りおこし、育成を図る ・重度障がい児者が身近な地域でスポーツにふれあう機会をつくる ・障がい者スポーツ指導員の実践をふまえながらの地域での活動の場づくり
総合的な事業のねらい	秩父地域において、スポーツをしたい人とすすめる人とがつながり、継続したスポーツ活動の場を根付かせる

事業名	
事業①	障がい者スポーツ地域連携づくり事業（秩父地域）
事業②	
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告

実施協会名	一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会		
事 業 名	障がい者スポーツ地域連携づくり事業（秩父地域）		
事業内容	・大会に向けた事前活動として、スタッフ研修会、種目体験会・スポーツ用具の貸出を行い、ちちぶふれあいピック（成果をためす＋気軽にスポーツを体験できる大会）を開催。 ・大会後には、行政、学校・施設・指導者、県北部指導者、それぞれでの意見交換会を実施し、事業実施による変化やこれからの地域での活動に向けてのニーズや意向、課題を確認した。 ・報告会は、地域の人材の繋がり・交流をねらいにワークショップ形式で行った。 ・事業実施にあたり、埼玉県障害者交流センター、県障がい者スポーツ指導者協議会、秩父地域1市4町行政、障がい者団体、学校、事業所関係者で、企画会議、実行委員会を編成し、企画・検討及び運営にあたった。		
開催日時	【企画会議】 ①平成30年5月30日(水)　②平成30年6月21日(木) ③平成30年12月4日(火)　④平成31年1月23日(水) 【実行委員会】 ①平成30年7月19日(木)　②平成30年9月26日(水) ③平成30年10月23日(火)　④平成31年1月31日(木)	【事前/事後活動】 ①平成30年10月23日(火)研修会 ②平成30年10月28日(日)体験会 ③平成30年11月20日(火)体験会 ④平成31年1月10日(木)・11日(金)意見交換会 ⑤平成31年1月16日(土)意見交換会 【大会】平成30年11月10日(土) 【報告会】平成31年1月31日(木)	
会　　場	【企画会議】 埼玉県障害者交流センター 会議室 【実行委員会】 ①②③県立秩父特別支援学校 会議室 ④秩父宮記念市民会館 けやきフォーラム	【事前/事後活動】 ①県立秩父特別支援学校 体育館 ②横瀬町スポーツ交流館 ③小鹿野町内 ゲートボール場 ④1市4町役場、秩父市福祉女性会館 会議室 ⑤熊谷市内 【大会】秩父特別支援学校 グラウンド・体育館ほか 【報告会】秩父宮記念市民会館 けやきフォーラム	
参 加 者	【企画会議】 ①9名　②③④8名 【実行委員会】 ①18名　②19名　③16名　④20名	【事前/事後活動】 ①実行委員・スポーツ指導員・ボランティア等18名 ②161名 ③14名(知的障がい)、作業所職員3名 ④5名ほか、行政職員 ⑤スポーツ指導員13名 【大会】参加者124名、来賓20名、保護者等72名 【報告会】スポーツ指導員等参加者26名	
人員体制	【企画会議】 埼玉県障害者交流センター2名 県障がい者スポーツ指導者協議会2名 県立秩父特別支援学校1名 障がい者スポーツ協会副会長1名　職員3名 【実行委員会】＊企画会議プラス 秩父地域1市4町行政5名、障がい者団体3名 県立秩父特別支援学校1名、事業所関係者3名	【事前/事後活動】 ①スポーツ指導員4名、企画委員4名 スポーツ協会職員3名 ②スポーツ指導員3名、スポーツ協会職員3名 ③企画委員1名、スポーツ協会職員2名 ④企画委員3名、スポーツ協会職員3名 ⑤企画委員1名 【大会】スポーツ指導員等72名(企画・実行委員含む) 【報告会】企画委員6名、スポーツ協会職員4名	
連携団体名 （箇条書き）	埼玉県障害者交流センター、埼玉県障がい者スポーツ指導者協議会、埼玉県特別支援学校体育連盟、埼玉県スポーツ吹矢協会、埼玉県（障害者福祉推進課、スポーツ振興課、特別支援教育課） 【秩父地域】 秩父市、皆野町、横瀬町、長瀞町、小鹿野町（福祉担当課、市民スポーツ担当課、教育委員会） 身体障害者福祉会、手をつなぐ育成会、秩父特別支援学校、事業所、ちちぶ広域手話学習会　等		
実際の事業での 連携団体の役割	全体：企画会議・実行委員会に参画、当日の運営協力 行政：広報、臨席者依頼・対応、ボランティア募集、ゆるキャラ着ぐるみ手配 障がい者団体：広報、協賛依頼 学校：広報、会場の確保や用具の準備 事業所：広報、出店参加、ボランティアスタッフ 県障がい者スポーツ指導者協議会：指導者の育成・地域ブロック組織化、種目選定やブース運営(種目やルール説明)		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	県障がい者スポーツ指導者協議会に、企画委員として企画会議・実行委員会にも参画してもらった。研修会では、経験豊富な指導員に種目のルール説明等を担当いただいた。体験会・大会では、参加者とともに活動しスポーツの楽しさを共有するとともに、新しい指導員や地域の支える人と交流をし、人と人を繋ぐなど、大きな役割を担ってもらった。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	35
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	143
スポーツ用具の 整備・活用について	フライングディスクのディスクを80枚購入。 平成28・29購入のディスゲッター9・アキュラシーゴール・ボッチャ・カーリングセットと共に、事前活動・大会において、スポーツ用具を使用し、希望する秩父地域関係団体に用具の貸出しを行った。 事業終了後も貸出備品（無償）として、地域での継続したスポーツ活動に使用していただく。		

事業全体の評価

実施（申請）協会名	一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会		
全体事業名称	埼玉県障がい者スポーツ地域連携づくり事業		
委託費	¥1,000,000	決算額	¥1,009,592
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	・体験会や研修会を通して、参加者・支える人にスポーツの楽しさを実感してもらうことができ、大会開催の契機となり、「継続してほしい」「継続させたい」との思いに繋がった。 ・体験会後、事業所での日常活動にスポーツが取り入れられ、継続が見込まれる。 ・初級障がい者スポーツ指導員養成講習会（県障害者交流センター受託事業）に、実行委員や事業所職員の受講がみられ、秩父地域に指導員が10名増えた。体験会や大会が地域での活動のきっかけの場となり、地域での活動を希望する声があがる等、人材育成に結びついた。 ・継続した活動を通して、地域の支える人たちが顔が見える関係性になり、報告会のワークショップでは、これからの活動についての思いを共有し、支える人たちの一体感や仲間意識が芽生え、今後の協力体制が構築されてきた。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	・実行委員等地域の人たちが、自分たちの力で事業を作っていくためにはどうしたらよいかを考え、主体的・能動的に発言するようになり、地元らしさを活かした種目を取り入れたいなど前向きな意見が多く見られるようになった。 ・指導員から地域での活動を希望する声があがり、県北部ブロック組織化に向けての意見交換会を実施するなど動き出したことが、ブロック未設置の他地域にも波及してきた。 ・次年度に向け、行政主催イベントでの体験会実施の検討や、スポーツ推進委員によるボッチャ教室の計画が進められるようになった。		
費用に関する所見	これからの地域での継続した活動に主眼をおき、有効に活用ができた。		
今後の課題や今後の事業展開（具体的方策・展望）	日常の中での活動、根付いた活動になるまでには、これから地域の力で継続していくことが重要となることの共通理解を得られ、これからも地域で協力体制を組んで、継続していく意向を確認できた。今後、活動を行う上での予算確保、運営体制を確立させ継続して展開できる体制を整える必要があり、当協会は、サポート役として、引き続き連携をはかっていく。 行政は福祉担当だけでなく、スポーツ担当課や教育委員会を実行委員会に巻き込み、行政での2020年度の予算化を目指し、2019年度上半期までに地域で実施できる持続可能な体制・方向性を検討していく。		
参加者や関係団体からの声	【参加者】楽しかった、またやりたい 【支える人】知る・学ぶ貴重な機会となり、自らも楽しさも感じられた、参加者の笑顔が印象的等、継続していくことが重要の声があがった 【行政】障がいのある人が外に出る機会となり、障がいのある人同士、障がいのある人ない人が集まれる貴重な機会で、地域にとってプラスとなった		
その他所見	・県障害者交流センターと連携し、初級障がい者スポーツ指導員養成講習会を本事業と併せて秩父市内で開催いただき、人材の掘りおこし・育成に大きく繋がった。 ・実行委員会では、スポーツ基本法や埼玉県スポーツ推進計画等の資料を配布し、情報提供を行った。		

埼玉県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（１） 障がい者スポーツ地域連携づくり事業（秩父地域）

事業の様子

企画会議

実行委員会

事前活動　研修会

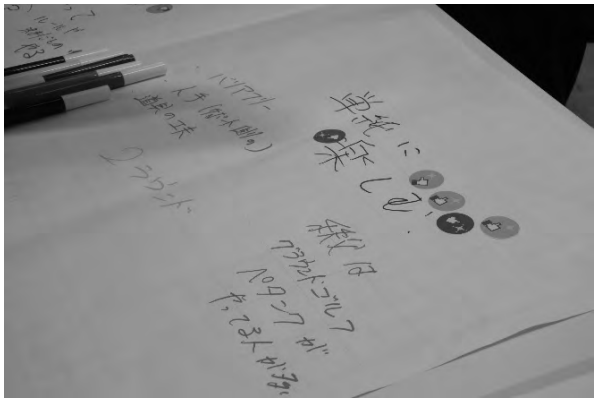
事前活動　体験会

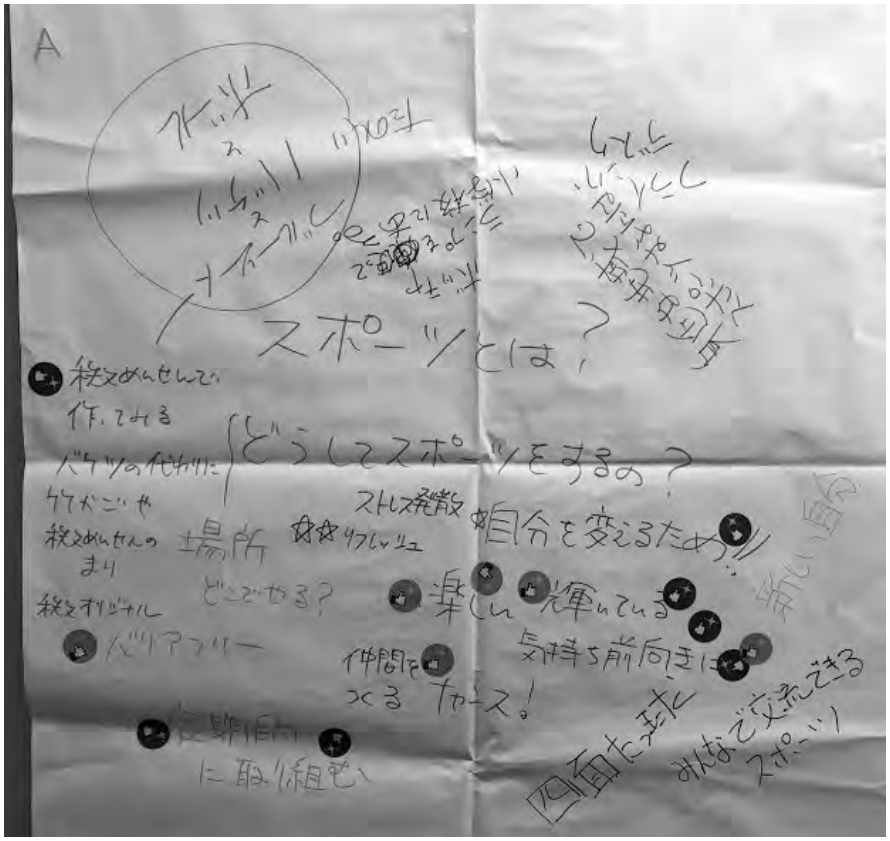
事前活動　体験会

ちちぶふれあいピック 2018

意見交換会

報告会





②資料

ちちぶふれあいピック 2018 実施要項、チラシ

報告会チラシ

ちちぶ ふれあいピック 2018
実施要項

1 目的
身近な地域でスポーツにふれる機会・きっかけづくりの場を提供すること等を目的に、誰でも気軽に体験できるスポーツ大会を開催します。

2 主催
一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会

3 共催
埼玉県障害者交流センター、埼玉県立秩父特別支援学校

4 後援
埼玉県、埼玉県教育委員会、秩父市、秩父市教育委員会、横瀬町、横瀬町教育委員会、皆野町、皆野町教育委員会、長瀞町、長瀞町教育委員会、小鹿野町、小鹿野町教育委員会

5 運営
ちちぶふれあいピック実行委員会

6 運営協力
埼玉県障がい者スポーツ指導者協議会、埼玉県特別支援学校体育連盟、埼玉県スポーツ吹矢協会、ほか

7 日時
平成 30 年 11 月 10 日（土）
10:00～14:30
オープニングイベント 10:00
ファイナルイベント 14:10
＊雨天時は、競技種目を中止または規模を縮小して行います。
＊台風等荒天の際は、大会を中止する場合があります。実施態度は大会当日午前 6 時に決定し、埼玉県障害者スポーツ協会 Facebook ページ（fb.com/sainokunisasa）に情報を掲載します。

8 会場
埼玉県立秩父特別支援学校 グラウンド・校舎・体育館

9 対象者
障がいのある人、高齢者、共にスポーツを楽しみたい人

10 費用
無料（ただし、交通費、昼食代等は各自負担）

11 実施競技・種目

競技・種目/イベント	時間	場所	雨天時の対応
オープニングイベント	10:00-10:20	グラウンド	体育館に変更
陸上記録会 50m または 30m 走	10:30-12:00	グラウンド	中止
陸上記録会 ジャベリックスロー	10:30-12:00	グラウンド	中止
陸上記録会 ビーンバック投	10:30-12:00	グラウンド	中止
フライングディスク	10:30-12:00 12:30-14:00	グラウンド	場所変更
スポーツいろいろ体験	10:30-14:00	体育館	
ボッチャ（交流大会） *各回 6 チーム募集	①10:45-11:30 ②11:45-12:30 ③12:45-13:30	体育館	
スポーツ吹矢	10:30-12:00 12:30-14:00	校舎	
ファイナルイベント	14:10-14:30	グラウンド	体育館に変更
出店コーナー	10:30-13:30		

12 表彰
ボッチャ（交流大会）はチーム表彰、スポーツ吹矢は個人表彰を行います。
ボッチャ（交流大会）の組合せは、主催者で抽選にて決定します。

13 申込み
（1）施設・学校・グループなどの団体
団体ごとに、10 月 18 日（木）までに下記①または②の方法でお申込みください。
①申込書様式 1・2 電子データ（エクセル）に入力のうえ、埼玉県障害者スポーツ協会 E-mail アドレスまで、添付ファイルにて送付
②申込書様式 1・2 に必要事項を記入して、埼玉県障害者スポーツ協会に郵送・FAX（要受信確認）で提出
＊当日参加も可能ですが、準備の関係上、できる限り事前申込みへの協力をお願いします。
（2）個人
事前申込不要です。
当日、申込書様式 3「個人用」を提出していただきます。（緊急時連絡確認および保険加入のため）
【記載事項】氏名・性別・生年月日・年齢・住所・緊急時連絡先 tel
【受付時間】9:45～13:00 【受付場所】大会本部

14 ボランティア募集
競技の準備、体験コーナーのスタッフなど、大会運営のサポートをしてくれる人を募集します。
■事前説明会 【日時】10/23（火）17:30～19:30 【会場】秩父特別支援学校
■大会当日 【日時】11/10（土）集合 9:00 解散 15:30 【会場】秩父特別支援学校
（1）参加申込み団体
団体ごとの申込書に協力者名を記入のうえ、10 月 18 日（木）までに埼玉県障害者スポーツ協会に提出してください。

（2）個人
10 月 18 日（木）までに下記①または②の方法でお申込みください。
①埼玉県障害者スポーツ協会 web サイト（http://sainokuni-sasa.or.jp/）から申込み
②ボランティア登録票に必要事項をご記入のうえ、埼玉県障害者スポーツ協会に提出

15 出店団体募集
会場において、食品や授産製品の販売を行う団体を募集します。
希望する団体は、出店申込書に必要事項を記入のうえ、10月18日（木）までに埼玉県障害者スポーツ協会に提出してください。
食品は現地での調理行程がない物に限ります。詳細は出店団体募集のお知らせをご覧ください。

16 傷害保険の加入
主催者において、参加者を被保険者とした普通傷害保険（レクリエーション傷害保険）に加入します。

17 その他
（1）健康管理
参加者は各自の責任において健康管理し、十分にウォーミングアップを行い自己責任において参加してください。主催者は大会期間中の応急処置のみを行います。
（2）参加者の服装・持ち物
服装は運動に適したものを着用してください。
体育館シューズ、タオル、その他必要なものは、各自で用意してください。
（3）写真等の使用について
大会で撮影する写真等は、主催・運営団体の会報・ホームページなどに掲載する場合、及び障がい者のスポーツに関する広報用として使用する場合があります。また、新聞・テレビ・雑誌・インターネット・パンフレットなどに報道・掲載・利用されることがありますので、ご了承の上参加してください。

■問合せ・申込み先
一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会
〒330-8522 さいたま市浦和区大原 3-10-1 埼玉県障害者交流センター内
tel ：048-822-1120
fax：048-822-1121 ＊fax で申込みの場合は、電話で受信確認をお願いします
E-mail:2004@sainokuni-sasa.or.jp

実施競技・種目説明

■陸上記録会　雨天時中止

説明　□30m(車いす使用者)
□50m(立位)
直線30mまたは50m走
□ジャベリックスロー
ターボジャブ(重さ300g,長さ70cm)と呼ばれる用具を投げ、距離を計測
一人3投
□ビーンバッグ投
豆の入った袋(重さ150g,12×12cm)を投げ、距離を計測
一人3投

場所　グラウンド

受付時間　10:30-11:45

■スポーツいろいろ体験

説明　レクリエーション種目を体験できるコーナー
□カーリング
□輪投げ
□スカットボール
□ボッチャ
などを予定

場所　体育館

受付時間　10:30-13:45

■フライングディスク

説明　□ディスゲッター9
ディスクを10投し、9枚のパネルのうち何枚抜けるかを競う
距離は3・5・7mから選択
□アキュラシー
ディスクを10投し、ゴールを通過した回数を競う
距離は3・5・7mから選択
□自由にディスクを投げてみよう!
ディスクを投げ、距離を計測
などを予定

場所　【晴天時】 グラウンド
【雨天時】 バスデッキ(校舎玄関ホール外)

受付時間　10:30-11:45　12:30-13:45

■ボッチャ（交流大会）

説明　白いボール(ジャックボール)を投げ、赤・青6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに「ジャックボール」に近づけることができたかを競う。

交流大会は3人1組のチームを募集します。
2人組や個人での申込みも可能です。

場所　体育館

受付時間　①10:45-11:30
②11:45-12:30
③12:45-13:30
各回6チームを募集します。

□交流大会ルール
1試合2エンド
リーグ戦方式
＊コートサイズは縮小する場合があります。

■スポーツ吹矢

説明　円形の的をめがけて息を使って矢を放ち、その得点を競う

場所　多目的室（校舎）

受付時間　10:30-11:45　12:30-13:45

障がいのある人たちのスポーツ活動を創るワークショップ

みんなで
話そう! 考えよう!

2016年から秩父地域(1市4町)において、障がいのある人が身近な地域でスポーツができる環境づくりを目指し、体験交流会や大会開催等の取り組みをしてきました。
このたび、その活動報告をするとともに、地域の人たちで「障がいのある人たちのスポーツ活動」を考えるイベントを企画しました。

スポーツをやりたい障がいのある方、共にスポーツを楽しみたい方、障がいのある人たちのスポーツ活動を考えてみたい方、たくさんの方のご参加をお待ちしています!

参加無料

■ 日時　2019年**1**月**31**日(木) **18:00-20:00** (受付17:40～)

■ 場所　秩父宮記念市民会館　けやきフォーラムA・B（2階）
- ■秩父市熊木町8-15
- ■秩父鉄道「御花畑駅」徒歩3分　西武鉄道「秩父駅」徒歩5分

■ 対象　障がいのある人たちのスポーツ活動に関わり・興味のある方
スポーツをやりたい障がいのある方、行政職員、障がい福祉事業所職員、学校関係者、障がい者スポーツ指導員、スポーツ推進委員、スポーツ関係者など

■ 申込み方法
参加申込フォーム または 参加申込書をE-mail・Faxにてお送りください。
締切:1月27日(日)

参加申込フォーム
https://goo.gl/forms/kp4u3JycND2p0OQ52

参加申込フォーム
QRコード

主催　一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会

■ プログラム（予定）

17:40-18:00　参加者受付

18:00-18:30　主催者あいさつ

事業報告
障がい者スポーツ地域連携づくり事業(秩父地域)　3年間の取組み

18:30-19:50　ワークショップ(ワールドカフェ方式)
「障がいのある人たちのスポーツ活動」について、
テーマをもとに、グループに分かれて自由にそれぞれの思いや
アイデアを語り合います

19:50-20:00　終了あいさつ

ワールド・カフェって？
カフェのようなリラックスできる雰囲気の中で、
メンバーの組合せを変えながら、少人数で
話し合いを続けることにより、深い相互理解や
新しい気づき・アイデアを生み出す対話の手法です。

■ 参加申込書

氏名(ふりがな)	(　　)
連絡先	Tel E-mail
お住まいの地域	□ 秩父地域(1市4町)　□ その他
所属等 ＊複数回答可	□ 行政職員（　　） □ 障がい福祉事業所職員　□ 学校関係者 □ 障がい者スポーツ指導員　□ スポーツ推進委員 □ その他（　　）
参加者区分	□ 障がいあり（□肢体不自由 □視覚 □聴覚 □内部 □知的 □精神） □ 障がいなし
配慮が必要なこと 連絡事項	

［個人情報の取扱い］ご記入いただきました個人情報は、当事業の運営にのみ利用させていただきます。

申込み問合せ　一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会
Tel　048-822-1120　Fax 048-822-1121　E-mail 2004@sainokuni-sasa.or.jp

陸上記録会

フライングディスク

スポーツいろいろ体験

ボッチャ

スポーツ吹矢

イベント

ちちぶ ふれあいピック 2018

誰でも気軽に楽しめるスポーツ大会を開催します
さまざまなスポーツを体験できるチャンスです
初めての人も気軽にご参加ください!!

とき　平成30年**11**月**10**日(土)
10:00～14:30

ところ　秩父特別支援学校

対象者　障がいのある人、高齢者、共にスポーツを楽しみたい人

参加費　無料

申込み　当日大会本部で受付(9:45～13:00)
＊【当日受付必要事項】氏名・性別・生年月日・年齢・住所・緊急時連絡先tel
＊施設等団体での参加は、事前申込みへの協力をお願いします。【締切り】10/18(木)

主催　一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会
共催　埼玉県障害者交流センター　埼玉県立秩父特別支援学校
後援　埼玉県　埼玉県教育委員会　秩父市　秩父市教育委員会　横瀬町　横瀬町教育委員会　皆野町　皆野町教育委員会　長瀞町　長瀞町教育委員会　小鹿野町　小鹿野町教育委員会
運営　ちちぶふれあいピック実行委員会
運営協力　埼玉県障がい者スポーツ指導者協議会　埼玉県特別支援学校体育連盟　埼玉県スポーツ吹矢協会　ほか

■問合せ・申込み先
一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会
tel　048-822-1120　fax　048-822-1121
webサイト　http://sainokuni-sasa.or.jp/

ちちぶ ふれあいピック 2018
♥タイムスケジュール

	グラウンド	体育館	校舎
10:00-10:20	★オープニングイベント 挨拶・来賓紹介・ダンス		
10:30-12:00	■陸上記録会 30m/50m ジャベリックスロー ビーンバッグ投 ■フライングディスク ディスゲッター9 アキュラシー	■スポーツいろいろ体験 カーリング 輪投げ ボッチャ などを予定	■スポーツ吹矢
12:00-12:30	昼休み	■ボッチャ交流大会 ①10:45-11:30 ②11:45-12:30 ③12:45-13:30 ＊各回6チーム募集	昼休み
12:30-14:00	■フライングディスク ディスゲッター9 アキュラシー ディスクを投げてみよう!		■スポーツ吹矢
14:10-14:30	★ファイナルイベント ♡お楽しみイベント♡ 成績発表・表彰	ゆるキャラの登場や 食品・授産製品の販売 出店も予定	

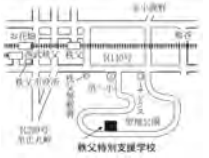
＊ボッチャ交流大会
3人1組のチームを募集します。
2人組や個人での申込みも可能です。

＊雨天時は、競技種目を中止または規模を縮小して行います。
中止になる競技　陸上記録会

＊台風等荒天の際は、大会を中止する場合があります。
実施態度は大会当日午前６時に決定し、
埼玉県障害者スポーツ協会Facebookページ
(fb.com/sainokunisasa)に情報を掲載します。

♥持ち物・服装
体育館シューズ、運動ができる服装

秩父特別支援学校へのアクセス



秩父鉄道秩父駅から徒歩30分　タクシーあり
西武鉄道西武秩父駅　タクシーあり

♡♡♡ ボランティア募集のお知らせ ♡♡♡

競技の準備、体験コーナーのスタッフなど、大会運営のサポートをしてくれる人を募集しています。
参加者の皆さんと交流しながら、楽しくボランティアをしませんか。初めての人も大歓迎!!　皆さまのご協力をお待ちしています。

■事前説明会　【日時】10/23（火）17:30～19:30　　【会場】秩父特別支援学校
■大会当日　　【日時】11/10（土）集合9:00 解散15:30　　【会場】秩父特別支援学校

お申込みは、10/18(木)までに下記①または②の方法でお申込みください。
①埼玉県障害者スポーツ協会webサイト（http://sainokuni-sasa.or.jp/）から申込み
②ボランティア登録票を埼玉県障害者スポーツ協会に提出

長野県障がい者スポーツ活動環境推進事業

◆障がい者スポーツ体験教室開催事業

◆キッズ支援事業（指導員派遣、サマーキャンプ、チアダンス・野球教室）

公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会

事業概要

◆実施（申請）協会名	公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会		
◆計画書作成者	半田　直道		
◆企画・実施担当者	半田　直道	◆経理担当者	霜田　純子

全体事業名称	長野県障がい者スポーツ活動環境推進事業
委託費	¥1,000,000
地域の実情・課題点	■障がい者当事者 ・年々障がい者は増加しているが、スポーツを行う障がい者数は減少傾向。【すそ野が広がらない】 ・国際舞台や国内大会で活躍できる本県出身のアスリートが減少傾向【競技力の低迷】 ・障がいのある子どもの運動の機会やスポーツを行う場所が不足している。 ・障がい者スポーツに関する情報がない。 ■県民の応援・支援 ・県民の障がい者スポーツへの参加、協力、支援の輪が広がっていない。 （冬季パラリンピックやSOのときの応援機運が維持されていない） ■障がい者スポーツの振興体制 ・長野県障がい者スポーツ協会や障がい者スポーツ競技団体（28）の組織・経営基盤が脆弱・障がい者スポーツ指導員の活躍の機会が少ない。 ・一般スポーツ団体等との連携が不足。（障がいに関する知識がない。障がい者の受入経験がない。） ≪2020東京パラリンピック、2027全国障害者スポーツ大会に向けた新たな取組み≫ ■障がい者スポーツ地域コーディネーターの活用 東京パラリンピックムーブメントを活用して、平成29年４月に設置した地域コーディネーターが、地域において障がい者がスポーツを行う機会の拡大と、障がい者の実態把握や一般スポーツ界への受け入れの働きかけなど、スポーツを通じた共生社会づくりを推進していく。また、全国障害者スポーツ大会に向け選手の掘り起こし。 〔参考〕本県の「10年後の目指す姿」(スポーツの力で切り拓く長野県の未来) ①障がいのある子どもたちが、個々の障がいに応じた適切な運動指導が受けられ、障がいの有無にかかわらず一緒に運動遊びを楽しんでいる。 ②障がい者スポーツの体験会や障がい者アスリートとの交流会などが積極的に開催されている。 ③障がい者の社会参加の促進と社会の障がい理解が促進され、障がいの有無にかかわらず、スポーツを通じた交流が拡大されている。 ④障がいの種類、程度、適性や目的等に応じて楽しめるスポーツが普及し、それぞれに応じたスポーツを楽しんでいる。
総合的な事業の目的	長野県障がい者スポーツの「１０年後の目指す姿」の実現に向け、機能や力をより一層発揮させるための事業を実施する。 ■すそ野の拡大 ・身近な場所で行う体験教室を通じた運動・スポーツへの参加意欲の向上 ・事業の開催を契機に地域の人的資源のネットワークの構築(サンアップルと連携しコーディネーターが調整) ・事業の開催を契機に障がい者及びスポーツを勧められるものへの意義の普及と呼びかけ ■競技力の向上 ・東京パラリンピックを目指すアスリートの育成支援 ■障がい者スポーツ指導員に対する指導の知識習得とスキルアップ ■障がいのある子どもの運動機会の充実と障がい者スポーツに対する理解の促進 ■県民の理解促進と応援ムーブメント向上
総合的な事業のねらい	・東京パラリンピックのムーブメントを活用した取組み。（障がい者スポーツの認知度向上） ・全国障害者スポーツ大会長野県開催に向けた取組み。 ・一般スポーツ界等を巻き込み、県民運動へとつなげる取組み。 ・生涯を通じたスポーツ機会の充実。・子どもの運動・スポーツ機会の充実。

事業名	
事業①	障がい者スポーツ体験教室開催事業
事業②	キッズ支援事業（指導員派遣、サマーキャンプ、チアダンス・野球教室）
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告

実施協会名	公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会		
事 業 名	障がい者スポーツ体験教室開催事業		
事業内容	障がい者スポーツ指導員を中心に、一般スポーツ界の持つ知識や能力を得ながら障がい者(児)に運動、スポーツの楽しさを体験してもらう場とするとともに、教室の運営を通じて、地域における障がい者スポーツ振興の支援ネットワークを構築した。 県内の3地区(東信、北信、中信)において実施し、特に東信地区ではユニバーサルリレーを行い、実際10月開催の信州チャレンジスポーツDAY2018に参加し、障がい者、健常者が一緒になり体験会等を行った。		
開催日時	【東信】 ①平成30年 9月15日(土) 13:30～15:30 ②平成30年10月13日(土) 8:30～15:00 【北信】 ③平成30年11月25日(日) 13:00～16:00 【中信】 ④平成31年 1月19日(土) 10:00～15:00		
会 場	【東信】 ①湯の丸高原スポーツ交流施設400mトラック(東御市) ②信州スカイパーク陸上競技場(松本平広域公園)(松本市) 【北信】 ③長野市営豊野体育館(長野市) 【中信】 ④上松町公民館・社会体育館(木曽郡上松町)		
参 加 者	【東信】 ①49名 (知的 2名、身体15名、健常32名) ②42名 (知的 2名、身体15名、健常25名) 【北信】 ③17名 (知的 6名、身体 5名、健常 6名) 【中信】 ④64名 (知的37名、身体 5名、健常22名)		
人員体制	【東信】 ①②25名 視覚障がい者マラソン協会 2名、市陸上協会 2名、 「みんなの健康×スポーツ」実行委員会15名、障がい者スポーツ指導員 6名 【北信】 ③19名 医師 1名、手話通訳 1名、フロアホッケー連盟 1名、フライングディスク協会 2名、 県障がい者福祉センター指導員 1名、障がい者スポーツ指導員12名、障がい者スポーツ協会職員 1名 【中信】 ④24名 理学療法士 1名、スポーツ吹き矢協会 4名、車椅子バスケットボール協会 6名、 伊那養護学校教諭 1名、障がい者スポーツ指導員11名、障がい者スポーツ協会職員 1名		
連携団体名 (箇条書き)	【東信】 ①② 身体障害者福祉協会、手をつなぐ育成会、県ボッチャ協会、県視覚障がい者マラソン協会、東御市、東御市教育委員会、市スポーツ推進委員会、市体育協会、市社会福祉協議会、、市陸上協会、身体教育医学研究所 【北信】 ③ 県フロアホッケー連盟、県フライングディスク協会、県ボッチャ協会 【中信】 ④ 町社会福祉協議会、町教育委員会、町こども未来会議、木曽ひのきっこゆうゆうクラブ、木曽障がい者総合支援センターともに		
実際の事業での 連携団体の役割	各地区の障がい者スポーツ指導者協議会が中心となり、運営や関係団体との連絡調整を行った。各関係の競技団体には体験当日の指導・審判を行っていただいた。その他の連携団体には、スタッフとしての要請や広報による参加者の確保、会場の確保、保険の加入等のほか、当日のスケジュール管理、安全面の確保について地区障がい者スポーツ指導者協議会の補佐として進捗管理に協力していただいた。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	地区障がい者スポーツ指導者協議会が主体となり、障がい者スポーツ体験教室の運営指導を行った。 各地区での体験教室を開催するにあたって、指導者の人材確保は概ねできるものの同じような顔ぶれであり、また、開催できない地区もあり指導員の意識向上が重要となっている。各地区毎に活動できる指導員を拡大させるためにも、県内各地区での教室を今後も積極的に開催し、体験教室の運営指導の経験値を上げ、今後の活動に活かしてもらう必要がある。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	31
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	37
スポーツ用具の 整備・活用について	用具は、障がい者スポーツ協会からの貸し出し及び地区指導者協議会で所有しているものを活用。		

各事業における事業報告

実施協会名	公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会			
事 業 名	キッズ支援事業（指導員派遣、サマーキャンプ、チアダンス・野球教室）			
事業内容	キッズ支援事業として、年間を通じて、スポーツ体験会やスポーツキャンプなど多彩なプログラムでスポーツの裾野を広げる。 （1）指導員派遣 障がい者や学校等からの要請に基づき地域、学校、施設等へ障がい者スポーツ指導員を派遣してスポーツ指導を行った。 （2）サマーキャンプ スポーツ体験と交流会を併せた宿泊を伴うキャンプを行い、子どもの自立、子ども同士親同士のネットワーク構築の機会を提供した。 （3）スポーツ体験（チアダンス・野球教室） 障がいを持つ子どもたち等が様々なスポーツと出会い、体験するとともに、関係機関と連携し、年間を通したスポーツ教室を開催した。			
開催日時	【指導員派遣】 ①平成31年 1月17日（木） 8:30～15:00 ②平成31年 1月18日（金） 9:00～14:00 ③平成31年 1月18日（金） 8:40～14:30 ④平成31年 1月24日（木） 9:00～14:00	【サマーキャンプ】 平成30年 8月 4日（土） 14時～ 平成30年 8月 5日（日） ～12時20分	【スポーツ体験】 野球教室 ①平成30年 5月15日（火） 10:30～11:30 ②平成30年 6月 6日（水） 9:45～10:30	
会 場	①戸隠スキー場 （長野市） ②戸隠スキー場（長野市） ③飯綱高原スキー場（長野市） ④戸隠スキー場（長野市）	長野県障がい者福祉センター「サンアップル」（長野市）	①こども病院（安曇野市） ②市立須坂支援学校（須坂市）	
参 加 者	① 1名 （身体 1名、 長野市立昭和小学校） ② 1名 （知的 1名、 長野市立安茂里小学校） ③ 2名 （知的 2名、 長野市立山王小学校） ④ 1名 （身体 1名、 長野市立共和小学校）	11名 （知的 5名、身体 6名）	① 38名 （身体 38名） ② 15名 （知的 15名）	
人員体制	5名 障がい者スポーツ指導員 5名	20名 理学療法士 2名 作業療法士 2名 競技団体 2名 看護師 1名 障がい者スポーツ指導員 7名 障がい者スポーツ協会職員 3名 ボランティア 2名	各6名 信濃グランセローズ（野球選手） 4名 障がい者スポーツ協会職員 2名	
連携団体名 （箇条書き）	県障がい者スポーツ指導者協議会	県理学療法士会 県作業療法士会 県パラ水泳協会 県障がい者スポーツ指導者協議会	長野県民球団 信濃グランセローズ	
実際の事業での連携団体の役割	小学校で開催するスキー教室において、特別支援学級等の児童に対するスキー、バイスキーの介助及び指導を行っていただいた。	障がいを持つ子どもたち等が様々なスポーツと出会い、体験するために子どもたちへの介助及び指導を行っていただいた。特にパラ水泳協会には、水泳講師として協力をしていただいた。	スポーツによる元気な信州づくり包括連携協定に基づき、選手自らが現地へ出向き指導、交流会を行っていただいた。	
本事業における障がい者スポーツ指導者の役割・活用について	日頃スポーツ活動をする場や機会が少ない障がい児（子どもたち）にとって、障がいを理解し、サポートやきっかけ作りを提供する役割を持っており非常に重要である。また、指導員が活躍できる種目を活かしていけるように活用している。 課題としては、特に指導員派遣事業では、一部の経験のある指導員が出向くことが多くなり、経験に偏りが生じており、指導員に対する研修会等を開催して今後の活動をサポートしていく必要がある。		本事業における障がい者スポーツ指導員の実人数	14
			本事業における障がい者スポーツ指導員の延べ人数	18
スポーツ用具の整備・活用について	用具は、障がい者スポーツ協会、長野県障がい者福祉センター等で所有しているものを活用。			

事業全体の評価

実施（申請）協会名	公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会		
全体事業名称	長野県障がい者スポーツ活動環境推進事業		
委託費	¥1,000,000	決算額	¥1,097,547
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	本事業実施に当たっての本県障がい者スポーツ振興の目的である「すそ野の拡大」、「競技力の向上」、「障がい者スポーツ指導員のスキルアップ」、「障がいある子どもの運動機会の充実」、「県民の理解と応援の輪の拡大」を推進するため、体験教室、キッズ支援事業を実施した。体験教室では、地域の身近な場所でスポーツに参加できる環境が提供できたが県内全地区での実施ができず、障がい者スポーツ指導員が固定化していた。キッズ支援事業では、目的に応じた企画・実施ができたが、指導員の固定化のほか、事業によっては日程の関係で実施することができなかった。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	障がい者スポーツ体験教室は、今年度で3年目となり継続実施できる体制が整備されてきており、今後永続的な仕組みづくりが期待できる。また、身近な地域で障がい者がスポーツを行う環境を提供することができ、実施した地区の障がい者スポーツ指導員の活躍によりスムーズな運営ができた。キッズ支援事業は、各計画した事業を企画・実施し、一定の期待する成果が得られた。また、施設（プール、体育館、宿泊）の利用についてもスムーズにでき、障がいを持った子どもたちの心身の健康づくりと社会参加促進のためにも、継続して取組んでいく必要があると感じている。		
費用に関する所見	障がい者スポーツ体験教室、キッズ支援事業において障がい者スポーツ指導員の活躍の場の提供や様々な団体との連携で障がい者スポーツの理解・啓発や発展のために人件費(謝金)に多くの予算を割りいた。厳しい財政の中で障がい者スポーツの拡大を図るために本振興事業は大変有意義。ただ、報告関係で、年度末まで本振興事業による事業が実施できないのは残念。		
今後の課題や今後の事業展開（具体的方策・展望）	オリンピック・パラリンピックの影響を受けて、障がい者スポーツも競技思考で捉えている部分も多いが、地区での体験教室開催や、キッズ支援事業により、地域の身近な場所でスポーツに参加できる環境づくりが不可欠であり、それと合わせて地域格差を減らしていきたい。 今後は、長野県障がい者スポーツ指導者協議会を始め、関係機関との連携を図りながら、当協会の障がい者スポーツ地域コーディネーターを活用して、引き続き県内全域で障がい者スポーツの普及振興に取り組んでいきたい。		
参加者や関係団体からの声	障がい者スポーツ体験教室では、特に東信地区で実施されたユニバーサルリレーでは、「なかなか経験できなことで、良い思い出となった」、「障がい者の方々と普段関わることがないので、少しでも知るという機会があるのは大切なことだと感じた」等の参加者の声があり、他地区でも引き続き体験教室への参加要望が多くありました。キッス支援事業では、1泊2日のサマーキャンプでは、「いつも利用している施設で安心して泊まれた」、「障がい児の方に色々なスポーツを体験してもらい、楽しんでもらう機会としてのキャンプなので今後も続けていければ」等の参加者・スタッフの声がありました。		
その他所見	地域の身近な場所でスポーツに親しめる環境を強力に推進していく必要があるが、掛け声だけでは進まない実態もある。こうした中、前年度に引き続き本事業により、障がい者スポーツ体験教室の開催、将来を見据えて子どもたちのためのキッズ支援事業の開催により、障がい者スポーツ指導員を中心として、地域の支援者相互に顔の見える関係が築け、今後のネットワークづくりに踏み出すことができました。 引き続き、当協会としても様々な事業を企画し実施することで活動を知っていただく必要があるため、継続して事業を行いたい。		

長野県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（１） 障がい者スポーツ体験教室開催事業

東信地区障がい者スポーツ体験教室「８００ｍユニバーサルリレー」

事業の様子

ユニバーサルリレー練習会①

８００ｍユニバーサルリレー参加①

８００ｍユニバーサルリレー参加②

８００ｍユニバーサルリレー参加③

８００ｍユニバーサルリレー参加④

８００ｍユニバーサルリレー参加⑤

②資料

・事前練習会及びリレー当日写真
・事前練習会兼伴走講習会実施要項、８００ｍユニバーサルリレー参加実施要項
・ランナー募集チラシ、新聞記事、参加者アンケート

長野県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（２） 障がい者スポーツ体験教室開催事業

北信地区障がい者スポーツ体験教室「楽しくスポーツを体験しませんか」

事業の様子

受　　付

準備運動

ボッチャ体験

フライングディスク体験

フロアホッケー体験

全　　体

②資料

・開催要項、チラシ、新聞記事、参加者アンケート

長野県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（３） 障がい者スポーツ体験教室開催事業

中信地区障がい者スポーツ体験教室「パラスポフェスタ in 木曽」

事業の様子

全体 準備運動

ビームライフル

スポーツ吹き矢

ゴールボール

車いすバスケットボール①

車いすバスケットボール②

②資料

・開催要項、チラシ、新聞記事

長野県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（４） キッズ支援事業（指導員派遣、サマーキャンプ、チアダンス・野球教室）

事業の様子

スキー教室①（長野市立山王小学校）

スキー教室②(長野市立昭和小学校)

スキー教室③（長野市立昭和小学校）

スキー教室④(長野市立安茂里小学校)

スキー教室⑤（長野市立安茂里小学校）

スキー教室⑥（長野市立安茂里小学校）

事業の様子

サマーキャンプスタッフ打合せ

サマーキャンプ参加者全員顔合わせ

サマーキャンプ準備体操

サマーキャンプスポーツ体験(ボッチャ)

サマーキャンプスイミングスクール

サマーキャンプ参加者・スタッフ

事業の様子

サマーキャンプスイミングスクール

野球教室①（こども病院）

サマーキャンプ参加者・スタッフ

野球教室②（こども病院）

野球教室③(須坂支援学校)

野球教室(須坂支援学校)

②資料

- キッズ支援指導者派遣事業について（スキー教室）
- キッズ支援事業サマーキャンプ開催要項、チラシ、日程表、参加者アンケート、スタッフアンケート
- キッズ支援事業信濃グランセローズ野球教室開催要項（長野県立こども病院）
- キッズ支援事業信濃グランセローズ野球教室開催要項（須坂市立須坂支援学校）

信州チャレンジスポーツDAY2018　種目「800mユニバーサルリレー」参加
事前練習会兼伴走講習会実施要項

1. 趣旨
地域の人々が障がい児者への理解を深めるとともに、当事者やそのご家族が運動・スポーツを実施することに対してより積極的になり、障がいがある人もない人も一緒に、誰もが身近で運動・スポーツに親しめる環境を整備していくことを通して、ユニバーサルな社会の実現を目的とする。

2. 主催　『みんなの健康×スポーツ』実行委員会
【実行委員会構成団体】
東御市身体障害者福祉協会、東御市手をつなぐ育成会、陽だまりの会、ぴかそくらぶ、はこべの会、東御市、東御市教育委員会、東御市スポーツ推進委員会、NPO法人東御市体育協会、長野県ボッチャ協会、社会福祉法人みまき福祉会、社会福祉法人東御市社会福祉協議会、社会福祉法人らいさがた福祉会、公益財団法人身体教育医学研究所（事務局）

3. 共催　長野県障がい者スポーツ指導者協議会東信地区協議会

4. 主管　公益財団法人身体教育医学研究所

5. 協賛　公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会

6. 協力　長野県視覚障がい者マラソン協会　東御市陸上協会

7. 日時　9月15日(土)　13:30～15:30

8. 会場　湯の丸高原スポーツ交流施設 400m トラック　※雨天時湯の丸高原ホテル研修ホール

9. 内容（予定）

時間	内容	備考
12：30	スタッフ集合、準備・打合せ	
13：15	開場・受付	
13：30	開会	
	主催者代表挨拶	『みんなの健康×スポーツ』実行委員会 代表 岡田 真平
13：35	チームメンバー紹介	
13：45	チームごと顔合わせ	※監督中心に
14：00 (60)	個別練習 ①視覚障がい者ランナー及び伴走者 ・小・中学生ランナー ②その他 ・知的障がい者ランナー ・聴覚障がい者ランナー ・車いすランナー	講師：県視覚障がい者マラソン協会 講師：(公財)身体教育医学研究所 半田秀一（障がい者スポーツトレーナー）
(20)	総練習	襷の受け渡し練習
15：20	事務連絡	
	激励のことば	県障がい者スポーツ指導者協議会東信地区協議会 会長　篠原　利典
15：30	閉会	

10. 問い合わせ・申込先
『みんなの健康×スポーツ』実行委員会事務局　公財)身体教育医学研究所　☎0268-61-6148
〒389-0402 東御市布下6番地1 ケアポートみまき内　E-mail:wakuwaku@pedam.org
当日緊急連絡先　岡田携帯☎090-1849-2629

11. その他　平成30年度日本障がい者スポーツ協会地域における障害者スポーツの振興事業の同時開催

信州チャレンジスポーツDAY2018　種目「800mユニバーサルリレー」参加　実施要項

1. 趣旨
地域の人々が障がい児者への理解を深めるとともに、当事者やそのご家族が運動・スポーツを実施することに対してより積極的になり、障がいがある人もない人も一緒に、誰もが身近で運動・スポーツに親しめる環境を整備していくことを通して、ユニバーサルな社会の実現を目的とする。

2. 主催　『みんなの健康×スポーツ』実行委員会
【実行委員会構成団体】
東御市身体障害者福祉協会、東御市手をつなぐ育成会、陽だまりの会、ぴかそくらぶ、はこべの会、東御市、東御市教育委員会、東御市スポーツ推進委員会、NPO法人東御市体育協会、長野県ボッチャ協会、社会福祉法人みまき福祉会、社会福祉法人東御市社会福祉協議会、社会福祉法人らいさがた福祉会、公益財団法人身体教育医学研究所（事務局）

3. 共催　長野県障がい者スポーツ指導者協議会東信地区協議会

4. 主管　公益財団法人身体教育医学研究所

5. 協賛　公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会

6. 協力　長野県視覚障がい者マラソン協会　東御市陸上協会

7. 内容　信州チャレンジスポーツ DAY2018　種目「800Mユニバーサルリレー」参加
開催日時：10月13日(土)　8:30～15:00　（本種目実施予定時間 13:00～13:30）
会　　場：信州スカイパーク陸上競技場（松本平広域公園）
主な内容：
（1）参加募集・取りまとめ
①募集内容：@8名(以下の内訳による) × 2チーム　計16名
【1チームの構成】
・障がいランナー：視覚・聴覚・知的・車いす　各1名　計4名
・小・中学生健常者ランナー：男女　各2名　計4名

順番	区分
第1走者	男子小・中学生健常者ランナー
第2走者	視覚障がい者ランナー及び伴走者
第3走者	女子小・中学生健常者ランナー
第4走者	聴覚障がいランナー
第5走者	男子小・中学生健常者ランナー
第6走者	知的障がいランナー
第7走者	女子小・中学生健常者ランナー
第8走者	車いすランナー

②募集方法：広報、関係団体等を通じた周知募集
③募集締切：9月3日(月)　※先着順　申込状況により、補欠、もしくはお断りする場合有

（2）事前練習会の実施（詳細別紙要項参照）
開催日時：9月15日(土)　13:30～15:30
会　　場：湯の丸高原スポーツ交流施設 400m トラック※雨天時湯の丸高原ホテル研修ホール
内　　容：顔合わせ、練習、伴走者講習

（3）当日支援　・引率、マイクロバスによる送迎（東御市発着、定員有）

8. 問い合わせ・申込先
『みんなの健康×スポーツ』実行委員会事務局　公財)身体教育医学研究所　☎61 6148
〒389-0402 東御市布下6番地1 ケアポートみまき内　E-mail:wakuwaku@pedam.org

9. その他　平成30年度日本障がい者スポーツ協会地域における障害者スポーツの振興事業の同時開催

信州チャレンジスポーツDAY2018
「800mユニバーサルリレー」ランナー募集！

毎年開催の信州チャレンジスポーツDAY。あと2年を切った2020年東京オリパラ、さらに2027年国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会長野県大会開催を控え、障がいのあるランナー、ないランナーが、ひとつのチームでバトンをつなぐことを通して、みんなでスポーツを盛り上げると共に、障がい者理解を深めることを目的に実施されるものです。

と　き：平成30年10月13日(土) 8:30～15:00
ところ：信州スカイパーク陸上競技場(松本平広域公園)
主な内容：信州チャレンジスポーツDAY2018(詳細別紙参照)
種目「800mユニバーサルリレー」とうみチーム ランナーの募集
※1人100m、バトンを8人でつなぐリレー
定員：以下のとおり。
①障がいランナー：視覚・聴覚・知的・車いす　各2名　計8名
※障がいランナーの年齢は問いません。
②小・中学生健常者ランナー：男女　各4名　計8名
申込締切：9月3日(月)　先着順　※申込状況により、補欠、もしくはお断りする場合があります。予めご了承ください。
＜事前練習会＞とき：9月15日(土)　13：30-15：30
ところ：湯の丸高原スポーツ交流施設400mトラック
※詳細は参加者にお伝えします。

【主催】『みんなの健康×スポーツ』実行委員会
東御市身体障害者福祉協会 東御市手をつなぐ育成会 陽だまりの会 ぴかそくらぶ はこべの会 東御市 東御市教育委員会 東御市スポーツ推進委員会 NPO法人東御市体育協会 長野県ボッチャ協会 社会福祉法人みまき福祉会 社会福祉法人東御市社会福祉協議会 社会福祉法人らいさがた福祉会 公益財団法人身体教育医学研究所(事務局)
【共催】長野県障がい者スポーツ指導者協議会東信地区協議会

参加申込書　　平成30年　月　日

参加者	団体・学校名等：　（学年：　年） 氏名(フリガナ)：　性別：男・女 生年月日：　年　月　日（年齢：満　歳） 住　所：〒　TEL(携帯可)： 保護者氏名：
エントリー枠	☆該当区分へ☑を入れてください。 ☐視覚障がいランナー　☐聴覚障がいランナー　☐知的障がいランナー ☐身体障がいランナー(車いす利用)　☐小・中学生健常者ランナー（ ☐男子　☐女子 ）
連絡事項	＜障がいの有無、状況など＞

【申込・問い合わせ先】「みんなの健康×スポーツ」実行委員会事務局　担当：岡田佳澄（公益財団法人身体教育医学研究所）
〒389-0402　東御市布下6－1ケアポートみまき内　TEL・FAX：0268-61-6148　E-mail：wakuwaku@pedam.org

信濃毎日新聞

2018年（平成30年）9月16日 日曜日

「信州チャレンジスポーツDAY」松本で来月

障害者と健常者でリレーも

東御で事前練習

松本市で10月13日に開かれるイベント「信州チャレンジスポーツDAY」。今回から、障害者と健常者がチームを組んで走る「800㍍ユニバーサルリレー」が種目に加わる。県内各地から7チームが出場予定で、15日は東信地方の2チームが東御市湯の丸高原で事前練習をした。

800㍍ユニバーサルリレーは、視覚、聴覚、知的障害者、車いすを利用する身体障害者の4人、障害のない小中学生4人の計8人がチームを組み、1人100㍍を走る競技。県教委などの実行委員会によると、障害者と健常者がたすきをつなぐ「パラ駅伝」をヒントに考案した。障害者は伴走者を付けられる。

この日は2チームの出場予定者のうち11人が同高原に集合。たすきをつなぐ際の注意点などを確認し、代走者を加えた16人で実際のリレーを想定して400㍍トラックを走った。車いすに乗ってリレーに臨む県稲荷山養護学校（千曲市）高等部2年の滝沢歩夢さん（16）は、「思いっきりこいで、一番最初にゴールしたい」と意気込んでいた。

県内では2027年に国民スポーツ大会（国体）と全国障害者スポーツ大会が開催予定。実行委は、障害者と健常者が共に達成感を得られる競技を振興することで、障害の有無にかかわらずスポーツをする文化を広めていきたいとしている。

400㍍トラックを使ってたすきをつなぐ練習をする人たち＝15日、東御市

信濃毎日新聞

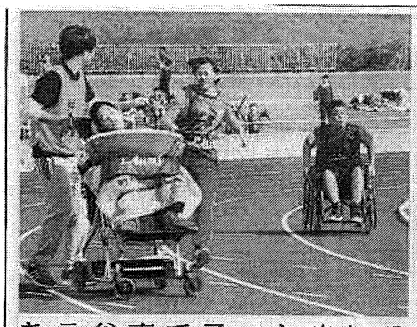
2018年（平成30年）10月14日　日曜日

スタンド

○…県内スポーツ関連団体でつくる実行委員会は13日、松本市の松本平広域公園で、幅広い世代がさまざまなスポーツに親しむ「信州チャレンジスポーツDAY」を開いた。トップ選手から技術を学んで競技に参加したり、マイナー競技を体験したりする催しで多くの家族連れが汗を流した。

5回目の開催となる今回、障害者と健常者の8人がチームを組む「800㍍ユニバーサルリレー」を初めて実施＝写真。優勝した大北地域のチームに参加した中村晃大さん(27)は「障害者と健常者が一緒に運動する機会はあまりない。一緒に走る姿を多くの観客に見せられたのは良いこと」と話した。

北京五輪陸上男子400㍍リレーで銅メダルの塚原直貴さん(33)＝岡谷市出身＝によるランニング指導もあった。



障害者と健常者の「ユニバーサルリレー」

力を出し切り 共に走った

東御の2チーム イベント出場報告

競技に臨んだ心境を手話を使いながら振り返る出場選手ら

松本市で今月中旬に開かれたイベント「信州チャレンジスポーツDAY」（実行委員会など主催）で、障害者と健常者がチームを組んで走る「800㍍ユニバーサルリレー」に出場した東御市の2チームが29日、東御市役所に花岡利夫市長を訪ね、成果を報告した。

リレーは視覚、聴覚、知的障害者、車いすを利用する身体障害者の4人、障害のない小中学生4人の計8人がチームを組み、1人100㍍を走る競技。伴走者を含む18人の市民らは「とうみA」「とうみB」の2チームに分かれて出場。他地域から参加した5チームと競い、それぞれ7位と5位の成績だった。

知的障害のある小林朋樹さん（23）＝東御市＝は「持てる力を全て出し切って走れたので楽しかった」と振り返った。今回、一つの地域から複数チームが出場したのは東御市だけといい、Aチームの監督を務めた関豊春さん（76）＝同＝は「東御市ここにありというPRができたと思う」と話した。

参加者アンケート 集計

この度は、ユニバーサルリレーにご参加いただき、ありがとうございました。
本日の体験教室はいかがでしたか。楽しんでいただけましたでしょうか。
今後、さらに充実した体験教室とするため、下記のアンケートにご協力をお願いいたします。

問1　このアンケートのご記入者を教えてください。

ア．障がいの有無

(1)　あり（身体障がい・知的障がい・精神障がい・重複障がい）　[7]　　(2)なし　[14]

イ．立場　(1)障がいのあるご本人 [4]　(2)保護者 [5]　(3)同伴者 [0]　(4)その他 [9]

問2　あなたの性別を教えてください。

ア．男性 [10]　イ．女性 [11]

問3　あなたの年齢を教えてください。

ア．20歳未満 [8]　イ．20～40歳代 [6]　ウ．50～60歳代 [5]　エ．70歳以上 [2]

問4　あなたは普段、運動やスポーツを行っていますか。

ア．週に1日以上 [12]　イ．1月に1～3日 [5]　ウ．数か月に1～3日 [2]　エ．ほとんどしていない [2]

問5　この体験教室をどこでお知りになりましたか。

ア．チラシを見て [2]　イ．家族から [10]　ウ．学校から [0]　エ．知人から [5]　オ．その他（　　　）

陸上クラブ
ケアポートみまき
福祉課

問6　本日のご感想をお聞かせください。

ア．満足 [13]　イ．概ね満足 [3]　ウ．普通 [1]　エ．やや不満 [3]　オ．不満 [0]

（理由）

ア．満足～イ．概ね満足　と回答した方の理由

- 楽しかった
- みんなと走れて良かったから
- 全力を出して最後まで走った
- 今回、初めての参加でしたが楽しく参加できました
- 自由時間があって、色々できて良かった
- なかなか経験できないことなので、子どもにとって良い思い出になったと思います。
- 子ども自身がとても楽しんでいました。
- 初めて障がいのある人とスポーツができて、障がいのある人はこういう人なんだと知れて良かった
- 楽しかった　走る距離も 100m で良かった
- 楽しかった　本番の方が短く感じた
- 初めての競技が楽しい
- 初めてこのようなイベントに参加させてもらいました。一つのたすきを皆で繋いでゴールできた時は、胸が熱くなりました。
- 新しい事をやってみましたが、結果も大事です

エ．やや不満と回答した方の理由

- セグウェイに乗れなかったこと（2）
- 走れなかった

問7　今後もこうした機会があれば参加したいと思いますか。

ア．参加したい [18]　イ．参加したくない [0]　ウ．その他（　　　　　）

（理由）

問8　今後のご要望があればお聞かせください。（時期、場所、内容など何でも）

（ご要望）

- 楽しかったから（2）
- 皆が協力して 800m を達成した時にその達成感がとても気持ち良かったから
- 障がい者の方々と普段関わることがないので、少しでも「知る」という機会があるのは本当に大切なことだと感じました。
- もっと障がいのある人と触れ合えたらいいからです。
- ボッチャも楽しかった
- 体の動く限り、参加したい
- 家族や子どものお友だちと一緒に参加したい
- 電動車いすでの参加でしたが、不満の様子でした

ご協力ありがとうございました。

長野県障がい者スポーツ指導者協議会東信地区協議会
公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会

「北信地区障がい者スポーツ体験教室」開催要項

1　目　的

(1)　日頃、地域に身近な場所で、スポーツ（運動）に接する機会の少ない障がい者（児童生徒を含む）に、その楽しさを体験していただきスポーツの習慣化へつなげるとともに、支援サポーター相互のネットワークを構築し、地域における障がい者スポーツの更なる普及振興を図る。

(2)　パラリンピック種目であるボッチャを体験することにより、東京パラリンピックへの関心を高める。

(3)　平成39年開催予定の全国障害者スポーツ大会長野県大会に向けて、地域での関心を高める。

2　主　催

長野県障がい者スポーツ指導者北信地区協議会

3　共　催

公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会

4　開催内容

(1)　開催期日

平成３０年１１月２５日(日)

(2)　会　場

長野市営豊野体育館

〒３８９－１１０５　長野市豊野町豊野６２４

ＴＥＬ　０２６－２５７－５８７５（豊野公民館）

(3)　内　容

ボッチャ　フライングディスク　フロアホッケー

(4)　日　程

１２時半～１３時　受付

１３時～１３時２０分　開会式・準備運動

１３時２０分～１５時半　体験教室

１５時半～１６時　リズム体操・閉会式

(5)　参加申込

(1)　参加希望者は、別紙及びチラシに添付の「北信地区障がい者スポーツ体験教室参加申込書」を事務局に提出するか、電話、電子メールで申込する。

(2)　参加申込み期限

平成３０年１１月１６日(金)（手話通訳等必要な方は１１月１０日(土)まで）

5　参加者

・北信地区（長野市、須坂市、中野市、飯山市、千曲市、坂城町、小布施町、高山村、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、信濃町、飯綱町、小川村及び栄村）に居住する身体、知的、精神に障がいのある方（児童生徒を含む）

・障がい者（児童生徒を含む）のスポーツ活動を支える方（家族、教員、施設職員等）

6　参加費　無料

7　事務局（申込先）

〒３８０　０８０３　長野市三輪９　２　１８　北村方

長野県障がい者スポーツ指導者北信地区協議会事務局　北村　淳子

ＴＥＬ　０２６－２４１－７２７８

０９０　３２１３－４２６４

ＦＡＸ　０２６－２４１－７２７８

電子メール　hokushin@hotmail.co.jp

北信地区障がい者スポーツ体験教室

楽しくスポーツを体験しませんか

日　時　平成３０年１１月２５日（日）

１３時～１６時（受付開始　１２時半）

場　所　長野市営豊野体育館（長野市豊野町豊野６２４）

対象者　・北信地区（長野市、須坂市、中野市、飯山市、千曲市、坂城町、小布施町、高山村、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、信濃町、飯綱町、小川村及び栄村）に居住する身体、知的及び精神に障がいのある方

・障がいのある方のスポーツ活動を支える方（家族、教員、施設職員等）

内　容　ボッチャ　フライングディスク　フロアホッケー

※　参加される方は、運動のできる服装・体育館シューズ・飲み物を各自持参してください。

主　催　長野県障がい者スポーツ指導者北信地区協議会

共　催　公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会

申込書はＦＡＸまたは郵送、電子メールにて、下記申込先まで、お申込みください。（締切　平成３０年１１月１６日）（手話通訳等必要な方は１１月１０日までにお申込み下さい。）電話連絡（留守番電話の場合は折り返します。）も可能です。

〒３８０－０８０３　長野市三輪９－２－１８　北村方

長野県障がい者スポーツ指導者北信地区協議会事務局　北村　淳子

ＴＥＬ　０９０－３２１３－４２６４　　０２６－２４１－７２７８

ＦＡＸ　０２６－２４１－７２７８　　電子メール　hokushin@hotmail.co.jp

切りとり線

北信地区障がい者スポーツ体験教室参加申込書

平成３０年　月　日申込		年　齢	性　別	障がいの有無(障害区分等記入)
ふりがな 氏　名		歳	男・女	有 （　　） 無
住　所	〒	電話 ＦＡＸ 電子メール		

家族や支援者の方で参加を希望される方は、保険加入のため下記にご記入ください。

保護者・支援者 ふりがな 氏　名	住　所	性　別	年　齢
		男・女	歳

※ご記入いただいた個人情報は、保険加入等本教室運営に必要と認められる目的以外には利用しません。

□特に配慮してほしい事項があればご記入ください。（手話通訳の手配など）

［5］　2018年（平成30年）11月29日（木）　長野市民新聞

北部版

パラスポーツ楽しむ

ボッチャやフロアホッケー　豊野で体験教室

障害者スポーツ（パラスポーツ）の体験教室が28日、市豊野体育館であった。市内外から参加した30人余が、来年パラリンピックの正式種目「ボッチャ」などを楽しんだ。

ボッチャは、対戦する2チームが青と赤色のボールを6球ずつ投げ合い、白色の目標球までの距離の近さを競う。今回は参加者が4人でチームを編成。目標球に狙いを定めて慎重にボールを投げていた。

障害のある中野市の70代女性は「ボッチャは誰でも気軽にできて楽しい。試合を通じて参加者と交流できて良かった」と喜んでいた。

体験教室は信濃スポーツ指導者北信地区協議会が、普及を目的に北信地区内で毎回会場を変えて開いている。この日は他に5競技「フライングディスク」や、スペシャルオリンピックス（SO）の種目「フロアホッケー」も指導した。

ボッチャの体験を楽しむ参加者

障がい者スポーツ体験教室 参加者アンケート（北信地区）集計

15名回答

問1　このアンケートのご記入者を教えてください。
ア．障がいのある方　9名（うち身体障がい　2名・知的障がい　3名　障がい区分不明　4名）
イ．ご本人以外　5名（保護者・介助者）
不明　1名

問2　あなたの性別を教えてください。
ア．男性　6名
イ．女性　8名
不明　1名

問3　あなたの年齢を教えてください。
ア．20歳未満　2名（男性　1名　女性　1名）
イ．20～40歳代　3名（男性　1名　女性　2名）
ウ．50～60歳代　6名（男性　4名　女性　2名）
エ．70歳以上　2名（男性　0名　女性　2名）
不明　2名

問4　あなたは普段、運動やスポーツを行っていますか。
ア．週に1日以上　7名（男性　3名　女性　4名）
イ．1月に1～3日　2名（男性　1名　女性　1名）
ウ．数か月に1～3日　1名（男性　0名　女性　1名）
エ．ほとんどしていない　4名（男性　2名　女性　2名）
オ．不明　1名

問5　この体験教室をどこでお知りになりましたか。
ア．チラシを見て　4名（栄村社会福祉協議会　1名）
イ．家族から　1名
ウ．学校から　0名
エ．知人から　5名
オ．その他　4名（郵送　1名））
不明　1名

問6　本日の体験教室のご感想をお聞かせください。
ア．満足　13名
イ．概ね満足　1名
ウ．普通　1名

問7　本日の体験教室の時期はいかがでしたか。
ア　満足　14名　不明　1名

問8　今後もこうした体験教室があれば参加したいと思いますか。
ア．参加したい　13名
ウ．その他　2名（仕事の都合がつけば　1名・どちらでもいい　1名）

「中信地区障がい者スポーツ体験教室」開催要項

1　目的
日頃、地域に身近な場所で、スポーツ（運動）に接する機会の少ない障がい者（児童生徒を含む）に、その楽しさを体験していただきスポーツの習慣化へつなげ、地域における障がい者スポーツの更なる普及振興を図る。

2　主催
長野県障がい者スポーツ指導者中信地区協議会

3　共催
社会福祉法人上松町社会福祉協議会
公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会

4　協力
上松町教育委員会

5　後援
長野県木曽養護学校　木曽保健福祉事務所（予定）
上松町（予定）木曽町（予定）南木曽町（予定）木祖村（予定）王滝村（予定）大桑村（予定）
社会福祉法人木曽町社会福祉協議会（予定）社会福祉法人南木曽町社会福祉協議会（予定）
社会福祉法人木祖村社会福祉協議会（予定）社会福祉法人王滝村社会福祉協議会（予定）
社会福祉法人大桑村社会福祉協議会（予定）
NPO法人上松町こども未来会議　一般社団法人 木曽ひのきっ子ゆうゆうクラブ
木曽障がい者総合支援センターともに

6　開催期日
平成31年1月19日（土）

7　会場
上松町公民館・社会体育館　　木曽郡上松町大字小川１７０６番地

8　内容
・お楽しみスポーツ：ブラインド用ビームライフル、スポーツ吹矢などの体験
・ゴールボール体験
・車椅子バスケットボール体験(エキシビジョン3X3)

9　日程
9：30　受付
10：00　開会
オリエンテーション&準備運動
10：30　スポーツ体験　（ゴールボール、スポーツ吹矢、ブラインド用ビームライフル）
12：00　午前修了
12：00　昼　休憩
13：30　車いすバスケットボール観戦
車いすバスケットボール体験
15：00　閉会

長野県障がい者スポーツ体験教室　中信地区大会

フェスタ in 木曽！

パラリンピック種目を体験してみませんか？

お問い合わせ：障がい者スポーツ指導員のいる下記の事業所
上松町社会福祉協議会（0263-52-3560）尾崎、学童保育おひさまクラブ（0264-52-3395）小林
大桑村地域活動支援センターくわっこ工房（0264-55-4447）上田（かみだ）

平成30年度「障がい者スポーツ体験教室」は地域の障がい者スポーツ指導員が中心となって、障がい児者にスポーツや運動の楽しさを啓蒙・普及すると共に、支援サポーターのネットワークづくりを目的として開催される事業です。住民参加による「する」「観る」「支える」基盤をつくり、応援者を増やします。

参加ご希望の方は連絡員事業所へ、FAXまたはお電話下さい。
（FAXの場合は下記名簿に記入の上、送信下さい）
★ 上松町社会福祉協議会(0264-52-3560・FAX0264-52-5544)尾崎
★ 学童保育おひさまクラブ(0264-52-3395 FAX共通)小林
★ 大桑村地域活動支援センターくわっこ工房(0264-55-4447 FAX共通)上田(かみだ)
しめきり　1月7日(月)

当日のスケジュール

◎ 午前の部(公民館・体育館他)
10時　開会、準備運動・・・社会体育館
10時半　体験開始
・スポーツ吹き矢
的に向かって、息を強く吹くだけ
・ゴールボール
3対3で目隠しをして、ボールの音をたよりに、シュートをさせないでゴールをねらう
・ビームライフル
目隠しをしてレーザーの音で的の中心を狙い、得点を競います
12時　お昼休憩(各自ご用意ください)

◎ 午後の部
13時半　車いすバスケット
① 模擬試合観戦(小学校体育館)
② 選手と一緒に体験
ふるってご参加を！
15時　閉会（気をつけてお帰り下さい）

＊公民館駐車場の混雑が予想されますので、
懐丸区域をご利用の方は、申し込み時に
あらかじめお知らせください。事前に駐車場の確保をいたします。
（公民館以外に、上松小学校駐車場及び上松小学校校庭南側を駐車場にします）

参加者名簿(FAX用)　　**しめきり　1月7日（月）**

参加者氏名	所属	連絡先	参加者氏名	所属	連絡先

【主催】長野県障がい者スポーツ指導者中信地区協議会
【共催】上松町社会福祉協議会、長野県障がい者スポーツ協会
【後援】上松町、上松町教育委員会、木祖村、木曽町、王滝村、大桑村、南木曽町、木祖村社会福祉協議会、木曽町社会福祉協議会、王滝村社会福祉協議会、大桑村社会福祉協議会、南木曽町社会福祉協議会、木曽保健福祉事務所、木曽養護学校、(NPO法人)上松町こども未来会議、(一般社団法人)木曽ひのきっ子ゆうゆうクラブ、木曽障がい者総合支援センターともに

信濃毎日新聞

2019年（平成31年）1月20日 日曜日

目隠し球技 児童ら白熱

木曽地方でパラ競技体験会

障害者と健常者が一緒にパラリンピックスポーツを体験する催し「パラ・スポフェスタ in 木曽！」が19日、上松町社会体育館などで開かれた。県障がい者スポーツ指導者中信地区協議会の主催で、約80人が参加。車いすバスケットや視覚障害者向けの球技「ゴールボール」など4競技を体験した。

ゴールボールを体験する子どもたち

催しは2027年に県内で開く全国障害者スポーツ大会に向け、選手を育てるとともに、一般の人に競技を知ってもらう狙い。中信地区では3年目で、木曽地方では初めて開いた。

「ゴールボール」は3人ずつのチームで対戦。目隠しをして、鈴の入ったボールを交互に転がして相手ゴールを狙った。小学生らは「いくぞ」「かかってこい」と声を掛け合い、ボールから聞こえる音を頼りに体を伸ばしてゴールを守った。上松小学校2年生の織田琉希君（8）は「音だけで判断するのは難しかったけれど、面白かった」と話した。

このほか、視覚障害者が対象でバイアスロン競技の一つビームライフルは、照準が的に近づくと音が高くなる仕組み。参加者たちは、競技で使うのと同じライフルを使って試射していた。

キッズ支援指導者派遣事業について

公益財団法人
長野県障がい者スポーツ協会

1　目的
要望に応じて、障がい者スポーツ指導員等を学校や施設へ派遣し、地域における スポーツ活動を通じた健康づくりを支援する。
また、指導者派遣を行い、障がい者スポーツへの理解を促すと共に、地域における障がい者スポーツ活動の機会拡大を目指す。

2　派遣依頼について
（1）派遣対象者は、１８歳以下で希望する者とする。
（2）依頼者は、別紙様式による障がい者スポーツ指導員の派遣申込みにより、日時、場所、依頼内容、必要な人数等を明記し、派遣依頼文書を長野県障がい者スポーツ協会へ提出する。

3　派遣にかかる経費について
（1）キッズ支援事業の規約により、謝金１時間１，０００円、旅費は実費支給とする。
（2）学校から派遣依頼があった場合は、当協会が負担する。
（3）個人または施設等の団体から派遣依頼があった場合は、依頼者の負担とする。
（4）県外の団体から派遣依頼があった場合は、依頼者の負担とする。

4　保険について
（1）依頼者において、障がい者スポーツ指導員の保険（スポーツ保険またはスキー保険）に加入する。
（2）補償内容の基準は以下のとおりとする。
≪スポーツ保険≫
死亡・後遺障害８００万円、入院日額３，０００円、通院日額２，０００円
≪スキー保険≫
死亡・後遺障害１，０００万円、入院日額１万円、通院日額５，０００円、
個人賠償責任２，０００万円

5　その他
（1）昼食等の必要事項については、その都度依頼者と調整する。
（2）活動中の事故等については、当協会では一切の責任を負わないものとする。

キッズ支援事業　サマーキャンプ開催要項

1　開催趣旨
日ごろ、スポーツをする機会のない障がいのある子どもたちが、様々なスポーツを同じ世代の子どもたちとの出会いの中で体験をし、これから続けていけるスポーツを見つける機会と友達とのネットワーク作りをする機会を提供する。

2　主　催
公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会

3　協　力
（一社）長野県理学療法士会／（一社）長野県作業療法士会／
長野県障がい者スポーツ指導者協議会

4　開催日
平成３０年８月４日・５日（土・日）

5　開催場所
長野県障がい者福祉センターサンアップル（長野県長野市大字下駒沢 586）

6　宿泊場所
長野県障がい者福祉センターサンアップル（長野県長野市大字下駒沢 586）

7　参加資格
対象者はキッズ支援事業の目的に賛同し行事に参加する、長野県内に在住する 18 歳未満（満 18 歳となる日の属する年度末までは 18 歳未満とみなす）の障がい児・者で一人で参加できる方。※多数応募の場合は抽選を行う。

8　定　員
１５名

9　費　用
参加費　２，２００円（宿泊料・食事）

10　申込み方法
参加申込用紙に、必要事項を記入の上、当協会へ郵送またはFAXでお申込みください。

11　申込締切
平成３０年７月６日（金）まで

日程表

日程　1日目　8月4日（土）

時間	内　容	備　考
１３：３０	受付開始	サンアップル２０２会議室
１４：００	サマーキャンプ　開会式	
１４：１０	キャンプの説明・自己紹介	
１４：３０	体験教室	体調をみて、随時休憩・水分補給
１６：３０	体験教室終了	
１７：００	休憩	和室・各部屋
１７：３０	夕食＆交流会	
１９：００	入浴開始	
２１：３０	消灯	明日の衣類準備等

日程　2日目　8月5日（日）

時間	内　容	備　考
６：３０	起床・健康チェック	
７：３０	朝食	
８：３０	トイレ促し 着替え・準備 荷物まとめ	
９：３０	水泳教室	体調をみて、随時休憩・水分補給 （２グループに分かれる。１グループ１時間ずつ）
１１：２０	水泳教室終了	水分補給・着替え 荷物まとめ・トイレ
１２：００	キャンプ閉会式　修了書授与	サンアップル２０１会議室
１２：２０	解散	

サマーキャンプ

楽しい夏の思い出をつくろう！

○日時　平成３０年8月4日・5日（土・日）
○場所　長野県障がい者福祉センター「サンアップル」
（長野市大字下駒沢586）
○対象　県内に居住する18歳未満の障がい児・者で、一人で参加できる方
○定員　１５名（応募多数の場合は抽選します）
○参加費　２，２００円［宿泊費、食費（1泊2食分）］
○申込方法　参加申込用紙に必要事項を記入して、当協会まで郵送または、FAXでお申込ください。
○申込締切　平成３０年7月6日（金）まで
○その他　保護者の方は、送迎をお願いします。
［集合場所］サンアップル202会議室
［解散場所］サンアップル201会議室

平成３０年度キッズ支援事業サマーキャンプ（８月４日、５日）

アンケートまとめ（参加者）

参加者　１１名（アンケート回答3名）

①　日程について

ア）ちょうど良かった…1名　　イ）日帰りで良い
ウ）もう少し長い方が良い…2名
・2 泊 3 日ぐらい
・お昼の食事をしてから解散の方がいいと思う

②　日にちについて

ア）ちょうど良かった…2名　　イ）変更した方が良い…1 名
ウ）その他　　名
・お祭りと同じ日なので、できれば

③　場所について（地域）

ア）良かった…3名　　イ）他地域が良かった

④　プログラムの内容について

（1）スポーツ体験（体育館）

・車いすに乗った事が楽しかったようです。
・楽しくできました。体育館半面で良いと思います。
・今年は猛暑だったので、涼しい体育館でよかったと思います。普段しないスポーツを体験出来て楽しかったそうです。

（2）水泳体験（プール）

・プールは大好きなので楽しんで遊べたようです。
・楽しかったです。水泳以外のレクリエーションの工夫が必要だと思います。
・泳ぎを教えてもらうことができてよかったそうです。

⑤　宿泊施設について

・いつも利用しているサンアップルの施設なので、子どもも安心して泊まれました。
・泊まっていないので分かりません。
・食事はお弁当だったけど、おいしかったそうです。

⑥ その他、キャンプに参加された感想を、ご自由にお書きください。

・去年は、帰ってから機嫌が悪かったのですが、今年は帰ってからも機嫌よく、体調も崩さなかったです。とても楽しかったようでした。他の学校の子どもと交流でき、いい経験をさせて頂きました。また、来年も参加させていただければと思っています。

・皆さん楽しくできて良かったです。

・夏休み、親が仕事で忙しく旅行にも連れていくことができなかったので、親から離れて泊まる貴重な経験出来て良かったです。来年が最後になると思いますが、参加できれば良いかな？と思っています。年齢が近い人がいて欲しかったです。写真データありがとうございました。

⑦ 今後のキッズ支援事業へのご要望をお書きください。

・キャンプ場でのサマーキャンプもしていただけるとありがたいです。

・引続きチアダンス、ウィンターキャンプお願いします。

・日帰りのスポーツ体験沢山やって欲しいです。

三重県障がい者スポーツ振興事業

◆三重県障がい者スポーツフェスティバル 2018

◆地域障がい者スポーツ教室

◆陸上競技チームづくり支援事業

◆水泳指導者、支援者育成事業

三重県障がい者スポーツ協会

事業概要

◆実施（申請）協会名	三重県障がい者スポーツ協会		
◆計画書作成者	柳内　唯		
◆企画・実施担当者	柳内　唯	◆経理担当者	柳内　唯

全体事業名称	三重県障がい者スポーツ振興事業
委託費	¥1,800,000
地域の実情・課題点	・スポーツをしたいとの問い合わせが増え、既存の競技団体を紹介するが、練習に参加が難しい地域の方や、ある程度の競技力が必要な集団での活動が難しい方が多い。また、地域で楽しみながら気軽に体を動かせるような活動の場を求めても、交流や健康維持が図れる環境作りができていない。 ・県内の中学校、特別支援学校の生徒が授業以外で運動しておらず、また、学校卒業後にスポーツを辞める人も多い。 ・障がいを理解した支援者や協力者の確保が難しい。
総合的な事業の目的	・パラリンピック及び第21回全国障害者スポーツ大会三重とこわか大会の開催にむけ、県民への障がい者スポーツの啓発、大会開催の機運の向上を図る。 ・身近な地域で楽しく体を動かせる環境をつくり、障がい者スポーツに取り組むきっかけづくりや選手の発掘・育成に繋げる。また、障がい者スポーツ指導員等が地域で活動できるよう支援する。
総合的な事業のねらい	障がい者スポーツの普及・啓発を図る。 障がい者の参加意欲の向上と機会の充実や選手発掘・育成を図る。 障がい者スポーツ指導員等の活動の機会の充実を図る。

事業名	
事業①	三重県障がい者スポーツフェスティバル2018
事業②	地域障がい者スポーツ教室
事業③	陸上競技チームづくり支援事業
事業④	水泳指導者、支援者育成事業
事業⑤	

各事業における事業報告

実施協会名	三重県障がい者スポーツ協会		
事 業 名	三重県障がい者スポーツフェスティバル2018		
事業内容	車いすフェンシング競技観戦や障がい者スポーツ競技体験（ボッチャ、フライングディスク、車いすツインバスケットボール、ゴールボール、サウンドテーブルテニス）、車いすフェンシング選手との交流、レーサー試乗、義足歩行体験等を実施。また、競技用具の展示・紹介コーナーや障がい者スポーツパネル展示、競技団体コーナーを設け、障がい者スポーツや県内で活動する競技団体についてPRした。 開催にあたり、事前に3回の実行委員会を行い、内容や当日までの準備等について検討し、事後にも次年度に繋げるために実行委員会を行い、反省点等を話し合った。		
開催日時	平成30年10月28日（日）		
会　　場	津市久居体育館		
参 加 者	92名（身体 12名、知的 15名、精神 1名、その他の障がい・健常等 64名）		
人員体制	【実行委員会】 第1回：13名、第2回：17名、第3回：14名、第4回：14名（協会職員5名含む） 【フェスティバル】 115名 （協会職員（センター職員）8名、実行委員 12名、競技団体等その他協力者 95名）		
連携団体名 （箇条書き）	県車椅子バスケットボール連盟、県車いすテニス協会、県ハンディキャップサッカー連盟、県電動車椅子サッカー協会、県精神障害者スポーツ（バレーボール）連絡会、県障害者フライングディスク協会、県聴覚障がい者バレーボール部、県知的障がい者バスケットボールチーム、大和鉄脚走行会、県身障者スポーツ吹矢協会、県視覚障害者協会サウンドテーブルテニス部、県知的障がい者バレーボールチーム、セイラビリティ三重、三重ソーシャルフットボールコミュニティ、みえ障がい者陸上競技協会、松本義肢製作所、県理学療法士会、県作業療法士会、県立特別支援学校長会、県身体障害者福祉施設協議会、県障がい者スポーツ指導者協議会、県スポーツ推進委員協議会、県立津高等学校ダンス部		
実際の事業での 連携団体の役割	各競技団体、県理学療法士会、県作業療法士会及び障がい者スポーツ指導員には、各競技体験コーナーの運営の協力をいただいた。また、競技体験以外の部分では、障がい者スポーツを知っていただくため、障がい者スポーツ用具の展示・紹介や競技団体PRブース等を設け、競技団体や障がい者スポーツ指導員に協力をいただいた。三重とこわか大会のPRのため、三重県より啓発グッズを借用したり、オープニングでは高等学校のダンス部に三重とこわか国体・三重とこわか大会イメージソングのダンスを踊っていただく等、協力いただいた。その他、県内特別支援学校や小・中・高等学校、福祉団体や相談支援センター等、案内周知に協力いただいた。障がい者スポーツリーフレット作成にあたり、県広域スポーツセンターにご協力いただき、県内の総合型地域スポーツクラブの情報を掲載し、今後の連携に繋がるきっかけづくりができた。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	県障がい者スポーツ指導者協議会に依頼し、ボッチャとゴールボールの競技体験コーナーの運営を中心に行っていただいた。実際に近い競技規模を体感していただけるようにと事前に手作りのゴールを作製し、参加者がより楽しめるよう工夫しながら、フェスティバルを盛り上げていただいた。障がい者スポーツの普及・啓発に大きな役割を担っていただいている。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	17
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	17
スポーツ用具の 整備・活用について	購入なし。		

各事業における事業報告

実施協会名	三重県障がい者スポーツ協会			
事 業 名	地域障がい者スポーツ教室			
事業内容	県内を4地域（北勢、中勢、南勢、伊賀・名張）に分けて、障がい者スポーツ教室（ボッチャ、フライングディスク等）を2回ずつ行った。 事前に、障がい者スポーツ指導員に集まっていただき内容等の打合せ会を実施し、各地域ごとに教室を行った。 教室開催後、総括として意見交換会を実施。	県内2地域でバレーボール、バスケットボール体験教室を行った。 県内選手を発掘、育成するため、チームの練習拠点以外の会場で実施。		
開催日時	【北勢地域、中勢地域、南勢地域】 ①平成30年10月21日(日) ②平成30年11月18日（日） 【伊賀・名張地域】 ①平成30年10月7日(日) ②平成30年11月18日（日）	【バレーボール】 ①平成30年10月21日（日） ②平成30年12月16日（日） 【バスケットボール】 ①平成30年11月24日（土） ②平成30年12月16日（日）		
会　　場	【北勢地域】 県立特別支援学校西日野にじ学園 体育館 【中勢地域】 三重県身体障害者総合福祉センター 体育館 【南勢地域】 県立度会特別支援学校 体育館 【伊賀・名張地域】 県立特別支援学校伊賀つばさ学園 体育館	①四日市市障害者体育センター ②河芸体育館		
参 加 者	【北勢地域】 ①3名（視覚1名、知的1名、健常（付添）1名） ②5名（視覚1名、知的2名、健常（付添）2名） 【中勢地域】 ①8名（肢体6名、知的1名、健常（付添）1名） ②9名（肢体9名） 【南勢地域】 ①10名（肢体4名、知的1名、健常（付添）5名） ②9名（肢体4名、健常（付添）5名） 【伊賀・名張地域】 ①5名（知的2名、健常（付添）3名） ②10名（知的4名、健常（付添）6名） 計　59名	【バレーボール】 ①15名（知的15名） ②21名（知的20名、精神1名） 【バスケットボール】 ①11名（知的11名） ②11名（知的11名） ※チーム選手含む 計　58名		
人員体制	【事前打合せ会】 17名（協会職員5名、障がい者ｽﾎﾟｰﾂ指導員12名） 【教室】 10月：27名 （協会職員4名、障がい者ｽﾎﾟｰﾂ指導員17名、ｽﾎﾟｰﾂ推進委員6名） 11月：26名 （協会職員5名、障がい者ｽﾎﾟｰﾂ指導員17名、ｽﾎﾟｰﾂ推進委員4名） 計　53名 【総括】 15名（協会職員4名、障がい者ｽﾎﾟｰﾂ指導員11名）	【バレーボール】 ①6名（協会職員1名、チームスタッフ5名） ②10名 （協会職員1名、チームスタッフ6名、スポーツ推進委員3名） 【バスケットボール】 ①3名（協会職員1名、チームスタッフ2名） ②4名（協会職員1名、チームスタッフ3名） 計　23名		
連携団体名 （箇条書き）	県立特別支援学校西日野にじ学園、県立度会特別支援学校、県立特別支援学校伊賀つばさ学園、県障がい者スポーツ指導者協議会、県スポーツ推進委員協議会	県知的障がい者バレーボールチーム、県知的障がい者バスケットボールチーム、県スポーツ推進委員協議会、河芸町総合型地域スポーツクラブ		
実際の事業での 連携団体の役割	開催会場である3校には、会場の確保や備品借用等に協力いただき、学校によって当日の鍵の開閉や教室の様子を見に来ていただくところもあった。障がい者スポーツ指導員及びスポーツ推進委員には、当日の運営、サポートを、その他、県内特別支援学校や小・中学校、相談支援センター等には、案内周知に協力いただいた。	2021年に開催される全国障害者スポーツ大会三重とこわか大会に向けてチームを結成したが、選手が集まっていないチームもあり、選手発掘、育成を図るため、チームスタッフに運営協力をいただいた。バレーボール体験教室では、河芸町総合型地域スポーツクラブに会場確保の協力をいただき、当日は会員及びスポーツ推進委員の3名の方にサポートしていただくことができた。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	地域障がい者スポーツ教室は、県障がい者スポーツ指導者協議会に運営を依頼し、企画、運営、検討等連携して実施できた。事前打合せ会にて各地域毎に内容等を検討し、当日はそれぞれの会場で工夫しながら、参加者が楽しめるよう運営。教室開催後は、総括として、今回の反省や今後に向けての意見交換会を実施。今後も継続した地域でのスポーツ活動の実施に繋げられる事業となった。課題としては、地域によって協力指導員数に差があるため、より充実した教室となるよう協力指導員を増やしていくことが必要である。		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	22
			本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	34
スポーツ用具の 整備・活用について	アキュラシーゴール1セット、ディスク10枚、ドッヂビー12個、ミニソフトバレーボール8個、空気入れ4個を購入し、地域障がい者スポーツ教室にて活用。長期の貸出を検討し、昨年度整備した用具と合わせて、各地域での活動等に活用していく。			

各事業における事業報告

実施協会名	三重県障がい者スポーツ協会		
事 業 名	陸上競技チームづくり支援事業		
事業内容	みえ障がい者陸上競技協会が発足し、練習の基盤が整えられるよう、また、活動の周知や選手の発掘・育成を図るため、教室を4回行った。 指導者のスキルアップや支援者を増やすため、指導者講習会を実施。		
開催日時	【教室】 ①平成30年8月25日（土） ②平成30年10月20日（土） ③平成30年11月10日（土） ④平成30年12月1日（土） 【指導者講習会】 平成30年12月9日（日）		
会　　場	【教室】 ①三重県身体障害者総合福祉センター　グラウンド ②③④AGF鈴鹿陸上競技場 【指導者講習会】 三重県身体障害者総合福祉センター　体育館		
参 加 者	【教室】 ①8名（肢体4名、知的4名） ②9名（肢体5名、知的4名） ③12名（肢体4名、知的7名、精神1名） ④17名（肢体6名、知的10名、精神1名） 計　46名 【指導者講習会】 22名（健常22名）		
人員体制	【教室】 ①9名（協会職員1名、競技団体7名、その他1名） ②6名（協会職員1名、競技団体5名） ③12名（協会職員1名、競技団体8名、その他3名） ④12名（協会職員1名、競技団体7名、その他4名） 計　39名		
連携団体名 （箇条書き）	みえ障がい者陸上競技協会、県内特別支援学校、県障がい者スポーツ指導者協議会、三重陸上競技協会、三重大学陸上競技部		
実際の事業での 連携団体の役割	みえ障がい者陸上競技協会に教室の運営に協力いただいた。また、県立特別支援学校の教員はじめ、三重陸上競技協会、障がい者スポーツ指導員にも支援いただいた。最終日の教室では、三重大学陸上競技部の方に協力いただくことができた。その他、県内特別支援学校や小・中学校、相談支援センター等、案内周知に協力いただいた。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	みえ障がい者陸上競技協会を支援している障がい者スポーツ指導員が参加し、教室の運営・サポートを行った。陸上競技経験者が多く、各種目ごとに分かれて選手とともに体を動かしたり、アドバイスしたりしながら支援をしていた。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	9
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	20
スポーツ用具の 整備・活用について	ストップウォッチ4個を購入し、教室にて活用。今後も練習会等で貸出しを行なったり、他事業でも使用しながら活用していく。		

各事業における事業報告

実施協会名	三重県障がい者スポーツ協会		
事 業 名	水泳指導者、支援者育成事業		
事業内容	水泳の指導者、支援者を育成するため、指導者講習会を実施。 その後、身体障がい者を対象とした教室を行い、実践として指導した。		
開催日時	【指導者講習会】 平成30年9月17日（月・祝） 【教室】 平成30年12月8日（土）		
会　　場	三重交通Ｇ スポーツの杜 鈴鹿　水泳場		
参 加 者	【指導者講習会】 6名（健常6名） 【教室】 5名（身体5名）		
人員体制	【教室】 5名（協会職員1名、講習会受講指導者4名）		
連携団体名 （箇条書き）	県水泳連盟、県内特別支援学校、県障がい者スポーツ指導者協議会		
実際の事業での 連携団体の役割	指導者講習会では、県水泳連盟、県内特別支援学校、県障がい者スポーツ指導者協議会、県スポーツ推進委員協議会等に案内周知に協力いただき、講習会に参加いただいた。教室では、講習会を受講した県水泳連盟の指導者4名に協力いただき、指導していただいた。その他、県内特別支援学校や小・中学校、相談支援センター等、案内周知に協力いただいた。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	他事業での水泳教室や全スポ練習会を実施しても、なかなか障がい者スポーツ指導員の協力が得られにくい状況である中、今回の指導者講習会に障がい者スポーツ指導員1名が参加した。 障がい者スポーツ指導員の中には、水泳経験者もいるため、そのような方が水泳に関わってもらえるような働きかけが必要であり、課題である。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	0
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	0
スポーツ用具の 整備・活用について	購入なし。		

事業全体の評価

実施（申請）協会名	三重県障がい者スポーツ協会		
全体事業名称	三重県障がい者スポーツ振興事業		
委託費	¥1,800,000	決算額	¥1,902,022
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	どの事業も、成果は小さいが、それぞれ目的を達成することはできた。より達成度を上げるためには、参加者を増やすこと、継続して事業を実施し広めていくことが必要である。広報の仕方が課題であり、情報が広く周知できていないことが今回の反省点である。また、障がい者スポーツを普及・啓発、振興していくためには支援者の力が重要であり、関係ができているところとは連携をしながら、そして新たに関係をつくっていけるよう取り組んでいくことが必要である。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	限られた人、団体の協力ではあるが、事業前よりも連携が深まっており、また、少しずつ新たな繋がりもできてきている。フェスティバルでは、競技団体や関係団体同士が連携して実施することで、関係性ができ、他事業での連携にも繋がっている。また、地域障がい者スポーツ教室では、障がい者スポーツ指導員が主となって取り組み、自分たちで考え、実施することで指導員同士の繋がりが深まり、活動の促進に繋がっている。		
費用に関する所見	事業実施にあたり、用具の整備や協力者への謝金、案内等の郵送等、有効に使用することができた。障がい者スポーツリーフレットを作成することで、全国障害者スポーツ大会や県内活動団体等についての情報を広く発信することができ、総合型地域スポーツクラブとの繋がりをつくるきっかけとなった。リーフレットを見て障がい者スポーツについての問合わせが何件かあり、大変反響があった。		
今後の課題や今後の事業展開（具体的方策・展望）	2020年東京オリンピック・パラリンピック、2021年三重とこわか大会に向けて、より県内に障がい者スポーツを普及・啓発できるよう、広報を工夫しながら、今回の事業を継続して実施していく。県内は広く、開催場所（地域）や参加者及び協力者の数が一番の課題であり、一人でも多くの方が参加できるよう検討しながら取り組んでいきたい。		
参加者や関係団体からの声	今回、初めて地域障がい者スポーツ教室を実施し、身近な地域で参加しやすく、楽しくスポーツに挑戦することができ、参加者や保護者から大変好評であった。関係団体からは、フェスティバルや教室等、地道に、継続して実施していくことが大切であるという意見が多かった。		
その他所見	この事業を通じ、県内の障がい者スポーツの振興を図ることができた。少しずつ障がい者スポーツへの理解が広がり、関心も高まってきているが、活動の場がなかったり、身近に感じられずまだまだ認知されていないことも多い。県内全域に広げるためには、地域での障がい者スポーツ振興が大変重要であり、今後も継続して取り組んでいきたい。		

三重県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（1） 三重県障がい者スポーツフェスティバル 2018

事業の様子

②資料

実施要項、参加申込書、チラシ、プログラム、参加者アンケート結果、協力者アンケート結果、実行委員会事項書及び議事録

三重県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（２） 地域障がい者スポーツ教室

事業の様子

②資料

・地域障がい者スポーツ教室

　チラシ

・バレーボール、バスケットボール体験教室

　チラシ

三重県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（３） 陸上競技チームづくり支援事業

事業の様子

②資料

・陸上競技教室

実施要項、参加申込書、チラシ

・指導者講習会

実施要項、参加者アンケート結果

三重県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（４） 水泳指導者、支援者育成事業

事業の様子

観戦しよう！　車いす フェンシング　体験しよう！

NPO 法人
日本車いすフェンシング協会
強化指定選手
恩田 竜二選手　来場！

ボッチャ、フライングディスク
ゴールボール、義足歩行
車いすツインバスケットボール
サウンドテーブルテニス など

平成 30 年度障害者スポーツ振興事業
地域における障がい者スポーツの振興事業

三重県障がい者スポーツフェスティバル 2018

知ろう！

とこまる缶バッチを作ろう！

障がい者スポーツパネル・競技用具の展示、紹介
県内障がい者スポーツ競技団体のＰＲ など

10月28日（日）
12：15～16：00
《受付 11：30～》

場所：津市久居体育館

入場無料

年齢、障がいの有無に関わらず
どなたでもご参加いただけます！

【申込み･問合せ】事前申込み要（当日参加も可）
三重県障がい者スポーツフェスティバル実行委員会
事務局
社会福祉法人三重県厚生事業団
三重県身体障害者総合福祉センター内
三重県障がい者スポーツ協会
〒514-0113　津市一身田大古曽 670-2
TEL：059-231-0800／FAX：059-231-0801
MAIL：sport@mie-reha.jp

11：00～12：00、16：00～17：00 の間、久居駅⇔会場の送迎バスを運行します。ご希望の方は事前にお申込みください。

平成30年度障害者スポーツ振興事業　地域における障がい者スポーツの振興事業

地域障がい者スポーツ教室

ボッチャ、フライングディスクなどのスポーツやレクリエーションで
楽しく体を動かしませんか？

参加費無料

北勢地域　三重県立特別支援学校 西日野にじ学園

中勢地域　三重県身体障害者 総合福祉センター

南勢地域　三重県立 度会特別支援学校

伊賀・名張地域　三重県立特別支援学校 伊賀つばさ学園

【北勢・中勢・南勢地域】
①10月21日（日）10:00～12:00
②11月18日（日）10:00～12:00

【伊賀・名張地域】
①10月 7日（日）10:00～12:00
②11月18日（日）10:00～12:00

※1日のみでも両日でもお申込みいただけます。申込み多数の場合は、調整させていただきます。

- 動きやすい服装（ジャージ等）でご参加ください。
- 飲みもの、タオル、着替えなどをご用意ください。
- 体育館シューズをご持参ください。

参加対象者：小学5年生以上の障がい児・者
（介助・支援が必要な方は、付添者と共にご参加ください）

【問合わせ・申込み】
三重県障がい者スポーツ協会　事務局
（三重県身体障害者総合福祉センター　障がい者スポーツ推進課内）
ＴＥＬ　059-231-0800 ／ ＦＡＸ　059-231-0801
メール　sport@mie-reha.jp

平成30年度障害者スポーツ振興事業　地域における障がい者スポーツの振興事業

陸上競技教室

障がいのある方を対象とした陸上競技教室を開催します。
走ったり、跳んだり、投げたり…一緒に身体を動かしましょう!!

①8/25（土）　10：00～12：00　※雨天中止
三重県身体障害者総合福祉センター　グラウンド
（津市一身田大古曽670-2／059-231-0155）
※公共交通機関：津駅西口からバス（夢が丘団地行）
または JR一身田駅から徒歩

参加費無料
複数回の参加OK!!
1回のみの参加も大歓迎!!

②10/20（土）　③11/10（土）　④12/ 1（土）　13：00～15：00
AGF鈴鹿 陸上競技場　※小雨実施
（鈴鹿市桜島町七丁目1-3／059-383-9010）
※公共交通機関：伊勢鉄道玉垣駅から徒歩
または近鉄白子駅西口からバス（鈴鹿病院行）

運動ができる服装（ジャージ等）、運動靴（ランニングシューズ）でご参加ください。
飲み物、タオル、着替えをご用意ください。
スパイクをお持ちの方は、ご持参ください。

参加対象者：小学5年生以上の障がい者

【問合わせ・申込み】
三重県障がい者スポーツ協会　事務局
（三重県身体障害者総合福祉センター　障がい者スポーツ推進課内）
ＴＥＬ　059-231-0800 ／ ＦＡＸ　059-231-0801
メール　sport@mie-reha.jp　（当日の実施確認：TEL 059-231-0155）

平成 30 年度障害者スポーツ振興事業
「地域における障がい者スポーツの振興事業」

身体障がい者水泳教室

身体に障がいのある方を対象とした水泳教室を開催します！
あまり距離を泳ぐことができない方、水泳経験者でブランクのある方…
ぜひみんなで楽しく泳ぎましょう！
初心者の方も大歓迎です。みなさんのご参加をお待ちしております！

12／8（土）
三重交通G スポーツの杜 鈴鹿　水泳場（サブプール）
13：00 ～ 15：00　（受付 12：40～）

- 参加対象者
  小学5年生以上の身体に障がいのある方で、25m泳ぐことができない方。
  または、過去に水泳をしていて現在ブランクのある方。
  ※介助が必要な方は、必ず介助者と一緒にご参加ください。
  （介助者も水着を着用してください）
- 定員
  15名（先着順とさせていただきます）
- 申込方法・締切
  参加申込書に必要事項を記入のうえ、FAX又は郵送にてお申込ください。
  平成 30 年 11 月 30 日（金）必着

申込み・問合せ先
＜三重県障がい者スポーツ協会事務局＞
社会福祉法人三重県厚生事業団
三重県身体障害者総合福祉センター
障がい者スポーツ推進課内　柳内・伊藤・上山
〒514-0113　津市一身田大古曽670-2
TEL：059-231-0800 ／ FAX：059-231-0801

地域における障がい者スポーツの振興事業

◆障害者スポーツ広場事業

◆競技別チャレンジスポーツ教室事業

滋賀県障害者スポーツ協会

事業概要

◆実施（申請）協会名	滋賀県障害者スポーツ協会		
◆計画書作成者	伊勢坊美喜		
◆企画・実施担当者	池内友紀・小林一憲	◆経理担当者	吉成　永部

全体事業名称	滋賀県障害者スポーツ振興事業
委託費	¥1,000,000
地域の実情・課題点	平成29年度の滋賀県障害者スポーツ大会の参加者実数は７７３名。延べ参加者数は１０７４人。近年の参加者の推移をみると、身体障害者では高齢者の参加者が多く、身体1部（学校在籍者）の参加者は微増しているものの、20歳代～40歳代の参加者は減少傾向にある。一方、知的障害者では少年の部（養護学校高等部在籍者）の参加は増加傾向にあるが、学校卒業後の参加につながっていない。このことから、学校在籍時から卒業後も継続してスポーツができる場づくりが必須である。また、新たにスポーツの楽しさを知ってもらえる機会をつくり、大会参加につなげる必要もある。この環境を整えるには、地域で核となる障がい者スポーツ指導員を中心に、学校・スポーツ推進委員・総合型地域スポーツクラブ・障害者スポーツクラブなどの協力を得て、身近な地域でスポーツを楽しむ機会を作ることが必要となる。しかし、約３５０名いる障がい者スポーツ指導員のうち、実際に活動している指導員は１割程度と少なく、指導者協議会としての活動も脆弱である。また、琵琶湖が県の真ん中に位置することから湖南・湖北・湖東・湖西エリアに分かれているアクセス面や、障害者福祉センターがある湖南エリアにスポーツ活動の場が集中するなど、障害者スポーツの普及・振興にも地域格差があるのが現状である。さらに、全国障害者スポーツ大会の滋賀県開催の県民への認知度は低く、障害者スポーツの普及・啓発に併せ、全国大会の周知活動が必要である。このように山積する課題を解決していくためにも、本事業での地域振興事業に是非とも取り組んでまいりたい。
総合的な事業の目的	①身近な地域での継続的なスポーツ活動の場の創出。 ②①のため、各地域の障がい者スポーツ指導員を中心に、関係団体との連携・協働で地域で障害者スポーツを推進する 人材を増やす。 ③②より、障害者スポーツの地域振興体制を整備、障害者スポーツを通して共生社会を実現する。
総合的な事業のねらい	・障害者へのねらい 継続的なスポーツ活動の場の創出→　障害者のスポーツ人口の増加→　滋賀県障害者スポーツ大会参加者増 ・スポーツ指導員へのねらい 指導員を中心として本事業を実施→　事業企画 ・地域とのネットワークの拡大 →　地域で障害者スポーツ活動の核となる 指導員を育成 ・県民へのねらい 障害者スポーツの理解啓発→　関係団体との連携 ・協働により障害者が地域でスポーツができる環境整備→　全国障害者スポーツ大会にむけ機運醸成を促進

事業名	
事業①	障害者スポーツ広場事業
事業②	競技別チャレンジスポーツ教室事業
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告

実施協会名	滋賀県障害者スポーツ協会		
事 業 名	障害者スポーツ広場事業		
事業内容	公共スポーツ施設を使用し、月1回土曜日をベースに、フライングディスク、ボッチャ、卓球バレー、ふうせんバレー、レクリエーションスポーツを実施。 また、開催までに指導員のみでプレ広場を実施し、広場の理解と開催に向けての意見交換会議を行う。		
開催日時	プレ広場　平成30年10月 8日（月祝）9:00～12：00　　13：00～16：00　意見交換会議 第1回　　10月20日（土）　9:00～12：00　　12：00～12：30　反省会 第2回　　10月27日（土）　9:00～12：00　　12：00～12：30　反省会 第3回　　11月10日（土）　9:00～12：00　　12：00～12：30　反省会 第4回　　12月 8日（土）　9:00～12：00　　12：00～12：30　反省会 第5回　平成31年 1月 5日（土）　9:00～12：00　　12：00～12：30　反省会		
会　　場	におの浜ふれあいスポーツセンター　アリーナ（大津市）		
参 加 者	第1回　平成30年　10月20日（土）　6名　（知的　4名　身体　0名　付添人　2名） 第2回　　10月27日（土）　28名　（知的　20名　身体　0名　付添人　8名） 第3回　　11月10日（土）　29名　（知的　18名　身体　2名　付添人　9名） 第4回　　12月 8日（土）　91名　（知的　70名　身体　0名　付添人　21名） 第5回　平成31年　1月 5日（土）　74名　（知的　55名　身体　3名　付添人　16名） ※大津市からの参加者が主だったが、草津市、栗東市、湖南市からの参加もあった。		
人員体制	プレ広場　平成30年10月 8日（月祝）16名 第1回　平成30年10月20日（土）　21名 第2回　　10月27日（土）　17名 第3回　　11月10日（土）　18名 第4回　　12月 8日（土）　25名　（内：大津市スポーツ推進委員　９名） 第5回　平成31年　1月 5日（土）　27名　（内：東近江市スポーツ推進委員　６名　同市スポーツ課　２名） その他協会スタッフ　3～4名体制		
連携団体名 （箇条書き）	共催：におの浜ふれあいスポーツセンター（施設提供、スタッフ派遣、周知協力） 共催：滋賀県障がい者スポーツ指導者協議会（スタッフ派遣、周知協力、プレ広場の参加） 協力：滋賀県レクリエーション協会（スタッフ派遣） 協力：大津市スポーツ推進委員協議会（スタッフ派遣） 協力：東近江市スポーツ推進委員協議会（スタッフ派遣） 協力：東近江市スポーツ課（スタッフ派遣） 協力：社会福祉法人　おおつ福祉会（周知協力） 協力：大津市特別支援研究連盟（周知協力）		
実際の事業での 連携団体の役割	におの浜ふれあいスポーツセンターは、施設と用具の提供とスタッフの派遣、ホームページでの周知。 滋賀県障がい者スポーツ指導員協議会は、主にスタッフの派遣と運営。 滋賀県レクリエーション協会は、スタッフの派遣とレクリエーションブースの担当。 大津市のスポーツ推進委員、東近江市スポーツ推進委員、東近江市スポーツ課はスタッフの派遣と次年度に向けた協力。 (社福)おおつ福祉会は、関係事業所へメールでの周知。 大津特別支援研究連盟は、協会が担当教諭集会で広場の説明を行い、その後対象となる生徒へチラシで周知。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	協会と連携をとりながら、広場の運営を担当。 また、プレ広場後の意見交換会議をはじめとする、各反省会では、指導員が実施における工夫や課題点などをあげ、情報共有することで、次回の広場で改善された。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	25
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	108
スポーツ用具の 整備・活用について	ボッチャ、フライングディスクゲッターなどを購入し、広場事業で活用。活動拠点となっているにおの浜ふれあいスポーツセンターに設置し、定期的な活用を行った。		

各事業における事業報告

実施協会名	滋賀県障害者スポーツ協会		
事 業 名	競技別チャレンジスポーツ教室事業		
事業内容	県大会の参加増に繋がる競技別スポーツ教室を実施。選定種目は、５月からの学校訪問で人気のあった、卓球、陸上、水泳の３種目。入門教室として、ワンポイントアドバイスや指導者も参加者の障害に応じた指導方法を考えて、指導者の資質の向上、障害理解と障害者スポーツクラブ等の協力を仰ぎ、参加者の競技力向上を目指した。		
開催日時	①平成３０年１２月８日（土）　：卓球競技　　１３：３０～１５：３０ ・平成３１年１月２６日(土)　　〃　　１０：００～１６：００ ②平成３０年１２月９日（日）　：陸上競技　　９：００～１１：００ ③平成３０年１２月９日（日）　：水泳競技　　１１：３０～１４：００		
会　　場	①平成３０年１２月８日（土）　：県立障害者福祉センター ・平成３１年１月２６日(土)　：県立スポーツ会館 ②平成３０年１２月９日（日）：立命館大学（ＢＫＣ） ③平成３０年１２月９日（日）：県立障害者福祉センター		
参 加 者	①卓球競技：１１名 ・　〃　：２１名 ②陸上競技：１５名 ③水泳競技：１０名　合計５７名		
人員体制	①卓球競技：　９名　協会スタッフ２名 ・　〃　　７名　　〃　　１名 ②陸上競技：１０名　　〃　　２名 ③水泳競技：　３名　　〃　　２名　　合計３６名		
連携団体名 （箇条書き）	①卓球競技：滋賀県障がい者卓球連盟 ②陸上競技：滋賀県障がい者スポーツ指導者協議会・立命館大学 ③水泳競技：滋賀友泳会		
実際の事業での 連携団体の役割	競技別に関係団体に指導を仰ぎ、教室開始前には、できるだけ参加者の要望と障害レベルを確認し、個々の指導に活かせるようにする。指導者協議会から派遣の指導員には、指導の補助員として協力頂き、陸上競技では講師による指導ノウハウを勉強し、今後に活用してもらう。また、立命館大学の陸上競技部にはグランド借用の後押しやピットの準備などの協力を頂いた。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	チャレンジスポーツ教室は、卓球、陸上、水泳のそれぞれの専門の指導員の方々に協力を得て、スムーズな運営ができた。水泳、卓球の指導者の多くは、障害者スポーツ指導員の有資格者であり、障害に応じた指導を行うことで指導のスキルアップに繋げる。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	27
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	36
スポーツ用具の 整備・活用について	主として滋賀県障害者スポーツ協会の備品を使い、卓球競技、陸上競技、水泳競技のチャレンジスポーツ教室が実施できた。また、消耗品となる卓球ボール、屋内屋外にでも指導が行き届く拡声スピーカーの活用により、活動・運営がやり易くなった。		

事業全体の評価

実施（申請）協会名	滋賀県障害者スポーツ協会		
全体事業名称	滋賀県障害者スポーツ振興事業		
委託費	¥1,000,000	決算額	¥1,001,791
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	＊参加者増を目指し、早期立案調整 スポーツ広場、競技別チャレンジスポーツ教室ともに、関係部署が年間予定に盛り込めるように早期立案し幅広く広報することで、開催場所との調整や、参加する児童・生徒への周知とアプローチが可能になる。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	＊県内他拠点への事業展開 障害者スポーツの裾野を広げるためのスポーツ広場（平成３０年度は大津）が運営出来たことで、今後は県内の他の複数拠点にも広がるノウハウとなった。		
費用に関する所見	＊謝礼の見直しによる低減 協力団体への謝礼のあり方について、競技クラブや障がい者スポーツ指導者協議会が率先して運営できるようにノウハウを習得してもらい、指導力の向上を図ることで経費の低減につながる。		
今後の課題や 今後の事業展開 （具体的方策・展望）	＊参加者増のための魅力作り 参加者の足の確保が大きな課題であることから、複数拠点での開催を検討する。多種目を開催する際には、参加者に魅力ある内容づくりと安心して参加できるような体制にするため、若手や、より多くの指導員のスキルアップが必要となる。合わせて、参加者の継続したスポーツ活動につながる、地域ごとに協力を頂けるコミュニティやクラブ指導者の増員が必要。		
参加者や 関係団体からの声	＊事業の継続と他拠点でも要望 滋賀県障害者スポーツ協会の年間計画事業に組み入れることで、参加者及び協力団体にも開催が周知されて、参加協力しやすくなり、参加者増と安定したスタッフの確保につながる。		
その他所見	＊県予算への組み入れを要望 ２０２４滋賀大会の成功に向けて、障害者スポーツの裾野を広げる「広場事業」と県大会参加人数増を図る「チャレンジスポーツ教室事業」は継続して実施していく必要から滋賀県が予算化することを要望する。		

滋賀県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

障害者スポーツ広場事業

事業の様子

開催日　　プレ広場　１０月８日（月・祝）

広場　　１０月２０日（土）、１０月２７日（土）、１１月１０日（土）

１２月　８日（土）、　１月　５日（土）

会場　　におの浜ふれあいスポーツセンター（大津市）

打合せ

受付

準備体操

１０月８日（月祝）　プレ広場　（スタッフ：１６名）

１０月２０日（土）２７名（参加者：６名　スタッフ：２１名）

１０月２７日（土）　４５名（参加者：２８名 ｽﾀｯﾌ：１７名）

１１月１０日（土）４７名（参加者：２９名 ｽﾀｯﾌ：１８名）

１２月８日（土）　１１６名（参加者：９１名 ｽﾀｯﾌ：２５名）

１月５日（土）１０１名（参加者：７４名 ｽﾀｯﾌ：２７名）

②資料 別添１　要項

(公財)日本障がい者スポーツ協会委託事業

障害者スポーツ広場要項

１　目的

地域・行政・施設との連携を深め、障害者が気軽にスポーツに親しむ機会の拡大と継続的なスポーツ活動の定着を図るとともに地域での障害者スポーツの普及・振興を目的とし、障害者が身近な地域でスポーツ活動に参加できる環境づくりを進めるため「スポーツ広場」を開催する。

２　主催

滋賀県障害者スポーツ協会

３　共催

におの浜ふれあいスポーツセンター、滋賀県障がい者スポーツ指導者協議会、

４　協力

滋賀県レクリエーション協会、大津市スポーツ推進委員協議会、大津市障害者スポーツ協会、

５　日時・場所

①　日時

１０月２０日（土)、１０月２７日（土)、１１月１０日（土)、１２月　８日（土)、
１月　５日（土）　　各日程　９時００分から１２時００分

②　場所

におの浜ふれあいスポーツセンター

〒520-0801　大津市におの浜４丁目２番 40 号

℡　077-527-3553

６　実施種目

フライングディスク、ボッチャ、卓球、スラローム、ふうせんバレー、卓球バレー、
レクリエーションスポーツ、遊び感覚でできる体の動かし方や基礎トレーニングなど

７　参加料・参加対象者

参　加　料：無料

参加対象者：滋賀県在住の障害者とその家族及び付添人

８　申込方法

当日受付にてお名前等をご記入ください。※事前の申し込みは必要ありません。

９　持ち物

運動に適した服装、体育館シューズ、タオル、飲み物　等。

10　その他

⑴　受付時に記入していただいた個人情報は事務作業のほかには使用しませんが、申込内容等を確認する場合、連絡させていただく事があります。

⑵　主催者が一括して傷害保険に加入しますが、事故などが発生した場合の応急処置を除き、一切の責任は負いません。

【　申込先・問い合わせ先　】

〒520-0807　滋賀県大津市松本１丁目２－２０　滋賀県農業教育情報センター５階

滋賀県障害者スポーツ協会　　【担当：池内】

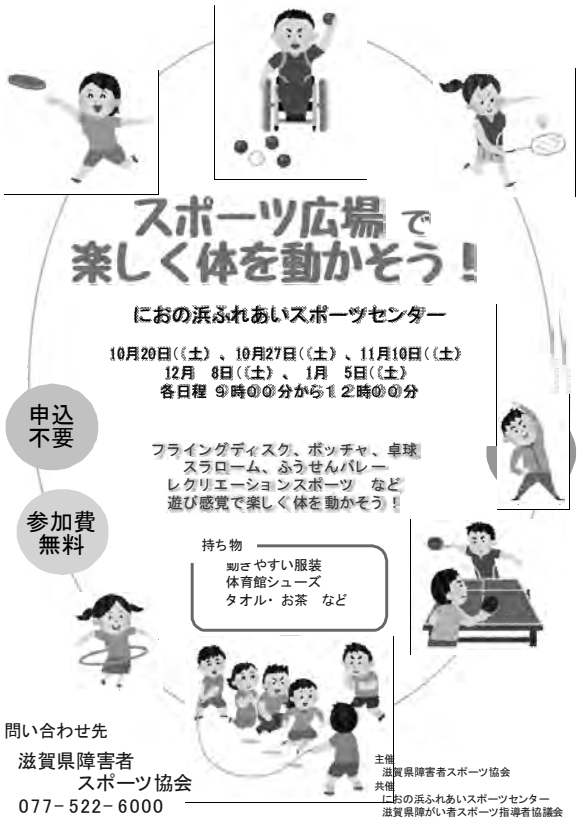
TEL:077-522-6000　　FAX:077-521-8118

②資料 別添２　チラシ

会場までのアクセス

におの浜ふれあいスポーツセンター

所在地	〒520-0801 滋賀県大津市におの浜4丁目2番40号
アクセス	JR・京阪電鉄「膳所」駅より徒歩約15分
TEL	077-527-3553
営業時間	9:00～21:00 [プール] 9:00～20:45 土曜日のみ13:00～20:45 [障がい者無料開放プール] 毎週土曜日9:00～12:00
休館日	毎週火曜日（祝日の場合は営業）
駐車場	31台（内身障者専用3台）



②資料 別添３　広場案内（内容紹介）

スポーツ広場の様子

① 卓球バレー･卓球

② バスケット（スローイン）

③ ボウリング

④ ボッチャ

⑤ ふうせんバレー

⑥ パラバルーン

スポーツ広場では、参加者さんとスタッフが一緒に身体を動かして楽しみます。

②資料 別添４　広場アンケート

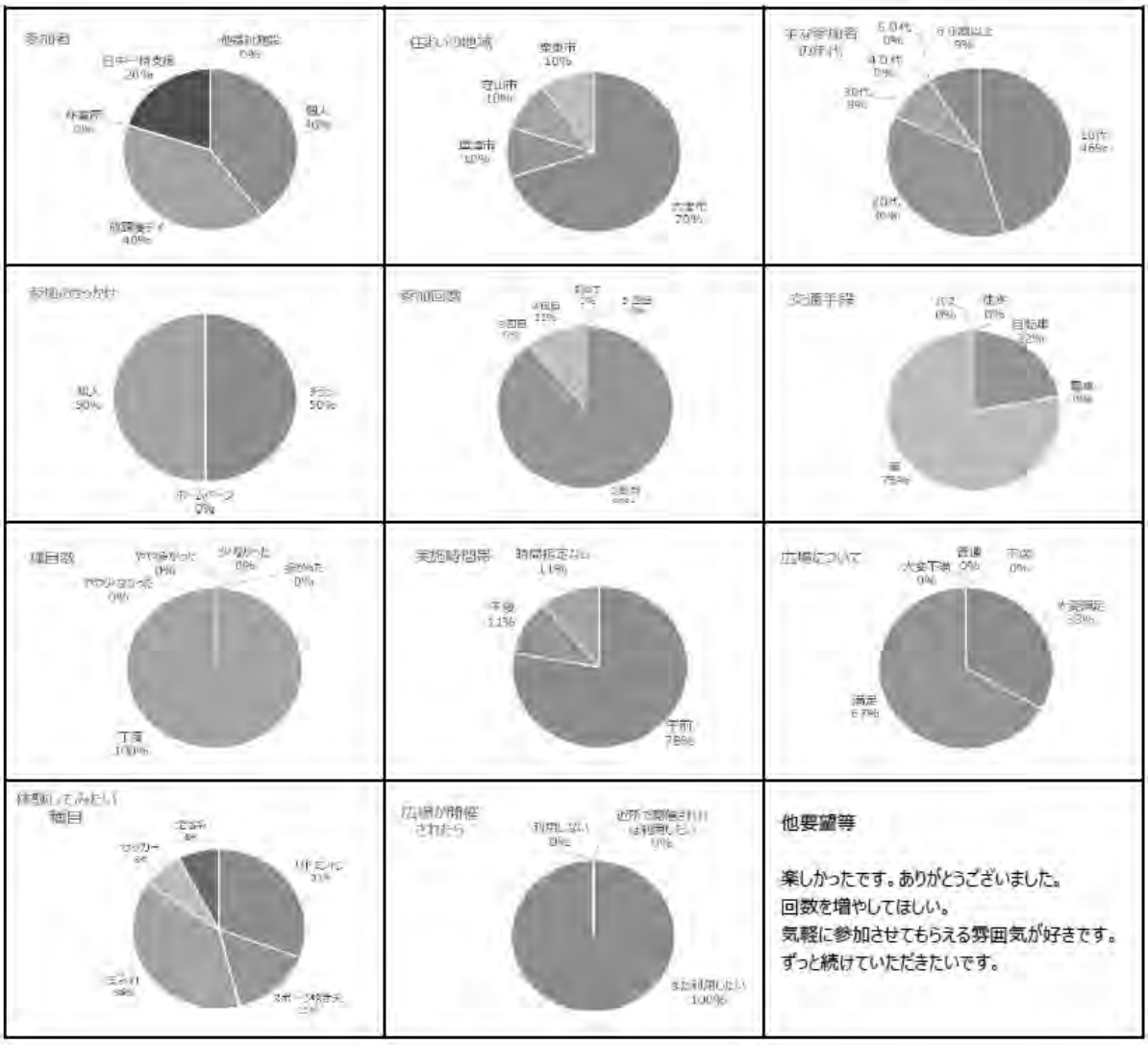
スポーツ広場　アンケート

この度はご来場いただき誠にありがとうございました。 よろしければ下記アンケートにご協力ください。

参加者	□ 個人　□ 放課後等デイサービス　□ 作業所　□ 日中一時支援　□ 他福祉施設
お住まい（事業所）の所在地域	□ 大津市　□ 草津市　□ 栗東市　□ 守山市　□ 野洲市　□ 甲賀市 □ 湖南市　□ 高島市　□他（　　市・町）
主な年代	□１０代　□２０代　□３０代　□４０代　□５０代　□６０歳以上
参加人数（付添含む）	□１人　□２人　□３人　□４人　□５人以上　□１０人以上　□１５人以上
参加のきっかけ	□チラシ　□ホームページ　□ 知人　□その他（　　）
参加回数は	□ 初めて　□２回目　□３回目　□４回目　□５回目
主な交通手段	□ 徒歩　□ 自転車　□ 電車　□車　□ バス
種目について	□ 多かった　□やや多かった　□ 丁度　□ やや少なかった　□ 少なかった
実施時間について	□ 午前　□午後　□他希望時間帯（　　）
広場について	□ 大変満足　□ 満足　□ 普通　□ 不満　□ 大変不満
体験してみたい種目	□ バドミントン　□ スポーツ吹き矢　□ 玉入れ　□他（　　）
広場が開催されたら	□ また利用したい　□ 近所で開催されれば利用したい　□ 利用しない
他要望がございましたらご記入ください。	

アンケートのご協力ありがとうございました。

1月5日の最終日に、保護者・付添人にアンケートを実施



他要望等

楽しかったです。ありがとうございました。
回数を増やしてほしい。
気軽に参加させてもらえる雰囲気が好きです。
ずっと続けていただきたいです。

滋賀県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

障がい者のスポーツ教室事業：競技別チャレンジスポーツ教室事業

事業の様子

卓球競技：１２月８日（土）滋賀県立障害者福祉センター

１月２６日（土）県立スポーツ会館

水泳競技：１２月９日（日）滋賀県立障害者福祉センター

陸上競技：１２月９日（日）立命館大学ＢＫＣグラウンド

チャレンジスポーツ教室

（卓球競技：参加者１１名）

技術ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ風景

（平成３０年１２月８日：滋賀県障害者福祉センター）

卓球競技ミーティング風景（参加者２１名）

（平成３１年１月２６日：滋賀県立スポーツ会館）

チャレンジスポーツ教室　　３グループ別指導風景

（水泳競技:参加者１０名）

（平成３０年１２月９日：滋賀県障害者福祉センター）

チャレンジスポーツ教室　（陸上競技:参加者１５名）

３グループ別指導風景　　ウォーミングアップ風景

（平成３０年１２月９日：立命館大学　ＢＫＣグラウンド）

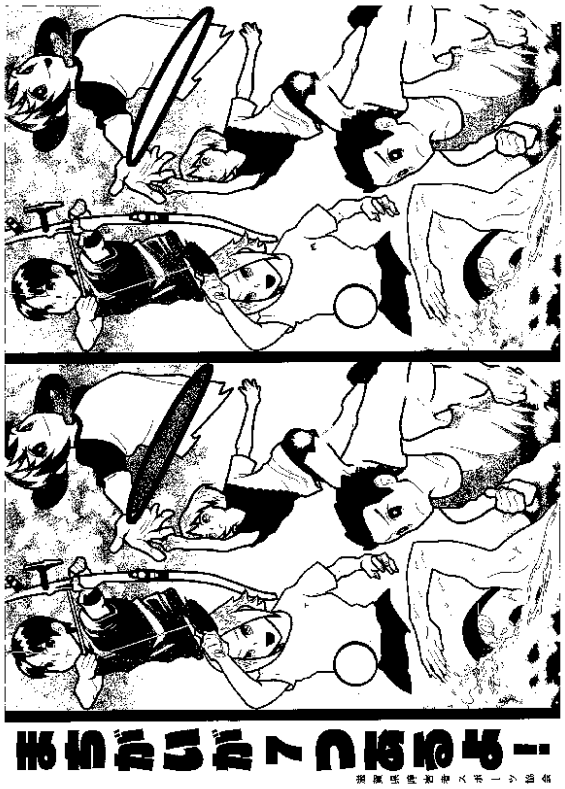
走り幅跳び　　１００ｍ競走

ソフトボール投げ

１５００ｍ競走

②資料

添付２－１　チラシ　（教室参加申込書）　　添付資料２－１　チラシの裏面ＰＯＰ



添付２－２　競技別チャレンジスポーツ教室実施要綱

競技別チャレンジスポーツ教室実施要綱

1　目　的
障害者競技クラブ、障害者スポーツ指導員等の協力のもと、競技別のチャレンジスポーツ教室を開催することで県大会への参加者増を図る。また、参加した競技の継続を希望する者は障害者スポーツクラブへ繋げることで、生涯にわたり継続したスポーツ活動の場を提供する。

2　主　催
滋賀県障害者スポーツ協会

3　協　力
滋賀県障がい者卓球連盟、滋賀水泳会、立命館大学
滋賀県障がい者スポーツ指導者協議会　　他関係団体

4　実施について
（1）日時
平成３０年１２月８日（土）：卓球競技
平成３０年１２月９日（日）：陸上競技・水泳競技
（2）場所
滋賀県立障害者福祉センター（アリーナ、プール）
立命館大学（BKC　グラウンド）
（3）実施種目
卓球、水泳競技、陸上競技

5　対　象
小学校４年生から特別支援学校高等部までの身体障害、知的障害のある児童「障害者手帳の有無」は問いません。
6　定　員
各競技：１５人程度（定員になり次第締切りとし、決定者にはご案内いたします。）
7　参加料
無料
8　申込方法
別紙参加申込書に必要事項を記入のうえ、FAX又は郵送で申し込んでください。
9　申込み締切
１１月３０日（金）

添付２－３　参加申込書

「競技別チャレンジスポーツ教室事業」参加申込書

ふりがな 名前				男・女
住所	〒			年齢 歳
電話番号 （自宅 or 携帯）				
学校名または 施設名				年生
同伴の方の お名前	保護者の方　（　　） 学校、施設の先生（　　） その他　（　　）			
参加希望種目 ※希望の種目に 【○】を ご記入下さい	① 卓球競技	【12月8日(土)】 (13:30～15:30)	【　】	場所 障害者福祉センター
	② 陸上競技	【12月9日(日)】 (9:00～11:00)	【　】	場所 立命館大学BKC
	③ 水泳競技	【12月9日(日)】 (12:00～14:00)	【　】	場所 障害者福祉センター
主なスポーツ歴	＊種目（　　） ＊歴年（　　年）　＊頻度（　　/週）（　　/月）			
指導へのご要望が あればご記入ください				
参加方法	・自家用車　・電車　・バス　・徒歩			
障害区分	・身体障害　　・知的障害			
※障害者手帳をお持ちの方は手帳に記載の障害名全文を記してください。				
※身体に障害のある方は該当するところに○をしてください。 ・手動車いす使用　・電動車いす使用　・杖使用（　　本） ・下肢装具使用　・独歩可能				
※参加に伴いドクター等から運動制限があればご記入ください。また、心配なこと、不安に思っていることがあればご記入ください。				

申込み先：滋賀県障害者スポーツ協会　　【FAX】077－521－8118【TEL】077－522－6000
【郵送先】〒520－0807　大津市松本1丁目2－20
滋賀県農業教育情報センター5階　【小林】

添付２－４　チャレンジスポーツ教室案内（卓球競技・陸上競技・水泳競技）

元気なみんな集れ！
チャレンジスポーツ教室

～卓 球 競 技～

日　程　　平成30年12月8日（土）
時　間　　13：30～15：30
場　所　　滋賀県障害者福祉センター
定　員　　15名（定員になり次第締め切り、決定者には通知致します。）
対象者　　知的障害者、身体障害者

＊持ち物
　運動に適した服装、シューズ、タオル、飲み物　等

事前申し込みが必要です！

お問い合わせ：滋賀県障害者スポーツ協会
〒520-0052　大津市松本１－２－２０（農業教育情報センター５階）
TEL　077－522－6000/FAX　077－521－8118
E-mail　info@shigassk.net　　（担当　小林）

元気なみんな集まれ！
チャレンジスポーツ教室

～ 陸 上 競 技 ～

日　程　　平成３０年　１２月９日（日）
時　間　　９：００～１１：００
場　所　　立命館大学　ＢＫＣ（陸上競技場）　＊小雨決行
定　員　　１５名（定員になり次第締切、決定者には通知致します。）
対象者　　知的障害者、身体障害者

陸上競技には、競走種目、投てき種目、跳躍種目があります。今回は以下の中から、得意種目にチャレンジしましょう！
※　お好きな種目を選んで参加いただけます。（いくつでも可）
①競走種目　：100m走　＜ 車いす使用者は、５０mに参加できます。＞
　　男子１５００m・女子８００m　他
②投てき種目：ソフトボール投く障害によりソフトボールが握れない場合は、ビーンバッグ投をします。＞
　　※ビーンバッグは１２ｃｍ×１２ｃｍの布などの中に、よく乾燥した大豆等を入れたものです。
③跳躍種目　：走幅跳（障害により、走ることが難しい場合は、立幅跳をします。）
＊全国障害者スポーツ大会の実施種目にチャレンジします！！

事前申し込みが必要です！

お問い合わせ：滋賀県障害者スポーツ協会
〒520-0052　大津市松本１－２－２０（農業教育情報センター５階）
TEL　077－522－6000/FAX　077－521－8118
E-mail　info@shigassk.net　　（担当　小林）

元気なみんな集まれ！
チャレンジスポーツ教室

～ 水 泳 競 技 ～

日　程　平成30年　12月9日（日）
時　間　12：00～14：00
場　所　滋賀県障害者福祉センター
定　員　15名（定員になり次第締め切り、決定者には通知致します。）
対象者　知的障害者、身体障害者

水泳には、自由形、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの各種目があります。
今回は、各種目＜25m自由形・25m背泳ぎ・25m平泳ぎ・25mバタフライ＞の中からお好きな種目を選んで参加いただけます。
泳法は自由ですので、ビート板や腰ヘルパー等の浮具を使って泳ぐこともできます。

事前申し込みが必要です！

お問い合わせ：滋賀県障害者スポーツ協会
〒520-0052　大津市松本1－2－20（農業教育情報センター5階）
TEL　077－522－6000/FAX　077－521－8118
E-mail　info@shigassk.net　（担当　小林）

添付２－５　実施後のアンケート（卓球競技・陸上競技・水泳競技　より）

アンケート　平成30年12月8日

「競技別チャレンジスポーツ教室」（卓球競技）

この度は、競技別チャレンジスポーツ教室にご参加いただきありがとうございました。今後の参考にしたいと思いますので、今回の教室についてご感想、ご意見を下欄にご記入ください。

記入者名：
参加者名：

基礎的練習をする機会は学校では無いのでとても良い機会になりました。
今回参加させていただいて今まで以上に卓球に興味をもてました。
今は卓球部に入ったりクラブチームにも入っていないので
クラブチームに入ったりしてみたいと思いました。気軽に参加できる
大会などにも挑戦してみたいです。

アンケート

平成30年12月9日

「競技別チャレンジスポーツ教室」（陸上競技）

この度は、競技別チャレンジスポーツ教室にご参加いただきありがとうございました。今後の参考にしたいと思いますので、今回の教室についてご感想、ご意見を下欄にご記入ください。

記入者名：

参加者名：

来年もお願いします。いろいろと教えて頂きありがとうございました。

先生のお話を聞いて動けるか、最後まで集中して参加できるかなど不安でしたが、本人もとても楽しそうで、「ボール投げしかしない！」と言っていたのに、ウォーミングアップや他の競技にも、~~とても楽しそう~~参加することが出来、~~とても~~すごく~~楽~~おどろいています。

本当に、ありがとうございました。

母

アンケート

平成30年12月9日

「競技別チャレンジスポーツ教室」（水泳競技）

この度は、競技別チャレンジスポーツ教室にご参加いただきありがとうございました。今後の参考にしたいと思いますので、今回の教室についてご感想、ご意見を下欄にご記入ください。

記入者名：

参加者名：

本日はお世話になり、ありがとうございました。

何より本人が楽しく生き生きと泳いでいる姿を見てうれしく思いました。

又、ぜひ参加させていただけたら…と思います。

本人には定期的に泳げる機会を作ってやりたいです。

障害者スポーツ連携推進プロジェクト２０１８

◆障害者スポーツ教室事業「カヌー普及体験プログラム」

◆障害者スポーツ理解啓発事業「地域・継続・大学」

◆組織連携推進強化事業「地域・組織をつなげる第一歩」

公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会

事業概要

◆実施（申請）協会名	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会		
◆計画書作成者	逢坂昌弘		
◆企画・実施担当者	増田和茂	◆経理担当者	久保田紋子

全体事業名称	障害者スポーツ連携推進プロジェクト２０１８
委託費	¥1,500,000
地域の実情・課題点	兵庫県は、淡路島含む瀬戸内側、中央山間部、日本海側は日本の縮図ともいわれる地域特性がある。これは、高齢化、就労環境、交通網、スポーツ環境含め障害者スポーツの地域格差は明瞭である。また、リハビリテーションから発展した障害者スポーツの歴史は、身体障害、中年層などに傾注した感が否めず、主に活動は室内競技が多く、屋外スポーツへの普及振興も課題である。そして、平成27年度から取り組み始めた各種事業を発展させるには、学校、企業、地域、関係団体などとの連携を充実させていくことが、　課題に向けた解決策として計画を推進させたい。
総合的な事業の目的	障害者スポーツの推進には、ライフステージでのスポーツ環境の整備、固定定着したスポーツ種目以外の環境づくり、地域における普及には支援者となる自治体（市町）の取り組み、また、大学の地域貢献などに協働することで生まれる地域の体制づくりに寄与できることを目的とする。2020年東京パラリンピックへの関心から「障害者スポーツの講演や体験事業」の需要が年々増え、使用する用具の不足解決による障害者スポーツの理解啓発を推進させていく。
総合的な事業のねらい	１　「カヌーの普及」：屋外スポーツの拡大と地域、学校への展開を図る。 ２　「障害者スポーツ理解啓発強化」（１）障害者スポーツの推進が低迷な地域への充実強化。（２）出前講座実施で必要な障害者スポーツ用具の整備により円滑な事業推進（３）大学との連携推進。 ３　組織連携推進強化：（１）スポーツ推進委員、市町スポーツ振興課等の関係化を創出させ、地域における障害者スポーツ推進をねらう。（２）障害者と身近に関係する医療関係者とスポーツ関係づくりに地域へつなげる

事業名	
事業①	障害者スポーツ教室事業「カヌー普及体験プログラム」
事業②	障害者スポーツ理解啓発事業「地域・継続・大学」
事業③	組織連携推進強化事業「地域・組織をつなげる第一歩」
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">障害者スポーツ教室事業「カヌー普及体験プログラム」</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td colspan="3">参加者
（１）安全安心なカヌーにつて説明
（２）保護者の対応
（３）パドルの使い方
（４）カヌーへの移乗、シッティング
（５）前進、ターン、後進
（６）フリータイム
（７）活動環境の紹介(情報)

スタッフ研修・打合せ
（１）カヌーの基礎知識
種類、扱い方肢体不自由者への補助用材
（２）パドルの使い方
（３）カヌーへの移乗方法とサポート
（４）転覆時のレスキュー
（５）プールから自然環境への展開</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="3">①平成30年7月18日（水）15時～17時30分
②平成30年7月19日（木）9時～12時
③平成30年9月8日（土）10時～16時
④平成30年9月24日（日）10時～15時30分
⑤平成30年12月4日（火）13時～17時
⑥平成30年12月9日（日）10時～15時30分</td></tr>
<tr><td>会　　場</td><td colspan="3">①②加古川市立養護学校(加古川市)
③高砂市民プール（高砂市）
④⑥ふれあいスポーツ交流館（たつの市）
⑤こうべしあわせの村（神戸市）</td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td colspan="3">①25名（健常者25名：養護学校教職員）
②25名（知的0名、肢体5名、健常20名
③22名（知的10名、肢体5名、健常7名）
④38名（知的25名、肢体3名、健常10名）
⑤24名（知的15名、肢体1名、視覚1名、健常7名）
⑥28名（知的15名、肢体3名、健常10名）</td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td colspan="3">①4名（カヌー協会1名、障害者ｽﾎﾟｰﾂ協会3名）
②24名（カヌー協会1名、障害者ｽﾎﾟｰﾂ協会3名、教職員20名）
③22名（カヌー協会1名、障害者ｽﾎﾟｰﾂ協会3名、障害者スポーツ指導者協議会3名、施設職員12名、高砂市3名）
④14名（カヌー協会1名、障害者ｽﾎﾟｰﾂ協会3名、障害者スポーツ指導者協議会5名、施設職員5名）
⑤22名（カヌー協会1名、障害者ｽﾎﾟｰﾂ協会4名、施設ボランティア13名、施設職員3名、神戸市3名）
⑥12名（カヌー協会1名、障害者ｽﾎﾟｰﾂ協3名、障害者スポーツ指導者協議会3名、施設職員5名）</td></tr>
<tr><td>連携団体名
（箇条書き）</td><td colspan="3">日本障害者カヌー協会
ひょうご障害者スポーツ指導者協議会
加古川市教育委員会
高砂市教育委員会スポーツ振興課
こうべ市民福祉振興協会</td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td colspan="3">実施会場は、会場となる管理者が事前に確保。企画調整と参加者募集には、各市教育委員会、スポーツ振興課、こうべ市民福祉振興協会が市報表記や広報用チラシの配布をする。なお、広報チラシは、兵庫県障害者スポーツ協会がデザインから発注、保険加入手続き等の担当。技術指導は、日本障害者カヌー協会から派遣依頼し、安全管理含めスタッフに事前学習をする。実施に係る用具の準備、運搬手配及び補助員には、障害の理解経験のある「ひょうご障害者スポーツ指導者協議会」に依頼し、派遣された指導者会員が会場準備、乗艇支援、プール内でのレスキュー対応に配置。その他、情報の周知に、「障害者スポーツネットひょうご」を通じたチラシ配布やWEB公開などに協働する。</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割・活用について</td><td>ひょうご障害者スポーツ指導者協議会に協力依頼し、教室運営の補助員として役割を担った。会員には昨年度同事業の経験者もあり、またスポーツ施設職員での有資格者もいたことから準備、乗艇補助、プール内でのレスキュー対応にも支障のない事業展開ができた。しかし、平日の実施には、大半の会員は中高齢であることは現実である。障害者スポーツも自然環境での活動が増える中でアウトドア・スポーツへの支援体制も今後の課題である。</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数

本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td>11

11</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3">バスケットボール用車いすを1台購入し、当協会主催する「パラスポーツ体験事業」「障害者スポーツ用具展示」等にフル活用した。車いすのサイズは、やや大きめの採寸で製作し、誰もが乗車できる仕様とした。車いすは県立障害者スポーツ交流館で保管し、通常の施設利用者をはじめ、講習会、県下各地小中学校・高校が取り組む「総合学習」での活用にも利用されている。体験学習で一番に利用される用具は車いすであり、経年劣化、使用中の破損など満足した車いすが補充でき難い施設にとっては朗報の車いすとなった。</td></tr>
</table>

各事業における事業報告

実施協会名	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会		
事 業 名	障害者スポーツ理解啓発事業「地域・継続・大学」		
事業内容	（１）特定地域「南あわじ市・丹波市」 障害者スポーツ指導者協議会、障害者スポーツ団体、地域市町、福祉関係団体との連携協力で「講演、体験、交流、パラリンピック写真展他」プログラムの単一または複数の内容で企画実施する。 （２）一般地域推進強化（車いすの整備） 障害者スポーツ体験講座の継続に不足するバスケットボール用車いすの整備（@32万円）。整備後は、県立障害者スポーツ交流館で保管・活用し、各種事業で活用や学校、地域からの需要に貸し出しを行う。 （３）大学との連携 障害者スポーツ体験、交流プログラム：障害者スポーツ応援協定締結大学との協働事業。＊流通科学大学／姫路大学		
開催日時	①平成30年5月12日（土）10時～16時 ②平成30年5月13日（日）10時～15時 ③平成30年5月28日（月）13時～15時 ④平成30年8月22日（水）10時～16時 ⑤平成30年9月2日（日）10時～12時 ⑥平成30年10月6日（土）10時～16時＊台風で中止	⑦平成30年10月28日（日）10時～17時 ⑧平成30年11月3日（土）10時～16時 ⑨平成30年11月18日（日）13時～16時 ⑩バスケットボール用車いす活用：平成30年11月1日から10回の事業で活用。	
会　　場	①②トヨタハートフルプラザ(神戸市) ③流通科学大学（神戸市） ④南あわじ市文化体育館（南あわじ市） ⑤宝塚市総合福祉センター（宝塚市） ⑥プレンティ広場（神戸市）	⑦丹波の森公苑（丹波市） ⑧ショッピングセンターコープ神戸（丹波市） ⑨姫路大学（姫路市） ⑩いなみ野特別支援学校、加古川野口小学校、三木市自由が丘小学校、篠山東雲高等学校、三木中学校、神戸六甲アイランド高等学校、芦屋特別支援学校、神戸ハーバーランド、明石市他	
参 加 者	①225名（障害者115名、健常者100名） ②128名（障害者76名、健常51名 ③57名（肢体1名、健常56名） ④318名（知的45名、肢体23名、健常250名） ⑤95名（知的6名、肢体4名、健常85名） ⑥0名（台風の影響で中止）	⑦1300名 (知的35名、肢体10名、聴覚3名、健常1250名） ⑧250名（全般250名） ⑨105名 （知的33名、肢体29名、精神3名、健常40名） ⑩900名	
人員体制	①8名（実行委員会3名、障害者ｽﾎﾟｰﾂ協会2名、障がい者スポーツ指導者3名） ②18名（実行委員会10名、障害者ｽﾎﾟｰﾂ協会3名、障害者スポーツ指導者協議会5名） ③7名（ボッチャ協会1名、障害者ｽﾎﾟｰﾂ協会3名、大学教員3名） ④41名（パラ競技団体15名、障害者ｽﾎﾟｰﾂ協会3名、障害者スポーツ指導者協議会5名、実行委員会18名） ⑤13名（障害者ｽﾎﾟｰﾂ協会1名、宝塚市関係者12名） ⑥0名（台風で中止） ⑦11名（障害者ｽﾎﾟｰﾂ協会1名、障害者スポーツ指導者協議会8名、ボランティア2名） ⑧6名（障害者スポーツ指導者協議会4名、ボランティア2名） ⑨14名（競技団体4名、障害者ｽﾎﾟｰﾂ協会1名、障害者スポーツ指導者協議会4名、大学関係者5名）		
連携団体名 （箇条書き）	丹波GOGOフェスタ実行委員会／丹波市ｽﾎﾟｰﾂ推進委員会 ひょうご障害者スポーツ指導者協議会／流通科学大学 チームWeB／兵庫県車いすバスケットボール連盟／障害者スポーyツネットひょうご		
実際の事業での 連携団体の役割	実施会場は、会場となる管理者が事前に確保。企画調整と参加者募集には、各市教育委員会、スポーツ振興課、こうべ市民福祉振興協会が市報表記や広報用チラシの配布をする。なお、広報チラシは、兵庫県障害者スポーツ協会がデザインから発注、保険加入手続き等の担当。技術指導は、日本障害者カヌー協会から派遣依頼し、安全管理含めスタッフに事前学習をする。実施に係る用具の準備、運搬手配及び補助員には、障害の理解経験のある「ひょうご障害者スポーツ指導者協議会」に依頼し、派遣された指導者会員が会場準備、乗艇支援、プール内でのレスキュー対応に配置。その他、情報の周知に、「障害者スポーツネットひょうご」を通じたチラシ配布やWEB公開などに協働する。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	ひょうご障害者スポーツ指導者協議会に協力依頼し、教室運営の補助員として役割を担った。会員には昨年度同事業の経験者もあり、またスポーツ施設職員での有資格者もいたことから準備、乗艇補助、プール内でのレスキュー対応にも支障のない事業展開ができた。しかし、平日の実施には、大半の会員は中高齢であることは現実である。障害者スポーツも自然環境での活動が増える中でアウトドア・スポーツへの支援体制も今後の課題である。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	24
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	25
スポーツ用具の 整備・活用について	バスケットボール用車いすを1台購入し、当協会主催する「パラスポーツ体験事業」「障害者スポーツ用具展示」等にフル活用した。車いすのサイズは、やや大きめの採寸で製作し、誰もが乗車できる仕様とした。車いすは県立障害者スポーツ交流館で保管し、通常の施設利用者をはじめ、講習会、県下各地小中学校・高校が取り組む「総合学習」での活用にも利用されている。パラスポーツ体験学習で一番に利用される用具は車いすであり、使用頻度は高く、事業重複となったケース、車いすの経年劣化、使用中の破損など満足した車いすが補充でき難い施設にとっては朗報の車いすとなった。		

各事業における事業報告

実施協会名	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会		
事 業 名	組織連携推進強化事業「地域・組織をつなげる第一歩」		
事業内容	障害者スポーツの地域活性化には、その支援に関わる市町スポーツ振興課、総合型スポーツクラブ関係のスポーツ推進委員などの理解協力は必須である。これまでにもスポットで市町のスポーツ振興関係部局やスポーツ推進委員との接点はあるものの決して満足できるものではない。その対応策に「地域における障害者へのスポーツ振興」のガイダンスを講じることでの「第一歩」を進める機会として実施する。また、障害者スポーツアスリートマルチサポート事業での理学療法士との関係、2020東京パラリンピック開催決定の影響で医療関係者等から関心・協力の問い合わせなどがある背景を「医科学アプローチ連携」としての推進を図る。ひいては、競技力向上、健康へのスポーツ支援に好循環をねらう。		
開催日時	①平成３０年　９月１４日（金）１３時３０分～１５時３０分 ②平成３０年１１月３０日（金）１３時３０分～１５時３０分 ③平成３０年１２月１５日（金）１０時００分～１２時００分		
会　　場	①兵庫県民会館（神戸市） ②姫路市立中央体育館（姫路市） ③神戸学院大学ポートアイランドキャンパス（神戸市）		
参 加 者	①１５名（市町スポーツ振興課７名、スポーツ推進委員６名、公共スポーツ施設２名） ②３０名（市町スポーツ振興課２２名、スポーツ推進委員５名、公共スポーツ施設３名） ③３０名（医療関係者１０名、指導者５名、障害者２名、一般１３名）		
人員体制	①５名（障害者ｽﾎﾟｰﾂ協会４名、障害者スポーツ指導者１名） ②５名（障害者ｽﾎﾟｰﾂ協会４名、障害者スポーツ指導者１名） ③１０名（医療関係者５名、大学関係者１名、障害者ｽﾎﾟｰﾂ協会４名）		
連携団体名 （箇条書き）	兵庫県教育委員会スポーツ振興課 姫路市教育委員会スポーツ振興課 兵庫県理学療法士会 大阪歯科大学兵庫県同窓会		
実際の事業での 連携団体の役割	兵庫県教育委員会スポーツ振興：県下市町関係部署への配信、スポーツ推進審議会への告知 姫路市教育委員会スポーツ振興課：会場確保と視聴覚機器の買い出し提供 ひょうご障害者スポーツ指導者協議会：事例発表者の推薦		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	ひょうご障害者スポーツ指導者協議会員による「地域総合型スポーツクラブ（スポーツクラブ２１）」で実践事例（加古川市、篠山市）を紹介報告として登壇。地域における障害者スポーツの取り組み要領をスポーツ推進委員に教示する。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	2
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	2
スポーツ用具の 整備・活用について	なし		

事業全体の評価

実施（申請）協会名	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会		
全体事業名称	障害者スポーツ連携推進プロジェクト2018		
委託費	¥1,500,000	決算額	¥1,570,265
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	今年度の事業は、「オリンピック・パラリンピック東京2020」が近づき、県民の意識は高まり、その影響による兵庫県スポーツ推進関係部局をはじめ市町スポーツ振興課、企業や大学の関心が背景にあること、また40年に及ぶ本県における「障害者スポーツの連携」が基盤にあること、さらに平成27年度から「障害者スポーツ推進プロジェクト」に取り組む事業等が達成した要因と考える。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	本県における障害者スポーツの展開は、福祉領域色が優位であったが、準備、調整する過程で地域や学校、市町スポーツ振興所管課との関係が生まれ始めたことが変化と成果と考える。また、実施現場では、障がい者スポーツ指導者が参加したことで、その存在、役割機能が認知され始めたことは、今後の障害者スポーツの普及と発展に大きな成果であり、さらなる取り組みに期待されるところである。		
費用に関する所見	今年度事業で「バスケットボール用車いす」が購入できたことは、障害者スポーツの理解啓発事業を取り組むための大きな財産である。全体の事業費配分でほぼ計画どおりに目的や成果が得られたと自己評価する。事業の中では、「カヌー教室」は人気あるが用具運搬経費や人件費と参加者数を考えると今後継続することに受講者の一部負担も検討される。全体的には、バランスよく執行されたと判断する。		
今後の課題や今後の事業展開（具体的方策・展望）	地域における障害者スポーツ振興には、活動拠点の整備、貸出し用具の充実、県民との交流による理解啓発、特別支援学校におけるスポーツクラブの育成、特別支援学校卒業後のスポーツ参加支援体制、障がい者スポーツ指導者の活動環境と市町関係組織との連携推進、スポーツ分野の拡大、高齢障害者への健康運動事業などそれぞれの方策を講じることが重要と考える。その推進に好影響が期待される2020東京オリンピック・パラリンピック、そして2021年開催されるワールドマスターズゲームス関西階差の機運に乗じて、「障害者スポーツの理解啓発・交流」の仕掛けが展望として検討される。		
参加者や関係団体からの声	・カヌー教室：参加者からは環境や機会が僅少であることから継続した開催希望が強い。公共施設プールでは、夏季外の利用方法に評価される。 ・地域へのスポーツ推進には、地域関連事業に参画する方法が、人的、経済的に効果と評される。事業への企画経験が今後の活動に自信が持てた。 ・貸出の多い「バスケ用車いす」が増えたことで、保管施設として重宝。 ・医科学アプローチでは、横の連携がなく、今回で関係が生まれた。 ・障害者スポーツ指導者の地域での活動回数が増えた。		
その他所見	本県における障害者スポーツの推進に向けた事業に連動することが多々あり、委託事業とが好循環したと考える。ゴールデン・イヤーズ（2019年ラグビーワールドカップ、2020東京オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターゲームス2021関西）の機運に乗じて、より障害者スポーツが普及・発展することを意識したい。		

兵庫県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

事業写真　**障害者スポーツ教室事業「カヌー普及体験プログラム」**

①カヌー保管は特設ラック

②加古川養護学校で乗艇準備

③加古川養護学校プールで体験

④高砂市民プール（50m 屋外）

⑤参加者とスタッフ（高砂市民プール）

⑥親子体験（ふれあいスポーツ交流館）

⑦スタッフ交流（しあわせの村）

⑧カヌー競技者の協力（ふれあいｽﾎﾟｰﾂ交流館）

（1）　障害者スポーツ教室事業「カヌー普及体験プログラム」

平成29年度同事業で取り組んだ「カヌー体験事業」は、温水プールで計画実施して好評を得た。その実施には、全て用具をレンタル準備し、指導には日本障害者カヌー協会に依頼した。その事業考課から今後の普及活動をさらに進めるべく兵庫県は、カヌー4艇（シングル3艇、ツイン1艇）と必要な物品を平成31年3月に購入整備した。その用具は、今後活動拠点となる県立ふれあいスポーツ交流館（西播磨特別支援学校）に保管し、地域での実施展開には、ここから搬出運搬とする。今年度事業の計画実施会場には、「地域、養護学校、障害者優先スポーツ施設」とし、昨年度より対象や地域性及び市スポーツ振興課との関係づくりへと発展させた。実施の内容では、養護学校では教職員の事前学習会、市民プールでは、季節閉鎖されたプールの活用に指定管理者には目新しい取り組みとなり、継続する希望申し入れがあった。

（実績）　　＊(温)は室内温水プール

期　日	場　所	参加人数	スタッフ	計
7/18	加古川市立養護学校(温)	教職員25	4	２９
7/19	加古川市立養護学校(温)	障害５、教職員20	4	２９
9/08	高砂市民プール	障害15、保護7	２２	４４
9/24	ふれあいスポーツ交流館(温)	障害28、保護10	１４	５２
12/04	しあわせの村（温）	障害17、保護7	２２	４６
12/09	ふれあいスポーツ交流館	障害18. 保護10	１２	４２
	計	障害83、保護79	７８	２４０

（事業実施手順）

１実施会場の検討から決定

加古川養護学校会場は、2年前にウィルチェアラグビー選手の講演・実技と児童生徒との交流事業を実施したことから新たな取り組みで検討された。当養護学校には温水プールがあることや教職員でカヌー体験者があることなどの条件で計画した。高砂市民プール会場では、9月以降のプール有効利用と住民への新しい障害者スポーツへの計画する中で決定した。また、ふれあいスポーツ交流館（たつの市）は、今年度に施設事業計画があったこと、カヌーの保管場所であることからカヌーの拠点となることで決定した。

２調整・打合せ

実施には、運営スタッフの確保（看護師含む)、費用負担の確認、広報と受付、用具の運搬分担などを検討調整した。指導は昨年に続き、日本障害者カヌー協会より1名の派遣を依頼した。

３実施当日

・専門指導員の他、指導補助に障がい者スポーツ指導者協議会員、海洋スポーツ指導者や教職員、市民プール管理会社スタッフ、施設スポーツボランティアが当たった。

・用具の運搬は、民間運送会社に見積依頼して保管場所である「ふれあいスポーツ交流館」より搬出搬入した。

・養護学校での実施（授業中で学校保険）を除く事業は主催者が保険加入とした。

兵庫県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真　　（2）　障害者スポーツ理解啓発事業「地域・継続・大学」

①卓球バレー（南あわじ市）

②シッティングバレー（南あわじ市）

③パラリンピアン講演（神戸市）

④車いすバスケ体験（稲美町）

⑤FM 放送でイベント広報（丹波市）

⑥イベント広報（丹波市）

⑦大学との連携（姫路市）

⑧車いすの活用（三木市）

（2）　障害者スポーツ理解啓発事業「地域・継続・大学」

兵庫県は、淡路島含む瀬戸内側、中央山間部、日本海側は日本の縮図ともいわれる地域特性がある。これは、高齢化、就労環境、交通網、スポーツ環境含め障害者スポーツの地域格差は明瞭である。この現状に対して障害者スポーツの推進が低迷な地域「特定地域」として、その理解啓発事業を展開した。また、2020 年東京パラリンピック開催決定から年々「車いすバスケットボール体験授業」の申請が多く、用具である競技用車いすが不足し、事業の安定供給にはその対応に「バスケットボール用車いす」の購入整備を行った。以下項目別での事業概要を表に示す。

1）特定地域「南あわじ市・篠山市など」

●南あわじ市

本事業は、淡路障害者自立支援協議会が例年開催している地域型に参画協働する形で準備開催に取組んだ。その企画、当日の運営には障害者スポーツ指導者協議会、シッティングバレーボールクラブ、アンプティサッカークラブなど複数の団体が関わり「連携」による取組である。

●丹波市

同地域の事業は 2 つ実施。より多くの集客が期待できる「GOGO フェスタ 2018」会場に設置されたブースに申請し、内容の企画、打合せ、用具等の借用手続き、当日の運営を丹波地域障害者スポーツ指導者協議会員が取り組んだ。また、周知には地元 FM ラジオに会員が生出演するなど取り組みに工夫がされた。

1）－2　パラリンピアンの講演(計３回)

企業会場で開催する福祉事業と宝塚市関係団体と協働する形で実施した。

2）事業の継続（車いすの整備）

障害者スポーツ体験事業の継続に不足するバスケットボール用車いすの整備し、各種事業で活用や学校への出前授業、地域への理解啓発関連事業に供給した。

3）大学との協働

「ボッチャ」による選手交流と事業企画の学習を流通科学大学、大学の体育施設会場を利用して競技団体主導でふうせんバレーボール、卓球バレーのイベントを姫路大学で実施し、地域障害者が参加。

表―2　事業内容

期　日	場　所	内　容	参加人数
5/12/13	トヨタハートフルプラザ	パラリンピアン講演、ボッチャ他体験	353
5/28	流通科学大学	ボッチャの理解とイベント企画講座	57
8/22	南あわじ市文化体育館	ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｱﾝ講演、パラスポーツ体験	318
9/2	宝塚市総合福祉センター	パラリンピアン講演	95
10/6	神戸プレンティ広場 ＊台風で中止	パラ写真展、パラスポーツに触れる	0
10/28	丹波市「丹波の森公苑」	パラ写真展、パラスポーツに触れる	1,300
11/3	ｼｮｯﾋﾟﾝｸﾞｾﾝﾀｰコープ神戸	パラ写真展、パラスポーツに触れる	250
11/18	姫路大学	ふうせんバレー、卓球バレー体験	105
随時	県下小中学校、高校	事業でバスケットボール用車いす使用	2,999

兵庫県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真　**組織連携推進強化事業（組織連携を主たる目的とした事業）**

①②③　地域における障害者スポーツ振興ガイダンス（神戸会場／姫路会場）

④⑤⑥　パラスポーツにおける医科学アプローチ（神戸学院大学ポートアイランドキャンパス）

（3）組織連携推進強化事業（組織連携を主たる目的とした事業）

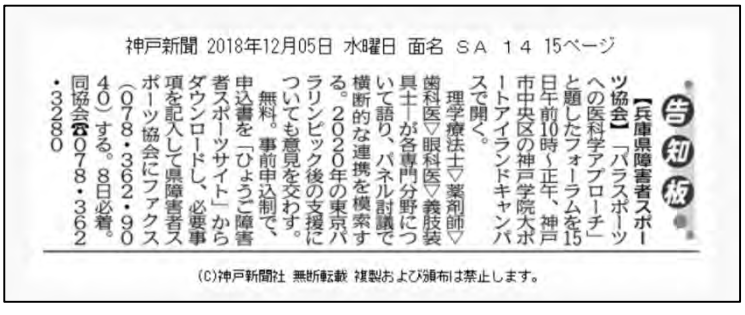
障害者スポーツの地域活性化には、その支援に関わる市町スポーツ振興課、総合型スポーツクラブ関係のスポーツ推進委員などの理解協力は必須である。これまでにもスポットで市町のスポーツ振興関係部局やスポーツ推進委員との接点はあるものの決して満足できるものではなかった。その対応策に、県スポーツ振興課の助言指導と協力を得て周知を図り「地域における障害者へのスポーツ振興のガイダンス」を企画実施した。その開催には、会場の確保、視聴覚機器の協力である「第一歩」を進め実施した。また、障害者スポーツアスリートマルチサポート事業での理学療法士との関係、2020 東京パラリンピック開催決定の影響で医療関係者等から関心・協力の問い合わせなどがあった歯科医、眼科医、薬剤師、義肢装具士などによる「医科学アプローチ連携」としての推進を図る。ひいては、競技力向上、健康へのスポーツ支援に好循環を期待する。

表―3　実施概要

期日・会場	内　　容	参加状況
（1）地域における障害者スポーツ振興ガイダンス		
平成 30 年 9 月 14 日（金）13：30－15：30 兵庫県民会館（神戸市）	（1）障害者スポーツビデオ鑑賞 （2）障害者スポーツ概要 （3）兵庫県障害者スポーツ協会事業説明	１５
平成 30 年 11 月 30 日（金）13：30－15：30 姫路市立中央体育館	（4）地域における障害者スポーツ事例発表 ・加古川市総合型スポーツクラブの展開 ・篠山市スポーツクラブ 21 の事例 （5）質疑応答とアンケート調査	３０
（2）パラスポーツへの医科学アプローチ（シンポジウム）		
平成 30 年 12 月 15 日（土）10：00－12：00 神戸学院大学ポートアイランドキャンパス	（1）パラスポーツへの支援の実際（各 12 分） 1）理学療法士とコンディショニング 2）薬剤師からサプリメント、ドーピング 3）歯科医からのマウスガードとスポーツ 4）眼科医とスポーツの現場 5）義肢装具士と義足義手・補装具の製作 （2）各組織におけるチームアプローチの現状と課題 （3）パラ 2020 後の支援と関係	３５

●アンケート「地域における障害者スポーツ振興ガイダンス」抜粋

・地域での実践事例がとても参考になった。
・配布された資料「兵庫県における障害者スポーツガイドブック」はとても参考になった。
・現場での安全管理は、事故例の紹介や対応方法はよかった。
・地域での推進には、ハード面の課題、地域住民への理解や協力には時間が必要。
・このような機会は年 1 回ではなく、各地で複数回開催されることが望ましい。
・参加者が少なく、残念である。
・県障害者スポーツ協会が取り組んでいる事業が知り理解できた。


神戸新聞 2018年12月05日 水曜日 面名 SA 14 15ページ

告知板

【兵庫県障害者スポーツ協会】「パラスポーツへの医科学アプローチ」と題したフォーラムを15日午前10時～正午、神戸市中央区の神戸学院大ポートアイランドキャンパスで開く。

理学療法士▽薬剤師▽歯科医▽眼科医▽義肢装具士が各専門分野について語り、パネル討議で横断的な連携を模索する。2020年の東京パラリンピック後の支援についても意見を交わす。

無料。事前申込制で、申込書を「ひょうご障害者スポーツサイト」からダウンロードし、必要事項を記入して県障害者スポーツ協会にファクス（078・362・9040）する。8日必着。同協会☎078・362・3280

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

事業参加体験バッジ（3色）

和歌山県における障害者スポーツの振興事業

◆障がい者スポーツ教室開催事業

◆障がい者スポーツ活性化事業（団体競技重点的強化事業）

和歌山県障害者スポーツ協会

事業概要

◆実施（申請）協会名	和歌山県障害者スポーツ協会		
◆計画書作成者	明石裕史　松下有香子		
◆企画・実施担当者	明石裕史　松下有香子	◆経理担当者	明石裕史　松下有香子

全体事業名称	和歌山県における障害者スポーツの振興事業
委託費	¥1,300,000
地域の実情・課題点	平成27年に開催した「紀の国わかやま国体」及び「紀の国わかやま大会」は、県民にとってスポーツの意義や重要性を再認識する絶好の機会となった。特に「紀の国わかやま大会」は県民の障害者スポーツに対する関心を高め、障害のある人の生活にスポーツを取り込み、身近なものとする好機となっている。　しかしながら、障害者スポーツに対する興味や関心が高まる一方、本県においても財政状況は厳しく、また、「全国健康福祉祭（ねんりんピック）」（2019年度）、「全国障害者芸術・文化祭」（2021年度）の開催を控えていることもあり、障害者スポーツに関する予算を確保するため、本事業の活用が必要な状況である。 当協会としても財源確保に尽力しながら、本事業を活用することによって、様々な関係機関との連携のもと、スポーツ教室や交流大会を計画的に実施したい。
総合的な事業の目的	障害のある人がライフワークの中にスポーツを取り入れることができるよう、本事業を引き続き活用することによって「スポーツ教室」を計画的かつ継続的に開催する。 また、障害のある人が身近な地域でスポーツに参加しやすい場づくりのため、和歌山市以外の地域においても、継続的にスポーツができる体制を整備する。各地域において障害者スポーツへの関心を高め、障害のある人のよき理解者となる指導者やサポーターの育成を行うことで、地域における障害者スポーツの活性化を図る。 さらに、各種大会や選手が交流する機会を創出することによって、個々の障害のある人の継続的に活動に取り組む意欲を高めるとともに、障害者スポーツの普及を図る。
総合的な事業のねらい	障害のある人が身近な地域でスポーツを楽しめる環境を整えるために、市町村や学校等と連携しながら、障害者スポーツに対する理解を深め、興味や関心を高める機会を創出するとともに、各地域でサポートしてくれる人材のネットワークを構築する。 また、活動の機会を創出することによって、競技力の向上を図る。

事業名	
事業①	障がい者スポーツ教室開催事業
事業②	障がい者スポーツ活性化事業（団体競技重点的強化事業）
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告

実施協会名	和歌山県障害者スポーツ協会			
事 業 名	障がい者スポーツ教室開催事業			
事業内容	障がい者スポーツ教室開催（卓球バレー、カヌー、卓球、ボッチャ、テニス、ボウリング、フライングディスク） 障がい者の特性に応じたスポーツの技術、ルール、心構えなどの講習。まずは、スポーツに親しむ機会を設けることを考え、種目を選定し開催した。	障がい者スポーツ競技向上教室(陸上・卓球) （陸上）トラック競技を中心に開催。体作り、基礎練習、自主練習のためのメニューづくりなど、走れる体幹づくりを中心に練習を行った。成果をみる場所として大会への参加につなげ、実戦を行った。 （卓球）拠点作りのための定期的練習を開催。国体選手や初心者向けの講師などに協力をもらい、個々にあわせたマンツーマンでの教室を行った。		
開催日時	①卓球バレー：平成30年 8月 6日(月)　18:30～20:00 平成30年 8月21日(火)　18:30～20:00 平成30年 8月25日(土)　14:00～15:30 平成30年 8月28日(火)　19:00～20:30 ②カヌー　：平成30年 9月 1日(土)　13:00～15:30 ③卓球　：平成30年10月 8日(月)　13:30～15:30 平成31年1月13日（日）　10:00～12:00 ④ボッチャ　：平成30年10月 6日(土)　14:00～16:00 平成30年10月31日(水)　19:00～21:00 平成31年 1月12日(土)　13:30～15:30 ⑤テニス　：平成30年12月 1日(土)　13:00～15:30 ⑥ボウリング：平成30年12月23日(日)　14:00～16:00 平成31年 1月23日(水)　19:00～20:30 ⑦フライングディスク ：平成31年1月13日（日）10:00～12:00	①陸上　：平成30年7月18日(水)･8月22日（水） ･9月12日(水）･9月22日(水)･11月7日(水) ･11月14日(水）･11月28日(水）･12月6日(木) ･12月18日(火）･平成31年1月8日(火)･1月16日(水) ･1月30日（水） 全１３回　開催時間18:00～19:30 ：平成30年9月22日（土）9:00～15:30 ②卓球：平成30年9月16日(日）13:30～15:30 ：11月24日（土）･12月16日（日） ･平成31年1月20日（日）全3回　開催時間14:00～16:00		
会　　場	①由良あかつき園（日高郡）・和歌山県子ども･女性・障害者相談センター・有功ヶ丘学園（和歌山市） ②和歌山県子ども･女性・障害者相談センター（和歌山市） ③和歌山県子ども・女性・障害者相談センター（和歌山市）・新宮市立総合体育館（新宮市） ④和歌山県子ども･女性・障害者相談センター（和歌山市）・はまゆう支援学校(西牟婁郡) ⑤和歌山県立橋本体育館(橋本市) ⑥和歌山グランドボウル（和歌山市）	①紀三井寺運動公園陸上競技場 ・和歌山さくら支援学校（和歌山市） ・田辺スポーツパーク(田辺市) ②田辺市新庄公民館・田辺市立武道館(田辺市)		
参 加 者	①77名（知的77名） ②22名（肢体1名、聴覚1名、知的19名） ③27名（肢体10名、聴覚2名、知的13名、精神1名） ④37名（肢体21名、視覚2名、聴覚1名、知的13名） ⑤13名（知的13名） ⑥28名（肢体3名、知的25名） ⑦ 8名（知的8名）	①63名（知的63名） ②64名（肢体21名、内部1名、知的25名、精神17名）		
人員体制	障害者スポーツ協会職員　5名 障害者スポーツ指導員　のべ58名 競技団体　のべ43名	障害者スポーツ協会職員　3名 障害者スポーツ指導員　2名 競技団体　のべ42人		
連携団体名 （箇条書き）	和歌山県卓球バレー協会 和歌山県障害者スポーツ協会カヌー部会 和歌山県テニス協会 和歌山県ボウリング連盟	和歌山県陸上競技協会 和歌山県卓球協会田辺西牟婁支部 和歌山県パーキンソン病友の会 和歌山さくら支援学校		
実際の事業での 連携団体の役割	各競技団体には指導者依頼、県障害者スポーツ指導者協議会には指導者および運営協力依頼を行っている。事前準備では、参加者獲得のための広報、各開催場所の安全確保や参加者の特性を指導者と共有するための打合せを行い、サポート体制がとれるよう、指導者及びアシスタントの人数や人材の調整を行っている。	各開催場所となる地元の競技団体や指導者の協力を得、指導者と参加者の距離感を近づけることで、スポーツを身近なものとして捉えられる役割を指導者にはもって頂いた。教室がない日は、自主トレーニングを行えるよう、課題点をあげ基礎的な練習を行い、次の練習につなげるモチベーションを保つ役割を担って頂いている。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者の役割・活用について	教室の運営や指導は、和歌山県障害者スポーツ指導者協議会に協力依頼を行い、常に参加を頂いている。指導の際、参加者の障害特性にあわせた楽しみ方や接し方を工夫、考慮していただき「スポーツの楽しさを共有している」という点では非常に大きな役割を果たしていただいている。課題としては経験値の差があり、経験の浅い指導員をどう取り込んでいくかなど、定期的に多くの指導員に活動してもらうよう各地域での活用の場を提供することが必要である。		本事業における 障がい者スポーツ指導員の実人数	27人
			本事業における 障がい者スポーツ指導員の延べ人数	62人
スポーツ用具の 整備・活用について	サウンドテーブルテニスピン球、ピン球、テニスネット、メディシンボール、ラダースティック、メジャーを購入し教室において活用しました。管理は、当協会のある和歌山県子ども･女性・障害者相談センター体育館に保管し、今後も教室や指導者育成などの教室においても活用していく予定です。 サウンドテーブルテニスピン球においては、競技の際には破損の少ないよう指導を行い、その他のスポーツ用具については、十分な保管を行い、使用していく予定です。			

各事業における事業報告

実施協会名	和歌山県障害者スポーツ協会			
事 業 名	障がい者スポーツ活性化事業（団体競技重点的強化事業）			
事業内容	知的障害者バレーボール競技、フットベースボール競技教室の実施。 体験を実施。 基礎練習、ゲーム形式を行った。	知的障害者親睦バレーボール大会を実施。 チラシ作成及び、送付（特別支援学校、特別支援学級を有する中学校、市町村、作業所等）を行った。 大会運営の補助を中学校に依頼し、障害理解を図った。		
開催日時	知的障害者バレーボール教室 〇平成30年12月22日（土）　10時～12時 フットベースボール教室 ①平成30年8月19日（日）　9時～12時 ②平成30年8月26日（日）　9時～12時 ③平成30年12月23日（日）　9時～12時	第3回全国知的障害者親睦バレーボールわかやま大会 〇平成30年12月15日（土）、16日（日） 15日（土）13時～ 16日（日）9時～		
会　　場	〇拝待体育館（海南市） ①河西緩衝緑地公園松江緑地多目的広場（和歌山市） ②河西緩衝緑地公園西松江緑地野球場（和歌山市） ③河西緩衝緑地公園松江緑地多目的広場（和歌山市）	〇和歌山県立体育館（和歌山市）		
参 加 者	〇13名（体験者知的障害者3名） ①13名（体験者0名） ②16名（体験者知的障害者1名） ③26名（体験者知的障害者4名）	15日　５チーム（50名） 16日　８チーム（78名）		
人員体制	〇競技団体6名、障害者スポーツ協会1名 ①競技団体5名、障害者スポーツ協会1名 ②競技団体5名、障害者スポーツ協会1名 ③競技団体7名、障害者スポーツ協会3名	障害者スポーツ協会職員　6名 看護師　２名（のべ） 競技団体　15名 競技補助員（15日）30名、（16日）73名		
連携団体名 （箇条書き）	・和歌山県知的障害者バレーボールチーム ・和歌山県フットベースボールチーム	県バレーボール協会 和歌山市内中学校		
実際の事業での 連携団体の役割	各競技団体には、運営･指導の協力をいただいている。事前準備としては、役員･選手の要請、職場での広報による参加者の確保、施設の確保、また、当日のスケジュール管理等に努めている。	県バレーボール協会には、競技運営。事前準備として役員･補助員等の要請･合意、また、会場準備や当日のスケジュール管理や安全面の確保等、競技運営の全体的な進捗管理に努めている。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	この事業おいては、障がい者スポーツ指導者に協力依頼はしていないが、選手発掘において、協力依頼を行っている。		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	
			本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	
スポーツ用具の 整備・活用について	バレーボール、サッカーボールを10球ずつ購入し、教室にて活用。チームにて保管･管理を行っている。			

事業全体の評価

実施（申請）協会名	和歌山県障害者スポーツ協会		
全体事業名称	和歌山県における障がい者スポーツの振興事業		
委託費	¥1,300,000	決算額	¥1,332,689
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	【目的】２０１７年に開催された「紀の国わかやま国体」「紀の国わかやま大会」で高まったスポーツに関する関心を障害者スポーツの更なる普及・振興に繋げる。 【達成・未達の原因】 ・教室の開催により、スポーツに親しむ機会を提供することができた ・団体競技の競技力を高めることができた。特に、バレーボールについては女子チームが福井しあわせ大会において準優勝を果たし、そのことによってさらに自信を深めることとなった。また、県民の関心を高め、１２月開催した大会は地元テレビ局のニュース番組でも報道いただいた。 ・台風及びインフルエンザで中止した教室があった。 ・団体競技の教室は、特別支援学級設置校にも周知したが、期待した参加者の増加には至らなかった。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	・新たな拠点作りに繋げることを目的として卓球教室を開催したことにより、同地域の指導者との連携を新たに築くことができた。スポーツを通じた障害のある人の社会参加等を目的とする本会の理念に賛同いただき、合計４回開催した教室には、毎回積極的に参加をいただいた。また、回を重ねる毎に参加者も増え、本会とのつながりが生まれるとともに、参加者同士の交流を深めることもできた。 ・親睦バレーボール大会の開催を通じ、運営に協力いただいた中学校指導者との連携を築くことができ、練習試合の機会が増加した。試合を通じた交流により、学生の障害のある人に対する理解を深めることもできた。		
費用に関する所見	・本事業の活用により、安定してスポーツ教室を開催することができただけでなく、単なる機会の提供に止まらない目的を有する教室（競技力の向上を目的とする陸上教室、新たな拠点づくりを目的とする卓球教室）を開催することができた。 ・本県は２０２１年に開催する「全国障害者芸術文化祭」が喫緊の重点事業となっており、障害者スポーツに関する予算は現状維持が精一杯の中、本事業は非常に有意義なものであり、今後も活用しながら事業に取り組みたい。		
今後の課題や今後の事業展開（具体的方策・展望）	・本県は南北に長い地理状況であるが、交通網が十分整備されているとは言い難い状況。会場となる施設の確保やこれまでの参加状況等から紀北地域、特に和歌山市周辺での開催が中心となっている。紀南地域でも数回教室は開催しているが、同地域の障害のある人が様々なスポーツに親しむ機会を提供できるような教室開催は引き続き検討課題と考える。 ・団体競技の教室を特別支援学級設置校に周知するも、期待したような参加はいただけなかった。新たな選手の加入は、選手の競争意識を高め、チームの活性化につながり、ひいては競技力の向上にもつながるものと考えられるため、若年層を中心に参加していただけるよう、教室の効果的な周知方法を検討したい。併せて、学校に働きかける有意義な機会・方法についても検討したい。		
参加者や関係団体からの声	・スポーツ教室の開催は参加者の好評をいただいている。特に、カヌー教室などは、普段体験できる機会もなく、毎年１回の教室を「心待ちにしていた」との感想を度々いただいている。 ・団体競技のチーム関係者からは教室及び大会開催について有意義との感想をいただいている。また、新たな人材の発掘・育成のため、引き続き本会の取組を希望されている。		
その他所見	本県では、２０２１年に開催される「全国障害者芸術文化祭」に向け、芸術文化活動の振興が重点的に図られる見込であるが、障害のある人にとっては、様々な生きがい活動、社会参加活動の機会が確保されるとともに、自らの意思で選択し、取り組めることは、いきいきとした生活の実現につながるものと考えられる。 こうした状況の中、スポーツが持つ様々な役割、スポーツならではの感動や醍醐味など、障害者スポーツの意義と魅力をより一層強力に発信する必要があり、本会が果たすべき役割と責任は増すものと思われる。 障害のある人が選択する場面において、スポーツは楽しい、取り組みたいと思っていただけるよう、魅力的な取組を進めてまいりたい。		

和歌山県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（1） 障がい者スポーツ教室開催事業

事業の様子

教室前の準備体操

卓球教室(中紀地域)

カヌー教室

卓球バレー教室(打合せ)

陸上教室

フライングディスク教室

ボッチャ教室

テニス教室

②資料

参加申込書、チラシ

①事業写真

（２） 障がい者スポーツ活性化事業（団体競技重点的強化事業）

事業の様子

練習の様子（フット）

練習試合の様子

練習の様子（バレー）

開会式　選手宣誓

男子試合風景

女子試合風景

②資料

お知らせ、参加申込書、チラシ、プログラム、実施要項・要領

平成３０年度　障害者スポーツ教室　開催要項
卓球競技

1 目的
　障害者の特性に応じたスポーツ技術、ルール、心構え等の講習を通じ、スポーツに親しむ機会を設けることにより、障害者の福祉の増進に資する。

2 主催
和歌山県障害者スポーツ協会

3 参加対象
身体障害者、知的障害者、精神障害者

4 参加資格
和歌山県内に住所を有すること。又は、県内に住所を有する施設等に入所・通所・通学している者。
競技を行うにあたり、健康上支障がない中学生以上の者。
身体障害者は、身体障害者福祉法に定める身体障害者手帳を所持していること。
知的障害者は、療育手帳所持者あるいは、その取得の対象に準ずる障害のある者とする。
精神障害者は、精神障害者保健福祉手帳所持者あるいは、その取得の対象に準ずる障害のある者とする。

5 開催期日
平成３０年１１月２４日（土）　１４：００～１６：００　（受付１３：３０～）
平成３０年１２月１６日（日）　１４：００～１６：００　（受付１３：３０～）
平成３１年　１月２０日（日）　１４：００～１６：００　（受付１３：３０～）

6 開催場所
田辺市立武道館
　〒646-0058　田辺市目良４４－８

7 内容
① 種目　卓球競技
② 教習内容　競技の規則及び実技
③ 服装等　服装は、運動に適したものでタオル・上履きなど必要と思われるものを各自ご持参下さい。

8 定員
３０名程度

9 申込み方法
　参加希望者は、別紙申込書に必要事項を記入のうえ、教室開催日の３日前までに和歌山県障害者スポーツ協会へ申し込むこと。

10 問い合わせ先
和歌山県障害者スポーツ協会
ＴＥＬ：０７３－４４５－７３１４　ＦＡＸ：０７３－４４６－００３６

11 その他
　教室中におきた事故等については、応急処置のみ行います。なお、教室参加者の傷害保険は、主催者で一括加入します。

平成３０年度　障害者スポーツ教室（前期）開催要項
レクリエーション・スポーツ（ボッチャ）

1 目的
障害者の特性に応じたスポーツ技術、ルール、心構え等の講習を通じ、スポーツに親しむ機会を設けることにより、障害者の福祉の増進に資する。

2 主催
和歌山県障害者スポーツ協会

3 参加対象
身体障害者

4 参加資格
和歌山県内に住所を有すること。又は、県内に住所を有する施設等に入所・通所・通学している者。
競技を行うにあたり、健康上支障がない中学生以上の者。
身体障害者は、身体障害者福祉法に定める身体障害者手帳を所持していること。

5 開催期日
平成３０年１０月３１日（水）　１９：００～２０：３０　（受付１８：３０～）

6 開催場所
和歌山県子ども・女性・障害者相談センター　体育館
　〒641-0014　和歌山市毛見１４３７－２１８
　ＴＥＬ：０７３－４４５－７３１４　ＦＡＸ：０７３－４４６－００３６

7 内容
① 種目　レクリエーション・スポーツ（ボッチャ競技）
② 教習内容　フレンドシップ２０１８　競技の規則及び実技
③ 服装等　服装は、運動に適したものでタオル・上履きなど必要と思われるものを各自ご持参下さい。

8 定員
２０名程度

9 申込み方法
　参加希望者は、別紙申込書に必要事項を記入のうえ、教室開催日の３日前までに和歌山県障害者スポーツ協会へ申し込むこと。

10 問い合わせ先
和歌山県障害者スポーツ協会
ＴＥＬ：０７３－４４５－７３１４　ＦＡＸ：０７３－４４６－００３６

11 その他
　教室中におきた事故等については、応急処置のみ行います。なお、教室参加者の傷害保険は、主催者で一括加入します。

平成３０年度　障害者スポーツ教室（前期）開催要項
カヌー競技

1 目的
障害者の特性に応じたスポーツ技術、ルール、心構え等の講習を通じ、スポーツに親しむ機会を設けることにより、障害者の福祉の増進に資する。

2 主催
和歌山県障害者スポーツ協会

3 参加対象
身体障害者、知的障害者

4 参加資格
和歌山県内に住所を有すること。又は、県内に住所を有する施設等に入所・通所・通学している者。
競技を行うにあたり、健康上支障がない中学生以上の者。
身体障害者は、身体障害者福祉法に定める身体障害者手帳を所持していること。
知的障害者は、療育手帳所持者あるいは、その取得の対象に準ずる障害のある者とする。

5 開催期日
平成３０年９月１日（土）　１３：３０～１５：３０　（受付１３：００～）

6 開催場所
和歌山県子ども・女性・障害者相談センター　プール
〒641-0014　和歌山市毛見１４３７－２１８
　ＴＥＬ：０７３－４４５－７３１４　ＦＡＸ：０７３－４４６－００３６

7 内容
① 種目　カヌー競技
② 教習内容　競技の規則及び実技
③ 服装など　服装は、水着、バスタオル等必要と思われるものを各自用意して下さい。
（用具等は、主催者側で用意します。）

8 定員
２０名程度

9 申込み方法
　参加希望者は、別紙申込書に必要事項を記入のうえ、教室開催日の３日前までに和歌山県障害者スポーツ協会へ申し込むこと。

10 問い合わせ先
和歌山県障害者スポーツ協会
ＴＥＬ：０７３－４４５－７３１４　ＦＡＸ：０７３－４４６－００３６

11 その他
　教室中におきた事故等については、応急処置のみ行います。なお、教室参加者の傷害保険は、主催者で一括加入します。

スポーツしよう！　参加者大募集！

★目的
障害者の特性に応じたスポーツ技術、ルール、心構え等の講習を通じ、スポーツに親しむ機会を設けることにより、障害者の福祉の増進に資する。

★参加資格
和歌山県内に住所を有すること。又は、県内に住所を有する施設等に入所・通所・通学している方。
競技を行うにあたり、健康上支障がない中学生以上の方。
(1) 身体障害者福祉法に定める身体障害者手帳を所持している身体障害者の方。
(2) 療育手帳所持者あるいはその取得の対象に準ずる障害のある知的障害者の方。
(3) 精神障害者は、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方。あるいはその取得の対象に準ずる障害のある方。

★開催教室

教室名	日程	曜日	開催時間	開催場所	定員	対象者 参加資格(1)～(3)を確認して下さい
ボッチャ	1月12日	土	13:30~15:30	和歌山県立はまゆう支援学校 ※和歌山県子ども・女性・障害者相談センター発着、同乗可能です	20名程度	(1)・(2)
フライングディスク	1月13日	日	10:00~12:00	新宮市立総合体育館	30名程度	(1)・(2)
卓　球	1月13日	日	10:00~12:00	新宮市立総合体育館	30名程度	(1)・(2)・(3)
	1月20日	日	14:00~16:00	田辺市立武道館	20名程度	(1)・(2)・(3)
ボウリング	1月23日	水	19:00~20:30	和歌山グランドボウル	20名程度	(1)・(2)
テニス	1月27日	日	13:30~15:30	広川町民体育館 ※簡易ネット使用	30名程度	(1)・(2)
	3月　3日	日	10:00~12:00	和歌山市立河南体育館	30名程度	(1)・(2)
ふうせんバレー	3月　3日	日	14:00~16:00	和歌山市立河南体育館	30名程度	(1)・(2)

★申込方法
申込用紙により、県障害者スポーツ協会に各教室開催日の３日前までに申し込んでください。
競技の規則や実技をおこないます。服装は、運動に適した服装でタオル、上履きなど必要と思われるものを各自用意してください。
★申込先・問合わせ先　和歌山県障害者スポーツ協会
電話 073-445-7314　ＦＡＸ 073-446-0036

平成３０年度（後期）障害者スポーツ教室開催要項
フライングディスク競技

1 目的
障害者の特性に応じたスポーツ技術、ルール、心構え等の講習を通じ、スポーツに親しむ機会を設けることにより、障害者の福祉の増進に資する。

2 主催
和歌山県障害者スポーツ協会

3 参加対象
身体障害者、知的障害者

4 参加資格
和歌山県内に住所を有すること。又は、県内に住所を有する施設等に入所・通所・通学している者。
競技を行うにあたり、健康上支障がない中学生以上の者。
身体障害者は、身体障害者福祉法に定める身体障害者手帳を所持していること。
知的障害者は、療育手帳所持者あるいは、その取得の対象に準ずる障害のある者とする。

5 開催期日
平成３１年１月１３日（日）　１０：００～１２：００　（受付９：３０～）

6 開催場所
新宮市立総合体育館
〒647-0032　新宮市王子町３丁目１１３　２３
ＴＥＬ：０７３５－２２－３９５６

7 内容
(1) 種目　フライングディスク競技
(2) 教習内容　競技の規則及び実技
(3) 服装等　服装は、運動に適したもので タオル・上履きなど必要と思われるものを各自御持参ください。

8 定員
３０名程度

9 申込み方法
参加希望者は、別紙申込書に必要事項を記入のうえ、教室開催日の３日前までに和歌山県障害者スポーツ協会へ申し込むこと。

10 問い合わせ先
和歌山県障害者スポーツ協会
ＴＥＬ：０７３－４４５－７３１４　ＦＡＸ：０７３－４４６－００３６

11 その他
教室中におきた事故等については、応急処置のみ行います。なお、教室参加者の傷害保険は、主催者で一括加入します。

平成３０年度　障害者スポーツ教室（後期）開催要項
ボウリング競技

1 目的
障害者の特性に応じたスポーツ技術、ルール、心構え等の講習を通じ、スポーツに親しむ機会を設けることにより、障害者の福祉の増進に資する。

2 主催
和歌山県障害者スポーツ協会

3 参加対象
身体障害者、知的障害者

4 参加資格
和歌山県内に住所を有すること。又は、県内に住所を有する施設等に入所・通所・通学している者。
競技を行うにあたり、健康上支障がない中学生以上の者。
身体障害者は、身体障害者福祉法に定める身体障害者手帳を所持していること。
知的障害者は、療育手帳所持者あるいは、その取得の対象に準ずる障害のある者とする。

5 開催期日及び開催場所
平成３１年１月２３日（水）　１９：００～２０：３０　（受付１８：３０～）
和歌山グランドボウル
和歌山市上大73-1　ＴＥＬ：073-451-4161
（注）施設には段差があります。

6 内容
(1) 種目　ボウリング競技
(2) 教習内容　競技の規則及び実技
(3) 服装等　服装は、運動に適したもので タオルなど必要と思われるものを各自御持参ください。

7 定員
３０名程度

8 申込み方法
参加希望者は、別紙申込書に必要事項を記入のうえ、教室開催日の３日前までに和歌山県障害者スポーツ協会へ申し込むこと。

9 問い合わせ先
和歌山県障害者スポーツ協会
ＴＥＬ：０７３－４４５　７３１４　ＦＡＸ：０７３－４４６　００３６

10 その他
教室中におきた事故等については、応急処置のみ行います。なお、教室参加者の傷害保険は、主催者で一括加入します。
定員になり次第申し込みを締め切ります。

第3回　全国知的障害者親睦バレーボール　わかやま大会

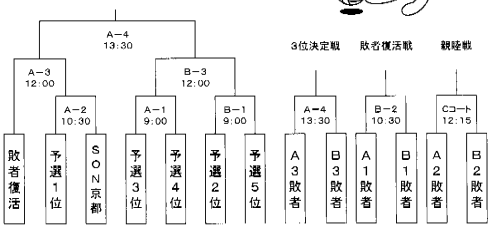
12月15日（土）　第1日目
男子（予選リーグ）

A　コート				
第1試合	13:30～	福井県男子FSV-Mクラブ	vs	わかやまスフィーダ
第2試合	14:45～	北九州ゆうあい	vs	福井県男子FSV-Mクラブ
第3試合	16:00～	岐阜IDクラブ	vs	わかやまスフィーダ

C　コート				
第1試合	13:30～	兵庫排球倶楽部	vs	北九州ゆうあい
第2試合	14:45～	兵庫排球倶楽部	vs	岐阜IDクラブ

※ 上記予選の勝率、獲得セット数、得失点差により順位を決定する。
※ 2日目のトーナメントの配置については、5チームで上位からの順とする。

12月16日（日）　第2日目
男子決勝トーナメント　A･B･Cコート



女子決勝

C コート				
第1試合	11:00～	兵庫WAVES	vs	わかやまイーリス
第2試合	13:30～	兵庫WAVES	vs	わかやまイーリス

※ 勝率、獲得セット数、得失点差を元に順位を決定する。

※ 第1日目・第2日目の試合開始時刻は、試合展開により前後することがあります。

第3回　全国知的障害者親睦バレーボール

わかやま大会

１２月１５日（土）１３：００～　開会式
男子予選リーグ
１２月１６日（日）　９：００～　男子決勝トーナメント
１１：００～　女子決勝

会　　場　和歌山県立体育館（和歌山市中之島２２３８）
出場チーム　〔男子〕・岐阜ＩＤクラブ　・兵庫排球倶楽部
・ＳＯＮ京都　・北九州ゆうあい
・福井県男子（ＦＳＶ－Ｍクラブ）
・わかやまスフィーダ
〔女子〕・兵庫ＷＡＶＥＳ　・わかやまイーリス

お問い合わせは
和歌山県障害者スポーツ協会
TEL　０７３－４４５－７３１４
FAX　０７３－４４６－００３６
メール　wssk@nike.eonet.ne.jp

フットベースボール教室のお知らせ

教室を開催しますので、ぜひ参加してください！
初めての人も歓迎です。一緒に楽しみましょう！！

《 開 催 日 時 》
平成３０年１月２８日（日）　１０：００　～　１１：３０

《 開 催 場 所 》
松江緑地多目的運動広場　（和歌山市松江中　※裏面に地図あり）

《 参 加 資 格 》
中学１年生以上で療育手帳所持者、またはその取得の対象に準ずる障害のある方

《 申 込 締 切 》
平成３０年１月２５日（木）

☆申込用紙を郵送かＦＡＸ、または「氏名・年齢・性別・住所」をメールで送信してください。（申込用紙は裏側にあります。）

※運動のしやすい服装・運動靴で来て下さい。

共催：(公財)和歌山県スポーツ振興財団

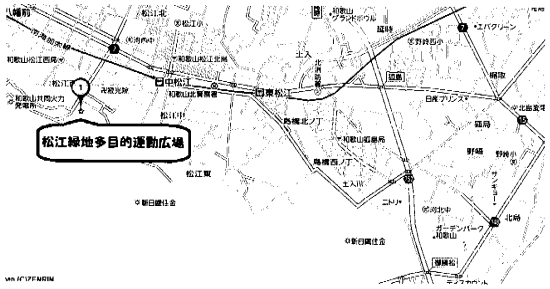
和歌山県障害者スポーツ協会　事務局
担当　塚本・松下
〒641-0014 和歌山市毛見1437-218
TEL：073-445-7314　FAX：073-446-0036
E-mail: wssk@nike.eonet.ne.jp

参加申込用紙

和歌山県障害者スポーツ協会　あて　　FAX073－446－0036

開催日時	平成30年1月28日(日)　10:00～		
競技	フットベースボール競技		
	姓	名	性別
ふりがな			
氏名			男・女
生年月日	平成　年　月　日　(　歳)		
現住所【連絡先】	住所	〒	
	TEL		
勤務先名又は所属校名【施設名】	名称		

※　本書に記載された内容については、和歌山県障害者スポーツ協会が管理し、他の目的には使用しません。



広島県における障がい者スポーツの振興事業

◆組織連携推進強化事業（組織連携を主たる目的とした事業）

◆障がい者スポーツ理解啓発事業（体験会やイベント等の事業）

◆障がい者スポーツ体験会（一般校・特別支援学校対象）

◆障がい者スポーツ体験会（特別支援学校教員対象）

一般社団法人広島県県障がい者スポーツ協会

事業概要

◆実施（申請）協会名	一般社団法人広島県障害者スポーツ協会		
◆計画書作成者	池内　敬恵		
◆企画・実施担当者	鈴木 裕子	◆経理担当者	内海　和彦

全体事業名称	平成30年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」
委託費	¥1,300,000
地域の実情・課題点	広島県内の現状は，広島県立障害者スポーツ交流センターと広島市心身障害者福祉センターが障がい者スポーツの拠点になって活動している。県障害者スポーツ協会と県障がい者スポーツ指導者協議会の事務局が交流センターにあることから，両会が連携して障がい者スポーツの普及啓発を高める努力が必要がある。平成２８年１月に当協会が設立し，貴協会から補助金を頂き，２８年,２９年と障害者スポーツの体験会（指導者対象・県民対象）や普及啓発イベントを開催した。たくさんの方に周知できたが,3年目ということでさらに普及啓発するために継続して本事業を開催したい。
総合的な事業の目的	現在，実働されているスポーツ指導員は県内でも数十人しかいない。スポーツ推進委員や地域の指導員，特別支援学校の教員，理学療法士にかかわってもらうことにより,障がいのある人が学校や地元で障害者スポーツやレクリエーション等に参加できるような体制作りと地域の拠点・キーパーソンの確保を継続して行う。 　また，昨年度好評であったパラリンピック個人種目の紹介や体験を今年度も行うことにより,選手の発掘や障がい者スポーツの普及啓発がさらに促進されるため，継続して本事業を今年も開催したい。
総合的な事業のねらい	推進委員に加え，これまでかかわりの薄かった特別支援学校の教員にも，障がい者スポーツはもとよりユニバーサルスポーツ全般の紹介という観点で，地域に障がいのある人が来られた時にでも,障害者スポーツやレクリエーションを体験してもらえるような拠点や指導者の養成を行う。 　さらにこれまで体験していないパラリンピック個人種目の体験会を通じて，障がい者スポーツ，パラアスリートに対する理解を深め，選手発掘を推進し，協会として選手強化につなげる。

事業名	
事業①	地域推進事業（スポーツ推進委員等を対象にしたスポーツ体験事業）
事業②	障がい者スポーツ体験会（各市町開催）
事業③	障がい者スポーツ体験会（小中学校・特別支援学校対象）
事業④	障がい者スポーツ体験会（特別支援学校教員対象）
事業⑤	

各事業における事業報告

実施協会名	一般社団法人広島県障害者スポーツ協会		
事 業 名	地域推進事業（スポーツ推進委員を対象としたスポーツ体験事業）		
事業内容	障がい者スポーツ体験会（ボッチャ・カローリング・ゴールボール） 競技概要説明，ルール説明，体験を実施 通常のルールに加え，実施環境や障害状況に合わせた特別ルール設定の必要性を説明。		
開催日時	体験会 ①平成31年1月20日（日）13：30～15：30 ②平成31年1月26日（土）10：00～12：00 ③平成31年1月27日（日）14：30～16：30		
会　　場	①福山市障害者体育センター（福山市） ②庄原市触れ合いセンター　コパリホール（庄原市） ③くすのきプラザ（安芸郡府中町）		
参 加 者	①7名（理学療法士・障害者スポーツ指導員・施設職員） ②18名（理学療法士・障害者スポーツ指導員・地域推進委員・福祉施設職員） ③5名（理学療法士・障害者スポーツ指導員・病院職員）		
人員体制	①2名（協会2名・広島大学アダプテッドスポーツクラブ2名） ②3名（協会2名・障害者スポーツ指導員1名） ③3名（協会2名・広島大学アダプテッドスポーツクラブ2名）		
連携団体名 （箇条書き）	広島県庄原市教育委員会 広島大学アダプテッドスポーツクラブ（霞キャンパス） スポーツ交流センターおりづる		
実際の事業での 連携団体の役割	広島県庄原市教育委員会には，北部地域のスポーツ推進委員への呼びかけ、及びゴールボール体験会での講師として説明及び実技指導を頂いた。 広島大学アダプテッドスポーツクラブ（霞キャンパス）には昨年同様にボッチャ体験会の講師として説明及び実技指導を頂いた。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	スポーツ指導者が地域推進委員や，病院，施設，学校等で勤務する職員に対し，体験会で技術指導を行うことにより，参加者の障害者スポーツへの理解を深め，地域での障害者スポーツの普及に必要なアドバイスを行うことができた。 また，障害者スポーツ指導者自身が別の競技種目の参加者となることにより，これまで経験していなかった障害者スポーツの知識，技術を学ぶ貴重な機会となり，新たに居住地域での障害者スポーツ普及に活かしてもらうことができる。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	3
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	5
スポーツ用具の 整備・活用について	ボッチャは固め，柔らかめの2種類を準備。木製ランプを使用し，重度障害者に対応した方法を説明。 ゴールボールはスポーツ交流センターおりづるより借用。カローリングはおりづるに加え，会場となった福山市障害者体育センター，くすのきプラザ（安芸郡府中町）の備品を借用。 会場によっては、借用物品に破損等があり，通常使用が難しい場合もあった。協会の物品（ボッチャ）についてはメンテナンスを行いながら，可能であれば希望者・団体に貸与できるようしていく予定。可能であれば体験に使用する頻度の高い物品については今後購入を検討したい。		

各事業における事業報告

実施協会名	一般社団法人広島県障害者スポーツ協会			
事 業 名	障害者スポーツ体験会(各市町開催)			
事業内容	cliip hiroshimaで開催された障害者スポーツ体験会でボッチャ・風船バレー・スラローム・車いすバスケットボールを実施	凸版印刷　全国番組祭り　障害者スポーツ体験会でボッチャ体験会を実施		
開催日時	①平成30年6月9日（土）10：00～16：00 ②平成30年6月10日（日）10：00～16：00	①平成30年10月27日（土）10：00～17：00 ②平成30年10月28日（日）10：00～17：00		
会　　場	①②Clip hiroshima（広島市）	①②2018ひろしまフードフェスティバル（広島市）		
参 加 者	①②併せて600名	①264名 ②345名		
人員体制	①協会2名（内スポーツ指導員初級1名） スポーツ交流センターおりづるスポーツ指導員上級１名 広島大学アダプテッドスポーツクラブ　2名 ②協会2名（内スポーツ指導員初級1名） スポーツ交流センターおりづるスポーツ指導員2名（上級・初級） 広島大学アダプテッドスポーツクラブ　3名 競技団体7名（広島Rise）	①協会2名（内スポーツ指導員中級1名） ②協会2名（内スポーツ指導員中級1名）		
連携団体名 （箇条書き）	第2回ハートフルフェスタ実行委員会 広島Rise アダプテッドスポーツクラブ （広島大学霞キャンパス） スポーツ交流センターおりづる	凸版印刷		
実際の事業での連携団体の役割	第2回ハートフルフェスタ実行委員会がイベントを企画,主催。会場提供 広島Riseは車いすバスケットボールの体験会の講師 広島大学体験会のサポート スポーツ交流センターおりづるは協会とともにボッチャ，風船バレー，スラロームの講師	2018ひろしまフードフェスティバルにて，凸版印刷が主催・会場提供		
本事業における障がい者スポーツ指導者の役割・活用について	当日の準備，競技説明，講師，体験会補助，参加者への障害者スポーツ及びパラリンピックの理解啓発に努めている。		本事業における障がい者スポーツ指導員の実人数	3
			本事業における障がい者スポーツ指導員の延べ人数	5
スポーツ用具の整備・活用について	ボッチャは協会から硬さの異なる２セットを持参。定期的にメンテナンスを行い，体験会の参加者が地域や学校，施設などへの借用を希望した場合などに貸し出しを行い，障害者スポーツの普及に努めたい。			

各事業における事業報告

実施協会名	一般社団法人広島県障害者スポーツ協会		
事 業 名	障害者スポーツ体験会（一般校・特別支援学校対象）		
事業内容	一般の小中学校・及び特別支援学校を対象に，障害者スポーツの体験会を実施。 フライングディスク　4回 車いすバスケ　13回		
開催日時	①平成30年7月5日（木）13：50～15：30 ②平成30年9月12日（水）9：40～10：40 ③平成30年10月2日（火）13：40～15：30 ④平成30年10月18日（木）13：45～15：20 ⑤平成30年10月30日（火）13：50～15：15 ⑥平成30年11月2日（金）14：00～16：00 ⑦平成30年11月7日（水）13：50～15：00 ⑧平成30年11月10日（土）9：40～11：30 ⑨平成30年11月14日（水）10：50～11：50	⑩平成30年11月16日（金）13：45～15：20 ⑪平成30年12月7日（金）10：00～12：00 ⑫平成30年12月11日（火）13：55～15：30 ⑬平成30年12月13日（木）10：30～12：00 ⑭平成30年12月14日（金）13：55～15：45 ⑮平成30年12月21日（金）10：00～11：30 ⑯平成31年1月24日（木）10：00～11：30 ⑰平成31年1月29日（火）10：00～11：30	
会　　場	①三原市立第五中学校 ②広島市立基町小学校 ③安芸高田市立高宮中学校 ④安芸太田市立戸河内小学校 ⑤東広島市市立河内西小学校 ⑥広島市立国泰寺中学校 ⑦江田島市立能美中学校 ⑧東広島市立中央中学校 ⑨広島市立大河小学校	⑩廿日市市立四季が丘小学校 ⑪広島市立久地小学校 ⑫呉市立昭和中央小学校 ⑬東広島市立吉川小学校 ⑭広島市立五日市観音小学校 ⑮広島県立黒瀬特別支援学校高等部 ⑯広島県立廿日市特別支援学校 ⑰広島県立黒瀬特別支援学校（中等部）	
参 加 者	①生徒96名（一般96）教員6名 ②児童28名（一般28）教員4名 ③生徒80名（一般80）教員5名 ④児童47人（一般47）教員8名 ⑤児童25名（一般25）教員8名 ⑥生徒652名（一般652）教員29名 ⑦生徒136名（一般136）教員15名 ⑧生徒652名（一般652）教員30名 ⑨児童220名（一般220）教員9名	⑩児童92名（知的1　一般91）教員6名 ⑪児童18名（一般18）教員5名 ⑫児童80名（知的1　一般79）教員5名 ⑬児童60名（一般60）教員7名 ⑭児童113名（知的1　一般112）教員5名 ⑮生徒27名（知的27）教員11名 ⑯生徒80名（肢体4　知的76）教員25名 ⑰生徒18名（知的18）教員9名	
人員体制	①広島県車いすバスケ連盟3名 人権擁護委員　11名 ②広島県車いすバスケ連盟3名　民生委員　1名 ③広島県車いすバスケ連盟3名 人権擁護委員　5名 ④広島県車いすバスケ連盟3名 人権擁護委員　1名 ⑤広島県車いすバスケ連盟3名 人権擁護委員　1名人権擁護委員　1名 ⑥広島県車いすバスケ連盟3名 人権擁護委員　1名 ⑦ひろしま障害者フライングディスク連盟1名 人権擁護委員　5名　広島法務局　2名 ⑧広島県車いすバスケ連盟9名 人権擁護委員　1名 ⑨スポーツ指導員　1名　人権擁護委員　1名	⑩広島県車いすバスケ連盟2名　人権擁護委員5名 ⑪広島県車いすバスケ連盟1名　人権擁護委員1名 広島法務局人権擁護部員　2名 ⑫広島県車いすバスケ連盟3名　人権擁護委員3名 広島法務局人権擁護部員　1名 ⑬広島県車いすバスケ連盟3名　人権擁護委員2名 広島法務局人権擁護部員　1名　東広島市職員2名 ⑭教員5名　車いすバスケ連盟3名　人権擁護委員1名　広島法務局人権擁護部員　2名 ⑮スポーツ指導員1名　人権擁護委員2名 広島法務局人権擁護部員1名 ⑯広島県車いすバスケ連盟3名　人権擁護委員5名 広島法務局人権擁護部員1名 ⑰スポーツ指導員1名　人権擁護委員2名 広島法務局人権擁護部員1名 障がい者スポーツ指導員（中級）①2名　②～⑰中級1名　協会1名	
連携団体名 （箇条書き）	（１）広島県車いすバスケ連盟 （２）広島法務局 （３）広島県人権擁護委員連合会		
実際の事業での 連携団体の役割	（１）の団体には車いすバスケの講師を依頼 （２）（３）は障害者スポーツ人権教室として協会と連携して本事業を行う。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	指導者である障害者スポーツ団体の選手が児童生徒と交流を図ることで，感謝の心や相手に対する思いやりを学ぶ機会を提供できる。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	2
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	21
スポーツ用具の 整備・活用について	競技用車いす，フライングディスク（アキュラシー・ディスタンス）及び関連用具などについてはほとんどをスポーツ交流センターおりづるの備品を借用して実施。借用したスポーツ用具はほぼ全ての日程において使用した。		

各事業における事業報告

実施協会名	一般社団法人広島県障害者スポーツ協会		
事 業 名	障がい者スポーツ体験会（特別支援学校教員対象）		
事業内容	県内の特別支援学校教員を対象とし，障害者スポーツとしてボッチャ・フライングディスクの体験会を実施。 特別支援学校で授業やクラブ活動等で指導できるレベルのスキル習得を目的とする体験会とした。		
開催日時	①平成31年2月3日（日） 参加希望者なしのため中止 ②平成31年2月10日（日）9：30～12：00		
会　　場	広島県立障害者リハビリテーションセンター　スポーツ交流センターおりづる　アリーナ		
参 加 者	②4名（県立西条特別支援学校教員）		
人員体制	広島大学アダプテッドスポーツクラブ　2名 スポーツ指導員（日本フライングディスク連盟公式審判員有資格者）　1名		
連携団体名 （箇条書き）	広島大学アダプテッドスポーツクラブ霞キャンパス 広島県　広島県教育委員会　公財）広島県体育協会 広島市　広島市教育委員会 スポーツ交流センターおりづる		
実際の事業での 連携団体の役割	広島大学アダプテッドスポーツクラブ スポーツ指導員にはフライングディスク講師を依頼 広島県・広島県教育委員会　公財）　広島県体育協会 広島市・広島市教育委員会には後援を依頼。 スポーツ交流センターおりづるには会場提供を依頼		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	広島大学アダプテッドスポーツクラブには、ボッチャ講師として公式ルールと簡易ルールについて説明，実施をしてもらった。 日本フライングディスク連盟公式審判員の有資格者である障害者スポーツ指導員にはフライングディスクの講師を依頼，アキュラシーとディスタンスについて説明，実施をしてもらった。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	3
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	3
スポーツ用具の 整備・活用について	協会所有のボッチャセット3種類を使用。それぞれの特徴や材質などを説明し，うち2種類を使用してゲーム体験を行った。今後はメンテナンスを続けながら希望する特別支援学校への期限付きでの貸し出しを行い，学校単位で障害者スポーツへ触れ合う機会へ繋げていく。		

事業全体の評価

実施（申請）協会名	一般社団法人広島県障害者スポーツ協会		
全体事業名称	広島県障がい者スポーツの振興事業		
委託費	¥1,300,000	決算額	¥524,000
事業の目的・ねらいの 達成あるいは未達の原因	事業の目的については，事業参加者に対しては実施できたと思う。全体的に取り掛かりが遅くなったため，結果として広報作業が遅くなり事業①と事業⑤の参加者が少なくなってしまった。また，事業③については実施自体ができなくなった。そのため，ねらいにある特別支援学校教員に対しての指導者養成の効果の達成があまり進まなかった。		
事業実施前からの変化や 具体的な成果（アウトカム）	参加者のみならず，協力団体や市町の催しに参加している様々な障がい者団体や関係機関等の「支える立場」にある方々に障がい者スポーツを実際に体験する機会を持ってもらったことにより，より具体的に障がい者スポーツやその意義，有用性などを伝えることができたと思われる。		
費用に関する所見	講師招聘について，予定事業数が昨年度よりも1件増えているところに対し，費用が前年よりも3分の2強となったことで，結果としてそれぞれの事業で当初予定していた講師招聘の断念，招聘人数の削減，報償費，旅費の削減などの再調整が必要となった。		
今後の課題や 今後の事業展開 （具体的方策・展望）	実施する事業の必要性を考えた上で，事業数及びその事業の回数，講師枠の再検討などが必要。 対象参加者への要望把握，関係機関や協力団体等との相談，連携の取り方などについては，企画時には考慮しておくことが必要と思われる。		
参加者や 関係団体からの声	「SCなどで観たので知ってはいるが体験したことがなかった。」「もっとやりたい」「ルール通りにできない障がい者について考えたことがなかった」「思っていたより難しい」等，テレビやインターネット等で観たことはあるが，実際に経験する機会はあまりなく，実際に体験した後ではそのスポーツに対する印象や見方が変わったという声があがっている。		
その他所見	一般の参加者のみならず，市町や学校など，イベント等を企画する側には障がい者スポーツ自体未体験の人が多くいることがわかった。障がい者スポーツの振興にはまず「支える側」が障がい者スポーツの有用性や楽しさなどを理解する機会をできるだけ得られる環境を整えることが有効と思われる。		

広島県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

① 事業写真

（1） 地域推進事業（スポーツ推進委員等を対象としたスポーツ体験事業

事業の様子

ゴールボールの説明

ゴールボールのキャッチ姿勢

ボッチャのルール説明

試合形式での体験

カローリング体験

前傾姿勢が取れない場合の自助具利用説明

広島県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

① 事業写真

（２） 障がい者スポーツ体験会（各市町開催）

事業の様子

第２回ハートフルフェスタ
（風船バレーボール体験）

第２回ハートフルフェスタ
（ボッチャ体験）

第２回ハートフルフェスタ
（車いすバスケットボール体験）

2018 広島フードフェスタ
（簡易コートでのボッチャ体験）

2018 広島フードフェスタ
（簡易ゴールを使用したシュート体験）

2018 広島フードフェスタ
（ブース入口付近）

広島県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

（３）障がい者スポーツ体験会（一般校・特別支援学校対象）

事業の様子

車いすバスケットボール体験
（ミニゲーム）

車いすバスケットボール体験
（シュート練習）

車いすバスケットボール
（ミニゲーム前の練習）

フライングディスク
（ディスクの持ち方説明）

フライングディスク
（アキュラシー―ゴールへの投球体験）

フライングディスク
（審判員のジャッジ説明）

広島県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

（４）障がい者スポーツ体験会（特別支援学校教員対象）

事業の様子

ボッチャ体験
（基本ルール説明）

ボッチャ体験
（基本ルール説明）

ボッチャ体験
（ランプ　《勾配器》の使用体験）

フライングディスク
（ディスクの持ち方説明）

フライングディスク
（アキュラシー―ゴールへの投球）

フライングディスク
（視覚障害者へのサポート方法の体験）

山口県における障害者スポーツ推進事業

◆地域障害者スポーツ教室の開催事業

◆障害者交流スポーツ大会開催事業

公益社団法人山口県障害者スポーツ協会

事業概要

◆実施（申請）協会名	公益社団法人山口県障害者スポーツ協会		
◆計画書作成者	豊田　保義		
◆企画・実施担当者	豊田　保義	◆経理担当者	村田ひとみ

全体事業名称	山口県における障害者スポーツの推進事業
委託費	¥1,000,000
地域の実情・課題点	２０１１年に開催した「おいでませ山口大会」の成果と２０２０年の「東京パラリンピック」開催が決定したことなどにより、県民の障害者スポーツへの理解とともに、障害者自身のスポーツへの意欲が高まっている。そうした中、障害者が身近な地域でスポーツを実践するには、環境（指導者、支援者、拠点施設、経費等）の整備が十分でない状況にある。こうした中、当協会では、県内各地域でスポーツ教室や大会の開催、指導者等の養成など、障害者スポーツへの参加の働きかけや地域における障害者スポーツを推進し、その活性化を図っている。しかしながら、より多くの障害者がスポーツを享受できる環境は十分とは言い難い現状であり、障害者スポーツの推進に向けた取り組みは引き続き必要である。
総合的な事業の目的	当協会では、共生社会の実現といった目的に向けて、多様な障害や年齢・性別にかかわらず活動できるレクスポーツを地域の組織（拠点）に普及することや地域の障害者スポーツ指導者、障害者施設、学校等に働きかけ、障害者スポーツ教室や大会の開催支援を積極的に実施することにより、健常者と障害者がともにスポーツを楽しむ交流スポーツ大会を実現する。
総合的な事業のねらい	共生社会の実現に向けて、地域の障害者が自主的・主体的に参加できるスポーツ環境づくりと障害者一人ひとりが生涯スポーツと出会うことのできる環境整備に努める。

事業名	
事業①	地域障害者スポーツ教室の開催事業
事業②	障害者交流スポーツ大会開催事業
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告

実施協会名	公益社団法人山口県障害者スポーツ協会
事 業 名	地域障害者スポーツ教室の開催事業
事業内容	県内各地域でスポーツ教室を２６回開催。 身近な地域で障害者が気軽にスポーツの楽しさを体験でき、指導者が交流・活動できるスポーツ教室の開催により、各地域の組織づくりを支援する。 指導者が企画・運営してスポーツ教室を実施。（ボッチャ、風船バレー、卓球バレー、グラウンド・ゴルフ、カローリング、フライングディスク、スポーツレクリエーション、ヨーガ等）
開催日時	①平成３０年　６月１０日（日）　②平成３０年　６月１６日（土）　③平成３０年　７月　６日（金） ④平成３０年　８月　３日（金）　⑤平成３０年　８月　８日（水）　⑥平成３０年　８月１９日（日） ⑦平成３０年　８月２５日（土）　⑧平成３０年　８月２６日（日）　⑨平成３０年　９月　７日（金） ⑩平成３０年　９月　８日（土）　⑪平成３０年　９月１５日（土）　⑫平成３０年　９月２４日（月） ⑬平成３０年１０月１４日（日）　⑭平成３０年１０月１６日（火）　⑮平成３０年１０月３０日（火） ⑯平成３０年１１月１１日（日）　⑰平成３０年１１月１６日（金）　⑱平成３０年１１月１７日（土） ⑲平成３０年１１月１８日（日）　⑳平成３０年１１月２４日（土）　㉑平成３０年１２月　２日（日） ㉒平成３０年１２月　８日（土）　㉓平成３０年１２月　９日（日）　㉔平成３０年１２月１８日（火） ㉕平成３０年１２月２３日（日）　㉖平成３１年　１月１１日（金）
会　　場	【県東部】⑩㉒　サンアビリティーズ光（光市） ⑮　久米小学校（周南市） 【県央部】②⑳　山口県身体障害者福祉センター（山口市） ③⑨⑰㉖　山口ウッドムーンネットワーク（山口市） ④　山口総合支援学校（山口市） ⑫　維新百年記念公園（山口市） 【県西部】①⑲　宇部フロンティア大学短期大学部（宇部市） ⑤　厚東小学校（宇部市） ⑥⑦⑬⑯㉓㉕　高千帆公民館（山陽小野田市） ⑧　小野田サンパーク（山陽小野田市） ⑪⑱　高千帆児童館（山陽小野田市） ⑭㉔　竜王中学校松原分校（山陽小野田市） ㉑　厚狭公民館（山陽小野田市）
参 加 者	①８５名　②６３名　③１７名　④２８名　⑤２５名　⑥　３名 ⑦１６名　⑧１４名　⑨２０名　⑩２３名　⑪１３名　⑫２２名 ⑬　３名　⑭１０名　⑮７７名　⑯　４名　⑰１７名　⑱　９名 ⑲６３名　⑳３８名　㉑６０名　㉒２７名　㉓　４名　㉔１０名 ㉕１３名　㉖１６名 合計　６８０名
人員体制	①指導員　８名　ボランティア１名　②指導員１１名 ③指導員　２名　講師１名　④指導員　１名 ⑤指導員　２名　⑥指導員　１名 ⑦指導員　１名　⑧指導員　１名 ⑨指導員　２名　講師１名　⑩指導員１１名 ⑪指導員　１名　⑫競技団体２名　職員３名 ⑬指導員　３名　⑭指導員　３名 ⑮指導員　１名　職員１名　⑯指導員　２名 ⑰指導員　２名　講師１名　⑱指導員　１名 ⑲指導員　６名　競技団体２名　ボランティア１名　⑳指導員１１名 ㉑指導員　１名　競技団体４名　㉒指導員１４名 ㉓指導員　１名　㉔指導員　３名 ㉕指導員　１名　㉖指導員　２名　講師１名 合計１１０名（指導員９２名　競技団体８名　講師４名　ボランティア２名　職員４名）
連携団体名 （箇条書き）	山口県障がい者指導者協議会、光市、下松市、周南市、宇部市、光市教育委員会、下松市教育委員会、周南市教育委員会、宇部フロンティア大学短期大学部、久米小学校、竜王中学校松原分校、山口総合支援学校、光市社会福祉協議会、下松市社会福祉協議会、周南市社会福祉協議会、宇部市社会福祉協議会、宇部市障害者ケア協議会スポーツ部会、山口県ふうせんバレーボール連盟、山口県卓球バレー協会、山口県グラウンド・ゴルフ協会、一般社団法人山口県レクリエーション協会、一般財団法人山口県施設管理財団、有限会社リベルタス興産
実際の事業での 連携団体の役割	各競技団体には審判の派遣協力をお願いした。 学校や山口県施設管理財団と連携することで、会場を提供していただいた。 各市、各市教育委員会、各市社会福祉協議会等には、スポーツ教室開催の周知に協力していただいた。
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	障がい者スポーツ指導者が主体となって各地域でスポーツ教室を行った。打合せ会議の開催、教室開催の周知、参加者の募集、教室の企画・運営、他団体との連携等障がい者スポーツ指導者が中心となって活動した。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数　36 本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数　92
スポーツ用具の 整備・活用について	購入なし

各事業における事業報告

実施協会名	公益社団法人山口県障害者スポーツ協会		
事 業 名	障害者交流スポーツ大会開催事業		
事業内容	①山口県サウンドテーブルテニス大会の開催 視覚障害のある方を対象に、サウンドテーブルテニス大会を開催。男子の部･女子の部に分かれて実施。 ②山口県障害者交流スポーツフェスティバルの開催 午前の部では各競技の体験会を実施。（卓球、風船バレー、卓球バレー、車いすバスケットボール、ビームライフル、パラバドミントン） 日本パラバドミントン連盟強化指定選手を招いて、デモンストレーションを実施。 午後の部では各競技大会を実施。（卓球、風船バレー、卓球バレー） ③ヨット体験教室の開催 アクセスディンギー、モーターボート、セイルクルージングを体験。 ④山口県障害者ボウリングフェスティバルの開催 午前は競技の部を、午後からは交流の部を実施。		
開催日時	①平成３０年　６月２４日（日）　９：００～１６：３０ ②平成３０年　７月　１日（日）　９：００～１６：００ ③平成３０年　８月２２日（水）　９：００～１２：００ ④平成３０年１２月　２日（日）　９：００～１５：３０		
会　　場	①山口県身体障害者福祉センター（山口市） ②維新百年記念公園スポーツ文化センター（山口市） ③山口県スポーツ交流村（光市） ④小郡スーパーボウル（山口市）		
参 加 者	①３５名（視覚３５名） ②４２６名 ③１４名（肢体４名、視覚２名、精神２名、知的１名、健常５名） ④１３０名（知的８３名、肢体２９名、精神１１名、聴覚４名、内部２名、視覚１名）		
人員体制	①２６名（審判員１０名、指導員４名、ボランティア８名、看護師１名、事務局３名） ②８５名（審判員３２名、指導員４名、ボランティア１３名、競技団体２４名、看護師２名、ＰＴ１名、手話通訳２名、事務局７名） ③１０名（講師３名、指導員４名、事務局３名） ④１０名（審判員５名、指導員１名、手話通訳２名、事務局２名）		
連携団体名 （箇条書き）	山口県障害者卓球協会、山口県卓球バレー協会、山口県ふうせんバレーボール連盟、山口県車いすバスケットボール連盟、山口県障害者射撃協会、山口県障害者ボウリング協会、山口県卓球協会、一般社団法人山口県セーリング連盟、山口県ボウリング連盟、ＮＰＯ法人スマイルクラブ、山口県障がい者指導者協議会、一般財団法人山口県施設管理財団、山口県スポーツ交流村、一般社団法人山口県理学療法士会、一般社団法人山口県身体障害者団体連合会、山口県障害者社会参加推進センター、一般財団法人山口県手をつなぐ育成会、一般財団法人山口県知的障害者福祉協会、山口県精神障害者福祉会連合会、山口県身体障害者施設協議会、山口県障害福祉サービス協議会、山口県特別支援学校長会、山口大学、山口短期大学、ＹＩＣリハビリテーション大学校、山口コ・メディカル学院、山口県教育委員会、山口県		
実際の事業での 連携団体の役割	山口県障がい者スポーツ指導者協議会には、障がい者スポーツ指導員による運営協力をお願いしている。競技団体には、審判や指導の協力、用具の借用をお願いし、体験会や競技運営がスムーズに行えた。大学や専門学校には、ボランティア学生の紹介をお願いしている。また、会場を管理する施設管理財団が共催することで会場費の負担がなくなった。 ＮＰＯ法人スマイルクラブと連携したことで、パラバドミントンの日本代表選手との交流体験会が実施できた。 一般社団法人山口県理学療法士会との連携ができ、トレーナーの派遣体制が整った。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	各大会の運営協力をお願いしている。その活動は、会場の準備や後片付け、審判補助、障害者の介助等多岐にわたる。 ＳＴＴ、風船バレー、卓球バレー等の審判資格を取得し、審判員として参加する指導員も増えている。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	21
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	31
スポーツ用具の 整備・活用について	購入なし		

事業全体の評価

実施（申請）協会名	公益社団法人山口県障害者スポーツ協会		
全体事業名称	山口県における障害者スポーツの推進事業		
委託費	¥1,000,000	決算額	¥1,226,658
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	県内各地域でのスポーツ教室やスポーツ大会を開催することで、障害者がスポーツに参加することの働きかけとなり、障害者はスポーツの楽しさを体験できた。また、指導者もスポーツ活動の機会を得ることができた。このことは、障害の有無にかかわらず、地域で自主的・主体的にスポーツに参加できる環境づくりとなった。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	県内のパラバドミントンの競技団体は現在活動を休止しているため、県外のパラバドミントンの団体がスポーツフェスティバルで体験会を行い、参加者がバドミントンを楽しめた。その後も連携して、イベントやスポーツ教室を実施した。これからも協力して事業を行うこととなり、県内でもバドミントン競技を広めていくきっかけとしたい。 大会のトレーナーについては、これまでは本人に直接依頼していたが、山口県理学療法士会との連携ができ、トレーナーの派遣体制が確立してきた。		
費用に関する所見	今年度は経費の見直しを行い、コスト削減を図って事業を実施したため、費用対効果という面では成果があった。しかし、スポーツ教室開催事業には指導者を活用する目的もあり、少しでも多くの指導者の参加を目指しており、コスト削減を図りながらも人件費の確保に努めたい。		
今後の課題や今後の事業展開（具体的方策・展望）	２０２０年の東京パラリンピックを見据えて、障害者スポーツへの関心が高まっている今、引き続き障害者スポーツの体験会、競技会等を開催し、これまで障害者スポーツに関わりのなかった人たちへスポーツの楽しさを味わう機会を提供していきたい。また、スポーツ教室や大会を継続して開催するために、障害者スポーツを支える人材を増やしていきたい。		
参加者や関係団体からの声	障害のない参加者は、実際に障害者スポーツを体験して、想像以上に難しく、障害に応じた工夫もされていることに気づき、障害者スポーツを身近に感じるようになったようだ。 障害のある参加者は、多くの人と交流できて楽しく、また参加したいと思う人が多かった。アンケート結果でも、98%がまた参加したいと回答している。 競技団体は、競技を知ってもらうことが大切と考えている。		
その他所見	６年間事業を継続したことで、事業を支える人材（指導者、ボランティア、トレーナー、競技団体等）は確保できるようになったが、厳しい財源の中で事業を実施している。何とか財源を確保して事業の継続を図りたい。		

山口県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（1） 地域障害者スポーツ教室の開催事業

事業の様子

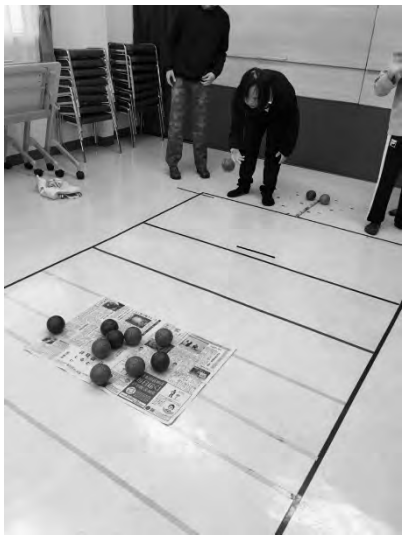
ヨーガ

準備運動

グラウンド・ゴルフ

ボッチャの紹介

スポーツレクリエーション（重度障害者の体を動かす）



ボッチャ

フライングディスク

ラダー

スラローム

ストレッチ

ドッジビー

体操

②資料

開催要項、チラシ

山口県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（２） 障害者交流スポーツ大会開催事業

事業の様子

ＳＴＴ大会　受付

ＳＴＴ大会

ＳＴＴ大会　選手宣誓

ＳＴＴ大会　開会式

フェスティバル　開会式

フェスティバル　卓球

フェスティバル　風船バレー

フェスティバル　卓球バレー

フェスティバル
パラバドミントンのデモンストレーション

フェスティバル
パラバドミントンの体験

フェスティバル
射撃（ビームライフル）の体験

フェスティバル
車いすバスケットの体験

ヨット教室　開講式

ヨット教室　諸注意の確認

ヨット教室

ヨット教室

ボウリング大会　競技の部

ボウリング大会　交流の部

ボウリング大会

ボウリング大会

②資料

開催要項、チラシ

障害者スポーツ大会・教室のご案内

5～7月

【Let's タンデム in 維新公園 2018】

日　　時：5月19日（土）受付：9:30　開始：10:20～（予定）

場　　所：維新百年記念公園　園内指定コース　他

参加資格：タンデム（二人乗り自転車）に興味のある方！

申込締切：4月20日（金）

先着30名程度になります

【サウンドテーブルテニス大会（維新杯）】

日　　時：6月24日（日）受付：9:00　開始：10:00～（予定）

場　　所：山口県身体障害者福祉センター

参加資格：視覚障害のある13歳以上の方（H30年4月1日現在）

申込締切：5月25日（金）

【第3回山口県障害者交流スポーツフェスティバル】

日　　時：7月1日（土）受付：9:00　開会式：9:30～（予定）

場　　所：維新百年記念公園　スポーツ文化センター

競技種目：「卓球」「風船バレー」「卓球バレー」等

申込締切：6月1日（金）　★障害の有無に関わらず皆さまのご参加をお待ちしています！

《 申 込 先 》

公益社団法人　山口県障害者スポーツ協会　事務局
TEL:083-901-4065　FAX:083-901-4064
e-mail：webmaster@syospo-yamaguchi.jp
http://syospo-yamaguchi.jp
★要項・申込書はHPからダウンロード可能です★
希望者には郵送しますのでご連絡ください！

お申込みお待ちしております!

（障がい者スポーツ指導員用）

つながろう　A H　やっほー

障がい者スポーツ交流会（9回目）

日　時：平成30年6月16日（土）

9時30分～12時00分（受付開始9時00分）

場　所：山口県身体障害者福祉センター　体育館・研修室

〒753−0092　山口市八幡馬場36番地の1
（TEL　083−925−2345）

内　容：卓球バレー・キャッチボール
ツノのあるボールを投げあい、
握ったツノの数字が点数になる競技

対象者：障がい者スポーツを体験してみたい方

障がい者スポーツに興味のある方なら、どなたでも

参加費：一人　100円(資料代等)

主催：AH
山口県障がい者スポーツ指導者協議会
〈山口・防府地域〉

共催：山口県障がい者スポーツ指導者協議会
公益社団法人山口県障害者スポーツ協会

後援：山口県卓球バレー協会

※参加される方は、FAXまたは郵送、Mailにて、下記申込先まで、お申込みください。『締め切りH.30年6月5日(火)』
※参加される方は、運動のできる服装・上靴・飲み物等を各自でご準備ください。

【問合せ先】携帯番号　080-1926-8886（会長　高津　節）
「17:30～19:00の間にお願い致します」
【申込先】〒753-0001 山口市宮野上3325−2 古谷　周江
FAX:(083)921-1862　（事務局）
Mail：buon-appetito.2@arrow.ocn.ne.jp

切り取り線

AH　障がい者スポーツ交流会　申込書（障害者スポーツ指導員用）

平成30年　月　日　申込		性別	年　齢	昼食会
ふりがな 氏名			歳	参加・不参加 （弁当代500円　当日徴収します）
住所	〒	TEL Mail		

※ご記入いただいた個人情報は、保険加入等の本人公運営に必要と認められる目的以外には利用しません。

障害のある人もない人も★

第3回山口県障害者交流 スポーツフェスティバル

卓球　　風船バレー　　卓球バレー

パラスポーツの体験

障害のある人も、ない人も！一緒にスポーツを楽しみましょう。ルールを知らなくても大丈夫、体験コーナーがあります。経験者は、競技コーナーで真剣勝負に挑んでください。みなさんのご参加をお待ちしています。

日　　時　：7月1日（土）　開会式　9:30～（予定）
場　　所　：維新百年記念公園　スポーツ文化センター
　　　　　　アリーナ・レクチャー
体験コーナー　：メイン競技　未定
　　　　　　風船バレー・卓球バレー
競技コーナー　：卓球・風船バレー・卓球バレー
参　加　費　：ひとり500円程度（*体験コーナー*は無料）
※詳細は、5月以降の山口県障害者スポーツ協会のHPをご覧ください。
http://syospo-yamaguchi.jp

問合先

公益社団法人山口県障害者スポーツ協会
TEL: 083-901-4065　FAX: 083-901-4064
webmaster@syospo-yamaguchi.jp
http://syospo-yamaguchi.jp

問合せ、お待ちしています！

主催	公益社団法人山口県障害者スポーツ協会 一般財団法人山口県施設管理財団

（障害者スポーツ指導員用）

つながろう　A H　やっほー

障がい者スポーツ交流会（10回目）

日　時：平成30年11月24日（土）

9時30分～12時00分（受付開始9時00分）

場　所：山口県身体障害者福祉センター　体育館

〒753−0092　山口市八幡馬場36番地の1
（TEL　083−925−2345）

内　容：カローリング・ふうせんバレー

対象者：障がい者スポーツを体験してみたい方

障がい者スポーツに興味のある方なら、どなたでも

参加費：一人　100円(資料代等)

主催：AH
山口県障がい者スポーツ指導者協議会
〈山口・防府地域〉

共催：山口県障がい者スポーツ指導者協議会
公益社団法人山口県障害者スポーツ協会

後援：山口県ふうせんバレーボール連盟

※参加される方は、FAXまたは郵送、Mailにて、下記申込先まで、お申込みください。『締め切りH.30年11月13日(火)』
※参加される方は、運動のできる服装・上靴・飲み物等を各自でご準備ください。

【問合せ先】携帯番号　080-1926-8886（会長　高津　節）
「17:30～19:00の間にお願い致します」
【申込先】〒753-0001 山口市宮野上3325−2 古谷　周江
FAX:(083)921-1862　（事務局）
Mail：buon-appetito.2@arrow.ocn.ne.jp

切り取り線

AH　障がい者スポーツ交流会　申込書（10回目）（障害者スポーツ指導員用）

平成30年　月　日　申込		性別	年　齢	昼食会
ふりがな 氏名			歳	参加・不参加 （弁当代500円　当日徴収します）
住所	〒	TEL Mail		

※ご記入いただいた個人情報は、保険加入等の大会運営に必要と認められる目的以外には利用しません。

高知県障がい者スポーツ理解啓発事業

◆東部地区ボッチャ競技大会

◆種まく大人たち勉強会

社会福祉法人　高知県社会福祉協議会

事業概要

◆実施（申請）協会名	高知県社会福祉協議会		
◆計画書作成者	永島　真子		
◆企画・実施担当者	永島　真子	◆経理担当者	永島　真子

全体事業名称	高知県障害者スポーツ理解啓発事業
委託費	¥500,000
地域の実情・課題点	●東部地区ボッチャ競技大会 高知県は東西に長く、公共交通を利用して県東部から高知市中心部を往復するのは難しいことから東部地域での発表の場として大会を開催。併せて継続的な活動への導線として教室を開催していく。 ●種まく大人たち勉強会事業 2020も近づき、近年小中高等学校での体験学習に対してニーズが高まってきているが、体験学習に出向く講師の資質向上が大きな課題であることから勉強会を継続的に実施していく。
総合的な事業の目的	障害のある方々がスポーツ大会に参加することで、社会参加の一つのきっかけとなる事を目的とする。また、福祉教育の推進過程では【障害者を知る】というところから【障害者を通じて自身や社会を考える】というところまで子供たちを導くには講師にも相応の知識が求められることから、講師の資質向上を目的とする。
総合的な事業のねらい	●東部地区ボッチャ競技大会 大会開催は、あくまで振興のための手段であり、その過程での情報収集や人間関係の構築がより大切と考えている。 ●種まく大人たち勉強会事業 障害者スポーツをツールとすることで障害者スポーツの社会的な地位の向上を目指していく。

事業名	
事業①	東部地区ボッチャ競技大会
事業②	種まく大人たち勉強会事業
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告

実施協会名	高知県社会福祉協議会			
事 業 名	東部地区ボッチャ競技大会			
事業内容	普及振興会議および出前教室の実施。 大会開催に向けて、事前及び事後に教室を開催。今後の活動の継続の基盤整備を行った。また、事前に関係者との情報交換会議（東部地区障害者スポーツ普及振興会議）を定期的に開催し、各地域の実情や課題を把握したことを反映させながら大会開催に繋げた。	東部地区ボッチャ競技大会。 障害者スポーツの普及が遅れている県東部地域で大会を開催することで、県東部地域の福祉関係者にスポーツへの関心を引き起こすことを目的に継続的な活動の実現を視野に入れ実施した。また今回はボッチャの元パラアスリートをゲストに招くことで、競技交流だけではなく、ピアカウンセリング要素を踏まえ幅広い交流ができることを目的とした。		
開催日時	東部地区障害者スポーツ普及振興会議 ①平成30年 6月13日（水）15時～16時30分 ②平成30年 8月15日（水）15時～16時30分 ③平成30年10月24日（水）15時～16時30分 ④平成30年12月13日（水）15時～16時30分 スポーツ出前教室 ①平成30年11月14日（水） ② 同 上 ③平成30年11月27日（火）13時～14時 ④平成30年12月25日（火）13時～14時 ⑤平成31年1月29日（火）13時～14時	東部地区ボッチャ競技大会 平成30年11月18日（日）10時～15時30分		
会 場	東部地区障害者スポーツ普及振興会議 ①②③④ 安芸市総合社会福祉センター（安芸市） スポーツ出前教室 ①高知県立あき総合病院（安芸市） ②芸西病院（芸西村） ③④⑤安芸市市民館（安芸市）	すまいるあき １階催事場（安芸市）		
参 加 者	東部地区障害者スポーツ普及振興会議 ①②9名（委員）③6名（委員）④5名（委員） スポーツ出前教室 ①25名（精神20名、健常5名） ②8名（精神6名、健常2名） ③12名（肢体6名、健常6名） ④15名（肢体5名、健常10名） ⑤13名（肢体5名、健常8名）	35名 （肢体18名、視覚1名、知的8名、精神5名、 健常3名）		
人員体制	東部地区障害者スポーツ普及振興会議 市町村社協職員３名、障がい者スポーツ指導員１名 福祉事務所職員３名、特別支援学校教諭１名 総合型クラブ１名、競技団体１名、協力員２名 スポーツ出前教室 障害当事者協力員２名、東部地域の協力員２名	障がい者スポーツ指導員 ３名 競技団体 ３名 レクリエーション協会員 ３名 協力員 ４名		
連携団体名 （箇条書き）	東部地区障害者スポーツ普及振興 高知県障がい者スポーツ指導者協議会 ＮＰＯ法人 むろとスポーツクラブ（総合型クラブ）高知県レクリエーション協会 高知県ボッチャ協会 スポーツ出前教室 該当なし	高知県障がい者スポーツ指導者協議会 高知県ボッチャ協会 高知県レクリエーション協会		
実際の事業での 連携団体の役割	東部地区障害者スポーツ普及振興会議 大会に向けて事前に関係者との情報交換会議に参加してもらうことで、地域の実情や課題を共有してもらう。それによって、東部地区のニーズに沿った形での大会の実施に向けて協力いただくもの。	別のボッチャイベントと実施日が重なっており、審判員が不足した状況での開催となった。そのため障がい者スポーツ指導員の協力はたいへん大きかった。また今回の会場がショッピングセンターであったため、一般の来場者の方に気軽にレクリエーションスポーツを楽しんでもらえることを目的に、高知県レクリエーション協会に協力をお願いし、ブースを設け運営してもらった。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	東部地区においては、障がい者スポーツ指導員の数が少ないという課題を抱えているため高知市内の指導員にも協力いただいた。当日は主に審判員をお願いしたが、審判経験の無い指導員がほとんどで負担を掛けてしまった。その一方で「今後もこの大会に協力したい」という意見もあり、指導員にやりがいを感じてもらえる場にすることがこちらの役割だと感じた。円滑に運営に協力いただいた指導員の力は非常に大きなものであり、今後も引き続き協力を仰ぎたいと考えている。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	4名	
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	6名	
スポーツ用具の 整備・活用について	ボッチャの用具を２セット購入。出前教室を実施した高知県立あき総合病院と安芸市市民館に貸出をおこない、継続的にボッチャに親しんでもらうことで、今後の大会への参加の意欲につなげる。 ヘッドポインターについては、重度障害者の方から大会に参加の要望があった際に活用する。			

各事業における事業報告

実施協会名	高知県社会福祉協議会		
事 業 名	種まく大人たち勉強会事業		
事業内容	小中高等学校等で開催される障害者スポーツ体験教室に講師として出向いてもらっている方々に向けて、広い視野と見識を持ってもらいたいということを狙いとし、障害当事者や教育研究者の方を講師として招き、４回実施した。 また聴講については、どなたでも興味のある回に自由に参加してもらえる柔軟なスタイルで開催した。		
開催日時	①平成３０年　６月２１日（木）１９時～２１時 ②平成３０年　９月１３日（木）１９時～２１時 ③平成３０年１１月２９日（木）１９時～２１時 ④平成３１年　１月１９日（土）１３時３０分～１５時３０分		
会　　場	高知県立障害者スポーツセンター　２階　研修室		
参 加 者	①１７名（肢体５名、聴覚１名、視覚１名、健常１０名） ②１５名（肢体３名、聴覚１名、視覚１名、精神１名、健常９名） ③１８名（肢体１名、視覚１名、精神４名、健常１２名） ④１５名（肢体１名、視覚２名、健常１２名		
人員体制	事務局２名 講師各１名 ①肢体　②肢体　③精神　④健常		
連携団体名 （箇条書き）	事務局主体で実施。組織体制等は特に構築していない。		
実際の事業での 連携団体の役割	同　上		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	障害者スポーツ体験教室は、県内広域で開催されるため、将来的には各地域で携わってもらえる指導者を養成していきたいと考えているが、現状は厳しいものがある。まずは勉強会に参加してもらうことで講師として参加している障害当事者やチームと顔つなぎを行い、補佐的な役割から少しずつ関わってもらうなど、こちらが仕向けていくことが必要だと感じている。	本事業における 障がい者スポーツ 指導員の実人数	参加者として １０
		本事業における 障がい者スポーツ 指導員の延べ人数	参加者として １５
スポーツ用具の 整備・活用について	特になし		

事業全体の評価

実施（申請）協会名	社会福祉法人高知県社会福祉協議会		
全体事業名称	高知県障害者スポーツ理解啓発事業		
委託費	¥500,000	決算額	¥651,192
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	どちらの事業も、どのレベルを目的の達成と考えるかは難しいものがある。例えば、大会の開催だけに焦点をあてれば、一定の成果もあり、達成できたと言えるかもしれないが、東部地域の障害者スポーツの普及という大きな目的からすると目的達成の途中であり、地域的に普及が難しい原因を地域の方を巻き込みながら共に考え発展させていくことが必要であると感じる。種まく大人たち勉強会についても、せっかく講師を招き貴重な話を聞いてもらえる機会であるので、色々な方に聴講してもらえる場として活用したいと考えている。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	東部地域の普及という点については、振興会議や出前教室を開催することで、少しずつではあるが地域との連携が取れてきた。今までは、障害者スポーツセンターは知っているが、具体的にどう活用をしたらいいのかわからない。といった様子であったが、少しずつではあるが状況が変化してきた。また、地域に足を運ぶことの成果として、出前教室の参加者が「あの時楽しかったから」ということで大会に参加してくれた。		
費用に関する所見	ボッチャ大会でゲスト講師を招くことになり、競技の特性上、ご本人と介助者の方と二人分の経費が発生することとなったことや、県外の方であったことが原因で、予算額を上回ることになった。この大会に非常にマッチングした講師であったが、他の支出とのバランスを考える必要があった。		
今後の課題や今後の事業展開（具体的方策・展望）	東部地域の普及にあたっては、基盤づくりが整ってき始めたという段階であるため、今後も地道に足を運びながら地域との連携を図ることが重要なポイントとなってくる。大会については、一定定着しており、地域の方の楽しみの場となってきていると感じられる、障がい者スポーツ指導員の方にとって、やりがいを感じられる大会にすることも必要だと感じている。種まく大人たち勉強会については、参加者のニーズを探りながら展開していくことで更に充実した勉強会になるのではないかと考えられる。		
参加者や関係団体からの声	東部ボッチャ大会は、わかりやすいルールで開催したことで、誰でも気軽に楽しく参加できたとの声をいただいている。また、障がい者スポーツ指導員からは初めてボッチャの審判をし、緊張したが、柔軟なルールだったのでやりやすく、みんなと楽しめたという声もあがった。また、地元の女子中学生（車椅子ユーザー）と保健師の方がゲスト講師に会うためわざわざ会場を訪れ、相談に乗ってもらう場面もあった。保健師の方からは「いいアドバイスをもらうことができた、今日のことは彼女自信になると思う。来てよかった」と涙ながらに言ってもらえた。種まく大人たち勉強会については、障害を知る機会になる。今後もこの会を設けてもらいたいという声をいただいている。		
その他所見	事業を展開については、今更ながらではあるが、相手方の状況や現場の把握と、何を求めているかというニーズを知ることが非常に大きなものであると感じた。そこがマッチングするかしないかで成果が大きく左右してくる。東部地域は障害者に関する情報得られにくいといった状況であるが、それゆえ地道に足を運ぶこと、顔を合わせることが必要であると感じている。また、ゲスト講師や勉強会講師については、生きた知識を得られる貴重な場であり、色々な方に活用してもらえる場としていきたい。		

高知県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（１） 東部地区ボッチャ競技大会

事業の様子

【普及振興会議】

【出前教室１】

【出前教室２】

【大会開会式】

【ゲスト講師】

【受　付】

【競技風景】

【ゲスト交流戦】

②資料

開催要項・チラシ（別添）

高知県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（２） 種まく大人たち勉強会

【講　師】

【ディスカッション】

【ディスカッション※手話通訳】

②資料

開催要項・チラシ（別添）※このチラシは予算に計上したものではありません。

第１０回　龍馬交流ボッチャ大会　開催要項

１．目　　的
　障害の種別にかかわらず気軽に楽しめるユニバーサルなスポーツとして、ボッチャ競技の普及を図ることを主たる目的とする。また、2017 年度から 2021 年度の５年間は高知県東部地域で開催することで、県東部地域での障害者スポーツの普及に重点的に取組むこととする。

２．主　　催
　社会福祉法人高知県社会福祉協議会　高知県立障害者スポーツセンター

３．協　　力
　高知県障がい者スポーツ指導者協議会　高知県レクリエーション協会
　特定非営利活動法人むろとスポーツクラブ

４．後　　援　（予定）
　高知県ボッチャ協会、RKC 高知放送、NHK 高知放送局、KUTV テレビ高知
　KSS さんさんテレビ、高知新聞社、毎日新聞高知支局、読売新聞高知支局、朝日新聞高知総局

５．日　　時
　平成３０年１１月１８日（日）　受　付　　９：３０
　　開会式　　１０：００
　　ルール確認　１０：１５
　　競技開始　１０：３０
　　競技終了　１５：３０
　　閉会式　　１６：００

６．会　　場
　すまいるあき　１階催事場
　〒784-0003 高知県安芸市久世町９-２０　ＴＥＬ0887-32-0881

７．参加対象者
　障害のある方（障害種別は問わない）及び健常者

８．枠　　目
　レクボッチャ　定員：２７チーム
　１チーム２名のペア戦とし、チーム構成は健常者１名を含んでも良いこととします。
　※投球ゾーンを２つに分けて試合を行いますので、ゲーム中にチーム内で作戦を立てたり味方同士の情報交換も可能です。

１０．参　加　費　（当日の受付時、会場にてお支払いください）
　１チーム　1,000 円（チームごとのお支払いをお願いします）

１１．申　込　み
　別紙申込書に必要事項を記入の上、平成３０年１１月７日（水）までに、下記事務局に郵送または、FAX にてお申込みください。定員になり次第締切らせていただきます。

＜大会事務局＞
〒７８１－０３１３
高知市春野町内ノ谷１－１　高知県立障害者スポーツセンター内
TEL　０８８－８４１－００２１　FAX　０８８－８４１－００６５
E-メール　sports11@kochi-scfd.com　　担当：永島・北村

１２．競 技 規 則
　本大会独自の「レクボッチャ競技規則」によるものとします。なお、本規則にない部分に関しては、「日本ボッチャ協会競技規則」及び「高知県ボッチャ協会レクボッチャ規則」に準じておこなうこととします。
　（お申込みいただいた方（チーム）に競技規則をお送りします）

１３．競 技 方 法
　予選リーグを行い、各ブロック１位による決勝トーナメントを行います。
　（申込み状況により、変更する場合がありますのでご了承下さい）

１４．表　　彰
　決勝トーナメントの１位～３位のチームを表彰します。

１５．練習会
　大会出場チームが練習会を実施する場合に、調整可能な範囲内で指導員の派遣を行います。
　開催日時と場所を確定させたうえでお気軽にご相談ください。

１６．そ の 他
　① 競技中に事故が発生した場合、応急の処置については主催者において行いますが、その後の治療が必要な場合は参加者個人での対応となります。なお、主催者においてレクリエーション保険に加入します。
　② 昼食の必要な方は、申込書の弁当の欄に個数を記入してください。
　　弁当代（600 円）は当日受付にて徴収します。
　③ 無料送迎バスを運行します。下記のルートを予定していますので、希望者は乗車場所を所定の欄に記入してください。
　　詳細な時間については追ってご連絡を致します。
　④ 駐車場は立体駐車場となっていますが、エレベーターがありますので１階会場までそちらをご利用ください。※駐車場は２．３メートルの高さ制限がありますのでご注意ください。

①奈半利町　→　すまいるあき　※国道５５号線沿いで参加者と調整
②高知市内　→　すまいるあき

種まく大人たち勉強会事業　開催要項

１．目　　的
　市町村社会福祉協議会、高知県障がい者指導者協議会、体験教室講師等の方々を対象にさまざまな障害や教育問題についての理解を深める機会として、下記の日程で『種まく大人たち勉強会』を開催するもの。

２．主　　催
　社会福祉法人高知県社会福祉協議会　高知県立障害者スポーツセンター

３．講演内容等
　①平成３０年　６月２１日（木）１９：００～２１：００
　　畑中　功介氏　「わたしの思う事、できること」
　②平成３０年　９月１３日（木）１９：００～２１：００
　　近藤　秀夫氏　「１９６４年パラリンピックに出場して」
　③平成３０年１１月１８日（日）１９：００～２１：００
　　神原　亮介氏　「精神障碍者当事者から見る暮らしやすい地域とは」
　④平成３０年１１月１８日（日）１３：３０～１５：３０
　　鈴木　大裕氏　「学校は、いま」

４．会　　場
　高知県立障害者スポーツセンター　２階　研修室
　〒781-0313 高知市春野町内ノ谷１－１　ＴＥＬ0888-41-0021

５．参加対象者
　特に制限なし　※参加費は無料
　必要に応じて、手話通訳を構えるもの。

６．申　込　み
　下記事務局に電話、またはメールにてお申込みください。

＜大会お事務局＞
〒７８１－０３１３
高知市春野町内ノ谷１－１　高知県立障害者スポーツセンター内
TEL　０８８－８４１－００２１　FAX　０８８－８４１－００６５
E-メール　sports11@kochi-scfd.com　　担当：永島・北村

種まく大人たち 勉強会のお知らせ

障害者スポーツセンターでは、市町村社会福祉協議会、高知県障がい者指導者協議会、体験教室講師等の方々を対象にさまざまな障害や教育問題についての理解を深める機会として、下記の日程で『種まく大人たち勉強会』を開催いたします。講義のあとには、ざっくばらんに講師の先生と交流もできるようディスカッションの時間も設けます。　※参加費は無料です。また手話通訳も構えるようにしております。
参加ご希望の方は事前にお電話、メールまたはFAXにてお申込みください。

第1回 講師: 畑中　功介さん

☆日時:　6月21日(木)19:00～21:00

「わたしの思う事、できる事」

四国で唯一の車椅子ラグビーチームである「フリーダム」の主将。毎年、多くの学校で開催される体験教室では、「自分達が参加することで、障害者に対する垣根を低くしたい」という思いを胸に「感謝」と「思いやり」について独自の目線で語っていただきます。

第2回 講師:　近藤秀夫さん　樋口恵子さん

☆日時:　9月13日(木)19:00～21:00

「1964年東京パラリンピックに出場して」

1964年に開催された東京パラリンピックに出場された近藤さん。その時のご自身の経験、また、その当時の日本の障害者を取り巻く環境。そして、その後の人生…など、私たちの知らない当時の日本の真実を知る機会になるお話を奥さまと共にしていただきます。

第3回　講師: 神原　亮介さん

☆日時:　11月29日(木)

「精神障害者当事者から見る 暮らしやすい地域とは」

精神に障害がある方のフットサルチーム「CitRungs Tossa」のキャプテンである神原さん。
ユーモアを交えながらご自身の経験と、仲間がいてくれることの大切さをお話ししていただきます。

第4回　講師: 鈴木　大裕さん

☆日時:　1月19日(土)13:30～15:30

「学校は、いま」

※写真は鈴木さんのTwitterからお借りしました。

神奈川県生まれ、16歳で米国に留学。そこでの教育に衝撃を受け、日本の教育改革を志す。修士号取得後に帰国。公立中で6年半教える。後にフルブライト奨学生としてNYの大学院博士課程へ。日本の教育を良くしたいという志は高校の時から変わらず。2016年より、土佐町に移住。「学校はいま」というタイトルでお話しいただきます。

【申　込　先】
高知県立障害者スポーツセンター　担当:永島・北村
〒781-0313　高知市春野町内ノ谷1-1
TEL　(088)841-0021　FAX　(088)841-0065
emil　:sports11@kochi-scfd.com

愛媛県障がい者スポーツ普及啓発事業

◆障がい者スポーツ紹介事業（体験事業）

愛媛県障がい者スポーツ協会

事業概要

◆実施（申請）協会名	愛媛県障がい者スポーツ協会		
◆計画書作成者	清水　謙二		
◆企画・実施担当者	清水　謙二	◆経理担当者	猪之奥　美華

全体事業名称	愛媛県障がい者スポーツ普及啓発事業
委託費	¥500,000
地域の実情・課題点	上記の『愛媛県スポーツ推進計画』を積極的に推進していくための準備を進めているところであるが、昨年の全国障害者スポーツ大会後の県民への世論調査では、「障がい者スポーツへの関心が高まった」としたのは15.6%、「少し高まった」が43.6%で、60%弱の県民の皆さんにしか障がい者スポーツへ関心がないという結果で、まだ十分ではないという状況である。また、えひめ大会に向け盛り上がった体制や機運も大きな目標がなくなり、活動が低調になる恐れもあり、えひめ大会のレガシーを継承していくうえでも平成30年度の障がい者スポーツの普及啓発への取組みが特に大切であると考えている。
総合的な事業の目的	障がい者スポーツへの関心や理解度に対し、県内の地域でかなり温度差が感じられる。このため、意識が低いと感じられる地域で、各種団体と連携を図るとともに身近な地域で障がい者スポーツを体験できる事業を実施する。
総合的な事業のねらい	上記の事業を通して、指導者協議会、各種団体やボランティア団体との連携や協力体制の構築を図り、県下全体の障がい者スポーツの振興体制を整備したい。

事業名	
事業①	障がい者スポーツ紹介事業（体験会）
事業②	
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告

実施協会名	愛媛県障がい者スポーツ協会			
事 業 名	愛媛県障がい者スポーツ普及啓発事業			
事業内容	県内各市町、特別支援学校や施設等を訪問し、障がい者スポーツの体験を通して普及・啓発に努める。この事業は、身近な地域で障がい者スポーツを楽しんでもらえるような環境の整備と障がい者スポーツの裾野の拡大に取り組むことを目的に実施する。また、この事業は、県内でも浸透しつつある事業であるが、30年度は県内で今までこの体験会を実施していない地域等を中心に出向き、県内全域の障がい者スポーツに関する温度差の解消、底辺の嵩上げと障がい者スポーツの振興が図られることが期待できる。【実施競技：ボッチャ、FD、車いすバスケット、スラローム競技】			
開催日時	①平成30年7月25日（水）10時30分～12時 ②平成30年7月31日（火）13時30分～15時 ③平成30年8月9日　（木）13時00分～15時30分 ④平成30年8月25日（土）13時00分～15時30分 ⑤平成30年8月28日（火）　9時30分～11時30分 ⑥平成30年8月29日（水）　9時30分～12時 ⑦平成30年9月15日（土）13時00分～14時30分	⑧平成30年10月29日（水）10時～12時 ⑨平成30年11月15日（水）9時30分～11時30分 ⑩平成30年11月22日（木）9時30分～11時30分 ⑪平成30年11月25日（日）13時～16時 ⑫平成30年12月2日　（日）13時30分～15時30分 ⑬平成30年12月8日　（土）13時30分～15時30分		
会　　場	①しげのぶ清愛園（東温市） ②波方公民館（今治市） ③放課後デイサービス夢門塾（今治市） ④アリーナ土居体育館（四国中央市） ⑤道後小学校体育館（松山市） ⑥松山市総合福祉センター（松山市） ⑦サンアビリティーズ今治（今治市）	⑧さくら小学校（松山市） ⑨雄郡小学校（松山市） ⑩伊台小学校（松山市） ⑪愛南町御荘B&G海洋センター（愛南町） ⑫八幡浜市民スポーツセンター（八幡浜市） ⑬上島町体育館（上島町）		
参 加 者	①40名（知的30名、健常10名） ②31名（身体3名、健常28名） ③20名（知的13名、健常7名） ④100名（知的・身体75名、健常25名） ⑤66名（健常66名） ⑥35名（健常35名） ⑦34名（身体14名、健常20名）	⑧120名（健常120名） ⑨72名（健常72名） ⑩63名（健常63名） ⑪19名（身体16名、健常3名） ⑫70名（身体・知的10名、健常60名） ⑬15名（身体2名、健常13名）		
人員体制	①３名（障がい者スポーツ協会職員） ②５名（当協会職員3名、指導者協議会2名） ③３名（当協会職員） ④13名（当協会職員5名、指導者協議会6名、地域コーディネーター2名） ⑤5名（当協会職員4名、地域コーディネーター1名） ⑥4名（当協会職員） ⑦2名（当協会職員）	⑧8名（障がい者スポーツ協会職員5名、FD協会3名） ⑨6名（当協会職員2名、FD協会4名） ⑩３名（当協会職員3名、FD協会1名） ⑪3名（当協会職員3名、FD協会2名） ⑫13名（当協会職員5名、パラスポーツコーディネーター1名、地域コーディネーター2名、愛媛FC2名、指導者協議会3名） ⑬4名（当協会職員、地域コーディネーター1名）		
連携団体名 （箇条書き）	・サンアビリティーズ今治 ・愛媛県障がい者スポーツ指導者協議会 ・愛媛県フライングディスク協会	・松山市社会福祉協議会 ・愛媛FC ・パラスポーツコーディネーター、地域コーディネーター		
実際の事業での連携団体の役割	各競技団体や県障がい者スポーツ指導者協議会には、運営・指導の面のほか、選手の確保や競技運営等についても協力していただいている。			
本事業における障がい者スポーツ指導者の役割・活用について	県スポーツ指導者協議会には、企画・立案の時点から関わっていただいている。また、県内各地に会員がいることから参加者の確保や運営協力にも積極的に参画してもらっている。	本事業における障がい者スポーツ指導員の実人数	10名	
		本事業における障がい者スポーツ指導員の延べ人数	12名	
スポーツ用具の整備・活用について	ボッチャ用具を2セット購入し、上記事業（13回の事業実施のうち9か所）で活用しているほか、一般利用にも対応できるよう貸出するなど有効に活用している。			

事業全体の評価

実施（申請）協会名	愛媛県障がい者スポーツ協会		
全体事業名称	愛媛県障がい者スポーツ普及啓発事業		
委託費	¥500,000	決算額	¥500,000
事業の目的・ねらいの 達成あるいは未達の原因	事業の目的であった、障がい者の人たちが身近な地域で障がい者スポーツを体験できる環境の整備と、障がい者スポーツに対する理解、障がい者の社会参加の促進に加え、えひめ大会に向け盛り上がった体制や機運等「えひめ大会」のレガシーを継承し、本県の障がい者スポーツの普及・発展に取り組むという狙いで実施した。実施に際し、今年度県内3地域に配置した地域コーディネーターを活用するとともに連携も図られ、継続的な体制が整備できつつあるが、個人情報保護等の面で事業の周知が不十分だと感じている。		
事業実施前からの変化や 具体的な成果（アウトカム）	この事業は、従来は障がい者スポーツ体験を希望する市町、学校、施設等に出向き体験会を実施していたが、今年度は、当協会主催で、今まで障がい者スポーツ体験会を実施していなかった地域に出向き事業を実施したことで、身近な地域で障がい者スポーツを体験することができた参加者からも感謝の言葉が聞かれた。また、固定化されてきていた指導者協議会のメンバーに加え、新たなメンバーの参加協力が得られるなど成果があった。		
費用に関する所見	当初10回程度の事業を予定していたが、13回実施できたので計画どおり執行できた。しかし、予算不足のためお断りした施設もあり、大変申し訳なかった。		
今後の課題や 今後の事業展開 （具体的方策・展望）	事業の目的・ねらいの欄に記載したとおり、ある程度、普及・啓発もできてきているが、事業の案内が届きにくい在宅の障がい者等への周知方法等について、今後、各市町との連携が必要だと感じている。		
参加者や 関係団体からの声	・参加者から、松山までは、行けないけれども、身近なところで障がい者スポーツが体験出来て良かった。また、実施して欲しい。 ・普通の車いすしかないので、普通の車いすで車いすバスケットを練習していたが、本物の車いすバスケ車でバスケットが体験できて嬉しかった。 ・ボッチャを初めて体験して、だれでもできる競技があるんだと思った。 ・FDを初めて体験し面白かったので、来年の県大会には是非参加したい。　　等、参加者からの意見があった。		
その他所見	事業を継続していくことの必要性を感じている。		

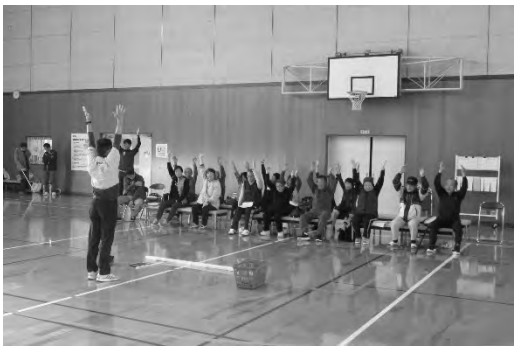
愛媛県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

① 事業写真

（1） 愛媛障がい者スポーツ普及啓発事業

事業の様子

スタッフ打合せの様子



準備運動の様子

フライングディスク体験の様子

ボッチャ体験の様子

車いすバスケットボール体験の様子

サッカー体験の様子

質疑応答の様子

講話の様子(障がい者スポーツ)

② 資料

・当協会で企画した体験会チラシ（四国中央市、八幡浜市）
・新聞掲載記事（切り抜き）
・松山市立伊台小学校からのお礼作品（写真で記録）

障がい者スポーツ体験会

車いすバスケ体験会

参加費 無料

日時 8月25日(土) 13:00～15:30

場所 土居総合体育館アリーナ土居
【四国中央市土居町土居1781】

主催 愛媛県障がい者スポーツ協会
【松山市道後町2丁目12－11 ☎(089)-924-2101】

どなたでも、お気軽にご参加ください！

ボッチャ体験会

運動のできる服装で、体育館シューズを持参してください。

主　催:愛媛県障がい者スポーツ協会

松山市道後町2丁目12-11　☎(089)924-2101

運動のできる服装で、体育館シューズをご準備ください。

２０１８年（平成３０年）１２月４日（火）愛媛新聞

障スポって皆が楽しい

八幡浜 裾野拡大へ40人挑戦

ボッチャに挑戦する参加者

「障がい者スポーツ体験会」（県障がい者スポーツ協会主催）が2日、八幡浜市北浜1丁目の市民スポーツセンターであり、南予の子どもから大人まで約40人が障害や競技について理解を深めた。

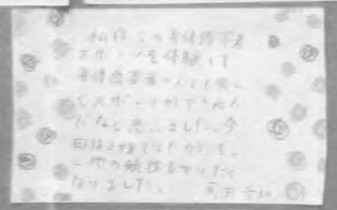
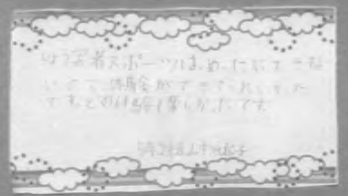
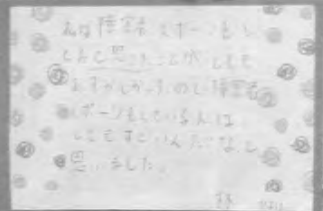
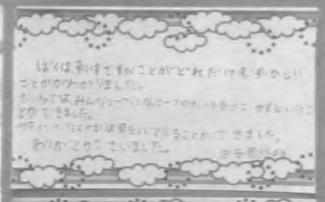
障害者スポーツの裾野拡大を目的に県内各所で開催しており、障害者と健常者が一緒に競技を楽しんだ。

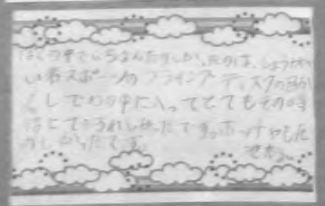
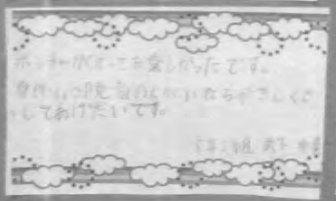
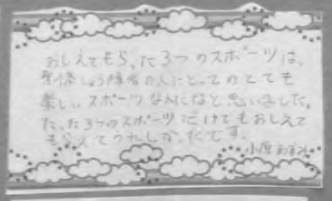
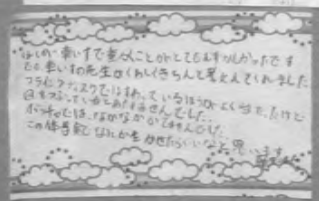
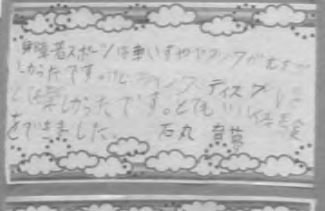
2チームに分かれ赤と青のボールを白い目標球にいかに近づけるかを競う「ボッチャ」は、子どもや高齢者が一緒にプレー。狙い澄まして投げた一投に歓声が上がった。フットサルはサッカー愛媛FCの元選手で現在はジュニアを指導する川井光一さん（39）＝宇和島市出身＝が基礎技術を教え、障害の有無を超え白熱の試合を繰り広げていた。

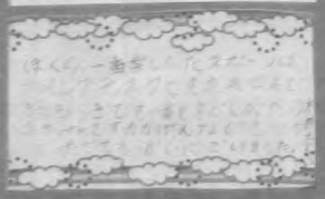
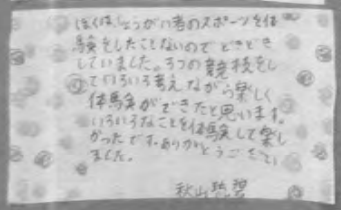
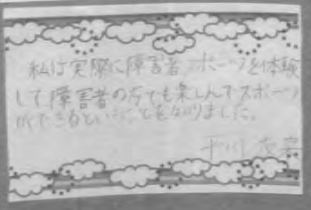
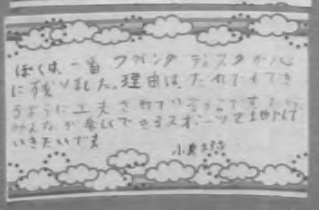
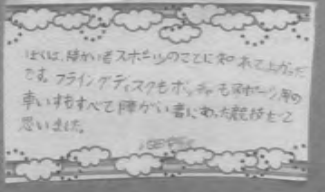
西予市の宇和町小学校3年宇都宮咲耶さん（9）と、妹でうわまち未来こども園年長の莉未ちゃん（6）は「初めてのボッチャは競争するのが楽しかった。ルールは簡単だけどやるのは難しく、またやりたい」と話した。

（門屋駿介）

愛媛県障がい者スポーツ協会の皆様へ

ありがとうございました！！

佐賀県障がい者スポーツ普及推進事業

◆障がい者スポーツフェスタ in　とす

◆鳥栖地域における障がい者スポーツ教室（地域連携事業）

一般社団法人佐賀県障がい者スポーツ協会

事業概要

◆実施（申請）協会名	一般社団法人佐賀県障がい者スポーツ協会		
◆計画書作成者	藤井洋恵		
◆企画・実施担当者	藤井洋恵	◆経理担当者	藤井洋恵

全体事業名称	佐賀県障がい者スポーツ普及推進事業
委託費	¥1,500,000
地域の実情・課題点	本県では障がい者スポーツ教室を開始して３年が経過しましたが、佐賀市にある勤労身体障害者教養文化体育館を中心とした教室が多く、まだまだ県内各地域での普及には至っておりません。また、障がい当事者のスポーツへの関心も薄いのが現状です。県内各地域での障がい者スポーツの普及と全国障害者スポーツ大会開催への関心を高める為にも、佐賀市以外での普及活動は必須であると考えます。これには各市町の協力も不可欠であり、障害者スポーツ実施に向けての環境整備と連携・協力態勢作りをしていかなければなりません。県東に位置する鳥栖市では、３年に一度の「市民スポーツフェスタ」が１０月に開催され、この中で障がい者スポーツ種目を取り入れる予定であるとの鳥栖市側からの情報を頂きましたので、当協会が平成28年度の佐賀市（県中央）、平成29年度には唐津市（県北）での開催と継続しているスポーツフェスタ（事業①）と連携すれば、行政を巻き込んでの大きな事業になると考えます。同スポーツフェスタを７月に開催することで、１０月と年に２度、障がい者スポーツを体験できる機会を設ける事となります。会場となる市民体育館をはじめ鳥栖市の公共施設は、これまで障がい者の利用が少なかったことから、今後の利用を促すきっかけ作りとなると考えます。また、鳥栖市総合型地域スポーツクラブからも、障がい者の参加を促進したいとの要望があり、地元の障スポ指導者との連携が取れ今後に繋がる事業として期待できることから、鳥栖市での事業の実施が必要であると考えます。
総合的な事業の目的	・大規模なスポーツフェスタを未普及地域で開催することで、障がい当事者だけでなく、一般市民にも広く理解してもらう。 ・地域での各団体による連携により、障がいの有無に関わらず、障がい者の活動の場やスポーツに親しむ機会を増やす。 ・地域での障がい者スポーツ実施についての環境整備を進める。
総合的な事業のねらい	・鳥栖市で開催することにより、地域の障がい者にこれまで知らなかった競技も含め体験してもらい、継続していくことに繋げる。 ・総合型地域スポーツクラブとの連携により、障がいの有無に関わらず、一緒にスポーツを楽しむことができ、活動の場が提供ができるようになること。 ・特別支援学校の教員や保護者との連携により、児童・生徒が日常的にスポーツをする機会を増やし、佐賀県障がい者スポーツ大会および全国障害者スポーツ大会への参加にも繋げる。 ・スポーツフェスタ（体験会）終了後に教室が連動するような流れを作り、さらに次年度は行政からの支援により継続できるよう繋げていく。

事業名	
事業①	障がい者スポーツフェスタ　in　とす
事業②	鳥栖地域における障がい者スポーツ教室（地域連携事業）
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告

実施協会名	一般社団法人佐賀県障がい者スポーツ協会		
事 業 名	障がい者スポーツフェスタ　in　とす		
事業内容	ボッチャ、フライングディスク、車いすバスケット、ツインバスケット、スラローム、ふうせんバレー、卓球バレー、サウンドテーブルテニス、車椅子テニス、電動車いすサッカー、吹矢、フットベースボールの計12種目と、その他ウィルチェアラグビーのデモ＆体験会、レーサー・義足体験、福祉事業所の販売等を行った。　９時３０分～１６時で実施。屋内外を使用した大規模な体験会となった。		
開催日時	平成３０年７月１６日（月・祝） ９時３０分～１６時		
会　　場	鳥栖市民体育館、多目的ホール、会議室、野球場		
参 加 者	障害者・一般　合計　２７０名 （延べ体験者数１１３５名）		
人員体制	佐賀県1名、鳥栖市スポーツ振興課1名、佐賀県社会就労センター2名、佐賀県障がい者スポーツ協会職員4名、佐賀県障害者スポーツ指導者協議会26名、他競技団体82名、障がい者スポーツ指導者協議会九州ブロック1名、佐賀県トレーナー協会6名、学生ボランティア40名、地域スポーツレクリエーションクラブフィッ鳥栖5名、西九州大学4名、看護師1名、手話通訳3名、ダンデライオン（ラグビー）11名　　187名		
連携団体名 （箇条書き）	佐賀県障害者スポーツ指導者協議会、佐賀県ボッチャ協会、佐賀県フライングディスク協会、佐賀県卓球バレー協会、佐賀県スポーツ吹矢協会、佐賀県ふうせんバレーボール協会、佐賀県トレーナー協会、佐賀県聴覚障害者協会、西九州大学、佐賀県立鳥栖工業高校、地域スポーツ・レクリエーションクラブフィッ鳥栖、佐賀県スポーツ課、鳥栖市スポーツ振興課、		
実際の事業での 連携団体の役割	スポーツ体験では、各競技団体および障害者スポーツ指導者協議会が主体となって体験会の指導・運営に協力して頂いた。また、フィッ鳥栖や鳥栖工業高校については、地元への周知を幅広く実施して頂き、当日は受付案内や誘導を主に担当して頂いた。佐賀県や鳥栖市は、施設の使用許可、県内公共施設への参加の案内について協力を頂いた。佐賀県トレーナー協会は、体験用レーサー・義足の手配から実施まで、全て協力頂いた。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	指導者協議会と各競技団体を兼ねている者が多いので、競技団体との連携は十分にできていた。また、実行委員会を組織して運営を行ったので、実行委員を中心に運営ができ、個々の役割も十分に果たすことができた。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	88
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	138
スポーツ用具の 整備・活用について	ボッチャ２セットを購入し、体験会（フェスタ）に使用。 今後はスポーツ協会にて管理し、教室や出張教室等での貸し出しも行っていく。		

各事業における事業報告

実施協会名	一般社団法人佐賀県障がい者スポーツ協会		
事 業 名	鳥栖地域における障がい者スポーツ教室（地域連携事業）		
事業内容	７月１６日のスポーツフェスタ開催後に同地区３会場にて、複数回の体験教室を実施した。種目は希望を取り入れ、参加団体についても希望があった３団体（3会場）を優先的に実施した。内容は、各会場の参加者に応じて、基本からミニゲームを行った。 ・バドミントン（１０回） ・ボッチャ（４回） ・スポーツ吹矢（１回） ・卓球バレー（２回） ・フライングディスク（３回） ・フロアーホッケー（１回）		
開催日時	①平成30年10月15日（月）～11月19日（月）　50分（授業時間帯に合せて実施）×10回 ②平成30年 9月 8日（土）　10時～11時30分 ③平成30年 9月10日（月）　10時～12時 ④平成30年10月 7日（日）　10時～12時、13時～14時30分 ⑤平成30年10月18日（木）　13時15分～14時25分 ⑥11月17日（土）、12月1日（土）　13時～14時30分 ⑦11月23日（金）　10時～15時		
会　　場	・中原特別支援学校　①バドミントン　⑤ボッチャ ・社会福祉法人若楠青葉園　②ボッチャ③フロアーホッケー、フライングディスク ④卓球バレー、スポーツ吹矢　⑦フライングディスク、卓球バレー ・鳥栖北小学校　⑥フライングディスク、ボッチャ		
参 加 者	①34名　（病弱児１０回延べ数） ②40名　（身体知的40名） ③12名　（身体知的12名） ④54名　（身体知的54名）、 ⑤20名　（身体10名教員10名） ⑥6名　（身体1名知的5名） ⑦150名　（身体知的50名 健常一般100名）		
人員体制	①武雄市バドミントン協会延べ10名、　協会職員延べ7名 ②佐賀県ボッチャ協会1名、佐賀県障害者スポーツ指導者協議会3名、西九州大学2名、協会職員1名 ③西九州大学5名、佐賀県フライングディクス協会4名、協会職員1名 ④卓球バレー協会2名、佐賀県スポーツ吹矢協会6名 ⑤佐賀県ボッチャ協会1名、協会職員1名 ⑥地域スポーツ・レクリエーションクラブフィッ鳥栖6名、西九州大学2名、鳥栖工業高校24名、協会職員2名 ⑦佐賀県フライングディスク協会5名、佐賀県卓球バレー協会1名、西九州大学2名、協会職員1名		
連携団体名 （箇条書き）	鳥栖市、佐賀県障害者スポーツ指導者協議会、佐賀県フライングディスク協会、佐賀県スポーツ吹矢協会、佐賀県ボッチャ協会、佐賀県卓球バレー協会、武雄市バドミントン協会、 地域スポーツ・レクリエーションクラブフィッ鳥栖、中原特別支援学校、西九州大学、佐賀県立鳥栖工業高校		
実際の事業での 連携団体の役割	各競技団体からは、講師・講師補助者の派遣・指導をして頂いた。鳥栖市、鳥栖教育委員会を通じて、各学校、校長会や施設への周知、スポーツ推進委員への働きかけ等の協力を頂いた。地域スポーツレクリエーションクラブフィッ鳥栖については、地元会場の確保、当日の運営、指導にご協力頂いた。　西九州大学、鳥栖工業高校の学生・生徒は、ボランティアとして教室に参加して頂いた。中原特別支援学校については、授業の中で外部講師との位置づけで、バドミントン指導者を派遣させて頂いた。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	日頃からほとんどの指導者は、協会主催の障がい者スポーツ教室にて、指導をして頂いており、教室の運営の中心的役割を担っている。また、バドミントンについては。今回特別支援学校と連携して、外部講師という役割ができた。鳥栖北小学校でも、フィッ鳥栖と障がい者スポーツ指導員の連携により、地域での周知活動や今後の地元での活動に繋がるような教室となった。施設職員の中にも指導員資格を有する者が数名見られ、今後施設内での活動が期待できる。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	21
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	41
スポーツ用具の 整備・活用について	ボッチャ２セット(スポーツフェスタ時に購入）、卓球バレー用具（セット）、スポーツ吹矢用具を購入し、教室で使用。 今後はスポーツ協会にて管理し、貸し出しも行っていく。		

事業全体の評価

実施（申請）協会名	一般社団法人佐賀県障がい者スポーツ協会		
全体事業名称	佐賀県障がい者スポーツ普及推進事業		
委託費	¥1,500,000	決算額	¥1,549,417
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	スポーツフェスタの開催については、一般市民にも広く周知し鳥栖地域で大規模なイベントを開催できたことで、普及という観点からは大きな成果だと考える。　施設の整備については、改善点は見受けられたが、今後も行政に改善点を働きかけ、利用がスムーズにできるようにしていきたい。総合型スポーツクラブや特別支援学校と連携がとれ、参加者からも継続の声が多く聞かれたことで、スポーツ教室事業についてもきっかけ作りができたと考える。スポーツ教室については、競技団体や施設を中心に実施したこともあり、行政との関わりが薄かった点が課題として残った。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	スポーツフェスタ実施後に教室を実施したことで、教室開催の希望が多数あり、地域の障がい者の方々がスポーツに関心を持っていることがよく分かった。同時に施設の職員の方々も関心を高めており、今後は教室や大会への参加も視野に入れ、施設内でのスポーツの普及に努めていくとのこと。フィッ鳥栖主催のスポーツ教室開催に向けて計画中。鳥栖市への協力を依頼している。		
費用に関する所見	スポーツフェスタ、教室ともに、人件費が約４割を占めているが、指導者・補助者については、十分な体制がとれていたと考える。夏に開催したスポーツフェスタは、熱中症対策に費用がかかったが、安全面から考えると妥当な金額かと思われる。用具についても、既存のものを活用した上で足りない用具を購入させて頂き、今後も十分に活用できるものと考える。		
今後の課題や今後の事業展開（具体的方策・展望）	各地域の行政で対応に差があることを感じたので、今後は事前の打ち合わせを十分に実施できるように検討したい。スポーツフェスタのような規模の大きいイベントを、今後も別の地域にて実施し県内での普及に努めて行きたい。スポーツ教室については、鳥栖地域での継続実施について反応がかなりあった。総合型スポーツクラブフィッ鳥栖主導で、公共施設での教室実施の企画を進めて頂いている。また、鳥栖地域でのバドミントン教室を開催予定であり、指導者との関係もできた特別支援学校生徒の教室参加者の継続を見込んでいる。		
参加者や関係団体からの声	スポーツフェスタ後のアンケートからは、楽しかった、鳥栖地域でも教室を実施してほしい、家族のいつもと違った面が見られた等の意見が寄せられた。　スポーツ教室では、同じように鳥栖で教室を開催して欲しいとの声が多く聞かれた。また、施設への出張指導のような形で今後も続けて行きたい、スポーツ大会への参加も検討したい、と施設職員の意識が高まっている。		
その他所見	中原特別支援学校での教室では、外部講師という位置づけで指導をさせて頂いたが、教室を実施した特別支援学校が、全国学校体育研究大会での発表担当校でもあった為、最終日は公開授業となり、見学の方々から「外部講師」採用については注目が集まっていた。今後県内で広めていければと思う。		

「佐賀県障がい者スポーツ普及推進事業」の事業写真

①事業写真

（1） 障がい者スポーツフェスタ　in　とす

事業の様子

スポーツフェス

②資料

平成 30 年度障害者スポーツ振興事業「地域における障がい者スポーツの振興事業」

「体験しよう！　障がい者スポーツフェスタ　２０１８　ｉｎ　とす」　実施要綱

１　目的

障がい者スポーツに日頃かかわりの少ない地域の障がい者やスポーツ関係者が、障がい者スポーツに触れること、体験することを通して、障がい者のスポーツ活動を推進し、障がいや障がい者スポーツへの理解を深めることを目的とする。

また、事業実施後に地域における障がい者スポーツの支援者が増え、人材や関係団体との連携が拡充し、地域における障がい者スポーツの振興体制を推進させることを目的とする。

２　主催

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

３　共催

一般社団法人佐賀県障がい者スポーツ協会

４　運営

障がい者スポーツフェスタ２０１８　in　とす　実行委員会

５　後援

佐賀県、佐賀県教育委員会、鳥栖市、鳥栖市教育委員会、鳥栖市体育協会、社会福祉法人佐賀県社会福祉協議会、一般財団法人佐賀県手をつなぐ育成会、一般社団法人佐賀県視覚障害者団体連合会、佐賀県知的障害者福祉協会、一般社団法人佐賀県聴覚障害者協会、佐賀県身体障害児者施設協議会、佐賀県スポーツ推進委員協議会、スペシャルオリンピックス日本・佐賀、佐賀新聞社、サガテレビ、NHK 佐賀放送局、西日本新聞社、（順不同）

６　協力

障がい者スポーツ指導者協議会九州ブロック、佐賀県障害者スポーツ指導者協議会、総合型地域スポーツクラブフィッ鳥栖、佐賀県社会就労センター協議会、Infinity 侍、ハガクレデンジャーズ、インクリース佐賀、NPO 法人スポーツラボGABAI さが、佐賀県障害者フライングディスク協会、佐賀県卓球バレー協会、佐賀県ボッチャ協会、西九州大学スポーツ健康福祉学科、NPO 法人佐賀県トレーナー協会、佐賀県ふうせんバレーボール協会、佐賀県スポーツ吹矢協会、西九州大学 ESRD サークル（順不同）

７　協賛　　PINK　ION　JAPAN 株式会社

８　開催日時

平成３０年７月１６日（月・祝日）　　９時３０分～１６時

９　会場　鳥栖市民体育館、市民体育館諸室、野球場

〒849-0923　　鳥栖市宿町 926 番地　　TEL 0942-85-3632

10　内容

①　ウィルチェアーラグビー体験会＆デモンストレーション

時間：１０時～１１時３０分

場所：体育館内

協力：ウィルチェアーラグビーチーム「福岡 DANDELION」

② 障がい者スポーツ体験 「全国障害者スポーツ大会種目を中心に体験」

時間：9 時 30 分～16 時 00 分

種目：車椅子バスケットボール、スラローム、サウンドテーブルテニス、車いすテニス、
フライングディスク、フットベースボール、電動車いすサッカー、ボッチャ、
卓球バレー、ふうせんバレー、スポーツ吹矢、アーチェリー（１２種目予定）

場所：市民体育館、市民体育館諸室、鳥栖市民球場

③ パネル展示・体験コーナー

内容：夏季パラリンピック、および全国障害者スポーツ大会のパネルを展示
競技用レーサー（車椅子）や義足歩行体験、クイズコーナー 等

時間：9 時 30 分～15 時 30 分

場所：市民体育館玄関前、屋外広場

※福祉事業所の商品販売

内容：福祉事業所製品の販売 （１０時～１５時）

※スタンプラリー 内容：①～③の会場でスタンプを集めて景品を提供

12 参加料 無料（事前申し込みは必要ありません）

13 留意事項

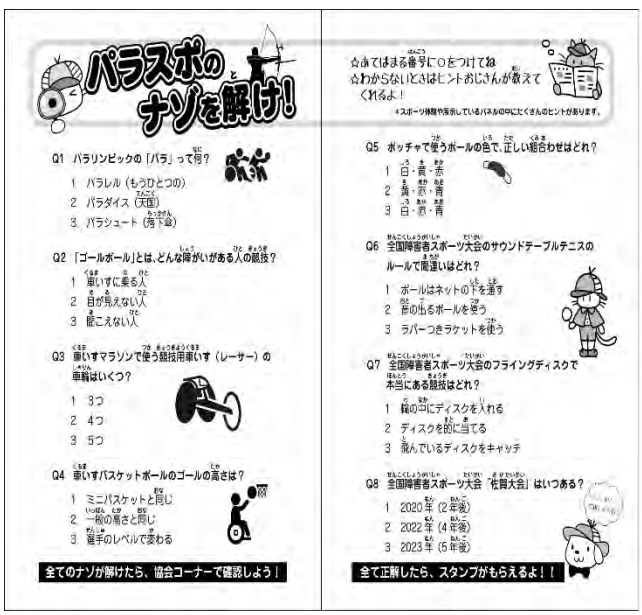
・自己又は保護者の責任において、健康と安全の支障がないことを確認の上参加すること。
・参加中の怪我、または発病については、主催者側は応急処置のみ行う。
・服装やシューズは、体験に適したものを着用すること。
・参加に当たっては、水分補給をこまめに行い熱中症予防に努めること。
・主催者にて参加者を被保険者とした普通傷害保険（レクリエーション保険）に加入する。
・主催者及び主催者が許可した報道機関等の撮影・ホームページの写真掲載等については、了承の上参加すること。
・駐車場の数に制限があるため、自家用車の乗り合わせや公共交通機関を利用すること。

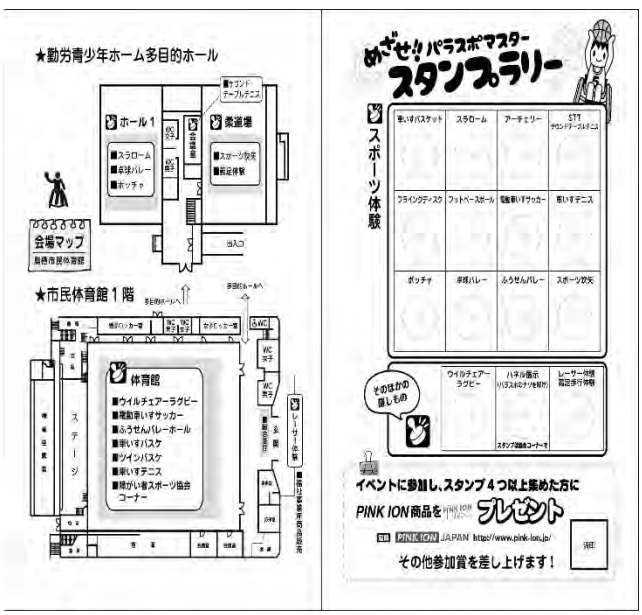
14 問い合わせ

佐賀県障がい者スポーツ協会 担当：藤井
〒840-0851 佐賀県佐賀市天祐１丁目 8-5 佐賀県勤労身体障害者教養文化体育館内
TEL 0952-24-3809 FAX 0952-24-3818
E-mail：saga-spokyofujii@lagoon.ocn.ne.jp

チラシ（Ａ４両面）

館内案内図・スタンプラリー





ポスター（Ａ２）

平成30年度障害者スポーツ振興事業
地域における障がい者スポーツの振興事業
障がい者スポーツ（パラスポ）を
体験し、理解できるイベント
体験しよう！
障がい者
スポーツフェスタ
2018 in とす
どなたでも参加できます
入場無料
7月16日 月・祝
9:30～16:00
鳥栖市民体育館
市民体育館諸室、鳥栖市民球場
ウィルチェアーラグビー
体験会＆デモンストレーション
時間：10:00～11:30
場所：体育館内
「福岡 DANDELION」
パネル展示・体験コーナー
場所：市民体育館玄関前、屋外広場
夏季パラリンピック、および全国障害者スポーツ大会のパネルを展示、競技用レーサー（車椅子）や義足歩行体験、クイズコーナー　等
障がい者スポーツ体験
時間：10:00～16:00
場所：市民体育館、市民体育館諸室
鳥栖市民球場
車椅子バスケットボール、
スラローム、アーチェリー、
サウンドテーブルテニス、
フライングディスク、
フットベースボール、
電動車いすサッカー、
車いすテニス、ボッチャ、
卓球バレー、
ふうせんバレー、
スポーツ吹矢
スタンプラリー
PINK ION 商品をプレゼント
福祉作業所 商品販売

アンケート集計結果（62枚）

住所	佐賀県内	鳥栖市内	28
		佐賀市	3
		唐津市	5
		三養基郡	10
		神埼市	1
		県内	1
	県外	熊本県	1
		福岡県	11

学年	小学生	8
	中学生	6
	高校生	2
	小学生以下	5
年齢	20代	7
	30代	3
	40代	9
	50代	6
	60代	9
	70代	1

イベントを何で知ったか

学校配布チラシ	27
ドライブ中	2
推進委員メール	1
とす市報	2
知人より	12
ポスター	7
新聞折り込み	1
その他	6

楽しかった種目

アーチェリー	9
STT	5
吹矢	16
レーサー	4
フットベース	1
フライングディスク	3
卓球バレー	8
スラローム	6
ボッチャ	8
テニス	4
ラグビー	4
車いすバスケ	2
ふうせんバレー	7
義足体験	2
パネル展示	1
すべて	5

その他感想（原文のまま）

体験してみたい種目があったので、近くでこのようなイベントがありよかった。

・とても親切に分かりやすく説明してくれた

・子供が楽しそうでした

・レーサー体験がものすごくよかった

・また開催してほしい

・吹矢が意外と楽しかった

・車いすでも参加できるスポーツがたくさん体験できて楽しかった

・車いすに乗るのが難しく、普段つかわない筋肉を使い、運動になった

・鳥栖でも車いすでできるスポーツがあればいい

・鳥栖方面でも積極的に開催して欲しい

・親子で楽しむことができた。暑い中ありがとうございました

・吹矢をしたことがなかったので、楽しかった

・知的の兄が楽しく参加していた。できないと思っている事が意外にできた瞬間は感動的でした

・もう少し涼しい時期がいいかも

・とても暑かったけど、楽しかった

・とても暑くて酸欠になりそうだった。でも楽しかった、クーラーをつけて欲しい

・ものすごく暑かったです。 スラロームが難しかった

・日頃できない事を学べました

・チラシ等に手話通訳ありと載せてほしい

・なかなか普通のスポーツに参加できない息子が家族でとても笑顔で楽しめていたので、あり難かったです

・暑い

・開催時期をずらしてほしい

・毎年やってほしい

・STTの場所が難しい

佐賀県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（2） スポーツ教室　in　とす

WEST

②資料

平成３０年度障害者スポーツ振興事業【地域における障がい者スポーツの振興事業】

「障がい者スポーツ教室　in　とす」　実施要綱

１　目的

障がい者スポーツに日頃かかわりの少ない地域の障がい者や施設関係者・教員が、障がい者スポーツに触れること、体験することを通して、障がい者のスポーツ活動を推進し、障がいや障がい者スポーツへの理解を深めることを目的とする。

また、事業実施後に地域における障がい者スポーツの支援者が増え、人材や関係団体との連携が拡充し、地域における障がい者スポーツの振興体制を推進させることを目的とする。

２　主催　　公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

３　共催　　一般社団法人佐賀県障がい者スポーツ協会

４　協力（予定）

佐賀県立中原特別支援学校、社会福祉法人若楠、鳥栖市スポーツ・レクリエーションクラブフィッ鳥栖、佐賀県障害者スポーツ指導者協議会、佐賀県障害者フライングディスク協会、佐賀県卓球バレー協会、佐賀県ボッチャ協会、西九州大学スポーツ健康福祉学科、西九州大学 ESRD サークル（順不同）

５　開催日時　　平成３０年９月～１２月　　（別紙）

６　会　　場　　中原特別支援学校、青葉園、鳥栖北小学校(予定)

７　内　　容(予定)

ボッチャ、フライングディスク、卓球バレー、スポーツ吹矢、軽スポーツ等

日時：別紙参照

８　申込み　　別紙申込書により申し込む

９　参加料　　無料

１０　留意事項

・自己又は保護者の責任において、健康と安全の支障がないことを確認の上参加すること。
・服装やシューズは、体験に適したものを着用すること。
・参加に当たっては、水分補給をこまめに行い熱中症予防に努めること。
・主催者にて参加者を被保険者とした普通傷害保険（レクリエーション保険）に加入する。
・主催者及び主催者が許可した報道機関等の撮影・写真掲載等については了承の上参加すること。
・駐車場の数に制限があるため、自家用車の乗り合わせや公共交通機関を利用すること。

１１　問い合わせ及び送付先

佐賀県障がい者スポーツ協会　　担当：藤井

〒840-0851　佐賀県佐賀市天祐１丁目 8-5　　佐賀県勤労身体障害者教養文化体育館内

TEL 0952-24-3809　　FAX 0952-24-3818

E-mail：saga-spokyofujii@lagoon.ocn.ne.jp

平成 30 年度障害者スポーツ振興事業「地域における障がい者スポーツの振興事業」

「体験しよう！　障がい者スポーツフェスタ　２０１８　ｉｎ　とす」　実施要綱

1　目的

障がい者スポーツに日頃かかわりの少ない地域の障がい者やスポーツ関係者が、障がい者スポーツに触れること、体験することを通して、障がい者のスポーツ活動を推進し、障がいや障がい者スポーツへの理解を深めることを目的とする。

また、事業実施後に地域における障がい者スポーツの支援者が増え、人材や関係団体との連携が拡充し、地域における障がい者スポーツの振興体制を推進させることを目的とする。

2　主催

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

3　共催

一般社団法人佐賀県障がい者スポーツ協会

4　運営

障がい者スポーツフェスタ２０１８　in　とす　実行委員会

5　後援（予定）

佐賀県、佐賀県教育委員会、鳥栖市、鳥栖市教育委員会、鳥栖市体育協会、社会福祉法人佐賀県社会福祉協議会、一般財団法人佐賀県手をつなぐ育成会、一般社団法人佐賀県視覚障害者団体連合会、佐賀県知的障害者福祉協会、一般社団法人佐賀県聴覚障害者協会、佐賀県身体障害児者施設協議会、佐賀県スポーツ推進委員協議会、スペシャルオリンピックス日本・佐賀、佐賀新聞社、サガテレビ、NHK 佐賀放送局、西日本新聞社、（順不同）

6　協力（予定）

障がい者スポーツ指導者協議会九州ブロック、佐賀県障害者スポーツ指導者協議会、総合型地域スポーツクラブフィッ鳥栖、佐賀県社会就労センター協議会、Infinity 侍、ハガクレデンジャーズ、インクリース佐賀、NPO 法人スポーツラボGABAI さが、佐賀県障害者フライングディスク協会、佐賀県卓球バレー協会、佐賀県ボッチャ協会、西九州大学スポーツ健康福祉学科、NPO 法人佐賀県トレーナー協会、佐賀県ふうせんバレーボール協会、佐賀県スポーツ吹矢協会、西九州大学 ESRD サークル（順不同）

7　協賛　　PINK　ION　JAPAN 株式会社

8　開催日時

平成３０年７月１６日（月・祝日）　　９時３０分～１６時

9　会場（予定）　鳥栖市民体育館、市民体育館諸室、野球場

〒849-0923　　鳥栖市宿町 926 番地　　TEL 0942-85-3632

10　内容

①　ウィルチェアーラグビー体験会&デモンストレーション

時間：１０時～１１時３０分

場所：体育館内

協力：ウィルチェアーラグビーチーム「福岡 DANDELION」

②　障がい者スポーツ体験　「全国障害者スポーツ大会種目を中心に体験」

時間：9 時 30 分～16 時 00 分

種目：車椅子バスケットボール、スラローム、サウンドテーブルテニス、車いすテニス、フライングディスク、フットベースボール、電動車いすサッカー、ボッチャ、卓球バレー、ふうせんバレー、スポーツ吹矢、アーチェリー（１２種目予定）

場所：市民体育館、市民体育館諸室、鳥栖市民球場

③　パネル展示・体験コーナー

内容：夏季パラリンピック、および全国障害者スポーツ大会のパネルを展示

競技用レーサー（車椅子）や義足歩行体験、クイズコーナー　等

時間：9 時 30 分～15 時 30 分

場所：市民体育館玄関前、屋外広場

※福祉事業所の商品販売

内容：福祉事業所製品の販売　（１０時～１５時）

※スタンプラリー　内容：①～③の会場でスタンプを集めて景品を提供

12　参加料　　無料（事前申し込みは必要ありません）

13　留意事項

・自己又は保護者の責任において、健康と安全の支障がないことを確認の上参加すること。
・参加中の怪我、または発病については、主催者側は応急処置のみ行う。
・服装やシューズは、体験に適したものを着用すること。
・参加に当たっては、水分補給をこまめに行い熱中症予防に努めること。
・主催者にて参加者を被保険者とした普通傷害保険（レクリエーション保険）に加入する。
・主催者及び主催者が許可した報道機関等の撮影・ホームページの写真掲載等については、了承の上参加すること。
・駐車場の数に制限があるため、自家用車の乗り合わせや公共交通機関を利用すること。

14　問い合わせ

佐賀県障がい者スポーツ協会　　担当：藤井

〒840-0851　佐賀県佐賀市天祐１丁目 8-5　　佐賀県勤労身体障害者教養文化体育館内

TEL 0952-24-3809　　FAX 0952-24-3818

E-mail：saga-spokyofujii@lagoon.ocn.ne.jp

「体験しよう！障がい者スポーツフェスタ２０１８　in　とす」　　振り返りまとめ

実行委員会について　※当てはまるものに○付けてください。
・開催日時（水曜日夜）について →（良い）／ 変えて欲しい（希望：　　））
・内容についてはどうでしたか →（（良い）／ 悪い ）

前日の準備について

※良かった点
・トラックへの積み込み段階で少数ではあるが、手伝いに来てくれたこと。
・鳥栖会場では高校生の手伝いがあったこと。

※改善が必要な点など
・パネル展示に手間取った。（事前の確認不足）
・実行委員会メンバーは、できるだけ協力してほしい
・トラックが小さい（積荷の量を考えて計画必要）

当日について

※良かった点
・暑さ対策がよくできていた。
・午後、速やかに体育館から出て休憩するなどのアナウンスを発信したことはよかった。
・各会場のスペースの活用としては、ちょうどよかったのではないか。
・もう少し広さで余裕があればよかったのではないか。
・外の出店スペースの打ち水が気持ちよかった。
・急な駐車場の対応をされていた点はよかった。
・暑い中たくさんの参加があったことは、広報活動の成果ではないか。
・弁当の一部を出店で購入したことはよかった。
・暑くて最高
・みんなが声を掛け合って頑張っていた。
・競技ブースでのスタッフが充実していたので、普段指導していないスタッフの指導の経験にもなった
・レーサーの走路確保ができていたこと、テント設置があったこと。
・柔道場での義足体験の配置はありがたい。（転倒をあまり気にせずに済む）
・スタッフ側も数回の開催により、経験値が上がる
・野球場では、参加者を次の種目に誘導しながら連携して実施できた
・出店を外で実施したことで、プール利用の方などにも参加して頂くことができた
・会議室以外に昼食を食べるスペースが欲しかった。
・スラロームとボッチャが同じ場所だったので、卓球バレーへの参加人数調整がしやすかった
・受付の細かい対応で、各競技に誘導して頂いた

※改善が必要な点など
・学生ボランティアに頼りすぎ、任せすぎ（もう少し細かく指示を出す必要がある）
・ＳＴＴの補助員が誰もいない時間帯があった。
・駐車場の誘導不足、細かい誘導計画が必要であった
・手話通訳は配置していたが、周知不足だったかもしれない
・開催日の見直し、暑すぎた。
・空調設備がある体育館にて実施するほうがよい
・ラグビーの体験会では、衝突音がダメな人がいて、他の種目に流れていた
・多目的ホールへの呼び込みや誘導が難しかった。ＳＴＴは特に分かりにくかった。
・看板などをもっと活用する工夫が必要（会場が迷路のようになっていた）
・ラグビー体験会の時間帯は、全種目ストップした状態がよい
・今回のデモ観戦者はゼロに近い（見るより体験することの方が優先であった）
・開始式やラグビーチームの方々の誘導の流れを細かく決めておくとよかった
・フリードリンクコーナーが野球場まで行き渡ってなかった。
・ラグビー実施中は、多目的ホールに参加者が集中して待たせる時間があり、その間に離れてしまう方もいた。
・各種目スタッフで、案内係を兼ねて他への誘導などができればよかった。
・予算があれば事業所販売に商品券を使えるようにしたり、スタンプラリー景品としての商品券を発行すると、売り上げも上がるかと思う。

上記以外に今回の企画全体を通じて気づいた点や意見

・スタッフのユニフォームがあったほうが、イベントの一体感があると思う。同じ形で作成し、持っていないスタッフに支給していくのはどうか
・今回のイベントを通して、施設設備の不備やバリアフリー化を推進していくことで、誰もが使いやすい施設を目指して行きながら、佐賀国体を迎えられたらよい。
・開催地より、会場のアクセスや交通アクセスを重視したほうがよい（車での送迎サービスなどがあるといいかも）
・利用者に関わる福祉関係者が知っておくことは必須。チラシ配布、掲示だけでなく、直接お話しして紹介するのがベスト。
・今後やりたい種目や何が自分に合っているのか等、案内役がいればいいと思った。（中級指導員や様々な種目をしっている人）
・良い企画なので、継続していければいいと思います
・参加者の目線に立って、案内板なども考える
・各競技にボランティアスタッフをつける必要があるのか（スタンプ要員にしかならない）
・実行委員の中で、具体的な担当を決めて任せたほうがスムーズな流れになると思う
・会場内での移動が大変そうとためには、バリアフリーでないと厳しいのではないか
・若い人がたくさんいて、頼もしい限り

アンケート集計結果（62枚）

住所	佐賀県内	鳥栖市内	28
		佐賀市	3
		唐津市	5
		三養基郡	10
		神埼市	1
		県内	1
	県外	熊本県	1
		福岡県	11

学年	小学生	8
	中学生	6
	高校生	2
	小学生以下	5
年齢	20代	7
	30代	3
	40代	9
	50代	6
	60代	9
	70代	1

イベントを何で知ったか

学校配布チラシ	27
ドライブ中	2
推進委員メール	1
とす市報	2
知人より	12
ポスター	7
新聞折り込み	1
その他	6

楽しかった種目

アーチェリー	9
STT	5
吹矢	16
レーサー	4
フットベース	1
フライングディスク	3
卓球バレー	8
スラローム	6
ボッチャ	8
テニス	4
ラグビー	4
車いすバスケ	2
ふうせんバレー	7
義足体験	2
パネル展示	1
すべて	5

その他感想（原文のまま）
体験してみたい種目があったので、近くでこのようなイベントがありよかった。
・とても親切に分かりやすく説明してくれた
・子供が楽しそうでした
・レーサー体験がものすごくよかった
・また開催してほしい
・吹矢が意外と楽しかった
・車いすでも参加できるスポーツがたくさん体験できて楽しかった
・車いすに乗るのが難しく、普段つかわない筋肉を使い、運動になった
・鳥栖でも車いすでできるスポーツがあればいい
・鳥栖方面でも積極的に開催して欲しい
・親子で楽しむことができた。暑い中ありがとうございました
・吹矢をしたことがなかったので、楽しかった
・知的の兄が楽しく参加していた。できないと思っている事が意外にできた瞬間は感動的でした
・もう少し涼しい時期がいいかも
・とても暑かったけど、楽しかった
・とても暑くて酸欠になりそうだった。でも楽しかった、クーラーをつけて欲しい
・ものすごく暑かったです。スラロームが難しかった
・日頃できない事を学べました
・チラシ等に手話通訳ありと載せてほしい
・なかなか普通のスポーツに参加できない息子が家族でとても笑顔で楽しめていたので、あり難かったです
・暑い
・開催時期をずらしてほしい
・毎年やってほしい
・STTの場所が難しい

平成３０年度スポーツ振興事業　「地域における障がい者スポーツの振興事業」　　「スポーツ教室　in　とす」　実施一覧表

	日程	開催場所	内容	参加者数	指導者・ボランティア数
１	平成３０年９月８日（土） １０時～１１時３０分	青葉園	ボッチャ	４０名	指導者・補助者　６名
２	平成３０年９月１０日（月） １０時～１２時	青葉園	フロアーホッケー フライングディスク	１２名	指導者・補助者　９名
３	平成３０年１０月７日（日） １０時～１１時３０分 １３時～１４時３０分	青葉園	卓球バレー 吹矢	５４名	指導者・補助者　８名
４	平成３０年１０月１５日（月） １３時１５分～１４時２５分	中原特別支援学校	バドミントン①	３名	指導者１名・（教員３名）
５	平成３０年１０月１８日（木） １３時１５分～１４時２５分	中原特別支援学校	ボッチャ	２０名	指導者１名
６	平成３０年１０月２２日（月） １３時３５分～１４時２５分	中原特別支援学校	バドミントン②	３名	指導者１名・（教員３名）
７	平成３０年１０月２６日（金） １４時３０分～１５時２０分	中原特別支援学校	バドミントン③	３名	指導者１名・（教員３名）
８	平成３０年１０月２９日（月） １４時３０分～１５時２０分	中原特別支援学校	バドミントン④	４名	指導者１名・（教員３名）
９	平成３０年１１月　２日（金） １４時３０分～１５時２０分	中原特別支援学校	バドミントン⑤	４名	指導者１名・（教員３名）
１０	平成３０年１１月　５日（月） １３時３５分～１４時２５分	中原特別支援学校	バドミントン⑥	３名	指導者１名・（教員３名）
１１	平成３０年１１月　９日（金） １３時３５分～１４時２５分	中原特別支援学校	バドミントン⑦	４名	指導者１名・（教員３名）
１２	平成３０年１１月１２日（月） １３時３５分～１４時２５分	中原特別支援学校	バドミントン⑧	４名	指導者１名・（教員３名）
１３	平成３０年１１月１６日（金） １０時４５分～１１時３５分	中原特別支援学校	バドミントン⑨	３名	指導者１名・（教員３名）
１４	平成３０年１１月１７日（土） １３時～１４時３０分	鳥栖北小学校	ボッチャ フライングディスク	３名	指導者・補助者３名　学生ボラ12名
１５	平成３０年１１月１９日（月） １３時３５分～１４時２５分	中原特別支援学校	バドミントン⑩	３名	指導者１名・教員３名
１６	平成３０年１１月２３日（金・祝） １０時～１４時（予定）	青葉園	フライングディスク 卓球バレー	１５０名	指導者・補助者８名
１７	平成３０年１２月１日(土) １３時～１４時３０分	鳥栖北小学校	ボッチャ フライングディスク	３名	指導者・補助者３名　学生ボラ12名

障がい者スポーツ交流事業

◆障がい者スポーツ体験会

◆子どもふれあい交流事業

大分県障がい者体育協会

事業概要

◆実施（申請）協会名	大分県障がい者体育協会		
◆計画書作成者	岩男 裕里		
◆企画・実施担当者	轟 英樹、木本 克樹、鶴岡 美空	◆経理担当者	宮﨑 るみ、岩本 香奈

全体事業名称	障がい者スポーツ交流事業
委託費	¥1,800,000
地域の実情・課題点	本県では、社会福祉法人太陽の家創始者である故・中村裕博士の尽力により、国内で初めて身体障害者を対象としたスポーツ大会を開催し、また1981年の国際障害者年から始まった、世界最大規模の車いす単独の「大分国際車いすマラソン」を開催するなど障がい者スポーツの先進県であるが、県内における障がい者スポーツ人口は決して多いとは言えない状況である。また、各地域で主体となり活動する団体が少なく、特に障がい者スポーツの普及については地域差が見られるなど、障がい者が身近な地域で日常的にスポーツを楽しめる環境の整備が課題となっている。
総合的な事業の目的	障がい者が身近な地域で日常的にスポーツを楽しめる環境を整備するとともに、障がいのある人とない人がスポーツを通じて交流を図り相互理解を深めていくことを目的とする。
総合的な事業のねらい	障がい者が身近な地域で日常的にスポーツを楽しむ機会を増やすとともに、地域社会に障がい者スポーツが定着することにより障がい者への理解促進を図る。

事業名	
事業①	障がい者スポーツ体験会
事業②	子どもふれあい交流事業
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告

実施協会名	大分県障がい者体育協会
事 業 名	障がい者スポーツ体験会
事業内容	障がい者スポーツの指導を希望する地域や団体、学校等に人材バンクに登録された指導者等を派遣し、体験会(陸上競技、車いすバスケットボール、卓球バレー等）を開催。 当日は、①始めの会　②ルール説明　③体験会（+デモンストレーション） ④終わりの会　⑤指導員からの講評　⑥生徒等からのお礼の言葉　という流れで実施。
開催日時	障がい者スポーツ体験会 ①平成30年6月3日（日）10時～12時 ②平成30年6月18日（月）14時10分～15時45分 ③平成30年7月1日（日）10時～12時 ④平成30年7月3日（火）13時～15時 ⑤平成30年7月5日（木）13時～14時 ⑥平成30年7月17日（火）13時30分～14時30分 ⑦平成30年7月21日（土）10時～12時 ⑧平成30年7月26日（木）10時～12時 ⑨平成30年7月31日（火）10時30分～11時30分 ⑩平成30年8月3日（金）10時～12時 ⑪平成30年8月4日（土）14時～16時30分 ⑫平成30年8月5日（日）10時～12時 ⑬平成30年8月9日（木）10時～12時 ⑭平成30年8月17日（金）10時30分～11時30分 ⑮平成30年8月26日（日）10時～12時 ⑯平成30年9月2日（日）10時～12時 ⑰平成30年9月4日（火）10時20分～12時10分 ⑱平成30年9月7日（金）10時40分～11時20分 ⑲平成30年9月22日（土）～9月24日（月）9時25分～14時 ⑳平成30年9月25日（火）13時30分～15時 ㉑平成30年10月4日（木）14時～15時30分 ㉒平成30年10月7日（日）9時～12時 ㉓平成30年10月7日（日）10時～12時 ㉔平成30年10月18日（木）13時55分～15時45分 ㉕平成30年10月21日（日）12時20分～13時40分 ㉖平成30年10月26日（金）13時50分～15時30分 ㉗平成30年11月2日（金）9時35分～11時5分 ㉘平成30年11月6日（火）9時～10時30分 ㉙平成30年11月9日（金）10時35分～12時10分 ㉚平成30年11月11日（日）10時～12時 ㉛平成30年11月11日（日）12時15分～13時50分 ㉜平成30年11月11日（火）13時～15時 ㉝平成30年11月13日（火）10時～12時 ㉞平成30年11月16日（金）11時40分～12時30分 ㉟平成30年11月26日（月）10時25分～12時 ㊱平成30年11月29日（木）13時50分～15時50分 ㊲平成30年12月8日（土）9時～12時30分 ㊳平成30年12月14日（金）10時～11時 ㊴平成30年12月16日（日）10時～12時 ㊵平成31年1月11日（金）14時～15時35分 ㊶平成31年1月13日（日）14時～16時
会　　場	①健康福祉センター運動広場（杵築市） ②中津市立山口小学校（中津市） ③健康福祉センター運動広場（杵築市） ④杉の井ボウル（別府市） ⑤杵築市立北杵築小学校（杵築市） ⑥別府支援学校（別府市） ⑦佐伯市総合体育館（佐伯市） ⑧日田支援学校（日田市） ⑨身体障害者福祉センタープール（大分市） ⑩日田支援学校（日田市） ⑪のつはる少年自然の家体育館・グラウンド（大分市） ⑫健康福祉センター運動広場（杵築市） ⑬中津市教育福祉センター（中津市） ⑭身体障害者福祉センタープール（大分市） ⑮大銀ドーム投てき場（大分市） ⑯健康福祉センター運動広場（杵築市） ⑰大分市立稙田小学校（大分市） ⑱大分市立野津原小学校（大分市） ⑲大銀ドーム（大分市） ⑳大分市立王子中学校（大分市） ㉑大分市立小佐井小学校（大分市） ㉒禅海スポーツ公園（中津市） ㉓B&G体育館（中津市） ㉔大分市立野津原中学校（大分市） ㉕大銀ドーム（大分市） ㉖大分市立明治小学校（大分市） ㉗賀来小学校（大分市） ㉘大分市立大在西小学校（大分市） ㉙北山田小学校（玖珠町） ㉚健康福祉センター運動広場（杵築市） ㉛ここからセンター体育館（大分市） ㉜挾間体育センター（由布市） ㉝中津市もみじ園（中津市） ㉞大分市立碩田学園（大分市） ㉟津久見市立津久見小学校（津久見市） ㊱大分市立東稙田小学校（大分市） ㊲大分県のぞみ園（由布市） ㊳別府市立南小学校（別府市） ㊴健康福祉センター運動広場（杵築市） ㊵大分市立大道小学校（大分市） ㊶健康福祉センター運動広場（杵築市）
参 加 者	【県東部】別府市、杵築市、国東市、姫島村、日出町 ①29名（健常）③23名（健常）④15名（肢体）⑤44名（健常）⑥41名（肢体）⑫17名（知的）⑯13名（知的） ㉓27名（知的）㉚27名（知的）㊳49名（健常）㊴18名（知的）㊶27名（知的） 【県中部】大分市、臼杵市、津久見市、由布市 ⑨18名（知的8名、肢体10名）⑪212名（健常）⑭15名（知的5名、肢体10名）⑮15名（肢体）⑰93名（健常） ⑱40名（健常）⑲500名（健常）⑳170名（健常）㉑75名（健常）㉔73名（健常） ㉕150名（肢体50名、知的50名、精神50名）㉖139名（健常）　㉗105名（健常）㉘162名（健常）㉛200名（健常） ㉜200名（健常）㉞96名（健常）㉟47名（健常）㊱140名（健常）㊲100名（知的40名、肢体30名、健常30名） ㊵86名（健常） 【県南部】佐伯市 ⑦95名（肢体20名、知的75名） 【県西部】日田市、玖珠町、九重町 ⑧23名（知的）⑩18名（知的）㉙18名 【県北部】中津市、宇佐市、豊後高田市 ②150名（健常150名）⑬20名（知的）㉒100名（肢体）㉝60名（肢体30名、健常30名）
人員体制	平均　各３名 障がい者体育協会職員　１名 障がい者スポーツ指導員　２名 競技団体　７名
連携団体名 （箇条書き）	県障害者社会参加推進室 大分県障害者スポーツ指導者協議会 総合型地域スポーツクラブ スポーツクラブHASAMA 大分県車いすバスケットボール連盟 大分県障がい者ボウリング連盟 大分県卓球バレー協会 大分県障がい者水泳連盟 大分県ふうせんバレーボール協会 ＮＰＯ法人キッズスポッチャ 大分県フライングディスク協会 大分県ボッチャ協会
実際の事業での 連携団体の役割	各競技団体には、実施に際しての用具の借り受けや審判の依頼、大分県障害者スポーツ指導者協議会には、指導の協力を頂いている。事前準備として、講師・補助員等の要請、当日の流れの確認、打ち合わせ等、競技運営の全体的な進捗管理に努めている。
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	体験会における、各競技のルール指導や技術指導を依頼している。また、大会を開催する際には、審判として大会運営に協力をしていただいている。 本事業における障がい者スポーツ指導員の実人数：34 本事業における障がい者スポーツ指導員の延べ人数：100
スポーツ用具の 整備・活用について	購入なし

各事業における事業報告

実施協会名	大分県障がい者体育協会		
事 業 名	子どもふれあい交流事業		
事業内容	大分国際車いすマラソンやパラリンピックに出場した選手等を、県内の小中学校や特別支援学校、福祉施設等に派遣し、講演会や体験会の交流の場を設ける。 当日は、①始めの会　②競技毎のDVD上映　③講師による講演 ④体験会　⑤終わりの会　⑥生徒等からのお礼の言葉　という流れで実施。		
開催日時	子どもふれあい交流事業 ①平成30年7月31日（火）10時30分～11時30分 ②平成30年8月4日（土）13時～14時 ③平成30年8月17日（金）10時30分～11時30分 ④平成30年9月26日（水）10時45分～12時15分 ⑤平成30年10月19日（金）10時30分～12時10分 ⑥平成30年10月23日（火）10時30分～12時 ⑦平成30年10月24日（水）15時～16時 ⑧平成30年11月5日（月）10時25分～12時 ⑨平成30年11月9日（金）13時30～15時 ⑩平成30年11月15日（木）10時40分～12時15分 ⑪平成30年11月19日（月）10時40分～12時 ⑫平成30年11月22日（木）14時10分～15時 ⑬平成30年11月23日（金）14時～15時30分 ⑭平成30年11月30日（金）13時10分～14時40分 ⑮平成30年12月1日（土）10時～12時30分 ⑯平成30年12月4日（火）10時40分～11時40分 ⑰平成30年12月11日（火）10時40分～12時10分 ⑱平成30年12月18日（火）11時30分～12時20分 ⑲平成30年1月16日（水）10時～12時 ⑳平成30年1月23日（水）11時～12時		
会　　場	①③大分県身体障害者福祉センター　プール（大分市） ②大分市立のつはる少年自然の家　多目的ホール（大分市） ④豊川小学校　体育館（宇佐市） ⑤大野中学校　体育館（豊後大野市） ⑥蒲江翔南小学校　体育館（佐伯市） ⑦大分東明高等学校　体育館（大分市） ⑧千怒小学校　教室（津久見市） ⑨竹中中学校二豊学園分校　体育館（大分市） ⑩鶴崎小学校　体育館（大分市） ⑪こうざき小学校　体育館（大分市） ⑫日本文理大学附属高等学校　体育館（佐伯市） ⑬野津原公民館　体育館（大分市） ⑭姫島中学校　体育館（姫島村） ⑮大分大学　体育館（大分市） ⑯佐賀関小学校　体育館（大分市） ⑰南大分小学校　体育館（大分市） ⑱三重総合高校久住校　体育館（竹田市） ⑲府内高等学校　体育館（大分市） ⑳九州電力株式会社大分支社　会議室（大分市）		
参 加 者	【県東部】別府市、杵築市、国東市、姫島村、日出町 ⑭36名（健常36名） 【県中部】大分市、臼杵市、津久見市、由布市 ①13名（知的）②212名（健常）③22名（知的）⑦62名（健常）⑧18名（健常）⑨15名（健常） ⑩348名（健常）⑪24名（健常）⑬26名（知的）⑮16名（健常）⑯15名（健常） ⑰142名（肢体1名、健常141名）⑲79名（健常）⑳40名（健常） 【県南部】佐伯市 ⑥36名（健常）⑫565名（健常） 【県豊肥】竹田市、豊後大野市 ⑤21名（健常）⑱12名（健常） 【県北部】中津市、宇佐市、豊後高田市 ④51名（健常）		
人員体制	平均各　3名 障がい者体育協会職員　1名 障がい者スポーツ指導員（講師）　1名 障がい者スポーツ指導員（指導者）　1名		
連携団体名 （箇条書き）	県障害者社会参加推進室 大分身体障害者陸上競技協会 FC.九州バイラオール		
実際の事業での 連携団体の役割	各競技団体には、交流会での講師派遣を依頼。日程等調整により講師確定後、当日の流れの確認、施設見学、打ち合わせ等、競技運営の全体的な進捗管理に努めている。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	各競技団体には、交流会での講師派遣を依頼。日程等調整により講師確定後、当日の流れの確認、施設見学、打ち合わせ等、競技運営の全体的な進捗管理に努めている。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	20
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	20
スポーツ用具の 整備・活用について	競技用レーサーのタイヤを修理するとともに、速度メーター及びローラーを購入し、車いすマラソン競技のレーサー体験を教室や体育館等で活用。その他、イベント時にも活用できるようにメンテナンスを行いながら使用していく予定。		

事業全体の評価

実施（申請）協会名	大分県障がい者体育協会		
全体事業名称	障がい者スポーツ交流事業		
委託費	¥1,800,000	決算額	¥1,819,788
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	県内各地で、体験会やイベントを開催することで、より障がい者スポーツへの理解促進を図ることができたが、地域によっては、拠点となる活動場所や用具等の不足、また関係団体との連携が構築するまでに至っていない点が未達の原因として挙げられる。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	地域で活動する総合型地域スポーツクラブが開催するイベント等に参加することができ、多くの地域住民に対して体験会を通じて障がい者スポーツを周知することができた。体験した方々からも好評で、今後もイベントへの継続した参加が期待できる。		
費用に関する所見	地域で多くの障がい者スポーツを体験することができるよう、用具等の整備費が拡大すると内容の充実に繋がる。		
今後の課題や今後の事業展開（具体的方策・展望）	障がい者スポーツ指導員や関係団体との連携構築が図れている地域と、そうではない地域があるため、継続した取組みを実施するには連携構築が課題である。今後さらに活動場所や用具などの確保といった環境を整備することで、より障がい児・者が身近にスポーツを楽しむことができるよう事業展開を進めたい。		
参加者や関係団体からの声	参加者、関係団体からは「いい経験ができた」「楽しかった」「ルールを知れてよかった」などの好評な声がほとんどで、イベント主催者からは「次回も継続して体験会ブースを設けていただきたい」との意見が多くあり、目的に合った成果を果たすことができた。		
その他所見	障がい者スポーツ指導員等との連携強化を図ることができ、対象者のニーズに応じた内容で事業実施ができた。		

大分県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

① 事業写真

（１） 障がい者スポーツ体験会

事業の様子

①打合せの様子

②受付の様子

③準備運動の様子

④事業実施の様子

⑤事業実施の様子

⑥事業実施の様子

⑦事業実施の様子

⑧全体の様子

②資料

≪ 指導者・ボランティア派遣申請　FAX申込用紙 ≫

（この用紙に記入の上、FAXしてください。）

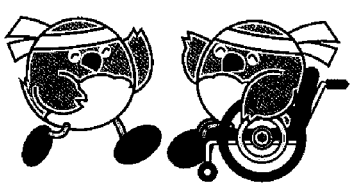
送付先：大分県障がい者体育協会　FAX番号 097-506-1736

※依頼者の事前の同意のない限り、対象指導者等以外の第三者に提供することはありません。

所　属　名	
派遣先の住所	〒
ふ り が な	
担　当　者	
電 話 番 号	
ＦＡＸ番号	
携 帯 番 号	
メールアドレス	

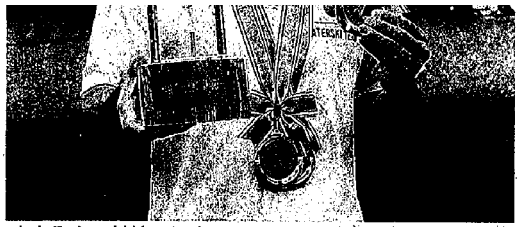
希望年月日及び時間	第１希望　月　日（　）午前・午後　時　分～　時　分（　分） 第２希望　月　日（　）午前・午後　時　分～　時　分（　分） 第３希望　月　日（　）午前・午後　時　分～　時　分（　分）	
希　望　内　容	□ ボッチャ　□ 卓球バレー　□ フライングディスク　□ ふうせんバレー □ 車椅子バスケットボール　□ その他（　）	
対象者･対象人数	年生　名	
場　所	※体育館、集会室等　実施予定場所をお知らせください	
設備の有無	＊車椅子駐車場	有　・　無
	＊控え室	有　・　無
	＊身障者用トイレ	有　・　無
写真撮影について	＊ホームページや広報用資料として掲載すること。 □ 可　□ 不可	

※ 派遣調整や打合せがありますので、**実施希望日の２ヵ月前まで**にお申し込みください。



の正直

プ種目で自分が持つ日本記録を更新する。一生現役でオープンクラスに出(　)いきたい」と笑顔で話した。



水上スキー競技の日本一になった山本雄一さん＝中津市耶馬渓町の市営水上スポーツ施設「耶馬渓アクアパーク」

地域のために NOAS FM 78.9MHz SAT 土曜日

8:30 みんなで子育てプログラム～Tumugu～
9:00 TomoSata!
11:00 Vivid Color
13:00 あの頃青春グラフィティ
18:00 【再】美酒処 本田
19:00 Michiyard
20:00 【再】映画のチカラ

10/13(土)
合同(朝)

障がいの有無超え球技で親睦深める

耶馬渓町で70人参加

中津市身体障がい者協議会の球技大会（大分合同新聞社後援）が、市内本耶馬渓町の禅海スポーツセンターなどであった。10回目。会員や施設利用者、福祉関係者らでつくる10チーム、70人が参加。卓球バレー、風船バレー、ゲートボール、ボウリングの3競技で、障害の有無にかかわらずに和気あいあいと親睦を深めた。最高齢参加者として男性の吉原恭一さん(85)、女性の塚崎太部子さん(78)をたたえた。

成績は次の通り。

▽卓球バレー ①中津支部協生会②もみじ園A③中津ろう・タイガー▽風船バレー ①つくし園②キャッツ・アイ③イミテーション・ゴールド▽ゲートボール ①本耶馬渓支部②中津支部協生会③耶馬渓支部

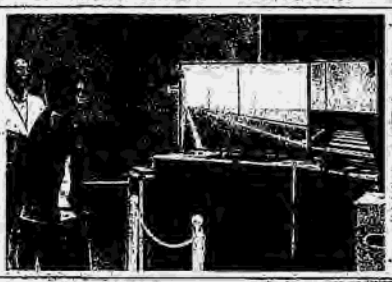
風船バレーを楽しむ参加者

運転時の危険箇所確認

死亡事故多発の宇佐で交通安全講座

高齢者の重大事故が2件立て続けに起きた宇佐市で9日、「いきいき交通安全体験講座」があった。

同市四日市のさんさん館であり、65歳以上の約90人が参加。宇佐署員が、道路を横断中、左から進行してきた車にはねられるケースが多いことや、管内の交通事故情勢を説明した。参加者は体験型の交通安全教育用機材「動画KYT（危険予測トレーニング）」と歩行環境シミュレーターで、運転時の危険箇所の確認や横断歩道を安全に渡る体験をした。同日夜には、宅近くの道路を歩いて横断していた



歩行環境シミュレーターで横断歩道を安全に渡る体験をする参加者

各地の交通安全運動

▽国東署管内 国東地区交通安全大会が国東市国東町鶴川のアストくにさきであった。関係者ら約280人が参加。交通犠牲者への黙とうの後、各種表彰を伝達。富谷修一署長が「安全安心な国東市の実現に協力してほしい」とあいさつした。

被表彰者・団体は次の通り。（写真）

【国東市交通安全推進協議会長表彰】▽交通安全功労者 相部義則

大分県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

① 事業写真

（２） 子どもふれあい交流事業

事業の様子

①打合せの様子

② 受付（説明）の様子

③準備運動の様子

④ 事業実施の様子

⑤事業実施の様子

⑤ 全体の様子

障がい者スポーツを体験したい

やってみませんか?!

みっけ！障がい者スポーツ体験会

県内の各小中学校・高等学校・支援学校・福祉施設などに
専門の指導員を派遣して、障がい者スポーツ体験会を行っています。

障がい者スポーツとは？

- ●既存のスポーツのルールを工夫し、障がいがあっても、参加できるようにしたスポーツ。
- ●障がい者のために考案されたスポーツ。(ボッチャなど)
- ●リハビリテーションからはじまった障がい者スポーツは、競技性の高いスポーツとしてひろまっている。(大分国際車いすマラソンなど)

障がいのある人も
ない人も
みんな下一緒に
楽しめる!!

★競技例

卓球バレー

ふうせんバレー

フライングディスク

ボッチャ

総合学習・レクリエーション・体育などに！

専門の指導員（公認障がい者スポーツ指導員）が
優しく・楽しく・丁寧に指導します！

地域のみんなが楽しく取り組める
簡単なスポーツを紹介します！

指導員の派遣費用は
原則として県障がい者体育協会が負担します！

「興味がある」「やってみたい」と思われたら
ぜひ下記へお問合せください

大分県障がい者体育協会
（大分県福祉保健部障害者社会参加推進室内）

電話：097-533-6006
FAX：097-506-1736

ホームページ
「みっけ！障がい者スポーツの広場おおいた」
http://www.oita-syotaikyo.org/jinzai/index.html

≪ 指導者・ボランティア派遣申請　FAX申込用紙 ≫

（この用紙に記入の上、FAXしてください。）

送付先：大分県障がい者体育協会　FAX番号 097-506-1736

※依頼者の事前の同意のない限り、対象指導者等以外の第三者に提供することはありません。

所属名	
派遣先の住所	〒
ふりがな	
担当者	
電話番号	
FAX番号	
携帯番号	
メールアドレス	

希望年月日及び時間	第1希望　月　日（　）午前・午後　時　分～　時　分（　分） 第2希望　月　日（　）午前・午後　時　分～　時　分（　分） 第3希望　月　日（　）午前・午後　時　分～　時　分（　分）	
希望内容	□ボッチャ　□卓球バレー　□フライングディスク　□ふうせんバレー □車椅子バスケットボール　□その他（　）	
対象者・対象人数	年生　名	
場所	※体育館、集会室等　実施予定場所をお知らせください	
設備の有無	＊車椅子駐車場	有・無
	＊控え室	有・無
	＊身障者用トイレ	有・無
写真撮影について	＊ホームページや広報用資料として掲載すること。 □可　□不可	

※ 派遣調整や打合せがありますので、実施希望日の２ヵ月前までにお申し込みください。

障がい者スポーツ選手と交流したい

やってみませんか?!

アスリートと子どもたちとのふれあい交流事業

大分国際車いすマラソン大会やパラリンピック、障がい者スポーツ国際大会などに出場した選手を、県内の小中学校・高等学校・支援学校・福祉施設などに派遣し、講演会や体験会などの交流を通じて、障がいに対する理解を深めるとともに、障がい者スポーツの普及・振興を図ることを目的として開催しています。

開催例：車いすマラソン選手交流会（70分）

選手講演 25分

映像上映 10分

競技用車いす体験 35分

※詳細は学校等のご希望に沿って決定します。

- 人権学習、総合学習、PTA主催などで開催しています
- 講師との連絡・日程調整などは県障がい者体育協会が行います
- 講師の派遣費用は、原則として、県障がい者体育協会が負担します

＊選手派遣可能競技

車いすマラソン・陸上・ジャベリックスロー
パワーリフティング・卓球・水泳・ボッチャ
ブラインドサッカー®・アンプティサッカー
車いすテニス等

**※実施希望日の２ヶ月前までに
お申し込みください**

「興味がある」「やってみたい」と思われたら
ぜひ下記へお問合せください

大分県障がい者体育協会
（大分県福祉保健部障害者社会参加推進室内）

電話：097-533-6006
FAX：097-506-1736

ホームページ
「みっけ！障がい者スポーツの広場おおいた」
http://www.oita-syotaikyo.org/jinzai/index.html

≪ 講師派遣申請　FAX申込用紙 ≫

（この用紙に記入の上、FAXしてください。）

送付先：大分県障がい者体育協会　FAX番号 097-506-1736

※依頼者の事前の同意のない限り、対象指導者等以外の第三者に提供することはありません。

所属名	
派遣先の住所	〒
ふりがな	
担当者	
電話番号	
FAX番号	
携帯番号	
メールアドレス	

希望年月日及び時間	第1希望　月　日（　）午前・午後　時　分～　時　分（　分） 第2希望　月　日（　）午前・午後　時　分～　時　分（　分） 第3希望　月　日（　）午前・午後　時　分～　時　分（　分）	
希望内容	□車いすマラソン　□陸上　□ジャベリックスロー　□パワーリフティング □卓球　□水泳　□ボッチャ　□ブラインドサッカー®　□アンプティサッカー □車いすテニス　□その他（　）	
対象者・対象人数	年生　名	
場所	※体育館、集会室等　実施予定場所をお知らせください	
設備の有無	＊車椅子駐車場	有・無
	＊控え室	有・無
	＊身障者用トイレ	有・無
写真撮影について	＊ホームページや広報用資料として掲載すること。 □可　□不可	

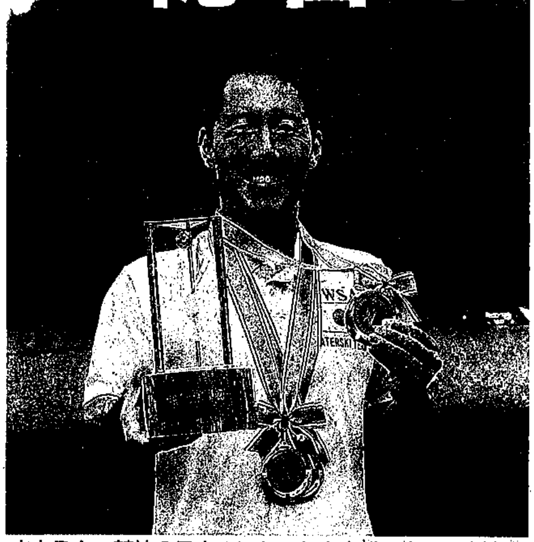
※ 派遣調整や打合せがありますので、実施希望日の２ヵ月前までにお申し込みください。

さん（中津市）総合V

三度目の正直

た。1位をキープしたまま、見事総合優勝を決めた。
2位に甘んじること過去2回。昨年は優勝に手が届

プ種目で自分が持つ日本記録を更新する。一生現役でオープンクラスに出◯ていきたい」と笑顔で話した。


水上スキー競技の日本一になった山本雄一さん＝中津市耶馬渓町の市営水上スポーツ施設「耶馬渓アクアパーク」

【豊後高田新聞社】大分合同新聞豊後高田支局
0978-24-3310 FAX 23-1012

国東新聞
【国東新聞社】大分合同新聞国東支局
0978-72-0259 FAX 73-2012

姫島新聞
【姫島新聞社】大分合同新聞国東支局
0978-72-0259 FAX 73-2012

とことん地域密着
携帯でピッ！

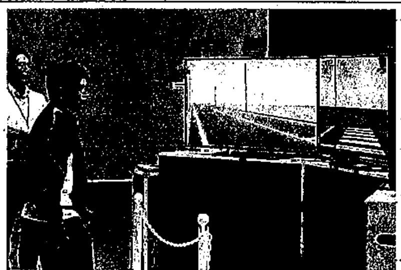
地域のために NOAS FM 78.9MHz
SAT 土曜日
8:30 みんなで子育てプログラム～Tumugu～
9:00 TomoSata!
11:00 Vivid Color
13:00 あの頃青春グラフィティ
18:00 【再】美酒処 本田
19:00 Michiyard
20:00 【再】映画のチカラ
21:00 【再】NOAS!!ハイスクール

10/13(土)
合同(朝)

運転時の危険箇所確認
死亡事故多発の宇佐で交通安全講座

高齢者の重大事故が2件立て続けに起きた宇佐市で9日、「いきいき交通安全体験講座」があった。

同市四日市のさんさん館であり、65歳以上の約90人が参加。宇佐署員が、道路を横断中、左から進行してきた車にはねられるケースが多いことや、管内の交通事故情勢を説明した。参加者は体験型の交通安全教育用機材「動画KYT（危険予測トレーニング）」と歩行環境シミュレーターで、運転時の危険箇所の確認や横断歩道を安全に渡る体験


歩行環境シミュレーターで横断歩道を安全に渡る体験をする参加者

た。同日夜には、◯宅近くの道路を歩いて横断してい

障がいの有無超え球技で親睦深める
耶馬渓町で70人参加

風船バレーを楽しむ参加者

中津市身体障がい者協議会の球技大会（大分合同新聞社後援）が、市内本耶馬渓町の禅海スポーツセンターなどであった。10回目。

会員や施設利用者、福祉関係者らでつくる10チーム、70人が参加。卓球バレー、風船バレー、ゲートボールの3競技で、障害の有無にかかわらずに和気あいあいと親睦を深めた。最高齢参加者として男性の吉原恭一さん(85)、女性の塚崎太都子さん(78)をたたえた。

成績は次の通り。

▽卓球バレー ①中津支部協生会②もみじ園A③中津ろう・タイガー▽風船バレー ①つくし園②キャッツ・アイ③イミテーション・ゴールド▽ゲートボール ①本耶馬渓支部②中津支部協生会③耶馬渓支部

各地の交通安全運動

▽国東署管内 国東地区交通安全大会が国東市国東町鶴川のアストくにさきであった。関係者ら約280人が参加。交通犠牲者への黙とうの後、各種表彰を伝達。富谷修一署長が「安全安心な国東市の実現に協力してほしい」とあいさつした。（写真）

被表彰者・団体は次の通り。

【国東市交通安全推進協議会長表彰】▽交通安全功労者 相部義則

十字路

▼文芸

【宇佐市】◇福寿庵ホトトギス句会8月例会…溝口独妙選

茶菓として一枝添ふる赤のまま　本多加代子
老夫婦顔を見合はせ茅の輪かな　弦田　満明
野の花としてままごとや赤のまま　鶴田　紀子
絵師よりの届きし版画赤のまま　定行加寿子
滝音にわが存在の消へゆきぬ　長岩敬太郎

【豊後高田市】◇六郷ホトトギス句会8月例会…溝口独妙選

いくつもの父との想ひ秋の庭　立花真由美
亡き母へ馳する想ひや土用干　天田　泉美
山車は山車四条通りの苦学生　麻田　菜々
百日紅狭庭の四方に垂れてをり　林田　宏
ふと醒めて由無し事の夜長かな　溝口　独妙

【国東市】◇安岐短歌会8月例会

道の辺の草は黄色に萎びゆき朝露も見ぬ干天の日々　糸永　光
抱かされし百合の花束重くして米寿といふは夢の如しも　南　周子
寝難き夜の窓より仰ぐ星空に若き日の想ひ出馳せても見んか　金林　政子
梅雨明けて雨降らぬ日の続きをり伊予路の空に積乱雲立つ　古城　広海
音もなく降り続く雨に外灯の明かり集めて紫陽花の咲く　林　成敏

お誕生おめでとう

おきなわスポーツドリームプロジェクト 2018

◆障がい者スポーツ指導員ゆいボールフェスタ

◆障がい者バスケットボール教室

特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会

事業概要

◆実施（申請）協会名	特定非営利活動法人　沖縄県障がい者スポーツ協会		
◆計画書作成者	平安　泰知		
◆企画・実施担当者	平安　泰知	◆経理担当者	平安　泰知

全体事業名称	おきなわスポーツドリームプロジェクト2018
委託費	¥500,000
地域の実情・課題点	本県は課題の一つとしてスポーツ指導員の数とその活躍する場である。取得したスポーツ指導員の資格で活躍する場もすくなくいつの間にか指導員から離れていく者も少なくない。そのために指導員のモチベーションを上げる事を提供していかなければならない。もう一つは、離島県ということから障害者スポーツの選手間の交流・試合等が少なく競技力向上に悩んでいる。選手の発掘・育成も本県の障がい者スポーツの発展の一つと考える。昨年度の本事業では県内の競技団体や高校等の協力により定期的な試合や教室・交流をすることが出来た。より持続的に障がい者スポーツの競技団体と地域の連携を深めるために今年度も継続して本事業を行いたい。あわせて、障がいのある学生への競技の理解・啓発も発展させたい。
総合的な事業の目的	障がい者スポーツは誰でも参加しやすく健康増進の一躍も担える事から障がいの有無に関わらず子供からお年寄りまで広く理解・参加してもらい障害者スポーツ全体の底上げを図る。また、競技力向上のためにも地域とも連携を取る。指導員の経験の場を提供し、指導員の数・質ともに向上を図る。地域と連携しお互いを理解し合う事により地域にも障がい者スポーツを根付かせ持続的にスポーツを行える環境を提供する。
総合的な事業のねらい	障がい者スポーツを障がいの有無に関わらず地域を中心に親しまれ理解・共有してもらい定着を図る。誰もが参加出来るものとして目指し発展をねらう。また、県内で活動している障がい者スポーツの競技団体へ当協会が出来る支援を行うことで活動が活発化してもらうための第１歩にしたい。本当に求められている支援等の意見の集約も行うことで今後の本県の障がい者スポーツの活性化に繋げる。

事業名	
事業①	障がい者スポーツ指導員ゆいボールフェスタ
事業②	障がい者バスケットボール教室
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告

実施協会名	特定非営利活動法人　沖縄県障がい者スポーツ協会		
事 業 名	障がい者スポーツ指導員ゆいボールフェスタ		
事業内容	障がい者スポーツ指導員ゆいボールフェスタ（サッカー） 障がい者サッカーの当事者への接し方や概要。ブラインドサッカーの当事者への接し方や概要。 ユニバーサルサッカー（足に拘らずサッカーやスポーツ自体を楽しませる）の当事者への接し方や概要。		
開催日時	①平成３０年１１月　３日（日）　９時～１２時 ②平成３０年１２月２２日（土）　９時～１２時		
会　　場	①石嶺児童園グラウンド ②浦添市多目的屋内運動場		
参 加 者	【県中部】 ①２２名（知的１１名　健常１１名） ②４２名（知的２２名　身体５名　健常１５名） 【県南部】 ①５１名（知的１８名　身体８名　健常２５名） ②６３名（知的２３名　身体８名　健常３２名）		
人員体制	各１５名　２チーム 障がい者スポーツ協会職員２名 専門講師３名 競技団体２チーム ボランティア１０名		
連携団体名 （箇条書き）	大平特別支援学校 FC琉球（県内Ｊ２サッカークラブ） 琉球スポーツサポート 知的障がい者サッカー連盟 車いすサッカー協会		
実際の事業での 連携団体の役割	知的障がい者サッカー連盟やFC琉球、大平特別支援学校には、サッカーや障がい者サッカーの指導や講師派遣を依頼。実行委員会形式で運営し広報や運営等の役割を配置した。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	以前から障がい者スポーツ指導員の方々に新しい指導員に対しての指導を積極的に行い人材の育成へ繋げた。また、障がい当事者や様々な団体との交流を図る事によりこれからの指導員としての活動の意欲を高めた。課題としては、障がい者スポーツというものの発信がまだまだなされていなく地域社会への周知を更に行っていく必要がある。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	18
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	－
スポーツ用具の 整備・活用について			

各事業における事業報告

実施協会名	特定非営利活動法人　沖縄県障がい者スポーツ協会		
事 業 名	障がい者バスケットボール教室		
事業内容	未経験者へ向けたバスケットボールの体験教室。 バスケットボール経験者への専門講師による指導。 （技術や障がいの程度を考慮したクラス分けを行う）。 一般健常者のバスケットボール競技者との交流。		
開催日時	①平成３０年　７月２２日（日）　９時～１３時 ②平成３０年１２月２２日（土）　９時～１３時		
会　　場	浦添市　サン・アビリティーズうらそえ		
参 加 者	【県北部】 ①３名（知的３名） ②３名（知的３名） 【県中部】 ①２２名（知的１７名、聴覚３名、精神２名） ②２０名（知的１５名、聴覚３名、精神２名） 【県南部】 ①２５名（知的２０名、肢体１名、聴覚４名） ②２４名（知的２０名、肢体１名、聴覚３名）		
人員体制	各１２名 障がい者スポーツ協会１名 専門講師１名 障がい者スポーツ指導員５名 ボランティア５名		
連携団体名 （箇条書き）	西崎特別支援学校 知的障がい者スポーツ連絡会 知的障がい者バスケットボール連盟 うらそえ工房		
実際の事業での 連携団体の役割	連携団体で実行委員会形式にし役割を分担。 専門講師による内容の作成や専門団体による役員やボランティアの確保をしていただいた。 バスケットボール連盟には会場の確保や用具の準備をお願いした。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	事前打ち合わせ段階で障がい者スポーツ指導員による障がい者の特性について学び専門講師がそれに応じて内容を作成する事が出来た。 ボランティアも障がい特性を学び当日参加した。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	－
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	－
スポーツ用具の 整備・活用について			

事業全体の評価

実施（申請）協会名	特定非営利活動法人　沖縄県障がい者スポーツ協会		
全体事業名称	おきなわスポーツドリームプロジェクト２０１８		
委託費	¥500,000	決算額	¥501,071
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	本事業では、障がい者スポーツ指導員が継続して活動していくようなモチベーションアップや育成の効果に大きな期待が出来る結果となった。しかし、今後も継続していかなければならないため予算的にも今後の事業実施するために工夫が必要である。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	障がい者スポーツ指導員も含めて障がい者スポーツへの関りが浅い方々に多く参加して頂いたため実施後は障がい当事者や障がい者スポーツへの関心が高まった結果となった。スポーツというツールを通すと障がいの有無が関係なく交流出来るため実際に現場で関わるという事の大事さを改めて認識する事が出来た。		
費用に関する所見	予算に応じた事業を実施したため無理なく行う事が出来た。多いに越した事はないので予算がより多いとより良い事業計画も期待できる。		
今後の課題や今後の事業展開（具体的方策・展望）	事業を実施するにあたり様々な関係団体からの協力を得る事ができ、結果的には今後も更に継続的に実施したいという意見になるためそのための予算かが課題である。本事業での予算をきっかけに今後も実施していきたい。		
参加者や関係団体からの声	参加者、関係団体からは大変評判が良く年度内の回数的にももっと欲しいとの声が多かった。関係団体からは本事業の参加をきっかけに今後も連携していきたいとの声が多く大変有意義な事業になった。		
その他所見	どの事業でも実施まではご苦労が多いが当日の現場では皆笑顔でいる事が印象的であった。障がいの有無に関係なく皆笑顔で過ごせるというのが基本であり大事だと感じた。		

沖縄県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（1） 障がい者スポーツ指導員ゆいボールフェスタ

事業の様子

沖縄県における障がい者スポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（２） 障がい者バスケットボール教室

事業の様子

②資料

開催要項　参加申込書

特定非営利活動法人
沖縄県障がい者スポーツ協会

平成３０年度
障がい者スポーツ指導員ドリームフェスタ

1　目　的
公認障がい者スポーツ指導員への資質の向上をねらい基本的な知識や技術を習得し新たなリーダーの育成を図る。また、様々な関係団体との結び付けを行うことにより今後の活動をより大きく行うことができることをねらう。

2　主　催
特定非営利活動法人　沖縄県障がい者スポーツ協会

3　後　援
公益財団法人　日本障がい者スポーツ協会　沖縄県障がい者スポーツ指導者協議会

4　期　日及び会場
平成３０年１１月　３日(日)　那覇市石嶺児童園グラウンド
１２月２２日(日)　浦添市多目的屋内運動場

5　参加対象者
（1）　日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導員資格保持者

6　内　容
別紙参照

7　参加申込方法及び問合せ先
参加申込用紙に必要事項を記入の上、下記事務局までＦＡＸ若しくはメールにて送付する。

申込先
沖縄県障がい者スポーツ協会
〒９００－００２６　沖縄県は無し奥武山町５１番地２
ＴＥＬ／ＦＡＸ　：　０９８－８８０－２４５９
Ｅ-male　：　okiparaspo098@yahoo.co.jp_
担 当 者　：　安里　真梨子

平成 30 年度
公認初級障がい者スポーツ指導員養成講習会　参加申込書

沖縄県障がい者スポーツ協会　御中

ふりがな		性別	生年月日	年齢
氏　　名			年　月　日	歳
障 害 名				
住　　所				
電話番号	自宅：		携帯：	
Ｅ－male				
学校名 (学生の場合)				
所属(職場・病院)				
経験競技種目・経験			経験年数（　　年）	

ＴＥＬ／ＦＡＸ：０９８－８８０－２４５９

Ｅ－ＭＡＩＬ　：okiparaspo098@yahoo.co.jp

沖縄県障がい者バスケットボール教室　実施要綱

1　目　的
本教室は、障がい者スポーツを広く普及し、障がい者の社会参加と自立を促進することを目的に開催します。また、併せて、競技への意欲向上と選手育成・発掘・交流を目的とします。

2　主　催
沖縄県障がい者スポーツ協会

3　主　管
沖縄県ＦＩＤバスケットボール連盟

4　協　力
車椅子バスケットボールチーム　シーサーズ
沖縄県障害者スポーツ指導者協議会

5　後　援

沖縄県手をつなぐ育成会

6　協　賛（予定）
琉球新報・沖縄タイムス（順不同）

7　期　日
平成 30 年　7 月 22 日(日)　9 月 2 日(日)　11 月 4 日(日)　12 月 2 日(日)
09：00～13：00

8　会　場
沖縄県総合運動公園体育館

9　参加資格
知的障がい児・者（療育手帳取得、または取得見込の者）
身体障がい児・者（身体障害者手帳を取得の者）
事前に医師の診断によりスポーツに支障がないと認められた者

10　参加費
無料、但し会場までの交通費は自己負担とする。

11　加申込方法
参加申込用紙に必要事項を記入の上、下記事務局までＦＡＸ若しくはメールにて送付する。

12　イベント中の怪我等について
教室開催時の怪我等については、主催者側で加入した保険を適用します。それ以上の保証を希望される場合は、各自で傷害保険に加入することをお勧めします。

13　その他
教室開催中に報道機関が来場し、個人情報について報道されることが予想されます。
よってこれらのことを承諾の上で申し込みをお願いします。

14　申込先
沖縄県障がい者スポーツ協会
〒９００－００２６　沖縄県は無し奥武山町５１番地２
ＴＥＬ／ＦＡＸ　：　０９８－８８０－２４５９
Ｅ-male　：　okiparaspo098@yahoo.co.jp_
担 当 者　：　安里　真梨子

沖縄県障がい者バスケットボール教室　参加申込書

沖縄県障がい者スポーツ協会　御中

ふりがな		性別	生年月日	年　齢
氏　　名			年　月　日	歳
障 害 名				
住　　所				
電話番号	自宅：		携帯：	
Ｅ－male				
学校名 (学生の場合)				
事業所名				
職 場 名				
競技経験	あり　・　なし		ありの場合経験年数（　　年）	

日程表
０９：００　～　０９：３０　受付
０９：３０　～　０９：４５　開会式
０９：４５　～　１２：３０　バスケットボール教室
１２：４５　～　１３：００　閉会式

注意事項
※障害のレベル、技術レベルに応じ教室のクラス分けを行います。
その際は、事前の申込み及び当日の選手の動きを見て担当スタッフが判断致します。
※バスケットボール教室に参加される方は、必ず体育館シューズ（上履き可）と着替え等の準備をして下さい。
※主催者側で飲料水（スポーツドリンク）を準備しますが、必要であれば各自水筒等を持参下さい。
※バスケットボール教室に参加される方は、スタッフの指示を厳守し、団体行動を心掛けて下さい。
身勝手な行動が周りに迷惑を与え、怪我や事故を引き起こす可能性があります。その場合、教室への参加を制限する場合がありますので御了承下さい。

承諾書

私は、別紙実施要項及び上記注意事項を理解の上、バスケットボール教室へ参加致します。
また、怪我等については主催者側で加入した保険を適用し、それ以上のことは主催者側へ責任を問いません。

平成　　年　　月　　日

本人署名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印
(※申込者が未成年の場合、下記保護者署名への記入をお願いします)

保護者署名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

※申込用紙は必ずコピーを取り、教室が終了するまで大切に保管して下さい。

「地域における障がい者スポーツの振興事業」

委託先団体募集要綱

平成 30 年度障害者スポーツ振興事業

「地域における障がい者スポーツの振興事業」
委託先団体募集要綱

1. 助成の目的

本事業は、障がい者が身近な地域で自主的・積極的・継続的にスポーツに参加できる社会を実現することを目的に実施する。

また、地域の障がい者スポーツ振興の統括組織である都道府県・指定都市の障がい者スポーツ協会や障がい者スポーツ指導者が、本事業をきっかけに地域のスポーツ団体や関係者等と連携・協働し、教室やイベント等の事業の企画や運営、指導をすることで、地域全体の障がい者スポーツの振興体制の整備に寄与することを目的とする。

2. 委託先対象

本事業は委託事業として実施する。委託先対象は、都道府県・指定都市障がい者スポーツ協会とし、かつ、助成事業の実施体制が整っている事を委託先対象の条件とする。

3. 対象事業

下記の区分を対象とした、地域における障がい者スポーツ振興にかかわる事業とする。なお、助成の目的に合致すると共に、地域の障がい者スポーツ協会と障がい者スポーツ指導者協議会が協力・連携した体制で実施するものとする。

【事業区分】(予定)

(1)障がい者のスポーツ教室事業

(2)障がい者スポーツ指導者等の育成事業

(3)障がい者のスポーツ活動推進事業(地域大会の活性化に向けた事業)

(4)障がい者スポーツ理解啓発事業(体験会やイベント等の事業)

(5)組織連携推進強化事業(組織連携を主たる目的とした事業)

※注1:厚生労働省が実施している「地域生活支援事業」の「スポーツ・レクリエーション教室開催等事業」や日本スポーツ振興センターの「スポーツ振興事業助成」等の他団体からの助成を受けている事業は重複して申請はできない。

※注2:スポーツ庁が都道府県・指定都市に対して委託事業として実施する「Special プロジェクト 2020」および「障害者スポーツ推進プロジェクト」内の事業を実施する都道府県・指定都市の団体(障がい者スポーツ協会)は、申請時に必ず申し出ること。

4. 活動の範囲

原則として、委託先団体の都道府県内(指定都市を含む)を実施場所とすること。なお、実施内容・特性等の理由により当該の都道府県内で実施が困難な場合はこの限りではない。

5. 助成対象となる事業の実施期間

本事業の委託契約締結日～平成 31 年 1 月末日(事業完了)

※平成 31 年 2 月に実施団体の報告会を開催予定。(必ず出席することとする)

※委託費の支払い以前の実施費用については、委託先団体の立替によるものとする。

6. 募集期間と提出書類

募集期間は次のとおりとする。締切日までに下記の書類を作成し、送付すること。なお、締切り後および書類に不備がある場合は受理できないので注意すること。

【募集期間】 平成 30 年 3 月 19 日(月)～平成 30 年 4 月 20 日(金)(必着)

【提出書類】 (1)受託申請書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・様式 1
(2)事業計画書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・様式 2-1、2-2、2-3
(3)予算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・様式 3-1、3-2
(4)スポーツ用具購入申請書、管理誓約書・・・様式 4
(5)謝金・旅費・賃金等の規程・規約等
※上記(2)(3)は、データについても USB 等の電子記録媒体またはメールでご提出ください。

7. 委託団体数

原則として 15 団体程度とする。

8. 委託費と対象経費

委託費は、原則として各団体につき 50 万円～200 万円とする。また、委託費の支出科目は国庫補助金の規程に準じて、以下のとおりとする。

諸謝金、旅費交通費、スポーツ用具、消耗品費、会議費、借損料、印刷製本費、通信運搬費、雑役務費、賃金、保険料

詳しくは別紙の「経費支出について」をご参照ください。

＊ 委託費の入金は 6 月以降の予定です。
＊ 支出については、すべて委託先団体の規程により行ってください。
＊ 委託費(総事業費)の 35%を上限として事業目的に必要なスポーツ用具の購入が認められます。(ただし、本事業では事務用品等の備品の購入はできません)

9. 選定方法及びその結果

(1) 委託先団体の選定は、当協会が設置する選定委員会で、平成 30 年度助成事業に関する選定方針に基づいて審査し決定する。
(2) 選定結果については、内容確認後随時、文書をもって知らせる。また、決定した事業については、当協会ウェブサイトで公開する。
(3) 他の機関の助成等を受けて当該事業を実施することとなった場合は、採択後であっても受託申請を辞退すること。
(4) 選定結果に関するいかなる問い合わせ等については答えられない。

10. 委託先団体の決定と決定後の事務手続き(提出物)

委託先団体の決定後、下記の書類を提出すること。

(1)委託契約書・・・内容を確認の上、委託先団体の長が署名捺印し、事業計画書とともに 2 部提出すること。
(2)請求書・・・・・・・事務手続きの簡素化から、委託契約書と同時に請求書を提出しても構わない。

11. 委託事業に係わる消費税の取り扱い

当協会との委託事業契約に基づき実施する事業の委託金については、国等からの補助金と同様の扱いとし、「特定収入」として取り扱うこと。また、消費税の計算にあたり簡易課税を選択されている団体についても、本委託金は課税対象外の収入として取り扱うこと。

12. 事業報告

事業報告は、助成事業の完了から 1 カ月以内又は平成 31 年 1 月末日（消印有効）のいずれか早い日までに提出すること。

※事業報告はその後、当協会がとりまとめ、平成 31 年 4 月 10 日までにスポーツ庁に提出する。

(1)完了報告書

完了報告書は、委託先団体の長が押印して提出すること。また報告書データは電子記録媒体に収め、併せて郵送にて提出すること。

(2)決算書

決算書は、領収書及び納品書のコピーを添付し提出すること。また決算書データは電子記録媒体に収め、併せて郵送にて提出すること。

(3)成果物・印刷物

ポスター・チラシ・冊子等、委託費で作成したものを 2 部提出すること。

(4)報告書（原稿）

全ての委託先の報告書を当協会で合本するので、原稿等をデータで提出すること。また報告書データは電子記録媒体に収め、併せて郵送にて提出すること。（詳細は 12 月中旬に連絡予定）

【報告書内容】

①はじめに（自県のスポーツ環境の特色、実情、課題点、事業を企画した経緯等）
②事業の目的・ねらい
③実施概要（内容および実施体制等）
　・事業内容　・実施体制（連携・協力団体等）・参加者内訳等
④障がい者スポーツ指導者並びにその他のスポーツ人材の活用・役割
⑤連携について（事業前の関係性、実際の事業での役割分担、事業後の関係性の変化）
⑥スポーツ用具について（備品整備、活用、今後の使用及び展開について）
⑦成果および評価（達成度）
⑧事業の今後の必要性（課題も含めて）
⑨おわりに　・所感
　　・特記事項等（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど）
　　・事業を継続実施した成果・変化　※継続委託団体のみ

【添付資料】

①開催要項　②参加者内訳　③記録写真　④その他【添付資料】
※　詳細は後日の連絡とする。
※　報告書の原稿は、各団体 1 事業につき、1～2 ページの予定。

(5)事業報告会

各団体が事業を通じて、各地域の障がい者スポーツの振興における課題に向き合い、多くの支援者や関係団体との連携を深め、障がいのある方々のスポーツ環境や振興体制の整備・拡充を目的に実施した事業についての報告会を事業終了後に開催する。(2 月中旬開催予定)

13. 問合せ先及び送付先

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会　スポーツ推進部
担当:滝澤・小島
E-Mail:　kojima-t@jsad.or.jp
〒103-0014　東京都中央区日本橋蛎殻町 2-13-6　ユニゾ水天宮ビル 3F
TEL)　03-5695-5420(直通)　　FAX)　03-5641-1213
問合せ時間　月曜～金曜　AM9:30～PM5:45

※ この募集要綱は、平成 30 年度国庫補助事業(ｽﾎﾟｰﾂ振興事業)の予算の状況によっては内容が変更となる場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

平成30年度障害者スポーツ振興事業

「地域における障がい者スポーツの振興事業」

2019年3月31日 発行

発行　公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
印刷　日本印刷株式会社